

明治国際医療大学 看護学部

看護学科

講義概要

[2016]

看護学部 1 年生

分類	授 業 科 目	形態	単 位		授 業 時 間		
			必修	選択	前 期	後 期	
基 礎 教 養 科 目	人間理解と生命の尊厳						
		明治国際医療大学の沿革と理念	講義	1		15	
		導入ゼミ	講義	1		15	
		心の科学	講義	2		30	
		コミュニケーション論	講義		1		15
		生命倫理	講義	1			15
		医療概論	講義	1		15	
		伝統医学の歴史と哲学	講義		1	15	
	環境と社会						
		教育の基礎	講義	1		15	
		日本語の理解	講義		1	15	
		生活と環境	講義		1	15	
		京都の文化と健康	講義		2	30	
	科学的思考の基礎						
		生き物の科学	講義	2		30	
		物質と自然の科学	講義		2	30	
		情報科学	講義	2		30	
		物質の反応	講義		2		30
		データ解析法	講義		2	30	
	健康とスポーツ						
		健康科学	講義		1		15
		フィールドワーク実習	実習		1	30	
		柔道	実習		1		30
		エアロビック運動実習Ⅰ	実習		1	30	
		エアロビック運動実習Ⅱ	実習		1		30
	国際理解と言語						
		英語Ⅰ	演習	1		30	
		英語Ⅱ	演習	1			30
		中国語	演習		1	30	
		フランス語	演習		1	30	
		英語コミュニケーション	演習		1		30

分類	授 業 科 目	形 態	単 位		授 業 時 間	
			必修	選択	前 期	後 期
専 門 基 礎 科 目	健康論					
	人体構造論Ⅰ	演習	1		30	
	人体構造論Ⅱ	演習	1			30
	人体機能論Ⅰ	演習	1		30	
	人体機能論Ⅱ	演習	1			30
	生化学	講義	1		15	
	栄養学	講義	1			15
	感染免疫学	演習	1			30
	生殖健康論	講義	1			15
	疾病・障害論					
	病態病理学	演習	1			30
	保健・福祉論					
	看護と法律	講義	1			15
	専 門 科 目	看護の基礎				
看護学概論		講義	1		15	
看護基礎理論		講義	1			15
基礎看護援助論Ⅰ		演習	1		30	
基礎看護援助論Ⅱ		演習	2			60
ヘルスアセスメントⅠ		講義	1			15
基礎看護学実習Ⅰ		実習	1			45
治療支援型看護学						
成人看護学概論		講義	1			15
精神看護学概論		講義	1			15
次世代育成・発達支援型看護学						
母性看護学概論		講義	1			15
小児看護学概論		講義	1			15
老年看護学概論		講義	1			15
看護学の発展						
	東洋医学概論	演習	1			30

看護学部2年生

分類	授業科目	形態	単位		授業時間		
			必修	選択	前期	後期	
基礎 教養 科目	健康とスポーツ						
		エアロビック運動実習Ⅲ	実習		1	30	
		エアロビック運動実習Ⅳ	実習		1		30
		レクリエーション実習	実習		1		30
	国際理解と言語						
	医療英語	演習	1		30		
専門 基礎 科目	健康論						
		生命と遺伝	講義		1		15
		人間看護工学	講義		1		15
	疾病・障害論						
		疾病治療総論	演習	1		30	
		疾病治療論Ⅰ-1	講義	1			15
		疾病治療論Ⅰ-2	演習	1		30	
		疾病治療論Ⅰ-3	演習	1		30	
		疾病治療論Ⅱ	演習	1		15	15
		疾病治療論Ⅲ	演習	1		30	
		疾病治療論Ⅳ	演習	1		15	15
		薬理学	講義	1		15	
	保健・福祉論						
		医療情報学	講義	2			30
		社会福祉学	講義	1			15
		カウンセリング論	講義		1	15	
専門 科目	看護の基礎						
		基礎看護援助論Ⅲ	演習	2			60
		看護過程論Ⅰ	演習	1		30	
		看護過程論Ⅱ	講義	1			15
		ヘルスアセスメントⅡ	演習	1		30	
		基礎看護学実習Ⅱ	実習	2		90	

分類	授業科目	形態	単位		授業時間	
			必修	選択	前期	後期
専門科目	治療支援型看護学					
	急性期看護援助論Ⅰ	講義	1		15	
	急性期看護援助論Ⅱ	演習	1			30
	慢性期看護援助論Ⅰ	講義	1		15	
	慢性期看護援助論Ⅱ	演習	1			30
	精神看護援助論Ⅰ	講義	1		15	
	精神看護援助論Ⅱ	演習	1			30
	次世代育成・発達支援型看護学					
	母性看護援助論Ⅰ	演習	1		30	
	母性看護援助論Ⅱ	演習	1			30
	小児看護援助論Ⅰ	講義	1		15	
	小児看護援助論Ⅱ	演習	1			30
	老年看護援助論Ⅰ	講義	1		15	
	老年看護援助論Ⅱ	演習	1			30
	生活再構築支援型看護学					
	リハビリテーション看護学概論	演習	1		30	
	リハビリテーション看護援助論	演習	1			30
	在宅看護概論	講義	1			15
	公衆衛生看護学					
	公衆衛生看護学概論	講義		2		30
	看護学の発展					
	東洋医学診断・治療学	演習	1		30	
	応急・救急法とその後	演習		1		30

看護学部3年生

分類	授業科目	形態	単位		授業時間				
			必修	選択	3年生		4年生		
					前期	後期	前期	後期	
基礎 教養 科目	国際理解と言語								
	世界の統合医療	講義		1	15				
	国際情勢の理解	講義		1	15				
専門 基礎 科目	健康・ 疾病・ 障害の 基礎	保健・福祉論							
		疫学	講義	2		30			
		公衆衛生学	講義	1		15			
		家族社会学	講義		1	15			
専門 科目	看護学 の 展開	治療支援型看護学							
		終末期看護援助論	講義	1		15			
		急性期看護学実習	実習	3			135		
		慢性期看護学実習	実習	3			135		
		精神保健	講義	1		15			
		精神看護学実習	実習	2			90		
		次世代育成・発達支援型看護学							
		母性看護学実習	実習	2			90		
		基礎助産学	講義		2	30			
		助産診断・技術学	講義		5	75			
		助産学実習Ⅰ	実習		10		450		
		小児看護学実習	実習	2			90		
		老年看護学実習	実習	3			135		
		生活再構築支援型看護学							
		リハビリテーション看護学実習	実習	2			90		
		在宅看護援助論Ⅰ	講義	1		15			
		在宅看護援助論Ⅱ	演習	1		30			
		在宅看護実習	実習	2			90		
		公衆衛生看護学							
		公衆衛生看護活動論Ⅰ	講義		1	15			
		公衆衛生看護活動論Ⅱ	講義		2	30			
		公衆衛生看護学方法論	講義		2	30			
		健康教育論	講義		1	15			
		産業保健論	講義		1	15			
		保健医療福祉行政論	講義		2	30			
		専門 科目	看護学 の 発展	看護学の発展					
研究方法論	講義			1		15			
家族関係援助論	講義			1		15			
コンプリメンタリーセラピー援助論	講義			1		15			
看護教育学	講義				1	15			
高齢者健康論	講義				1	15			
医療面接法	講義				1	15			
メンタルヘルスケア論	講義				1	15			
高齢者と福祉	講義				1	15			
メディカルアロマセラピー概論	講義				2	30			
メディカルアロマセラピー演習	演習		1	30					

看護学部 4 年生

分類	授 業 科 目	形態	単 位		授 業 時 間				
			必修	選択	3 年		4 年		
					前期	後期	前期	後期	
看護学 の 展 開	治療支援型看護学								
	急性期看護学実習	実習	3			135			
	慢性期看護学実習	実習	3			135			
	精神看護学実習	実習	2			90			
	次世代育成・発達支援型看護学								
	母性看護学実習	実習	2			90			
	助産管理	講義		1			15		
	助産学実習Ⅰ	実習		10		450			
	助産学実習Ⅱ	実習		1			45		
	小児看護学実習	実習	2			90			
	老年看護学実習	実習	3			135			
	生活再構築支援型看護学								
	リハビリテーション看護学実習	実習	2			90			
	在宅看護実習	実習	2			90			
	公衆衛生看護学								
	公衆衛生看護学実習Ⅰ	実習		1		45			
	公衆衛生看護学実習Ⅱ	実習		2			90		
	公衆衛生看護学実習Ⅲ	実習		2			90		
	統 合								
	看護総合・統合実習	実習	1				45		
	専 門 科 目	看護学の発展							
		看護管理学	講義	1				15	
		災害看護学	講義	1				15	
コンプリメンタリーセラピー方法論		演習	1				30		
看護技術論		講義		1			15		
緩和ケア論		講義		1			15		
クリティカルケア論		講義		1			15		
癒しの看護論		講義		1			15		
発達援助論		講義		1			15		
地域保健活動システム論		講義		1			15		
ヘルスプロモーション		講義		1			15		
国際看護・国際保健		講義	1				15		
統合医療概論		講義		1			15		
統合医療セミナー		演習		1			30		
メディカルアロマセラピー実習		実習		1			30		
漢方医学		講義		2			30		
家庭に取り込む運動療法		講義		1			15		
家庭でできる温灸療法		講義		1			15		
スポーツテーピング演習		演習		1			30		
フットケア		演習		1			30		
スウェディッシュ療法		講義		1			15		
スウェディッシュ療法演習		演習		1			30		
卒 業 研 究									
	卒業研究	演習	3				90		

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
山下 八重子			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>本学の「建学の精神」「教学の理念」「沿革」「教育目標」を理解し、本学のめざす医療人「東西両医学を有機的に関連づけて、社会に貢献できる医療人」となるために本学で学び、身につけるべき知識と態度について考える。本学の学生としての自覚と心構えを持ち、将来の目標に向かってしっかりと学び進むことができる力を身につける。</p> <p>看護を学ぶ学生として本学の鍼灸学及び柔道整復学についても理解することにより、東洋医学の現代医療における役割を理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 「建学の精神」及び「教学の理念」（担当：山下） 到達目標：本学の「建学の理念」である「和の精神」とは理解できる。</p> <p>第2回 学校法人明治東洋医学院の創設から明治国際医療大学の歴史と看護学部の教育（担当：山下） 到達目標：本学の創設から現在にいたる大学への発展の歴史を知る。 看護学部の特徴とカリキュラム</p> <p>第3回 東洋医学の考え方と看護の関連性（担当：佐藤） 到達目標：本学の特徴である東西両医学の有機的関連付けを科学的側面から理解する。</p> <p>第4回 鍼灸学部のカリキュラム（担当：鍼灸学部長 北小路） 到達目標：鍼灸学部の教育概要と目指す医療人像について知る。</p> <p>第5回 保健医療学部のカリキュラム（担当：保健医療学部長 岡本） 到達目標：保健医療学部の教育概要と目指す医療人像について知る。</p> <p>第6回 現代医療における病院の役割について（担当：附属病院長 苗村） 到達目標：チーム医療、統合医療における看護師の役割について考えを述べることができる。</p> <p>第7回 医療人と生涯学習（担当：山下） 到達目標：看護師としてのキャリア形成の概要を知り、自己のキャリア形成についても考える。 医療における看護職という特殊な仕事の特徴を知る。</p> <p>第8回 医療人の心構え（担当：山下） 到達目標：医療人としての心構えを持つことができる。 倫理性の高い職業であることを認識し自己の態度について考えることができる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>毎回の講義をふまえて、「社会に貢献できる医療人」とは何かを考える。（30分程度）</p> <p>レポートが課されることがあります。（1時間程度）</p>
教科書	学生便覧
参考書	特に指定しない。
成績評価	出席とレポートによる。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 研究室 : オフィスアワー : メールアドレス</p> <p>山下八重子 : 10号館8階教授室 : 水曜日 : y_yamashita@meiji-u.ac.jp</p> <p>苗村 建慈 : 附属病院長室 : 月曜日16:30-17:00 : k_namura@meiji-u.ac.jp</p> <p>北小路 博司 : 附属鍼灸センター : 随時 : h_kitakoji@meiji-u.ac.jp</p> <p>岡本 武昌 : 8号館4階 : 授業日の17:30-18:30 : t_okamoto@meiji-u.ac.jp</p> <p>佐藤裕見子 : 10号館8階 : 随時 : y_sato@meiji-u.ac.jp</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
小倉 之子、他教員28名			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>授業目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療や看護への関心を持ち、大学生として学ぶ基本的な姿勢を身につける。 ・「読み」「書き」「考える」能力を鍛え、大学で主体的に学ぶ学習態度を培う。
授業計画	<p>1回目 全体オリエンテーション [授業概要]オリエンテーション グループ、担当教員紹介、各ゼミ室案内 [到達目標] ・導入ゼミの目的と進め方がわかる。 [備考]各個人がインターネット、新聞などで情報を集める ・何を学ぶかがわかる。 導入ゼミの目的と学び方がわかる</p> <p>2回目 各グループに分かれグループワークを行う [到達目標]最終回（8回目）の発表会に向けた準備（概略）ができる。 ・テーマを決める ・役割を決める ・どのように2回～8回のグループワークを進めるかを話し合う [備考]発表時間は1Gにつき8分とする</p> <p>3回目 各グループに分かれグループワークを行う [到達目標] ・情報を集めることができる。</p> <p>4回目 各グループに分かれグループワークを行う [到達目標] ・集めた情報を整理する。 ・グループで話し合うことができる。</p> <p>5回目 各グループに分かれグループワークを行う [到達目標] ・整理した情報のまとめができる。</p> <p>6回目 各グループに分かれグループワークを行う [到達目標] ・テーマに沿ったまとめができる。</p> <p>7回目 各グループに分かれグループワークを行う [到達目標] ・8回目の発表会に向けた準備ができる（詳細） ・発表用パワーポイント、発表原稿の作成 ・発表の仕方について話し合う</p> <p>8回目 各グループの成果発表会 [到達目標] 導入ゼミの成果を確かめることができる。 ・担当教員からの助言、評価</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	・授業「教育の基礎」で使用した教科書に付属されている「CD-Rom」を視聴しておくこと。
教科書	「大学生からのスタディー・スキルズ、知へのステップ」第4版、学習技術研究会編（くろしお出版）
参考書	ゼミごとにテーマに関連した図書・資料を紹介する。
成績評価	<p>①グループワーク参加状況・積極性を担当教員が評価する 80点 ②グループワークの成果及び発表を評価する 20点 ①+②=100点 *欠席は特別な理由が無い限り認めない。 *テストが無い教科のため、出席重視とする。3回以上欠席した者は単位未修得となる。</p>
担当教員の基本情報	<p>各ゼミは少人数制（1G8名の9G編成）で、看護学部の教員が担当する。</p> <p>担当教員名：小倉 之子 研究室：10号館 8階 801 メールアドレス：y_ogura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：適時対応します</p> <p>担当教員名：看護学部全教員（1Gにつき3-4名、計28名） 研究室： メールアドレス： オフィスアワー：</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
小田 純也			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>「こころ」とはなにか。それは実に曖昧なものでありながらも、我々にとっては非常に身近なものでもある。本講義では、心理学における「こころ」を対象として、認知・記憶・知能・感情・性格といった諸側面は、どのような構造を持ち、いかに発達するのか、また集団内の対人関係はいかなる様相を呈するのかなどを理解する。</p> <p>またカウンセリングなどの臨床心理学的援助とは、こういった心理学的基礎知識に基づいて行われる、対人援助の様式である。適切な医療を施すためには、患者の心理を可能な限り理解し、適切な心理的ケアを行うことが重要である。したがって、本講義においては、心理学の基礎を学ぶと共に、心理的援助についても概要を理解することを目的とする。</p>
授業計画	<p>1回目 インTRODクシヨン [到達目標] 心理学の歴史および概要を理解する。</p> <p>2回目 知覚と認知 [到達目標] 知覚と認知について理解する</p> <p>3回目 感情と情緒 [到達目標] 感情と情緒について理解する</p> <p>4回目 欲求と動機 [到達目標] 欲求と動機について理解する</p> <p>5回目 学習と記憶 [到達目標] 学習理論や記憶、忘却について理解する</p> <p>6回目 自己と対人認知、社会心理学 [到達目標] 自己と対人認知、社会心理学について理解する</p> <p>7回目 ストレス [到達目標] ストレスとストレスコーピングについて理解する</p> <p>8回目 発達 [到達目標] 誕生から成人以降の発達と心理について理解する</p> <p>9回目 性格理論 [到達目標] パーソナリティの定義や構造について理解する</p> <p>10回目 心理アセスメント [到達目標] 各種心理アセスメントについて理解する</p> <p>11回目 心理療法の理論(1) [到達目標] 代表的な心理療法について理解する</p> <p>12回目 心理療法の理論(2) [到達目標] 代表的な心理療法について理解する</p> <p>13回目 精神疾患(1) [到達目標] 精神疾患について理解する</p> <p>14回目 精神疾患(2) [到達目標] 精神疾患について理解する</p> <p>15回目 まとめ</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>心理学的事象は日常生活においても数多く見られる。 講義内で学習したことを思い出しながら身近な出来事へと照らし合わせることで体験的理解へと深めること。</p>
教科書	特になし。適宜資料を配布する。
参考書	特になし。
成績評価	出席状況・授業態度40%、期末試験60%として、総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 小田 純也 研究室 : (非常勤講師)</p>

	メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択必修
担当教員			
藤森 旭人			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	コミュニケーションの社会的意義と生物学的背景を正しく理解する。これを踏まえて、感情・心理面から論理的 意思決定に至る広い範囲で医療に必要なコミュニケーションをとるための基礎技術を獲得する。
授業計画	<p>1 記憶と認知症 1 人間の記憶のメカニズムについて理解する</p> <p>2 記憶と認知症 2 認知症患者とのコミュニケーション方法を学ぶ</p> <p>3 自己紹介におけるコミュニケーション 自己紹介を通じてコミュニケーションを円滑に行えるようにする</p> <p>4 カウンセリングの技法 言語的および非言語的コミュニケーションにおける対人関係を理解する</p> <p>5 発達障害とコミュニケーション 発達障害の理解および、彼らとコミュニケーションが図れるようにする。</p> <p>6 摂食障害とコミュニケーション 摂食障害の理解および、彼らとコミュニケーションが図れるようにする。</p> <p>7 トラストワーク 他者に心身を委ねることの難しさおよび他者援助の方法を理解する</p> <p>8 まとめ</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)に ついて	配布レポートを熟読し、今後現場に出た時に会おうであろう患者とのコミュニケーションをシュミレーシ ョンし、実践できること。講義前後に質問等の時間を設ける。
教科書	指定しない
参考書	講義中に解説し紹介する。
成績評価	授業内レポートおよび出席（30%）、試験（70%）
担当教員の基本情 報	担当教員名 : 藤森旭人 研究室 : 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 メールアドレス : fujimori@koto.kpu-m.ac.jp オフィスアワー : 授業後
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
佐別当 義博			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	倫理学の普遍的課題を前提にしながら、生命倫理学成立の歴史的背景、生命倫理学の学問的性格と今日的課題について、概略的に講義する。この講義の目的は、各自が「人間的な生誕はどうあるべきか」「人間的な死はどうあるべきか」すなわち「人間的な生はどうあるべきか」といった問題を医療・看護と関係づけて、共に考えることである。		
授業計画	1回目	生命倫理の課題と特殊性 [到達目標] 生命倫理的な思考様式を理解する。	
	2回目	生命倫理の原則 [到達目標] SOLとQOL、自己決定とパターンリズムを理解する。	
	3回目	[備考] 課題レポート：生命倫理の原則について（3回目の講義時に提出） 生殖補助医療の現状① [到達目標] 生殖補助医療の現状について理解し、賛否両論の根拠を理解する。	
	4回目	生殖補助医療の現状② [到達目標] 生殖補助医療に関し自分なりの是非論を展開できるようになる。	
	5回目	[備考] 課題レポート：生殖補助医療について（5回目の講義時に提出） 臓器移植の現状① [到達目標] 臓器移植の現状について理解し、賛否両論の根拠を理解する。	
	6回目	臓器移植の現状② [到達目標] 臓器移植に関し自分なりの是非論を展開できるようになる。	
	7回目	[備考] 課題レポート：臓器移植について（7回目の講義時に提出） 尊厳死と安楽死① [到達目標] 尊厳死・安楽死について理解し、賛否両論の根拠を理解する。	
	8回目	尊厳死と安楽死② まとめ [到達目標] 尊厳死・安楽死について自分なりの是非論を展開できるようになる。	
		[備考] 課題レポート：尊厳死・安楽死について（別途指定時に提出）	
授業時間外の学習（準備学習等）について	①事前に配付される講義資料を読み、問題意識を明確にしておくこと。 ②単元ごとにレポートを実施する。		
教科書	使用しない。講義資料を配付する。		
参考書	講義の進行に合わせてその都度紹介する。		
成績評価	授業計画に記した4回のレポートで評価する。 レポートごとに合否を判定し、基準を満たさない場合は再レポートを課す。		
担当教員の基本情報	担当教員名：佐別当 義博（非常勤講師） オフィスアワー：授業終了後		
備考			

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
石崎直人			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>本科目の目標は、医学・医療及び社会とのかかわりについて、考え、理解するための基礎知識を習得し、医療人としての資質を身につけることであり、そのために医学、医療に関連する基本用語を理解し、また医学・医療の現状および問題点などについて幅広く学習する。</p> <p>具体的には、医療の歴史、健康の概念、医の倫理、医療の質と安全性、医療事故と医療者の責任、QOLとヘルスプロモーション、医療と経済、EBMと補完代替医療などについて理解を深める。上記を踏まえ、生命倫理、医療倫理の諸問題について考える基礎力を身に付けることを目的とする。</p>
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン～医療の歴史 INTROクシヨンとして医療概論で学ぶことの概要と意義を説明する。その後医療の歴史についてテキストに基づいて説明しスライドを用いて補足する。</p> <p>第2回 医療と健康の概念 医療および健康の概念について説明する。特にWHOによる健康の定義について重点的に解説し、理解させる。</p> <p>第3回 医の倫理とバイオエシックス 医療従事者の倫理観について概説する。また医療技術や遺伝子工学の進歩とともにクローズアップされたバイオエシックスについても解説する。配布テキストによる説明とスライドによる補足説明。</p> <p>第4回 医療の質と安全性 医療の質の現状や評価について解説する。また医療事故の概要と防止策についても説明する。配布テキストとスライドにより補足説明する。医療者の責任と医療訴訟について、概要を説明し、実例やデータをもとに解説する。配布資料とスライドによる補足説明を行う。</p> <p>第5回 QOLとヘルスプロモーション 健康の概念について再確認するとともに、生活の質（QOL）の考え方について解説する。配布資料とスライドによる補足説明を行う。</p> <p>第6回 医療と経済 医療費と医療保険制度の概要について概説する。配布資料とスライドによる補足説明を行う。</p> <p>第7回 EBMとCAM EBM(エビデンスに基づく医療)と補完代替医療(CAM)について概説する。配布資料とスライドを利用する。</p> <p>単位認定試験 単位認定試験 筆記試験により単位認定する。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	初回講義で配布されるテキストを中心に復習してください。
教科書	なし(講義でプリントを配布します)
参考書	「医療概論」 東洋療法学校協会編 医歯薬出版社
成績評価	出席日数は、3/5以上を受験資格とし、60点以下の者は、追・再試験を実施する。
担当教員の基本情報	研究室 : 鍼灸センター2F教員室(石崎教授室) メールアドレス : n_ishizaki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜～金曜 17:00以降
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
渡邊 勝之			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	医学・医療の歴史の変遷、現状、進むべき方向性について考え、伝統医学と近代医学の長所と短所を理解する。また、医学・医療における共通基盤を捉え、チーム医療、統合医療を実践してゆくための、基本的な知識を得る。		
授業計画	歴史1	古代・近世・近代の歴史の概要を説明できる 医学・医療の歴史：医療原論・第4章および第5章1～3の予習をして、講義を受講する	
	歴史2	ギリシャ・ローマ医学の歴史の概要を説明できる ユナニ・タイプ（世界三大伝統医学）：医療原論・第5章4・5の予習をして、講義を受講する	
	歴史3	インドにおける医学・医療の歴史の概要を説明できる アーユルヴェーダ（世界三大伝統医学）：医療原論・第6章の予習をして、講義を受講する	
	歴史4	中国における医学・医療の歴史および各文化圏における医学の特徴の概要を説明できる 伝統中国医学1（世界三大伝統医学）：医療原論・第7章1～2の予習をして、講義を受講する	
	歴史5	中国伝統医学と中医学との相違の概要を説明できる 伝統中国医学2：医療原論・第7章3の予習をして、講義を受講する	
	歴史6	古代から明治までの医学・医療の歴史の概要を説明できる 日本における医学・医療の歴史1：医療原論・第8章1～5の予習をして、講義を受講する	
	歴史7	明治維新以降の医学・医療の変遷の概要を説明できる 日本における医学・医療の歴史2：医療原論・第8章6・7の予習をして、講義を受講する	
	歴史8	まとめの講義を行ったのち、試験を実施する まとめ・試験	
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義範囲を教科書を事前に読んで予習をして下さい。 また、講義内容と教科書を踏まえて、オリジナルノートを作成する、復習も行って下さい。		
教科書	医療原論：渡邊勝之編著，医歯薬出版社，2011.		
参考書	医学概論：日野原重明，医学書院，2003. 医療概論：中川米造，医歯薬出版社，1993.		
成績評価	評価：平常評価（受講態度、出席カード：20%）と試験評価（80%）による。 試験：受験資格は出席日数3/5以上とする。総合60点以下の者は、追再試験を実施する。 成績：60点以上を可、70点以上を良、80点以上を優とする。		
担当教員の基本情報	担当教員名：渡邊勝之 研究室：6号館2階 基礎鍼灸学講座 教員室 メールアドレス：k_watanabe@mst.meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（統合医療センター出向のため、火・水・金曜日以外）		
備考			

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
佐藤 裕見子、河原 照子、梶川 琢馬			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	看護をこれから学ぼうとする学生にとって、学修を深めるために必要な9つの能力「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」を身につけるための基礎教育として本授業を位置づける。そして、これから学ぶ様々な学問を理解し、看護実践に生かすことができる能力を育てる。
授業計画	<p>1回目 導入 スタディ・スキルズとは 大学で学ぶとはどういうことかを理解する。</p> <p>2回目 聴く・読む 1) ノートのとり方が分る 2) テキストの種類に応じた読み方ができる</p> <p>3回目 要約する・自分の意見を持つ 1) 要約の作成 2) 読書を通じて自分の考えを持つ</p> <p>4回目 調べる・資料を集める 1) 情報収集の概念と必要性を学ぶ 2) 大学図書館の利用方法を知る</p> <p>5回目 インターネットによる情報収集 1) インターネットでの文献検索を体験 2) 情報の整理 エクセルを起動させてみる</p> <p>6回目 アカデミック・ライティングの基本 1) レポートと感想文の違いを学ぶ 2) 論文構成を学ぶ</p> <p>7回目 効果的なアカデミック・ライティングの基本 1) わかりやすい文を書くためのポイントをつかむ 2) 視覚的にわかりやすい表現方法のポイント</p> <p>8回目 プレゼンテーションの基本的スキル 効果的な伝え方</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教育の基礎で学習した内容を教科書添付の「CD-Rom」を視聴しておく
教科書	「大学生からのスタディー・スキルズ、知へのステップ」第3版、学習技術研究会編（くろしお出版）
参考書	必要時、テーマに関連した図書・資料を紹介する。
成績評価	<p>①GW参加状況・積極性を担当教員が評価する 80点 ②ワードを使って本講義で学んだことを1000文字程度にまとめて提出する</p> <p>①+②=100点 *欠席は特別な理由が無い限り認めない。 テストが無い教科なので出席重視します。3回以上の欠席は単位取得と成らない。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名(研究室)： 佐藤裕見子 (10号館8階) y_asto@meiji-u.ac.jp 小倉之子 (10号館7階) y_ogura@meiji-u.ac.jp 河原照子 (10号館8階) t_kawara@meiji-u.ac.jp 梶川拓馬 (10号館7階) t_kajikawa@meiji-u.ac.jp</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
下川 篤			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	日本語を読み、理解し、書く能力は学習を進めるアカデミックスキルとして不可欠であり、また社会人、医療人としても必須の能力です。 この授業では、テキストを実際に読み、要約し、書くことなどを通して、日本語のリテラシーを身につけ、日本語を正しく使うための基礎的知識を学ぶことを目標とします。
授業計画	<p>1回目 語彙力の確認 [到達目標] 簡単なテストをとおして自らの語彙力を確認する</p> <p>2回目 テキストの読み方 [到達目標] テキストの読み方について理解する</p> <p>[備考] 資料中の語彙を調べる</p> <p>3回目 テキストを読み、要約する（1） [到達目標] 要約の仕方がわかる</p> <p>[備考] 資料中の語彙を調べる</p> <p>4回目 テキストを読み、要約する（2） [到達目標] テキストを要約できる</p> <p>[備考] 資料中の語彙を調べる</p> <p>5回目 テキストを読み、課題に答える（1） [到達目標] 文章で課題について答えることができる</p> <p>[備考] 資料中の語彙を調べる</p> <p>6回目 課題に即して考えを文章でまとめる テキストを読み、課題に答える（2） [到達目標] 文章で課題について答えることができる</p> <p>[備考] 資料中の語彙を調べる</p> <p>7回目 課題に即して考えを文章でまとめる 要約をもとに発表する（1） [到達目標] 要約をもとに発表できる</p> <p>[備考] 発表準備を行う</p> <p>8回目 要約をもとに発表する（2） [到達目標] 要約をもとに発表できる</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	返却後の資料を復習しておくこと。
教科書	評論文や看護学論文を素材(授業で配布)に、テキストの読み方、パラグラフ間のつながり、段落の区切り、全体の論理的な流れの把握、要約の仕方などについて学びます。また、読む側が正確に理解できる文章の書き方について練習します。
参考書	国語辞典（高校時代のものでよい）が必要である。
成績評価	出席や提出物、発表と試験、の四項目を総合的に評価します。 出席10%、提出物10%、発表20%、試験60%で評価します。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 下川 篤 (非常勤講師) 研究室 : メールアドレス : 授業後 オフィスアワー :
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
前中 一晃			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	21世紀の人類の課題は、エネルギーや資源、自然、環境、生命をめぐる多くの問題に向いあうことである。そのためにさまざまな現象を生み出してきた地球の環境条件がどのように変化してきたかを体系的に学習する。		
授業計画	1回目	はじめに [到達目標] 地球にはさまざまな環境問題がある。	
	2回目	地球史概観 [到達目標] 地球46億年の歴史について概観する。	
		[備考] 地球史年表の作成 地球環境の変遷について理解するため地球史の時代区分を知っておく。	
	3回目	地球環境を変えたもの① [到達目標]	
	4回目	大気の成分を変えたもの 地球環境を変えたもの② [到達目標]	
	5回目	地球の環境を破壊したもの 病んでる地球 [到達目標]	
	6回目	病んでる地球とはどういうことか 深刻な環境問題 [到達目標]	
	7回目	地球温暖化・ごみ問題 広がる環境問題 [到達目標]	
	8回目	オゾン層の破壊・水問題 まとめ レポート作成等	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	使用するプリントを事前配布する。あらかじめ調べしておくように。		
教科書	毎週プリントを配付		
参考書	特になし		
成績評価	出席点+試験点で判断。 出席点には毎授業で実施する小試験の点数を加味。		
担当教員の基本情報	担当教員名 : 前中 一晃 (非常勤講師) 研究室 : メールアドレス : mae7kaz3aki4@docomo.ne.jp オフィスアワー : 授業終了後		
備考			

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
山下 八重子			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：講義・演習	

授業目標	京都は日本の長い歴史の中で重要な役割を担ってきた都市であり、伝統的な特有の文化を発展させてきている。また、京都は、近代看護教育の発祥の地であり、日本の看護の発展に大きな影響を及ぼしている。京都の大学である本校で学ぶ学生として、様々な視点から京都の文化を紐解いて学び、異文化を理解して健康について考えることができるようになる。
授業計画	<p>1回 ガイダンスと京都の歴史（山下） 〔内容・目的〕 京都の歴史に関心を持ち、これから学ぶことに興味を持つことができる。 〔備考〕 京都に関することを調べておく。</p> <p>2回 京都と看護（仲口・大橋） 〔内容・目的〕 学問・学税の街京都、看護と京都の関係について学ぶ。</p> <p>3回 寺院仏閣（上仲・河原） 〔内容・目的〕 お寺の役割とこころの健康について</p> <p>4回 街歩きと健康（栗山・村上） 〔内容・目的〕 自らの健康への意識を高め身体活動を通して、進んで健康づくりに取り組むことができる。 〔備考〕 大学正門～学部棟入り口までを歩き歩数を調べておく。</p> <p>5回 建築や庭園（上仲・河原） 〔内容・目的〕 庭師が考える京都のお寺と健康について学ぶ。</p> <p>6回 京都の祭り（梶川） 〔内容・目的〕 京都の祭りにおける歴史の変遷を辿りながら、なぜ祭りや出し物が行われるようになったのかの意味や理由について理解を深めることができる。</p> <p>7回 陶芸（藤田・今井・原） 〔内容・目的〕 京都の陶芸について京焼の歴史を通じ学び、時代に応じた変遷を理解することで文化と健康について考えることができる。</p> <p>8回 食文化・京漬物（宇城） 〔内容・目的〕 日本の社会情勢と食文化、湯葉や漬物などについて学ぶ。 〔備考〕 事前に京都の食文化について調べて授業に臨むこと。</p> <p>9回 京都の観光地（田中さ・鈴木） 〔内容・目的〕 大学が立地する南丹市についで学び理解を深める。</p> <p>10回 京都の産育習俗と助産（岡本・神原） 〔内容・目的〕 「子産み」「子育て」は古くから人々の自然な営みでありその地の文化的風習と深く結びついている。助産の歴史的資料から学びを深める。 〔備考〕 自分の母子手帳持参。</p> <p>11回 京都の言葉（杉山・梶川） 〔内容・目的〕 京言葉に対する理解を深めるとともに、その言葉に含まれる意味や意図、心情について考えることができる。</p> <p>12回 お茶・お花と健康（佐藤・宇城） 〔内容・目的〕 お茶の産地・製造工程・成分を知り、お茶と健康について学ぶ。癒しと華道について学ぶ。 〔備考〕 お茶の種類と成分について調べておくこと。</p> <p>13回 考え方・コミュニケーション（田中・伊賀） 〔内容・目的〕 土地と歴史と考え方の関係について知る。</p> <p>14回 地理的特徴と気候（戸田） 〔内容・目的〕 京都市の歴史的風致形成の背景である地形・風土・気候について学ぶ。</p> <p>15回 京都と洋風建築（小倉） 〔内容・目的〕 建築家W・M・Vories(ヴォーリーズ)の設計した京都にある建築物を中心に医療・看護の接点を考える。 〔備考〕 京都にある洋風建築はどんなものかを調べておく</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	備考（授業時間外学習の指示等）を参照して下さい。
教科書	なし
参考書	なし
成績評価	出席状況とレポートにて評価する
担当教員の基本情報	看護教員全員
備考	授業は担当教員がテーマに沿って1～2人で計画し実施する

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
鳴瀬 善久			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	生物体のなりたちを、それを構成する分子から細胞・組織へと順に学ぶ。生物の遺伝の原理と発生のしくみを理解し、人間が受精卵というたった1個の細胞からどのようにして発生し、この世に生まれてくるかを知ること、一人一人の人間が生きている不思議さと尊厳さを再認識する。人は、この地球上の多種多様な動物・植物、微生物種やウイルスが存在する広い生物界にいる。人は、この生物界の生存をかけた食物連鎖の中におり、食物をどのようにして食べ、その栄養分をどのように利用してカラダの構成成分を作るかなどを学習し、医療人の一人として人間の存在意義を考察する。
授業計画	<p>1回目 序論：ヒトを含む高等哺乳動物の共通性と特性 [到達目標] この地球上に生息する生物種の分類法について説明できる。 [備考] 毎回、講義に必要な部分のプリントを配ります。講義終了後は、必ず復習をしてその日のうちに講義内容を理解しよう！ヒトは生まれてから死ぬまで、いったい何をしているのだろうか？（数字でみる人体の不思議）</p> <p>2回目 生体物質 [到達目標] 体を作り上げるさまざまな分子とその働きを理解する。タンパク質、糖質と脂質について説明できる。 [備考] タンパク質、糖質、脂質、核酸、ビタミン、ミネラル、水など</p> <p>3回目 生命の実体、細胞と細胞小器官 [到達目標] 細胞とその働きを理解する。組織、器官と器官系の成り立ちについて説明できる。 [備考] 生命の最小単位である細胞。細胞の仕組みと働き。組織、器官、器官系の成り立ち</p> <p>4回目 生物のカラダの維持と生命活動に必要なエネルギー [到達目標] 食べる（栄養素の供給）、呼吸するを通してエネルギーの生産および体成分の変化を説明できる。 さまざまな代謝系（代謝経路マップ）を説明できる。 [備考] 生命維持と活動に必要なエネルギーはどこからくるの？</p> <p>5回目 動物の体の成り立ち。ホメオスタシス（恒常性） [到達目標] ヒトとは異なる体の生き物も同じような器官・組織系からできていることを理解する。 【実習と演習】 大学内に棲む生物を探索し観察して見よう！京丹波の生き物を通して生物の多様性を理解する。 [備考] 多種多様な生物の理解。 外部環境に対する生体の巧妙な対応。体内環境の調節（生体の化学成分はほぼ一定）。代謝。カラダを守る（免疫系、血液凝固、組織の再生、解毒など）</p> <p>6回目 遺伝子の働き（1） [到達目標] 染色体と遺伝子について説明できる。 【実習と演習】 遺伝暗号を解読しよう。 [備考] 生命の設計図、DNA、RNA、染色体、遺伝子、セントラルドグマ、転写、翻訳</p> <p>7回目 遺伝子の働き（2） [到達目標] 遺伝暗号とタンパク質ができる仕組みを説明できる。 【実習と演習】 遺伝子DNAを見てみよう！ [備考] 生命体の設計図であるDNAを簡単な実験で見よう！（DNAはどれだけ集めれば肉眼で見えるのか？）</p> <p>8回目 遺伝の仕組み、突然変異と遺伝病 [到達目標] 遺伝、特にメンデル遺伝について説明できる。 [備考] メンデル遺伝、伴性遺伝、遺伝病など</p> <p>9回目 細胞分裂とガン [到達目標] 細胞分裂とガンがおこる仕組みを説明できる。 [備考] 体細胞分裂、細胞周期</p> <p>10回目 命の誕生（生殖と発生）性の決まるしくみ</p>

	<p>[到達目標] 生殖と性、減数分裂と受精について説明できる。</p> <p>[備考] 途切れの無い生命をつなぐ担い手、子孫を残す生殖細胞（精子、卵子、受精）減数分裂、染色体ヒトの発生</p> <p>[到達目標] ヒトの体はどのようにしてつくられるのか、発生のしくみを説明できる。</p> <p>[備考] 発生（受精卵の分化、胎児の発育・出生）</p> <p>11回目</p> <p>12回目</p> <p>発育と老化（寿命）</p> <p>[到達目標] 老化、寿命、死、そして生命をはぐくむ自然環境、有機体元素の循環や食物連鎖について理解できる。</p> <p>[備考] 生命、老化、寿命、死、食物連鎖</p> <p>13回目</p> <p>生物の起源</p> <p>[到達目標] 生物の多様性と進化のしくみ。進化論について理解する。</p> <p>[備考] 生物起源の仮説：進化論か創造説か？</p> <p>14回目</p> <p>生命科学・バイオテクノロジー</p> <p>[到達目標] 現代生物学の発展について理解し、生物学がもたらす未来について考える。</p> <p>[備考] 生命科学の発展と未来について</p> <p>15回目</p> <p>講義のまとめと試験</p> <p>[備考] 講義の総括を行い、テストを行う。1-14回を範囲として筆記試験</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義は、生物学の参考書を基にプリントを作成し、それらを用いて講義を進める。そのため講義後は必ずプリント内容の理解に努め、わからない場合は調べ、質問して解決に努めること。また、毎回ではないが、講義内容の確認のために講義中に演習プリントを行い、どの程度自分自身が理解できているのか確認する（講義後提出）。高校で生物を習っていた人も、遅刻、欠席は授業の妨げになるので、必ず出席すること！
教科書	特になし（講義時間ごとにプリントを配布）
参考書	『高校の生物が根本からわかる本』藤井 恒 著（中経出版） 『カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第1巻 細胞生物学』D・サダヴァ（著）、石崎 泰樹他（翻訳）（ブルーバックス 講談社） 『キャンベル 生物学』Neil A. Campbell、小林 興 監訳（丸善）
成績評価	講義内容に関連した知識を筆記試験にて把握し、その理解度を評価する。 評価割合：演習20%、試験80%
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○鳴瀬 善久 研究室 : 8号館4階 教授室 メールアドレス : ynaruse@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水、木曜日放課後</p> <p>担当教員名 : 廣瀬 英司 研究室 : 8号館4階 教授室 メールアドレス : ehirose@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水、金曜日放課後</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
都築 英明			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>人体の仕組みを理解する上で必要となる物理、化学及び数学の基礎知識を習得し、人体の動きに代表される自然界の様々な現象を、物理量によって表現できることを到達目標とする。</p> <p>骨、筋肉、神経など人体の構造と役割を理解する上で必要となる、力学や電磁気学など物理学的な考え方を習得し、呼吸や血液の働きと密接な関わりのある、液体と気体の性質について学習する。また、化学の基礎となる分子構造やエネルギーについて学習する。</p>		
授業計画	第1回	<p>自然科学の考え方 到達目標：観察結果を的確に記録することができる。</p>	
	第2回	<p>物理量と単位 到達目標：国際単位と接頭語を使うことができる。</p>	
	第3回	<p>基本的な演算及び指数関数 到達目標：べき乗計算ができる。単位の換算ができる。</p>	
	第4回	<p>物理で用いる計算 到達目標：いろいろな単位の換算ができる。</p>	
	第5回	<p>万有引力の法則 到達目標：質量と加速度の関係や、重力について説明できる。</p>	
	第6回	<p>運動方程式 到達目標：加速度の計算ができる。慣性の法則を説明できる。</p>	
	第7回	<p>いろいろなエネルギー 到達目標：エネルギー保存の法則を説明できる。</p>	
	第8回	<p>温度と分子運動 到達目標：比熱を使って温度変化を計算できる。</p>	
	第9回	<p>運動の法則とエネルギー 到達目標：いろいろな公式に物理量を代入して計算できる。</p>	
	第10回	<p>電気力（クーロンの法則） 到達目標：クーロンの法則を使って計算できる。</p>	
	第11回	<p>電圧と電流について 到達目標：オームの法則を使って流れる電流を計算できる。</p>	
	第12回	<p>原子の構造と分子のできる仕組み 到達目標：原子の構造を説明できる。</p>	
	第13回	<p>化学反応とエネルギー 到達目標：原子及び分子の構造と化学反応を説明できる。</p>	
	第14回	<p>まとめ 到達目標：事象を物理的に解析し、数式に表すことができる。</p>	
	第15回	<p>試験 期末試験</p>	
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、授業終了時に課題の提出が必要。 ・返却された課題を必ず復習すること。（30分） ・GoogleのMSTサイトを利用して予習復習すること。（30分から1時間） https://sites.google.com/a/mst.meiji-u.ac.jp/natsci/home 		
教科書	特に指定しない。		
参考書	<p>視覚でとらえるフォトサイエンス物理図録—新課程 数研出版株式会社（著） ISBN-10: 4410265121</p>		
成績評価	<p>試験80%、課題及び出席20% ただし授業態度が悪い場合、出席とはみなさない場合がある。</p>		
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：都築 英明 研究室：10号館8階 教授室 メールアドレス：tsuzuki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：金曜日</p>		
備考			

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
渡邊 康晴			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>コンピュータとインターネットを便利に使い、様々な書類を作成するスキルの獲得を目標とします。また、コンピュータとインターネットに絡んだ犯罪から身を守る知識の習得し、具体的に対処する方法について学びます。</p> <p>4年間の大学生活を送るにあたり必要なコンピュータスキルと犯罪に巻き込まれないための知識を習得し、実践できることを到達目標としています。</p> <p>ガイダンスには「必ず」出席して下さい。本学のコンピュータシステムおよびメール等、学生生活に必要な事項について説明します。</p>		
授業計画	第1講	ガイダンス、PCとメールの利用法 [到達目標] 本学のコンピュータとメールを使うことができる 本学のメールを携帯電話に転送できる 学生支援サイトの役割を知り、利用できる [備考] 授業内で大学メールの携帯転送設定を確認する	
	第2講	情報を探す [到達目標] 情報メディア教室で印刷が行える 高度なWeb検索が行える [備考]	
	第3講	ワープロで文書を作る、タッチタイピングを身につける [到達目標] ワープロが使い、文書のレイアウトを整えることができる タッチタイピングの習得方法がわかる ショートカットキーを使うことができる [備考] 課題提出・小テストあり	
	第4講	ビジネスでメールを使う [到達目標] メールのCCやBCC、署名が使える ビジネスメールのマナーが実践できる [備考] 課題提出・小テストあり	
	第5講	プレゼンテーション1：プレゼンテーションソフトを使いこなす [到達目標] プレゼンテーションソフトを使うことができる プレゼンスライド上で様々な表現が行える [備考]	
	第6講	プレゼンテーション2：他者と意見を交える [到達目標] 他者と円滑にグループワークが行える ディスカッションの内容に従って、プレゼン資料が作成できる [備考]	
	第7講	プレゼンテーション3：自分達の意見を発表する [到達目標] グループの一員として自分の考えを提示できる 他者の意見を傾聴できる [備考] プレゼン発表を実施します	
	第8講	表計算1：基本操作と便利な使い方を学ぶ [到達目標] 表計算ソフトを操作し、四則演算ができる 表計算ソフトを使って表が作成できる [備考] 小テストあり	
	第9講	表計算2：関数とグラフを学ぶ [到達目標] 表計算ソフトで棒グラフが作成できる 表計算ソフトで良く使う関数を使うことができる [備考] 小テストあり	
	第10講	表計算3：分散と標準偏差を理解する [到達目標] データのバラツキについて説明できる [備考] 小テストあり	
	第11講	表計算4：グラフ、表、数値の読み方	

	<p>[到達目標] 種々のグラフ、表、数値を読み解くことができる</p> <p>[備考] 小テストあり</p> <p>第12講 表計算5：復習と演習</p> <p>[到達目標] 表計算で学習した内容を独力で実践できる</p> <p>[備考] 小テストあり</p> <p>第13講 表計算を用いたデータ整理と表示法のテスト</p> <p>[到達目標] 表計算ソフトを独力で使いこなすことができる</p> <p>[備考] 表計算のテストを実施する</p> <p>第14講 パスワード管理、悪意のあるプログラムを知る1</p> <p>[到達目標] 適切なパスワードを作り管理することができる マルウェア（コンピュータウイルス）の実態を説明できる</p> <p>[備考] 小テストあり</p> <p>第15講 悪意のあるプログラムを知る2、ネットの脅威から身を守る</p> <p>[到達目標] マルウェア（コンピュータウイルス）対策を実行できる ネットの脅威から身を守るための対策を実施できる</p> <p>[備考] 課題提出・小テストあり</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	適宜、復習を行い、コンピュータスキル獲得に努めて下さい。
教科書	<p>ホームページを利用します。</p> <p>学内専用ホームページ http://mmhl.meiji-u.ac.jp/moodle</p> <p>学外ホームページ http://www.meiji-u.ac.jp/md-medinfo/lecture</p>
参考書	「知へのステップ」 学習技術研究会 著（くろしお出版）
成績評価	評価割合は授業内課題17%、小テスト18%、プレゼン発表25%、第13講で実施するテスト40%とします。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○渡邊 康晴 研究室 : 病院1階 MR センター メールアドレス : nabe@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00</p> <p>担当教員名 : 梅田雅宏 研究室 : 病院1階 MR センター メールアドレス : ume@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00</p> <p>担当教員名 : 河合 裕子 研究室 : 病院1階 MR センター メールアドレス : kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
千葉 章太			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	医療系学生に必要な化学の知識を習得することを目標とする。 到達目標： ・おもな元素記号を覚え、周期律表から元素の性質を推定できる。 ・分子軌道により共有結合を説明できる。 ・物質量の計算ができる。 ・溶液の濃度計算ができる。 ・化学反応式から反応物と生成物について定量的に説明できる。
授業計画	<p>第1回 元素記号と周期律 到達目標：おもな元素記号を記述できる。</p> <p>第2回 原子の構造 到達目標：陽子、中性子、電子を使って原子を説明できる。</p> <p>第3回 原子の電子配置と原子軌道 到達目標：s軌道とp軌道を使って電子配置を説明できる。</p> <p>第4回 価電子と共有結合 到達目標：分子軌道により共有結合を説明できる。</p> <p>第5回 炭素の化学 到達目標：ヘキサン、シクロヘキサン、ベンゼンの空間的構造の違いを説明できる。</p> <p>第6回 陽イオンと陰イオン 到達目標：主要な塩の組成式を作ることができる。</p> <p>第7回 分子の間に働く力 到達目標：水と二酸化炭素の性質の違いを説明できる。</p> <p>第8回 水の化学 到達目標：水の水素結合の様子を説明できる。</p> <p>第9回 分子量と物質量mol 到達目標：分子量と物質量を計算できる。</p> <p>第10回 質量、物質量、分子量 到達目標：理想気体の体積を物質量から計算できる。</p> <p>第11回 溶液の濃度 到達目標：モル濃度を計算できる。</p> <p>第12回 化学反応 到達目標：化学反応式の係数を決定できる。</p> <p>第13回 燃焼と酸化 到達目標：有機化合物の燃焼を化学反応式で表せる。</p> <p>第14回 化学反応とエネルギー 到達目標：化学反応の進行をエネルギーの観点で説明できる。</p> <p>第15回 試験 期末試験</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>1. 講義の前に該当する教科書の部分に目を通しておくこと。</p> <p>2. 講義の後に該当する教科書の部分を読み返しておくこと。</p>
教科書	「化学の基礎－元素記号からおさらいする化学の基本－」 中川 徹夫著 (化学同人) ISBN978-4-7598-1437-8
参考書	特に指定しない
成績評価	出席が6割に満たないものは期末試験の受験を認めない。 出席10%、期末試験を90%として成績を評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 千葉 章太 (ちば しょうた)</p> <p>研究室 : 研究棟 5号館 2F</p> <p>メールアドレス : s_chiba@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 水曜日、木曜日 12:40-13:30</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
河合 裕子			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	コンピュータおよび表計算ソフトウェアを用いて、実験データなど多くの情報を整理し解析する手法を身につけることを目的とする。 到達目標：デジタルデータを正確に取り扱い、実験データの記録と解析をコンピュータを用いて行うことができる。
授業計画	<p>1回目 基本的な表計算ソフトの使い方 到達目標：デジタルデータを使って簡単な計算ができる。 備考：小テストあり</p> <p>2回目 表計算ソフト利用に関する基本練習 到達目標：キーボードショートカットを用いた操作および 備考：小テストあり</p> <p>3回目 グラフの基本と関数① 到達目標：関数を使った計算を理解し、グラフの作り方について学ぶ。 備考：小テストあり</p> <p>4回目 グラフの基本と関数② 到達目標：関数を使った計算を遂行でき、棒グラフと折れ線グラフを作成することができる。 備考：小テストあり</p> <p>5回目 復習① 到達目標：PCおよびソフトウェア操作の基本的な操作をスムーズに行う事ができる。 備考：小テストあり</p> <p>6回目 実験データとデジタルノート 到達目標：実験で得たデータの安全な取り扱い方と実験ノートの意義について学ぶ。 備考：小テストあり</p> <p>7回目 分散と標準偏差 到達目標：データの分布とばらつきについて理解する。 備考：小テストあり</p> <p>8回目 さまざまなグラフ① 円グラフ・相対参照と絶対参照 到達目標：表計算ソフトの特性を理解し、必要に応じて絶対参照を使用することができる。 備考：小テストあり</p> <p>9回目 さまざまなグラフ② 度数分布表とヒストグラム 到達目標：ヒストグラムを作成することができる。 備考：小テストあり</p> <p>10回目 さまざまなグラフ③ 回帰直線と相関係数 到達目標：データの相関について理解する。 備考：小テストあり</p> <p>11回目 復習② 到達目標：グラフ作成など、データの提示に必要な操作をスムーズに行う事ができる。 備考：小テストあり</p> <p>12回目 統計学用語の理解 到達目標：母集団・標本・正規分布について理解する。 備考：小テストあり</p> <p>13回目 図表の読み取り 到達目標：資料等に示される図表を正しく読み取り解釈できる。 備考：小テストあり</p> <p>14回目 復習と演習 到達目標：学習した内容をもとに、独力でデータを統計的に解析できる。 備考：小テストあり</p> <p>15回目 試験 到達目標：適した解析方法を選択して提示された数値データを正確に処理し、グラフを用いて視覚的にレポートを作成できる。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	講義用の学内サイトを参照のこと。 http://mmh1.meiji-u.ac.jp/moodle/
教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。
成績評価	試験 80%、課題及び出席 20% (授業態度が悪い場合、出席とはみなさない場合がある)
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○河合 裕子 研究室 : 病院1階 MRセンター メールアドレス : kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00</p> <p>担当教員名 : 都築 英明</p>

	研究室 : 10号館8階 教授室 メールアドレス : tsuzuki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 金曜日9:00-12:00、15:00-17:00 担当教員名 : 梅田 雅宏 研究室 : 病院1階 MRセンター メールアドレス : ume@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択必修
担当教員			
森 利夫			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	近年、社会人の健康管理への関心も高く、健康に関する情報が錯綜する今、健康を維持・増進するための正しい知識を持つ必要がある。健康の三原則について学び、今後の看護活動の一助とする。
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション 健康の概念 健康とは [到達目標] 健康についての理解ができる</p> <p>[備考] 新聞の健康関連を探す</p> <p>2回目 ヘルスプロモーションとわが国の取り組み [到達目標] 健康日本21が理解できる</p> <p>3回目 健康増進のための方法論・健康の三原則 [到達目標] 健康の三原則が理解できる</p> <p>4回目 健康と栄養（1） [到達目標] 食品の栄養成分が理解できる</p> <p>[備考] 食品の栄養成分表を集める</p> <p>5回目 肥満とその予防 [到達目標] 肥満についての理解と予防がわかる</p> <p>6回目 健康と運動 [到達目標] 健康と運動の関係が理解できる</p> <p>7回目 休養：ストレス解消法 [到達目標] 休養の方法が理解できる</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義内容を復習すること
教科書	使用しない
参考書	健康運動指導のための「健康管理概論」中村栄太郎編 杏林書院
成績評価	毎時間の授業終了時の小テスト(30%)、課題提出（新聞の切り抜き等）(20%)、最終試験(50%)で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 森 利夫 研究室 : 広報推進室 メールアドレス : to_mori@meiji-u.ac.jp オフィスアワー :
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
池本 敬博			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	<p>【ウォーキング・ジョギング】 指導者としてウォーキングやジョギングで心肺機能の向上をはかり、生活習慣病の予防と改善のための運動体験を通して、個人の健康・体力に応じた集団運動指導ができることを目的とします。</p> <p>【陸上】 指導者として陸上競技「走る・跳ぶ・投げる」の基礎的技術を体験学習します。</p> <p>【トレーニングルーム利用方法】 トレーニングルームの各機器の利用方法を習得する。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス ウォーキング・ジョギングでの心肺機能の向上から生活習慣病予防と改善のための運動および陸上競技種目の体験を学習する。 ウォーキング実習の実際 個人の健康づくりと体力向上のため、運動実践の必要性と指導法を実践する。</p> <p>2 ウォーキング1 健康ウォーキング理論（目的・効果・強度・頻度・注意事項他）と屋外ウォーキングの実践1（フォーム・スピード）コースA</p> <p>3 ウォーキング2 屋外ウォーキングの実践2（コースB）</p> <p>4 ウォーキング3 屋外ウォーキングの実践3（コースC）</p> <p>5 ウォーキング4 屋外ウォーキングの実践3（コースD）</p> <p>6 陸上競技1 屋内で100mウォーキングタイム計測1</p> <p>7 陸上競技2 屋内で立幅跳び計測1</p> <p>8 陸上競技3 屋内で砲丸投げ計測</p> <p>9 陸上競技4 ハードル走</p> <p>10 陸上競技5 跳躍競技</p> <p>11 陸上競技6 屋外で100mウォーキングタイム計測1</p> <p>12 陸上競技7 屋内で立幅跳び計測1</p> <p>13 陸上競技8 屋内で砲丸投げ計測</p> <p>14 トレーニングルーム 利用方法</p> <p>15 まとめ 総括</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義後に柔軟やストレッチを行うこと。
教科書	指定しない
参考書	指定しない
成績評価	成績評価は出席（75%以上）を中心にし、授業態度及び参加度を加味して、評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：池本 敬博 研究室：体育館・教員室 メールアドレス：iketurn@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：</p> <p>担当教員名：中才幸樹 研究室：体育館・教員室 メールアドレス：k_nakasai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：</p>

備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
西尾 庄平			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	現代社会に生活する青少年にとって、基礎体力および心身の積極的な鍛錬は、今日ますますその重要性を高めつつある。とくに、大学生の期間は、形態発育学的にみて完成・充実期であり、この時期に心身の諸機能が熟成するという特別な意味を持っている。また、大学における運動実践は、教育制度として課業の最後の機会であり、生涯にわたる継続的な身体運動実践の習慣および能力の育成をはかるうえにおいて、またとない大切な時期であると思われる。したがって体育・スポーツ・レクリエーション活動の果たす役割は極めて大きい。ため、積極的な体力づくりや健康管理のあり方、余暇活動としてのレクリエーション技能の体験、運動処方能力の修得などが必要であり、本実習のを目標でもある。
授業計画	<p>1 ガイダンス エアロビック運動実習のねらいと評価の方法や各種目履修にあったっての諸注意を説明し、理解させる。</p> <p>2 体力測定（1） 身長、体重、座高、反復横跳び、長座体前屈、握力、立ち幅跳び、上体起し、シャトルランの測定を行い、文部科学省の「新体力テスト」全国の平均値ならびに現状の体力水準の比較検討を行わせる。</p> <p>3 体力測定（2） 50M走、ハンドボール投げの測定を行い、文部科学省の「新体力テスト」全国の平均値ならびに現状の体力水準の比較検討を行わせる。</p> <p>4 ウォーキング 基本的なフォームと安全上の注意について説明を行うと伴に、運動効果とエネルギー消費量のプログラムに沿った強度設定（心拍数を用いて）のやり方を学習する。</p> <p>5 テニス（1）基本・基礎技術の練習 グリップと構え、ラケットイング、ワントラップボレー、ボレー（フォア・バック）、ボレー&ボレーの動作をそれぞれ説明し、反復練習を行い、修得させる。</p> <p>6 テニス（2）基本・基礎技術の練習 グラウンドストローク（フォア・バック）の動作をそれぞれ説明し、反復練習させる。</p> <p>7 テニス（3）基本・基礎技術の練習 サービス、ロブ、サービス&レシーブの動作をそれぞれ説明し、反復練習を行い、修得させる。</p> <p>8 テニス（4）ルールとゲーム 審判法とゲームの進め方やマナーを理解させ、ダブルスの簡易ゲームを行なわせる。</p> <p>9 テニス（5）応用技術とゲーム チーム分けの再編成を行い、コミュニケーションの理解に重点を置いたダブルスゲームを行わせる。</p> <p>10 バドミントン（1）基本・基礎技術の練習 グリップと構え、基本ストローク、サーブの動作をそれぞれ説明し、反復練習を行い、修得させる。</p> <p>11 バドミントン（2）ルールとゲーム 審判方法、ゲームの進め方やマナーを理解させ、ダブルスゲームを行わせる。</p> <p>12 バドミントン（3）応用技術とゲーム チーム分けの再編成を行い、コミュニケーションの理解に重点を置いたダブルスゲームを行わせる。</p> <p>13 ソフトバレーボール（1）基本・基礎技術の練習 オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、アンダーハンドサーブの動作をそれぞれ説明し、反復練習を行い修得させる。</p> <p>14 ソフトバレーボール（2）ルールとゲーム 審判方法とゲームの進め方やマナーを理解させ、ダブルスゲームを行わせる。</p> <p>15 ソフトバレーボール（3）応用技術とゲーム チーム分けの再編成を行い、コミュニケーションの理解に重点を置いたダブルスゲームを行わせる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業後にストレッチングなど、身体のケアを充分に行うこと。
教科書	授業資料は、適宜配付する。
参考書	授業資料は、適宜配付する。
成績評価	授業態度50%、授業への貢献度20%、実技評価30%。「授業態度、授業への貢献度」では、授業に出席し、自律的に目標を設定し、積極的にグループ活動に参加しているかを評価する。
担当教員の基本情報	Office Hours 月曜日・水曜日12時50分～13時30分 教員室 また、メール (s_nishio@meiji-u.ac.jp) でも受け付ける。
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択必修
担当教員			
西尾 庄平			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	エアロビック運動実習の選択科目であり、使用可能施設および受講人数に応じて、バレーボール、バドミントン、バスケットボール、スポンジテニス、卓球などレクリエーションスポーツの様々な運動・スポーツ、ルールについて学ぶ。これらの種目における基礎的および応用技術の学習やゲームを通して身体活動が持つ様々な健康意義や生涯発達の意義について理解を深める。
授業計画	<p>1 ガイダンス エアロビック運動実習のねらいと評価の方法や各種目履修にあつたつての諸注意を説明し、理解させる。</p> <p>2 バレーボール（1）基礎技術の練習 スパイク、オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、各サーブならびにレシーブの動作をそれぞれ説明し、反復練習を行い、修得させる。</p> <p>3 バレーボール（2）ルールとゲーム 審判法とゲームの進め方やマナーを理解させ、チーム分けを行いゲーム（リーグ戦）を行わせる。</p> <p>4 バレーボール（3）応用技術とゲーム チーム分けの再編成を行い、ゲーム（リーグ戦）を行わせる。</p> <p>5 バドミントン（1）基礎技術の練習 グリップと構え、基本ストローク、サーブ、ドロップ&ロブ、クリア、ヘアピンの動作をそれぞれ説明し、反復練習を行い、修得させる。</p> <p>6 バドミントン（2）ルールとゲーム 審判法とゲームの進め方やマナーを理解させ、ダブルスゲーム（リーグ戦）を行わせる。</p> <p>7 バドミントン（3）応用技術とゲーム チーム分けの再編成を行いダブルスゲーム（リーグ戦）を行わせる。</p> <p>8 バスケットボール（1）基礎技術の練習 シュート、パス、キャッチ、ドリブル、ボールキープの反復練習を行い、修得させる。</p> <p>9 バスケットボール（2）ルールとゲーム 審判法とゲームの進め方やマナーを理解させ、ゲーム（リーグ戦）を行わせる。</p> <p>10 バスケットボール（3）応用技術とゲーム チーム分けの再編成を行い、ゲーム（リーグ戦）を行わせる。</p> <p>11 スポンジテニス（1）基礎技術の練習 グリップと構え、ラケットティング、ワントラップボレー、ボレー（フォア・バック）、ボレー&ボレーの動作をそれぞれ説明し、反復練習を行い、修得させる。</p> <p>12 スポンジテニス（2）ルールとゲーム 審判方法とゲームの進め方やマナーを理解させ、チーム分けを行いダブルスの簡易ゲームを行なわせる。</p> <p>13 スポンジテニス（3）応用技術とゲーム チーム分けの再編成を行い、ゲーム（リーグ戦）を行わせる。</p> <p>14 卓球（1）基礎技術の練習と試合 グリップと構え、基本ストローク、サーブの動作をそれぞれ説明し、反復練習を行い、修得させる。</p> <p>15 卓球（2）ルールとゲーム 審判法とゲームの進め方やマナーを理解させ、ゲーム（リーグ戦）を行わせる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業後にストレッチングなど、身体のケアを充分に行うこと。
教科書	授業資料は、適宜配付する。
参考書	授業資料は、適宜配付する。
成績評価	授業態度50%、授業への貢献度20%、実技評価30%。「授業態度、授業への貢献度」では、授業に出席し、自立的に目標を設定し、積極的にグループ活動に参加しているかを評価する。
担当教員の基本情報	Office Hours 月曜日・水曜日12時50分～13時30分 教員室 また、メール (s_nishio@meiji-u.ac.jp) でも受け付ける。 教員氏名：中才幸雄 オフィスアワー：随時
備考	

--	--

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
浅野 敏朗			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>今日、世界中で多くの情報が英語でやりとりされています。どの分野の仕事であれグローバルな視野を持って従事するには、英語による情報処理能力はまさに不可欠であると言っていいでしょう。</p> <p>この科目では、多様な英文を幅広く読んでいきます。「役に立つもの」から「味わい深いもの」まで、できる限りみなさんに興味・関心を持って読んでもらえるテキストを用意したいと考えています。まずは、直読直解ができるようになること、すなわち日本語に直さないで英語の語順で理解ができるようになること、概要や要点をしっかりと把握しながら読み進むこと、未知の語句は文脈から上手に推測できるようになること、書かれている内容について感想や意見が言えるようになることを、当面の目標といたしましょう。</p> <p>また、毎時間英語の短文音読練習や発表を取り入れて、英語の基礎力充実を図ります。みなさんの専門の医療にかかわる語彙を学習し、できるだけ覚えることにも努めます。なお、下記の「授業計画」にあげた内容は現在の予定です。実際の授業では、みなさんの理解の度合いや、感想や意見をもとに柔軟に改訂してより良いものにしていきます。</p>
授業計画	<p>第1回 この科目のオリエンテーション 〔到達目標〕 この科目の目標、内容等が理解できる。 〔備考〕 この科目に係わる基本的な学習方法、また授業時間外における予習・復習の仕方等についても説明します。</p> <p>第2回 英語の読み物教材（1） 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。英語短文暗誦（1）Medical Term Quiz（1）</p> <p>第3回 英語の読み物教材（2） 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。英語短文暗誦（2）Medical Term Quiz（2）</p> <p>第4回 英語の読み物教材（3） 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。英語短文暗誦（3）Medical Term Quiz（3）</p> <p>第5回 英語の読み物教材（4） 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。英語短文暗誦（4）Medical Term Quiz（4）</p> <p>第6回 英語の読み物教材（5） 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。英語短文暗誦（5）Medical Term Quiz（5）</p> <p>第7回 英語の読み物教材（6） 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。英語短文暗誦（6）Medical Term Quiz（6）</p> <p>第8回 英語の読み物教材（7） 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。英語短文暗誦（7）Medical Term Quiz（7）</p> <p>第9回 英語の読み物教材（8） 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。英語短文暗誦（8）Medical Term Quiz（8）</p> <p>第10回 英語の読み物教材（9） 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。英語短文暗誦（9）Medical Term Quiz（9）</p> <p>第11回 英語の読み物教材（10） 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕</p>

第12回	次の教材も扱います。英語短文暗誦 (10) Medical Term Quiz (10) 英語の読み物教材 (11) 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕
第13回	次の教材も扱います。英語短文暗誦 (11) Medical Term Quiz (11) 英語の読み物教材 (12) 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕
第14回	次の教材も扱います。英語短文暗誦 (12) Medical Term Quiz (12) 総復習 (1) 〔到達目標〕 これまで扱ってきた教材の主なものについて、十分意味内容が理解できる。 〔備考〕
第15回	大切な文は正しく音読ができる、さらに暗誦することができることも目指しましょう。 総復習 (2) 〔到達目標〕 これまで扱ってきた教材の主なものについて、十分意味内容が理解できる。 〔備考〕 大切な文は正しく音読ができる、さらに暗誦することができることも目指しましょう。
授業時間外の学習 (準備学習等) について	英語力の向上を目指して、授業時間外に少しでも多く予習と復習の時間を確保してください。以下は、授業時間外の学習についての留意事項です。 1) 英語に触れる機会を少しでも多くしてください。たとえ10分でも20分でも集中すればそれだけの効果があります。 2) 英語の学習の基本は、理解することと練習することです。この両方に半分ずつのエネルギーを使ってください。内容理解と反復練習のサイクルを積み重ねることにより、英語力は着実に向上していきます。 3) 与えられた英文の意味を、語彙力と構文力を使って正確に理解することがまず第一歩です。辞書を活用しながら、推測力を働かせてわからない個所の意味を把握しようとしてください。 4) 意味が理解できたら、その次は反復練習です。繰り返して音読、音読+筆写することによって、その英文をできるだけしっかりと身につけよう、覚えてしまおうとする努力が大切です。 5) 英語の学習もまずは自分から主体的に取り組む姿勢が肝心です。授業を刺激剤として意欲を活性化し、自らの力で問題解決を試み、能力・技能を身につけていこうとする積極性が大切です。
教科書	特に指定しない。(毎時間プリントを配布します)
参考書	英和辞典は授業時に必携です。
成績評価	授業参加への積極性、授業での発言・発表、提出物、そして定期試験の結果などにより総合的に評価します。とりわけ授業参加への積極性は、重要な評価の対象です。評価の内訳は目安として、授業参加 20～30%、発言・発表と提出物 10～20%、定期試験 50～70% を考えています。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 浅野敏朗 オフィスアワー : 授業後10分間
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
浅野 敏朗			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>今日、世界中で多くの情報が英語でやりとりされています。どの分野の仕事であれグローバルな視野を持って従事するには、英語による情報処理能力はまさに不可欠であると言っていいでしょう。</p> <p>この科目では、英語Ⅰを継承・発展させて、多様な英文を幅広く読んでいきます。「役に立つもの」から「味わい深いもの」まで、できる限りみなさんに興味・関心を持って読んでもらえるテキストを用意したいと考えています。まずは、直読直解ができるようになること、すなわち日本語に直さないで英語の語順で理解ができるようになること、概要や要点をしっかりと把握しながら読み進むこと、未知の語句は文脈から上手に推測できるようになること、書かれている内容について感想や意見が言えるようになることを、当面の目標といたしましょう。</p> <p>また、毎時間英語の短文音読練習や発表を取り入れて、英語の基礎力充実を図ります。みなさんの専門の医療にかかわる語彙を学習し、できるだけ覚えることにも努めます。なお、下記の「授業計画」にあげた内容は現在の予定です。実際の授業では、みなさんの理解の度合いや、感想や意見をもとに柔軟に改訂してより良いものにしていきます。</p>
授業計画	<p>第1回 この科目のオリエンテーション 〔到達目標〕 この科目の目標、内容等が理解できる。 〔備考〕 この科目に係わる基本的な学習方法、また授業時間外における予習・復習の仕方等についても説明します。</p> <p>第2回 英語の読み物教材(13) 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。英語短文暗誦(13) Medical Term Quiz(13)</p> <p>第3回 英語の読み物教材(14) 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。英語短文暗誦(14) Medical Term Quiz(14)</p> <p>第4回 英語の読み物教材(15) 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。英語短文暗誦(15) Medical Term Quiz(15)</p> <p>第5回 英語の読み物教材(16) 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。英語短文暗誦(16) Medical Term Quiz(16)</p> <p>第6回 英語の読み物教材(17) 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。英語短文暗誦(17) Medical Term Quiz(17)</p> <p>第7回 英語の読み物教材(18) 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。英語短文暗誦(18) Medical Term Quiz(18)</p> <p>第8回 英語の読み物教材(19) 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。英語短文暗誦(19) Medical Term Quiz(19)</p> <p>第9回 英語の読み物教材(20) 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。英語短文暗誦(20) Medical Term Quiz(20)</p> <p>第10回 英語の読み物教材(21) 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。英語短文暗誦(21) Medical Term Quiz(21)</p> <p>第11回 英語の読み物教材(22) 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p>

	<p>〔備考〕 次の教材も扱います。英語短文暗誦 (22) Medical Term Quiz (22) 英語の読み物教材 (23)</p> <p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 次の教材も扱います。英語短文暗誦 (23) Medical Term Quiz (23) 英語の読み物教材 (24)</p> <p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 次の教材も扱います。英語短文暗誦 (24) Medical Term Quiz (24) 総復習 (1)</p> <p>〔到達目標〕 これまで扱ってきた教材の主なものについて、十分意味内容が理解できる。</p> <p>〔備考〕 大切な文は正しく音読ができる、さらに暗誦することができることも目指しましょう。</p> <p>第15回 総復習 (2)</p> <p>〔到達目標〕 これまで扱ってきた教材の主なものについて、十分意味内容が理解できる。</p> <p>〔備考〕 大切な文は正しく音読ができる、さらに暗誦することができることも目指しましょう。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	<p>英語力の向上を目指して、授業時間外に少しでも多く予習と復習の時間を確保してください。以下は、授業時間外の学習についての留意事項です。</p> <p>1) 英語に触れる機会を少しでも多くしてください。たとえ10分でも20分でも集中すればそれだけの効果があります。</p> <p>2) 英語の学習の基本は、理解することと練習することです。この両方に半分ずつのエネルギーを使ってください。内容理解と反復練習のサイクルを積み重ねることにより、英語力は着実に向上していきます。</p> <p>3) 与えられた英文の意味を、語彙力と構文力を使って正確に理解することがまず第一歩です。辞書を活用しながら、推測力を働かせてわからない個所の意味を把握しようとしてください。</p> <p>4) 意味が理解できたら、その次は反復練習です。繰り返して音読、音読+筆写することによって、その英文をできるだけしっかりと身につけよう、覚えてしまおうとする努力が大切です。</p> <p>5) 英語の学習もまずは自分から主体的に取り組む姿勢が肝心です。授業を刺激剤として意欲を活性化し、自らの力で問題解決を試み、能力・技能を身につけていこうとする積極性が大切です。</p>
教科書	特に指定しない。(毎時間プリントを配布します)
参考書	英和辞典は授業時に必携です。
成績評価	授業参加への積極性、授業での発言・発表、提出物、そして定期試験の結果などにより総合的に評価します。とりわけ授業参加への積極性は、重要な評価の対象です。評価の内訳は目安として、授業参加 20～30%、発言・発表と提出物 10～20%、定期試験 50～70% を考えています。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 浅野敏朗 オフィスアワー : 授業後10分間
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
中山 肯英			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	【教育目標】 発音（ピンイン）練習から始め、ヒアリング、簡単な日常会話の基礎を学び、文章の読解と共に、簡単な日常会話により意思の疎通を図れるようにする。
授業計画	<p>1回目 アプローチ [到達目標] 中国語とは、どんな言葉かについて理解する。 簡体字、繁体字、新字体について理解する。 [備考] ・テキストを基づいて授業前の予習、授業後の復習・練習をする。 ・参考資料を随時配布するので、それを授業前に調べること。</p> <p>2回目 発音表記法「ピンイン」について [到達目標] 声調、単母音、複母音、子音の組み合わせを正しく発音する。</p> <p>3回目 発音表記法「ピンイン」について [到達目標] -n, -ngを持つ母音、軽声、声調の変化・組み合わせを正しく発音する。 自分の名前を言えるようになる。 覚えておきたい表現を言うことができるようにする。</p> <p>4回目 「第1課」あいさつする [到達目標] 1. 中国語であいさつができるようになる。 2. 日本人・中国人であると言えるようになる。</p> <p>5回目 「第2課」名前を尋ねる [到達目標] 1. 相手の名前を尋ねられるようになる。 2. 趣味について話せるようになる。</p> <p>6回目 「第3課」食べたいものを尋ねる [到達目標] 1. 食べたいもの、飲みたいものを言えるようになる。 2. あいてはどうする、同じ質問を返せるようになる。</p> <p>7回目 「第4課」近況を尋ねる [到達目標] 1. 相手が忙しいかどうか、尋ねられるようになる。 2. 週末の予定について話せるようになる。</p> <p>8回目 復習1 [到達目標] 1. 第1課～第4課を復習し、文章でまとめてみましょう。</p> <p>9回目 「第5課」予定を尋ねる [到達目標] 1. 相手の予定を尋ねられるようになる。 2. 何時に何をするか言えるようになる。</p> <p>10回目 「第6課」場所を尋ねる 1. 行きたい場所がどこにあるか、尋ねられるようになる。</p> <p>11回目 「第7課」注文する 1. 料理や飲み物を注文できるようになる。 2. ほしいものがあるかどうか尋ねられるようになる。</p> <p>12回目 「第8課」値段を交渉する [到達目標] 1. 品物の値段を尋ねられるようになる。 2. 値下げの交渉ができるようになる。</p> <p>13回目 復習2 1. 第5課～第8課を復習し、文章でまとめてみましょう。</p> <p>14回目 コミュニケーション まとめ</p> <p>15回目 まとめ</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>1. 受講前にテキストを予習する。 2. 受講後にテキストを熟読し、覚える。 3. テキストに付いているCDを繰り返し聴いて、覚える。 4. 随時プリントを配布するので、対応部分について調べる。</p>

教科書	「できる・つたわるコミュニケーション中国語」岩井伸子・胡興智 著（白水社）
参考書	「中日辞典」北京商務印書館編集（小学館） 「日中辞典」北京對外貿易經濟大学、北京商務印書館編集（小学館）
成績評価	期末試験40%・授業内演習30%・学習態度など30%。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 中山肯英 研究室 : 非常勤講師 メールアドレス : keiei777@hotmail.co.jp オフィスアワー : 講義終了後
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
フォコニエ フランク			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	このクラスでは、フランス語を話す国に旅行すれば、便利な構文と簡単な日常会話を習う。また、様々な例を用いてフランス文化についても説明し、皆さんの外国文化に対する興味を高めます。		
授業計画	1回目	INTRODUCTION + SALUER (1) + SE PRESENTER (1) [到達目標] フランスの姿、ヨーロッパの中のフランス、フランス語圏を知る、フランス語の音を聞き分ける。 挨拶する、別れ挨拶する、簡単な自己紹介する。	
	2回目	VOCABULAIRE DE LA CLASSE + ALPHABET + SE PRESENTER (2) [到達目標] 教室でよく使う表現 名前のつづりを言う、単語のつづりを尋ねる、自己紹介する。	
	3回目	LES NOMBRES (0-, 31) + LES JOURS ET LES MOIS + DEMANDER LE SENS [到達目標] 数字、日/月 単語の意味を尋ねる。	
	4回目	DIRE SES GOUTS (1) [到達目標] 好きなものを言う (1)	
	5回目	DIRE SES GOUTS (2) [到達目標] 好きなものを言う (2)	
	6回目	PETITS TESTS D' ECOUTE ET DE CONVERSATION [到達目標] 小テスト	
	7回目	COMMANDER QUELQUE CHOSE AU CAFE/RESTAURANT [到達目標] カフェ/レストランで注文する。	
	8回目	LES NOMBRES (-1000) + DEMANDER LE PRIX [到達目標] 数字、値段を尋ねる。	
	9回目	L' HEURE [到達目標] 時間を尋ねる。	
	10回目	RESERVER UN BILLET DE TRAIN [到達目標] 電車の切符を予約する。	
	11回目	PETITS TESTS D' ECOUTE ET DE CONVERSATION [到達目標] 小テスト	
	12回目	INTERROGER SUR UN LIEU ET SITUER UN LIEU [到達目標] 場所について尋ねる。	
	13回目	DEMANDER LE CHEMIN [到達目標] 道順を尋ねる。	
	14回目	VISITER PARIS [到達目標] パリで観光する。	
	15回目	REVISIONS GENERALES まとめ	
授業時間外の学習 (準備学習等)に ついて	なし		
教科書	なし		
参考書	なし		
成績評価	出席回数、参加、小テスト (聞き取り+会話)、期末テスト		
担当教員の基本情 報	担当教員名 : フォコニエ フランク (非常勤講師) 研究室 : メールアドレス : parisosaka_75@hotmail.com オフィスアワー : 授業終了後		

備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択必修
担当教員			
ベンジャミン・クインリベン			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	英語による口頭でのコミュニケーション能力を身に付け、保健・医療を含む幅広い教材を用いて、聞き取り練習や会話練習を行い、医療の現場での相手の発話内容を正確に理解すると同時に、日常的な事柄を的確に表現する能力を身につけていく。		
授業計画	1	Course Overview & Introductions [到達目標] Self Introductions, General hints, Useful English Patterns and handouts, Learning communication questions [時間外の学習等] Check the meaning of the word with a dictionary.	
	2	Interrogatives and Yes/No questions [到達目標] Auxillary Verb & pronoun questions, Interrogative Questions, Question asking activity. [時間外の学習等] overview interrogatives, review order swtiching	
	3	Present Tense is for repeated action [到達目標] Present Tense, Singular & Plural, adverbs of frequency: always, usually, rarely etc. How often activity. [時間外の学習等] Review verb charts for common present tense verbs regarding 3rd person singular eg. He/she/it eats rice	
	4	Past tense 1- the most underused tense. [到達目標] Differences between English and Japanese regarding usage. Mostly regular past tense patterns and past tense activity. [時間外の学習等] Review verb chart for common past tense verbs	
	5	Past tense 2- the most underused tense. [到達目標] Focus on Irregular verbs, and then prepositions of time: at, on, in. Past topical issue discussion: technology and society [時間外の学習等] Review verb chart for common past tense verbs	
	6	Present Progressive & Past participle [到達目標] be -ing & have/has pp. pattern practice “Never have I ever” activity [時間外の学習等] Review past participle	
	7	underused adjectives because of Japanese [到達目標] 2 Adjective types: syllables, comparative sentences, ing/ed adjectives, describing the situation activity [時間外の学習等] Understand the difference of usage between English and Japanese objectives	
	8	Prepositions of place, giving directions [到達目標] prepositions of place review, directions practice, Finding an object and finding the way activities. [時間外の学習等] Review prepositions of place (eg. on, in under) and direction words (turn left, go straight, cross the bridge/street).	
	9	conditional sentences eg. (if) [到達目標] Intro of common mistakes, differences between Japanese and English, activity using hypothetical sentences [時間外の学習等] Review hypothetical/ conditional sentences	
	10	tell a story, speech class [到達目標] students will reviewing other students and taking notes. Questions after speeches. discussion on crime. [時間外の学習等] Putting it all together: Mid Semester Speech	
	11	Intro to spoken English - Why is listening so difficult? We don't talk like books. [到達目標] Background & context, Function vs Content words, strong forms 強形 vs weak forms 弱形 most common forms of sound change. Interrogatives with weak forms. [時間外の学習等] Spoken English -Review my print outs IPA will be used the remainder of the lectures. Review it if necessary. mainly: /u/?/? but also θ /d/d/?/?/t/?/? etc.	
	12	spoken English 2 - t deletions [到達目標] 5 rules for sound change with t in English, listening test practice & topical discussion on Education and Society [時間外の学習等] Spoken English -Review my print outs	
	13	other weak forms for function words [到達目標] sound change for have/of/and/going to etc. listening test. topical discussion on the Environment and Society [時間外の学習等] Spoken English -Review my print outs	
	14	The remainder of function words [到達目標] voiceless sound deletions h/th/v and spoken English practice test for h	

	<p>deletions. [時間外の学習等]Spoken English -Review my print outs End of Semester test [到達目標] The test will mainly be about spoken English from second half of the semester [時間外の学習等]End of Semester test</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	Read the printouts carefully before and after class. Check the meaning of the words beforehand. Review any IPA 発音記号 (?/u?/? etc)
教科書	Mostly the course work will follow my print outs but also some extracts from other sources.
参考書	<p>General Text Get Real 1 New Ed. Student Book (最新・最強米語コース) (英語)-2008/7</p> <p>For natural English: McGraw-Hill's Conversational American English: The Illustrated Guide to Everyday Expressions of American English (McGraw-Hill ESL References) 1st Edition by Richard Spears (Author), Betty Birner (Author), Steven Kleinedler (Author), Luc Nisset (Author)</p> <p>Common American Phrases in Everyday Contexts, 3rd Edition by Richard Spears (Author) McGraw-Hill Education; (November 15, 2011)</p> <p>F or spoken English: Mr. Seki's Guide to English Pronunciation (Japanese) Tankobon Softcover -2009 CD 付 世界一わかりやすい 英語の発音の授業 単行本-2009/9/10 関 正生 (著)</p> <p>For common mistakes: Webb, J. H. M. (2006). 151 common mistakes of Japanese students of English. Tokyo: The Japan Times 日本人に共通する英語のミス 151 [増補改訂版] 単行本-2006/12/5 ジェイムズ H.M. ウェブ (著)</p>
成績評価	<p>Class Participation: 15% - This involves being attentive, taking notes, speaking, asking and answering questions and any other forms of active participation in the class.</p> <p>Mid-semester speech: 35% - Because this is Oral communication (口頭) There will be a Mid semester speech in English on an experience you had in the past. Tell us a story for 3 minutes. Afterwards other students may ask questions. Speeches will be graded on Volume, Pronunciation, Fluency.</p> <p>End of semester Test: 50% - The end of semester test will mainly be about the spoken English we cover in the second half of the semester. Some of the test will also cover the rest of the unit.</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : Benjamin Quinlivan (ベンジャミン・クインリベン) 研究室 : メールアドレス : quinny38a@hotmail.com オフィスアワー : 随時</p>
備考	<p>1クラスの定員20名以下とする。</p> <p>参考書続き For International Phonetic Alphabet (IPA) 発音記号: For Apple: Sounds: The Pronunciation App FREE By Macmillan Education Macmillan Publishers Ltd c 2011 Macmillan Publishers Ltd https://play.google.com/store/apps/details?id=com.macmillan.app.soundsfree&hl=en</p> <p>For Android: Phonemic chart Phonemic Chart by Unik Edu Solution https://play.google.com/store/apps/details?id=air.com.unik.phonemic For PC: University of Victoria department of Linguistics Clickable IPA chart: http://web.uvic.ca/ling/resources/ipa/charts/IPAlab/IPAlab.htm</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
熊本 賢三、榎原 智美			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>人体の構造を熟知することは、医療を行うものにとっては必須のことである。本講義では看護に必要となる人体の正常な形態について各器官系に分けて学習し、病的状態を理解するための基礎知識を修得する。人体構造論 I では、細胞・組織にはじまり、運動器系（骨格と骨格筋）、循環器系、血液および呼吸器系の正常な肉眼的構造と組織・細胞学的構造を、豊富な画像や図譜を駆使して器官系ごとに学習する。各器官の個々の機能は、各々に特徴的な各種細胞とそれらが構成する特徴的な組織構造に裏付けられ、各構造が有機的に連携して全体としての機能を担っている。個々の器官特有の形態学的知識とともに、統合的に器官系の正常構造を学び、人体を俯瞰的に理解することにより、基礎医学、臨床医学の基礎を作る。</p>
授業計画	<p>1回目 人体の構造を学ぶための基礎知識：人体の概要（器官系と器官） [到達目標] 器官系と器官について説明できる [備考] 教科書 pp. 2～11</p> <p>2回目 細胞と組織（1）細胞と上皮組織 [到達目標] 細胞と上皮組織について説明できる。 [備考] 教科書 pp. 11～30</p> <p>3回目 細胞と組織（2）支持組織と筋組織 [到達目標] 支持組織と筋組織について説明できる。 [備考] 教科書 pp. 30～34, 359～371</p> <p>4回目 細胞と組織（3）神経組織・人体の膜 [到達目標] 神経組織と人体の膜について説明できる。 [備考] 教科書 pp. 34～36</p> <p>5回目 骨格系（1）骨格と関節 [到達目標] 骨格と関節について説明できる。 [備考] 教科書 pp. 298～308, 314～318, 324～327, 334, 336</p> <p>6回目 骨格系（1）骨格と関節 [到達目標] 骨格と関節について説明できる。。 [備考] 教科書 pp. 339～344, 348</p> <p>7回目 骨格筋 [到達目標] 骨格筋について説明できる。 [備考] 教科書 pp. 309～313, 318～324, 328～339, 344～351, 355～359</p> <p>8回目 循環器系（1）：総論と血管の構造 [到達目標] 循環器系と血管の構造を説明できる。 [備考] 教科書 pp. 158～160, 182～184</p> <p>9回目 循環器系（2）心臓 [到達目標] 心臓について説明できる。 [備考] 教科書 pp. 160～168, 174～182</p> <p>10回目 循環器系（3）動脈と静脈 [到達目標] 動脈と静脈の走行について説明できる。 [備考] 教科書 pp. 185～198</p> <p>11回目 循環器系（4）体積の循環とリンパ系 [到達目標] 胎生期の循環とリンパ系器官について説明できる。 [備考] 教科書 pp. 510～512, 215～218, 467～470</p> <p>12回目 血液と造血・免疫系 [到達目標] 血液と造血機能および免疫系について説明できる。 [備考]</p>

	<p>13回目 教科書 pp.131～155,174～182,458～466 呼吸器系（1）総論、鼻腔と咽頭 [到達目標] 呼吸器系の概略、鼻腔と咽頭が説明できる [備考]</p> <p>14回目 教科書 pp.98～102, 呼吸器系（2）喉頭と気管・気管支 [到達目標] 喉頭、気管と気管支について説明できる。 [備考]</p> <p>15回目 教科書 pp.102～106 呼吸器系（3）肺（ガス交換・呼吸運動） [到達目標] 肺の構造とガス交換および呼吸運動について説明できる。 [備考] 教科書 pp.106～117,318～321</p>
授業時間外の学習 （準備学習等）について	教科書とプリントを使って、予習と復習をおこなうとともに、自分なりのノートを作り知識の整理をする。不明な点あるいは疑問点は、一度自分でよく調べ、それでもわからないことは担当教員に質問して補ってください。
教科書	『系統看護学講座 専門基礎1 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学』坂井建雄 他（医学書院）
参考書	随時、役立つ廉価な書籍を紹介しますので、読んでみたいと思うものを図書館で閲覧し、必要ならば購入してください。
成績評価	中間試験（100点満点）と期末試験（100点満点）を行い、総合して評価する。合格基準は平均点数60%以上とする。出席率60%未満の学生さんには受験資格を与えないので注意してください。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○熊本賢三 研究室 : 5号館1階 解剖学教室 メールアドレス : k_kumamoto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月、水曜日放課後</p> <p>担当教員名 : 榎原 智美 研究室 : 5号館1階 解剖学教室 メールアドレス : s_ebara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月、水曜日放課後</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
熊本 賢三、榎原 智美			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>人体の構造を熟知することは、医療を行うものにとっては必須のことである。本講義では看護に必要となる人体の正常な形態について各器官系に分けて学習し、病的状態を理解するための基礎知識を修得する。人体構造論Ⅱでは、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系および感覚器系の正常な肉眼的構造と組織・細胞学的構造を、豊富な画像や図譜を駆使して器官系ごとに学習する。各器官の個々の機能は、各々に特徴的な各種細胞とそれらが構成する特徴的な組織構造に裏付けられ、各構造が有機的に連携して全体としての機能を担っている。個々の器官特有の形態学的知識とともに、統合的に器官系の正常構造を学び、人体を俯瞰的に理解することにより、基礎医学、臨床医学の基礎を作る。</p>
授業計画	<p>1回目 消化器系（1）総論、口腔と味覚、咀嚼 [到達目標] 消化器系の概要、口腔、咀嚼および味覚について説明できる。 [備考] 教科書pp. 54-62</p> <p>2回目 消化器系（2）咽頭、食道と胃 [到達目標] 咽頭、食道と胃および嚥下について説明できる。 [備考] 教科書pp. 63-71</p> <p>3回目 消化器系（3）小腸と大腸 [到達目標] 小腸と大腸および吸収と排便について説明できる。 [備考] 教科書pp. 71-85</p> <p>4回目 消化器系（4）肝臓、膵臓および腹膜 [到達目標] 肝臓、膵臓と腹膜について説明できる。 [備考] 教科書pp. 86-96</p> <p>5回目 泌尿器系（1）総論、腎臓（1） [到達目標] 泌尿器の概要と腎臓について説明できる。 [備考] 教科書pp. 220-243</p> <p>6回目 泌尿器系（2）腎臓（2）、尿管、膀胱と尿道 [到達目標] 腎臓と尿路および排尿について説明できる。 [備考] 教科書pp. 220-243</p> <p>7回目 男性生殖器（1）総論、精巣と精路および外生殖器 [到達目標] 概要、精巣、精路および外生殖器について説明できる。 [備考] 教科書pp. 480-486</p> <p>8回目 女性生殖器（1）総論、卵巣と子宮（性周期） [到達目標] 概要、卵巣と子宮について説明できる。 [備考] 教科書pp. 486-496</p> <p>9回目 女性生殖器（2）卵管と膣、外生殖器およびヒトの発生 [到達目標] 卵管、膣、外生殖器およびヒトの発生について説明できる。 [備考] 神経系：中枢神経系（1）教科書pp. 368-378、pp. 381-393</p> <p>10回目 内分泌系（1）総論、下垂体と松果体 [到達目標] 概要と下垂体と松果体について説明できる。 [備考] 教科書pp. 260-271</p> <p>11回目 内分泌系（2）甲状腺、上皮小体、ランゲルハンス島と副腎 [到達目標] 甲状腺、上皮小体、ランゲルハンス島と副腎について説明できる。 [備考] 教科書pp. 271-295</p> <p>12回目 神経系（1）総論、中枢神経（脊髄と脳） [到達目標] 概要と中枢神経について説明できる。 [備考]</p>

	<p>13回目 教科書pp. 374-399 神経系（2）末梢神経（脊髄神経と脳神経） [到達目標] 末梢神経（脊髄神経と脳神経）について説明できる。 [備考]</p> <p>14回目 教科書pp. 400-408 感覚器系（1）総論、嗅覚器と視覚器 [到達目標] 嗅覚器と視覚器について説明できる。 [備考]</p> <p>15回目 教科書pp. 425-432、445-446 感覚器系（2）聴覚器と平衡覚器、外皮 [到達目標] 聴覚器と平衡覚器および外皮について説明できる。 [備考] 教科書pp. 437-443、446-450、452-458</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書とプリントを使って、予習と復習をおこなうとともに、自分なりのノートを作り知識の整理をする。不明な点あるいは疑問点は、一度自分でよく調べ、それでもわからないことは担当教員に質問して補ってください。
教科書	“『系統看護学講座 専門基礎1 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学』坂井建雄 他（医学書院）
参考書	随時、役立つ廉価な書籍を紹介しますので、読んでみたいと思うものを図書館で閲覧し、必要ならば購入してください。
成績評価	中間試験（100点満点）と期末試験（100点満点）を行い、総合して評価する。合格基準は平均点数60%以上とする。出席率60%未満の学生さんには受験資格を与えないので注意してください。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○熊本賢三 研究室 : 5号館1階 解剖学教室 メールアドレス : k_kumamoto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月、水曜日放課後</p> <p>担当教員名 : 榎原 智美 研究室 : 5号館1階 解剖学教室 メールアドレス : s_ebara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月、水曜日放課後</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
林 知也			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>授業概要：生体機能は大きく生命維持に必須な植物性機能と、骨格筋や神経系に代表される動物性機能に分類され、この授業では正常な状態での植物性機能を学ぶ。これらの知識は、正常な機能が破綻した状態、すなわち疾患を学ぶ上で必須なものとなる。</p> <p>到達目標：生体の基本構成要素である細胞の働き、ガスや栄養素を全身に運搬する血液・循環機能、酸素と二酸化炭素のガス交換の仕組み、体液の恒常性維持に必須の腎機能、生体を構成する物質やエネルギー源となる物質を得るための消化吸収・代謝、体温を一定に保つための体温調節機能、生体の恒常性維持に必須の内分泌機能、種族維持に必須な生殖機能等を理解し、説明できる。</p>
授業計画	<p>第1回 イントロダクションと細胞生理・分子生理 到達目標：細胞の機能、物質移動、生体恒常性について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書 (p. 2～5)、並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第2回 血液と体液 到達目標：体液、血球、血漿、血液凝固、血液型について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書 (p. 12～23)、並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第3回 循環(1) 到達目標：心臓の機能的構造、心臓の自動能、心電図、について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書 (p. 28～34)、並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第4回 循環(2) 到達目標：心周期、心拍動の調節、血管系について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書 (p. 34～42)、並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第5回 循環(3) 到達目標：リンパ系、動脈圧の調節機序について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書 (p. 43～48)、並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第6回 呼吸(1) 到達目標：換気の仕組み、肺容量、肺胞換気について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書 (p. 52～58)、並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第7回 呼吸(2) 到達目標：ガス交換、血液のガス運搬、pH緩衝作用、呼吸調節について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書 (p. 58～65)、並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第8回 消化と吸収(1) 到達目標：各栄養素の消化と吸収、消化の調節機序について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書 (p. 72～84)、並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第9回 消化と吸収(2) 到達目標：各消化液分泌と各消化管運動、排便反射、肝機能について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書 (p. 84～91)、並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第10回 尿の生成と排泄 到達目標：糸球体濾過、再吸収、分泌、排尿について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書 (p. 96～112)、並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第11回 代謝と体温 到達目標：エネルギー代謝の基本事項、産熱・放熱、体温調節、体温の異常、体温の生理的変動について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書 (p. 116～126, 132～144)、並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第12回 内分泌(1) 到達目標：ホルモンの定義と分類、分泌調節、視床下部、下垂体からのホルモン分泌を説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書 (p. 154～165)、並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第13回 内分泌(2) 到達目標：副腎、膵臓、甲状腺からのホルモン分泌、血中Ca²⁺濃度調節について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書 (p. 165～169)、並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第14回 生殖 到達目標：女性の性ホルモン、性周期、妊娠と分娩、男性の生殖機能について説明できる。 授業時間外学習の指示：教科書 (p. 174～183)、並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第15回 まとめ 到達目標：この科目での学習内容を応用して、植物性生体機能を説明できる。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	該当分野に関して、教科書を熟読し、その上で配布プリントにて授業内容を確認する。理解できない部分は参考書等にて理解できるようにし、それでも分らない部分は質問にて理解できるようにする。
教科書	「やさしい生理学(改訂第6版)」 彼末一之・能勢博 編集(南江堂)
参考書	※必要に応じて、自分に合うと思えるものを選ぶこと。 「はじめの一步のイラスト生理学(改訂第2版)」 照井直人 編(羊土社) 「マンガでわかる基礎生理学」 田中 越郎 監修(オーム社)

	「カラーイラストで学ぶ 集中講義 生理学 改訂2版」 岡田隆夫 編集 (メジカルビュー社) 「生理学テキスト (第7版)」 大地陸男 著 (文光堂)
成績評価	試験の結果 (100%) にて評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 林 知也 研究室 : 8号館4F林知教授室 オフィスアワー : 月曜日17:00~18:00
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
中山 登稔			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	生体機能を維持するための動物性機能、すなわち神経系の基礎、筋収縮、自律神経系、脳、運動の調節、視覚・聴覚・前庭感覚・味覚・嗅覚・体性感覚について学習する。ヒトとしての自分を知り、看護師としての基礎的知識の獲得を目標とする。
授業計画	<p>第1回 筋収縮(1)について 到達目標：筋肉の種類と機能、骨格筋の微細構造、筋収縮の仕組み、筋収縮のエネルギー源、筋収縮の型、心筋の特徴について説明できる。 備考：教科書のp.189-197を予習する。</p> <p>第2回 筋収縮(2)について 平滑筋の特徴、筋肉痛、筋運動のエネルギー、有酸素運動と無酸素運動について説明できる。 教科書のp.198-206を予習する。</p> <p>第3回 神経系の基礎について 神経系の分類、ニューロンの興奮、シナプス、グリアの機能、神経系の発達について説明できる。 教科書のp.208-221を予習する。</p> <p>第4回 自律神経系(1)について 末梢自律神経系の構成、自律神経系活動の特徴、自律神経系の伝達物質について説明できる。 教科書のp.223-229を予習する。</p> <p>第5回 自律神経系(2)について 自律神経系の受容体、伝達物質の除去と再利用、共伝達物質、自律神経系による内臓支配、内臓-内臓反射、体性-内臓反射について説明できる。 教科書のp.229-237を予習する。</p> <p>第6回 自律神経系(3)について 内臓-体性反射、血管運動中枢・呼吸中枢、体温調節中枢、食欲の中枢、日内リズムについて説明できる。 教科書のp.237-242を予習する。</p> <p>第7回 脳(1)について ヒトの脳の巨視的構造、大脳、記憶と学習について説明できる。 教科書のp.245-253を予習する。</p> <p>第8回 中間試験 第1回から第7回の講義内容に関する問題を解くことができる。</p> <p>第9回 脳(2)について 睡眠と覚醒、ノンレム睡眠とレム睡眠、睡眠のメカニズム、睡眠覚醒リズムの調節機構、睡眠の発達と老化による変化について説明できる。 教科書のp.253-259を予習する。</p> <p>第10回 脳(3)、感覚(1)について 情動、感覚の種類、刺激の受容、刺激の強さと感覚の大きさ、順応、光の経路、網膜について説明できる。 教科書のp.260-270を予習する。</p> <p>第11回 感覚(2)について 暗順応と明順応、視覚伝導路、色の感覚、視野と視力、視覚情報処理、音の経路、音の受容、聴覚伝導路と聴覚情報処理、音色、音源定位平衡感覚について説明できる。 教科書のp.270-276を予習する。</p> <p>第12回 感覚(3)について 平衡感覚、体性感覚(皮膚感覚、深部感覚、内臓感覚)、体性感覚と内臓感覚の伝導路、皮膚分節について説明できる。 教科書のp.276-283を予習する。</p> <p>第13回 感覚(4)、運動の調節(1)について 味覚、嗅覚、感覚刺激と知覚、運動に関する脳部位、運動神経と運動単位、脊髄と反射について説明できる。教科書のp.283-294を予習する。</p> <p>第14回 運動の調節(2)について 脳幹(姿勢反射、歩行)、大脳皮質、運動学習と自律運動、運動関連脳部位間の接続、スポーツのトレーニングについて説明できる。 教科書のp.294-304を予習する。</p> <p>第15回 期末試験 第9回から第14回の講義内容に関する問題を解くことができる。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	1. 受講前に教科書を予習する。 2. 受講後に教科書を熟読・理解し、覚える。
教科書	やさしい生理学、改定第6版、彼末一之、能勢博編集、南江堂
参考書	生理学テキスト、第6版、大地陸男著、文光堂 Clinical生体機能学、第1版、當瀬規嗣著、南江堂 標準生理学、第7版、小澤滯司、福田康一郎 総編集、医学書院

成績評価	中間試験50%、期末試験50%（追再試験を行う）。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 中山登稔 研究室 : 本館2階 中山教授室 メールアドレス : t_nakayama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00~18:00
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
鳴瀬 善久			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>生化学では人体を構成する物質とその物質の合成や分解（代謝）の基本的知識を、医学の基礎を支える自然科学のひとつとして体系的に学びます。生化学を理解することは、自分のカラダや患者さんのカラダの状態を理解することにつながり、また、患者さんに栄養指導をするためにもとても重要な科目です。従って、本講義では、栄養学のためのタンパク質代謝、糖質代謝、脂質代謝、核酸代謝などを理解してもらうことを目的とする。生化学の学習を通して、ダイエット、高脂血症と動脈硬化、メタボリックシンドローム、アレルギーや免疫の仕組み、糖尿病、骨粗鬆症、痛風などについて考察できる力を身に付ける。看護・鍼灸・保健医療サービスの担い手に求められる生化学的基礎知識を習得する。</p>
授業計画	<p>1回目 序論：生化学学習目標の理解。生体を構成する生体分子の構造と機能を学ぶ。 [到達目標] 生化学の基礎を理解。アミノ酸とタンパク質、酵素、基質について説明できる。 [備考] 毎回、講義プリントを配布するので、講義の重要事項を復習すること。人体を構成、ならびに調整する成体分子を理解し、生命活動維持のために重要な必須成分と酵素の働きを理解する。</p> <p>2回目 糖質と糖質代謝（1） [到達目標] 糖質の化学構造と性質について説明できる。 [備考] 糖質のその主な働きであるエネルギー産生とその性質を理解する。</p> <p>3回目 糖質と糖質代謝（2） [到達目標] 糖質の生体内での消化、吸収、動態について説明できる。 [備考] 糖質の代謝を体系的に理解する。解糖系、TCA回路、電子伝達系、ペントースリン酸回路。</p> <p>4回目 脂質と脂質代謝 [到達目標] 脂質の化学構造、性質と代謝について説明できる。 [備考] 脂質の生体内での消化、吸収、動態を理解。脂質の代謝を理解。β酸化、エネルギー効率について。</p> <p>5回目 タンパク質・アミノ酸 [到達目標] タンパク質の消化、吸収、代謝について説明できる。 [備考] タンパク質とアミノ酸の化学構造と性質。タンパク質の代謝を理解。アンモニアと尿素について。</p> <p>6回目 核酸（ヌクレオチド）の代謝 [到達目標] 核酸合成と分解について説明できる。 [備考] 核酸（ヌクレオチド）の合成と分解を通してその役割と遺伝子について理解。核酸のプリン、尿酸と痛風について。</p> <p>7回目 ビタミン、ホルモンの役割 [到達目標] ビタミンの生理機能をヒトの栄養の面より理解できる。ホルモンを生体内恒常性の維持として理解できる。 [備考] ビタミンの生体内での役割。カルシウム代謝と調節など。補酵素としての機能。ホルモンの役割。脂溶性ビタミン、ステロイドホルモンなど。</p> <p>8回目 総括と試験 [備考] 全講義の総括を行い、試験を行う。講義内容の理解度として作成した演習と試験で、総合評価を100点満点として、60点以上を合格とする。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>平易な視覚的生化学の参考書を基にプリントを作成し、それらを用いて講義を進める。そのため講義後は必ずプリント内容の理解に努める必要がある。体系的授業のため、遅刻・欠席は厳禁で、受講者は全ての講義に出席すること！</p>
教科書	<p>特になし（講義時間ごとにプリントを配布）</p>
参考書	<p>『系統看護学講座 人体の構造と機能2 生化学12版』三輪一智他（医学書院） 『マンガでわかる生化学』武村 政春他（オーム社） 『イラストレイテッド生化学』石崎 泰樹他（翻訳）原書5版（丸善出版）</p>
成績評価	<p>講義内容に関連した知識を筆記試験にて把握し、その理解度を評価する。 評価割合：（試験点数 60%以上を合格とする）</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○ 鳴瀬 善久 研究室 : 8号館4階 教授室 メールアドレス : ynaruse@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水、木曜日放課後</p>

	担当教員名 : 廣瀬 英司 研究室 : 8号館4階 教授室 メールアドレス : ehirose@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 木、金曜日放課後
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
東 あかね			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	健康の維持・増進や疾病の回復・悪化防止に必要な栄養管理のための栄養学を理解することを目的とし、その基礎を学習する。各種栄養素の種類および生体内でのはたらき、エネルギー代謝、食事摂取基準、栄養状態の評価などに加えて、臨床栄養の基本と正しい食事療法の進め方など、最新の情報を取り入れながら、解説する。
授業計画	<p>1 「人間栄養学と看護」栄養学の考え方を理解する。 栄養学と看護の関連について理解する。</p> <p>2 「食事摂取基準」と「食事バランスガイド」, 「栄養状態の評価判定」について理解する。 栄養状態の評価判定の方法を習得する。</p> <p>3 「栄養素の種類と働き」-糖質, 脂質, タンパク質- 栄養素の種類とはたらきを知る。「エネルギー代謝」生活活動エネルギーの獲得と利用について、メカニズムを把握する。 栄養素の種類と働きが書ける。 エネルギー代謝のメカニズムについて書ける。</p> <p>4 「栄養素の種類と働き」-ビタミン, ミネラル- 各栄養素の種類と働きが書ける。</p> <p>5 栄養素の消化と吸収, 体内代謝 各栄養素の消化と吸収, 体内代謝について理解する。</p> <p>6 「ライフステージと栄養」学童～高齢期 ライフステージ別の栄養の特徴を理解する。</p> <p>7 「ライフステージと栄養」妊娠, 授乳期～幼児期 ライフステージ別の栄養の特徴を理解する。</p> <p>8 まとめ</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	授業内容について興味や疑問をもったときは、教科書や他の文献やインターネットなどでさらに自分で調べてみてほしい。そのための質問や相談は大いに歓迎する。
教科書	「系統看護学講座 栄養学」中村 丁次 他著 (医学書院)
参考書	指定しない
成績評価	定期試験, 小テスト, 出席状況によって総合評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 東 あかね (第1・2・7回担当) 研究室 : 京都府立大学大学院 生命環境科学研究科 健康科学研究室 メールアドレス : higashi@kpu.ac.jp オフィスアワー :</p> <p>担当教員名 : 岩佐真代 (第3回～6・8回担当) 研究室 : 京都府立大学大学院 生命環境科学研究科 健康科学研究室 メールアドレス : オフィスアワー : 講義終了後</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
千葉 章太			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	感染症について、疾病の要因としての病原微生物の特徴、感染症の発症のメカニズムについて学び、その上で、我々の体に備った感染防御のメカニズムについて理解する。さらに、いかに感染制御するか：滅菌法と消毒法、診断と治療について学ぶ。実践的に感染制御に携われる看護師を目指す。		
授業計画	第1回	微生物と感染症 感染症とは、病原微生物の分類と特徴を理解する。	
	第2回	発症のメカニズム 病原体の排泄経路・感染経路と発症のメカニズムについて理解する。 発症に関わる病原体側因子および宿主因子について理解する。	
	第3回	細菌の生理と遺伝、細菌の代謝 細菌の構造と生理について理解する。 細菌の遺伝子制御および代謝機能について理解する。	
	第4回	細胞内寄生体・真菌・原虫・寄生虫 リケッチア・クラミジア・ウイルス・真菌・原虫・寄生虫についてそれらの特徴、構造、増殖様式およびそれらの関わる感染症について理解する。	
	第5回	滅菌と消毒、感染予防 感染予防の方法：感染源対策、感染経路対策、感受性体対策について理解する。滅菌法・消毒法の種類と特徴および問題点を理解する。検体の取り扱いについて理解する。	
	第6回	化学療法 化学療法剤の分類・特徴・作用機序およびその副作用について理解する。	
	第7回	中間試験/感染防御反応1 中間試験 自然免疫と獲得免疫について理解する。	
	第8回	感染防御反応2、アレルギー、自己免疫疾患 自然免疫と獲得免疫について理解する。 I～IV型アレルギーについて理解する。 自己免疫疾患について理解する。	
	第9回	全身感染症 全身感染症を起こす病原微生物の特徴、および全身感染症の予防および感染と発症のメカニズムについて理解する。	
	第10回	呼吸器感染症 呼吸器感染症を起こす病原微生物の特徴、および呼吸器感染症の予防および感染と発症のメカニズムについて理解する。	
	第11回	消化器感染症 消化器感染症を起こす病原微生物の特徴、および消化器感染症の予防および感染と発症のメカニズムについて理解する。	
	第12回	尿路・性器感染症、皮膚感染症、神経系および眼感染症 尿路・性器感染症、皮膚感染症、神経系感染症および眼感染症の予防および感染と発症のメカニズムについて理解する。	
	第13回	ウイルス性肝炎 ウイルス性肝炎の予防および感染と発症のメカニズムについて理解する。	
	第14回	レトロウイルス・プリオン レトロウイルス感染症の予防・感染と発症のメカニズムについて理解する。 プリオン病の病原体の特徴、予防・感染と発症のメカニズムについて理解する。	
	第15回	期末試験	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	1. 講義の前に該当する教科書の部分に目を通しておくこと。 2. 講義の後に該当する教科書の部分を読み返しておくこと。 3. その日に指示されたキーワードをまとめておくこと。 4. 復習プリントを配布するので各自で回答しておくこと(答えが分からない時には質問に来ること)。		
教科書	「病原体・感染・免疫」改訂2版 藤本秀士 編 (南山堂)		
参考書	「戸田細菌学」吉田眞一、柳雄介 編 (南山堂) 「シンプル微生物学」東匡伸、小熊恵二、堀田博 編 (南江堂) 「シンプル免疫学」中島泉、高橋利忠、吉開泰信 共著 (南江堂)		
成績評価	出席が6割に満たないものは期末試験の受験を認めない。 出席10%、中間試験および期末試験を90%として成績を評価する。		
担当教員の基本情報	担当教員名 : 千葉 章太 (ちば しょうた) 研究室 : 研究棟 5号館 2F メールアドレス : s_chiba@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日、木曜日 12:40-13:30		

備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
高橋 俊一、福田 愛作			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	女性生殖器の構造と機能、生殖および生殖器の健康について理解する。		
授業計画	1回目	女性生殖器の構造と機能 [到達目標] 女性生殖器の構造と機能を理解する	
	2回目	性分化 [到達目標] 性分化のシステムを理解する	
	3回目	性周期 [到達目標] 性周期と調節する性ホルモンの動態を理解する	
	4回目	性感染症 [到達目標] 女性生殖器の感染症とその予防・治療を理解する	
	5回目	婦人科疾患1 [到達目標] 良性の婦人科疾患（子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍等）について理解する	
	6回目	婦人科疾患2 [到達目標] 女性生殖器の悪性腫瘍の早期発見・治療について理解する	
	7回目	女性の妊孕性 [到達目標] 女性の妊孕性および不妊症について理解する	
	8回目	まとめ	
授業時間外の学習（準備学習等）について	準備学習として、次講義に該当する教科書の項目を予め熟読すること。また復習として、講義内容に関して配布プリントおよび教科書を熟読すること。		
教科書	「女性生殖器」末岡 浩ほか著（医学書院）		
参考書	特になし		
成績評価	筆記試験100点		
担当教員の基本情報	担当教員名	：高橋 俊一（非常勤）	
	オフィスアワー	：授業後	
	担当教員名	：福田 愛作（非常勤）	
	オフィスアワー	：授業後	
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
廣瀬 眞理			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>[授業概要]</p> <p>病態病理学は病理学総論に相当する。病理学は解剖学・生理学・生化学をはじめとする人体の正常状態を扱う基礎医学と具体的な疾患の診断・治療に携わる臨床医学を橋渡しする位置にある学問であり、疾病によっておこる様々な変化を通じ、病気の発症機序（疾病の原因、経過）と転機について探究する学問である。肉眼的・顕微鏡的形態変化の基盤に、疾病を理解し、その発症メカニズムを学習する。具体的には、1) 病因論 2) 先天異常 3) 代謝障害 4) 循環障害 5) 炎症と免疫・アレルギー・自己免疫疾患・膠原病 6) 感染症 7) 腫瘍 8) 老化と死について学習する。また、疾病をより理解するためにマクロ臓器を供覧する。講義終了時、毎回「項目別確認問題」を配布、次回講義時に学生が解答する。重要項目の理解や学習ポイントの整理に役立てる。</p>
授業計画	<p>第1回 病理学の定義、病因の意義・分類、疾患の分類 [到達目標] 病理学の定義、病因の意義・分類、疾患の定義と分類について解説できる。 [備考] 到達目標を確認し、テキストを読み返す。テキストにある表やシェーマ等を理解する。確認問題をテキストを参考に解答する。次回講義項目に目を通して予習しておく</p> <p>第2回 先天異常と遺伝子異常 [到達目標] 先天異常・奇形の原因と分類、遺伝性疾患（単因子遺伝疾患・多因子遺伝）や染色体異常による疾患（常染色体異常・性染色体異常）についてについて解説できる。 [備考] 到達目標を確認し、テキストを読み返す。テキストにある表やシェーマ等を理解する。確認問題をテキストを参考に解答する。次回講義項目に目を通して予習しておく</p> <p>第3回 代謝障害（1）細胞の損傷と適応 [到達目標] 萎縮・肥大・過形成・化生・再生・壊死・アポトーシス・変性・物質沈着について解説できる。 [備考] 到達目標を確認し、テキストを読み返す。テキストにある表やシェーマ等を理解する。確認問題をテキストを参考に解答する。次回講義項目に目を通して予習しておく</p> <p>第4回 代謝障害（2）各種代謝疾患 [到達目標] 脂質代謝・たんぱく質代謝・核酸代謝・糖代謝・ビリルビン代謝・カルシウム代謝・鉄代謝・銅代謝・色素代謝・先天性代謝異常について解説できる。 [備考] 到達目標を確認し、テキストを読み返す。テキストにある表やシェーマ等を理解する。確認問題をテキストを参考に解答する。次回講義項目に目を通して予習しておく</p> <p>第5回 循環障害（1）局所の循環障害 [到達目標] 充血・うっ血・虚血・側副循環・血栓症・塞栓症・出血・梗塞について解説できる [備考] 到達目標を確認し、テキストを読み返す。テキストにある表やシェーマ等を理解する。確認問題をテキストを参考に解答する。次回講義項目に目を通して予習しておく</p> <p>第6回 循環障害（2）全身の循環障害 [到達目標] ショック・DICについて、またリンパの循環障害について解説できる。ショックの分類、浮腫の分類について理解する。 [備考] 到達目標を確認し、テキストを読み返す。テキストにある表やシェーマ等を理解する。確認問題をテキストを参考に解答する。次回講義項目に目を通して予習しておく</p> <p>第7回 炎症 [到達目標] 炎症の定義・原因・経過・分類・関与する細胞・化学伝達物質等を解説できる。また炎症の各型と治療についても解説できる。 [備考] 到達目標を確認し、テキストを読み返す。テキストにある表やシェーマ等を理解する。確認問題をテキストを参考に解答する。次回講義項目に目を通して予習しておく</p> <p>第8回 免疫・免疫不全・移植と免疫 [到達目標] 免疫の定義、免疫組織・細胞、抗体・補体・サイトカイン、液性免疫・細胞性免疫について解説できる。</p>

	<p>[備考] 到達目標を確認し、テキストを読み返す。テキストにある表やシェーマ等を理解する。 確認問題をテキストを参考に解答する。 次回講義項目に目を通して予習しておく アレルギー・自己免疫疾患・膠原病</p> <p>第9回</p> <p>[到達目標] アレルギー（I型～V型）・自己免疫疾患・膠原病についてそれらの機序・疾患等について解説できる。</p> <p>[備考] 到達目標を確認し、テキストを読み返す。テキストにある表やシェーマ等を理解する。 確認問題をテキストを参考に解答する。 次回講義項目に目を通して予習しておく</p> <p>第10回</p> <p>感染症</p> <p>[到達目標] 主な病原微生物と感染症について内容を理解する。また感染経路や、菌交代現象・日和見感染症・院内感染症について解説できる。</p> <p>[備考] 到達目標を確認し、テキストを読み返す。テキストにある表やシェーマ等を理解する。 確認問題をテキストを参考に解答する。 次回講義項目に目を通して予習しておく</p> <p>第11回</p> <p>腫瘍（1）定義・分類・特徴・発生原因・がん遺伝子</p> <p>[到達目標] 腫瘍の定義・腫瘍の分類（良性と悪性・上皮性と非上皮性）や、悪性腫瘍と良性腫瘍の違い（異型・構造・分化度・悪性度・発育形式・発育速度など）について解説できる。発癌理論や腫瘍の発生原因（内因・外因）についても理解する。</p> <p>[備考] 到達目標を確認し、テキストを読み返す。テキストにある表やシェーマ等を理解する。 確認問題をテキストを参考に解答する。 次回講義項目に目を通して予習しておく</p> <p>第12回</p> <p>腫瘍（2）転移・再発・生体への影響・診断方法・治療・予後・統計</p> <p>[到達目標] 腫瘍の転移・再発、生体に及ぼす影響を解説できる。腫瘍の診断と治療についても概略を解説できる。</p> <p>[備考] 到達目標を確認し、テキストを読み返す。テキストにある表やシェーマ等を理解する。 確認問題をテキストを参考に解答する。 次回講義項目に目を通して予習しておく</p> <p>第13回</p> <p>老化と死、臓器移植法・脳死判定基準</p> <p>[到達目標] 加齢現象と疾病について概説できる。 死の定義（脳死、植物状態を含む・判定、死後変化について解説できる。脳死判定基準を解説できる。</p> <p>[備考] 到達目標を確認し、テキストを読み返す。テキストにある表やシェーマ等を理解する。</p> <p>第14回</p> <p>マクロ臓器の供覧等、及び総括</p> <p>[到達目標] 様々な疾患に罹患した臓器を観て、触れて病気をより深く理解する。 病態病理学で学んだ内容を総合的に理解する。</p> <p>第15回</p> <p>試験</p> <p>[到達目標] 疾病の病因と病態の理解度をみる。 看護師として知っておくべき疾患の概念と発症機序を理解できているか。 国家試験に合格できるレベル以上の知識を身につけることができたか。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業日程に沿って、当該項目の内容を予習しておく。また、授業中にチェックした重要部分を授業後に、復習し内容を整理しておく。毎回、授業内容を確認するために、宿題として確認問題を授業終了時に配布する。宿題は次回授業開始時に、学生が解答を答え、その後回収する。（15分間）宿題は次々回、返却する。自習時にわからないところがあるときは曖昧にせず、担当教員を訪ね、解決をすること。オフィスアワーの時間やその他の時間で担当教員が対応する
教科書	「病態病理学」 自作 「新クイックマスター病理学」堤 寛 著 医学芸術社
参考書	「病気の地図帳」山口 和克 著 講談社 「目でみるからだのメカニズム」堺 章 著 医学書院
成績評価	筆記試験80%、確認問題（宿題）10%、授業態度10%により総合的に評価し、60%以上を合格とする。また出席率60%未満の者には受験資格を与えない。追再試験と事前の補講は実施する。
担当教員の基本情報	担当教員名：廣瀬眞理 研究室：附属病院2階病理部 m_hirose@meiji-u.ac.jp
備考	オフィスアワー：金9:00～15:00

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
安原 正博			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	医療に従事する者は、医療関係法規に関する基本的理解が不可欠である。患者の権利（日本国憲法）、生命倫理（刑法）、医療事故（民法）などの基本法の理解のうえ、厚生行政、医療法、薬事関連法規、医師法、保健師助産師看護師法などの医療関係法規を実務医療現場からみた重点学習項目を講義する。毎回事例を紹介し医療関係法規の法体系を理解する。
授業計画	<p>1 法・法規の概念 日本国憲法、法律の成立施行、衛生法規の沿革意義の理解 日常の事件事例に関する法規法令に興味を持つ。 基本的人権、個人情報 人口動態統計 憲法解釈 13条と25条</p> <p>2 保健師助産師看護師法 業務、免許、禁止されている業務、将来の業務責任と問題点 ナース人材育成、ナースの実数 インフォームドコンセント 介護職との協働</p> <p>3 医師法 医療法 業務、医行為、免許 医療提供施設の相違、診療記録の保管と法規 説明義務</p> <p>4 各種医療従事者に関する諸法規 看護師との連携理解と協働 薬剤師法、診療放射線技師法、臨床検査技師法、理学療法士法等の身分法の理解</p> <p>5 臓器移植に関する法律 医療倫理、患者の自己決定 臓器移植の理解、終末医療、安楽死 医療過誤事例紹介 出生前診断 生殖補助医療</p> <p>6 薬事関連法規 予防衛生法規 感染症予防対策と基本概念、薬物副作用の救済 感染症の種類と疫学 薬毒物の薬理学的作用と機序</p> <p>7 環境衛生福祉法規 公害関係法規 保健医療福祉制度の位置づけ、精神保健福祉施策、 介護保険 健康保険 ノーマライゼーションの意義、 人口構成と社会病理の背景（マスコミ等の事例） 養護教諭の役割、労働衛生 児童虐待防止、生活保護の意味</p> <p>8 まとめ</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	新聞、マスコミ等に報道される日々の生活事例や医療関係記事に興味を持ち、自分の意見や考えを発言し、周囲の学生との意見交換の機会を持つよう心がける。
教科書	系統 看護学講座 看護関係法令 健康支援と社会保障 （4） 医学書院
参考書	厚生指針 増刊国民衛生の動向 2012（厚生協会） 新版 世界憲法集 高橋和之編（岩波文庫） 法と生命倫理2.0講 石原 明緒（日本評論社）
成績評価	講義態度やレポートアンケート提出物を加味し、試験採点との総合評価
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 吉本 寛司 研究室 : 京都府立医科大学大学院 法医学 メールアドレス : kyoshimo@koto.kpu-m.ac.jp オフィスアワー : 8:30 ? 19:00</p> <p>担当教員名 : 安原 正博 研究室 : 京丹後市立弥栄病院 院長 メールアドレス : オフィスアワー : 授業後</p>
備考	

--	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
仲口 路子			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護の基本となる概念が理解できる。 2) 看護の機能と役割が理解できる。 3) 看護実践の基盤となる倫理、法律、医療安全について基本的事項が理解できる。 4) 看護専門職者の教育とキャリア形成について学び、看護を学ぶ自分と向き合う動機づけができる。
授業計画	<p>1回目 看護（学）への導入、看護の本質（概念） [到達目標] 看護とは何か考えることができる。</p> <p>2回目 看護の変遷（日本の看護・アメリカの看護） [到達目標] 看護の歴史的発展過程と社会背景との関連がわかる。</p> <p>3回目 看護学の4つの概念：人間・健康・環境・看護 [到達目標] 看護の対象である人間を一般的、個別的認識できる</p> <p>4回目 人間と健康、人間と環境 [到達目標] 健康の概念について理解し、健康に生活するために必要な要素を認識できる。人間と環境が相互に影響を及ぼし合う関係について理解できる。</p> <p>5回目 看護の機能と役割 [到達目標] 看護の本質的な機能と役割が理解できる。 保健医療福祉チームにおける看護の役割が認識できる。広がる看護の活動領域について認識できる。</p> <p>6回目 看護と法律 [到達目標] 保健師助産師看護師法について理解し、看護の果たす役割と責任を考えることができる。 看護の責任と医療安全について考えることができる</p> <p>7回目 看護における倫理 [到達目標] 看護倫理に関する基本的知識と倫理的意思決定を行うための枠組みが理解できる。</p> <p>8回目 看護専門職としての教育、看護学概論まとめ [到達目標] 看護教育制度について理解できる。 看護専門職の教育、キャリア形成について学び、自分と向き合うことができる。看護学概論まとめができる</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	事前・事後学習課題を課す。教科書を熟読し、配布プリントと併せて理解に努めること。
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 「看護学原論 改訂第2版」南江堂 2) 「対訳看護覚え書」うぶすな書院 3) 「看護の基本となるもの」日本看護協会出版会
参考書	適時紹介する
成績評価	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業への出席が全体の3/5以上であること 2) 出席状況、授業への参加度、レポートの提出と内容、筆記試験の結果をふまえ、総合的に評価する
担当教員の基本情報	担当教員名 : 仲口 路子 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : nakaguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義内で相談後対応
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
仲口 路子			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護理論とは何かが理解できる。 2) 看護の概念と理論との関連性を述べることができる。 3) 主な看護理論家とその理論の概要がわかる。 4) 看護理論の看護実践への活用がわかる。 5) 「私の考える看護理論」として、レポートにまとめることができる。
授業計画	<p>1回目 看護理論の基本的理解 [到達目標] 看護理論とは何かがわかる。 看護の概念と看護理論の関連がわかる。</p> <p>2回目 ナイチンゲール [到達目標] 看護覚え書」を読んで、「基礎看護学実習Ⅰ」に結びつける動機づけができる。</p> <p>3回目 ヘンダーソン [到達目標] 看護の基本となるもの」を読んで「基礎看護学実習Ⅰ」に結びつける動機づけができる。</p> <p>4回目 ペプロー、ウイーデンバック、オーランド [到達目標] 三者の人間関係理論、プロセスレコードについてわかり、実践への活用の動機づけができる。</p> <p>5回目 トラベルビー、オレム [到達目標] トラベルビー「人間対人間の看護」の視点と実践への活用がわかる。 オレムのセルフケア理論の視点と実践への活用がわかる。</p> <p>6回目 ロイ、ワトソン [到達目標] ロイの「適応看護モデル」の視点と実践への活用がわかる。 ワトソンのヒューマンケアリングの視点と実践への活用がわかる。</p> <p>7回目 ベナー、ロジャーズ ベナーの看護理論の概要と臨床技能の習得段階がわかる。 ロジャーズ看護理論の概要がわかる。</p> <p>8回目 私の考える看護理論 まとめとレポート</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	事前・事後学習課題を課す。教科書を熟読し、配布プリントと併せて理解に努めること。
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 「看護理論 改訂第2版」筒井真優美編 南江堂 2) 「対訳看護覚え書」ナイチンゲール著 うぶすな書院 3) 「看護の基本となるもの」ヘンダーソン著 日本看護協会出版会 <p>※ 2), 3) は1年前期「看護学概論」の教科書として購入済</p>
参考書	「看護理論家とその業績」第3版、都留伸子監訳 (医学書院)
成績評価	筆記試験60%、レポート30%、事前事後学習・その他(授業参加態度・出席状況)10%で総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 仲口 路子 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : nakaguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義内で相談後対応
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
仲口 路子			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：講義・演習	

授業目標	<p>1) 看護技術の概念について理解を深めることができる。</p> <p>2) 看護の実践に必要な「環境」、「生活」、「健康」を理解し、看護の対象となる人々の生活環境を整えるための基本的技術を身につけることができる。</p> <p>3) 看護の対象となる人々と看護実践者の双方の「安全・安楽」の原則を理解し、効率的な姿勢や動作に基づいた技術が習得できる。</p> <p>5) 看護の対象となる人々の日常生活における「動く」「休む」ことのニーズを把握し、生活を支える看護介入の基礎を習得することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 看護技術の概念/生活とは、環境とは（講義） [学習目標] ・看護技術の概念が理解できる。 ・人にとっての「環境」「生活」「健康」について考えることができる。</p> <p>第2回 スタンダードプリコーション（講義・演習） [学習目標] ・感染予防の意義やスタンダードプリコーションの概念が理解できる。 ・感染を予防するための基本的方法が実施できる。</p> <p>第3回 コミュニケーション技術（講義） [学習目標] ・看護におけるコミュニケーションの意義が理解できる。 ・基礎的知識に基づき、治療的コミュニケーションを図ることができる。</p> <p>第4回 生活環境・ベッドメイキング・ボディメカニクス（講義） [学習目標] ・対象者にとっての安全・安楽な病床環境について考えることができる。 ・ベッドメイキングの基本的方法が理解できる。 ・ボディメカニクスの原則が理解でき、それに基づいたベッドメイキングの方法がわかる。</p> <p>第5回 6回 ベッドメイキング・ボディメカニクス（演習） [学習目標] ・対象者と看護者にとって安全・安楽なベッドメイキングの方法が理解できる。 ・ボディメカニクスを活用しながらベッドメイキングが実施できる。</p> <p>第7回 技術試験 [到達目標] ・清潔で安全な寝心地の良いベッドを作成できる。 ・ボディメカニクスを活用したベッドメイキングができる。</p> <p>第8回 9回 体位変換（講義・演習） [学習目標] ・健康生活を援助するための、安全・安楽な体位変換の方法が理解できる。 ・ボディメカニクスを活用しながら、体位変換ができる。 ・対象者と看護者の安全・安楽を考えながら体位変換ができる。</p> <p>第10回 11回 リネン交換（講義・演習） [学習目標] ・生活環境のニーズを充足する方法としてのリネン交換の意義が理解できる。 ・臥床中の患者にとって安全・安楽なリネン交換の方法がわかる。 ・ボディメカニクスを活用しながら、リネン交換が実施できる。</p> <p>第12回 13回 安楽な体位・睡眠（講義・演習） [学習目標] ・安楽な体位・休息の意義について理解し、活動・運動に障がいがある人への援助方法がわかる。 ・看護にとっての安楽について考えることができる。</p> <p>第14回 15回 移乗・移動・移送（講義・演習） [学習目標] ・安全・安楽な車イス移乗・移動の方法が理解できる。 ・安全なストレッチャー移乗・移動・移送の方法が理解できる。 ・安全・安楽な移乗・移動・移送が実施できる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>・基礎看護援助論は履修する項目が多いので、講義までに教科書を読んで、ある程度理解して臨むこと。</p> <p>・各技術は、既習の技術が積み上げられて成立していくため、自己学習を行い次の項目に入るまでに既習の技術をマスターすること。</p> <p>・技術の自己学習（練習）のために、実習室は9:30～19:00まで使用可能。希望者は申請の上、自主的に練習すること。</p> <p>・事前学習、事後学習課題は講義内で指示する。レポート等は、必ず期限を守って提出すること。提出物はすべて成績評価の対象とする。</p>
教科書	<p>1) 「新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ」 深井喜代子編集，メジカルフレンド社</p> <p>2) 「新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ」 深井喜代子編集，メジカルフレンド社</p> <p>3) 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」 医学書院</p>

参考書	1) 「看護技術プラクティス」竹尾恵子, 学研
成績評価	講義演習の3/5以上の出席が定期試験受験の要件であり、また技術試験、筆記試験共に60%以上の到達であることが成績評価の対象となる。 出席・参加状況10%、レポートの提出と内容10%、筆記試験50%、技術試験30%を基準とし、看護師としてふさわしい態度等を総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 仲口 路子 研究室 : 10号館7F712 メールアドレス : nakaguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日14:00-15:00
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
仲口 路子			
配当学部：看護学部	時間数：60時間	授業形態：講義・演習	

授業目標	1) 患者・看護師役割をとりながら、各看護ケアの根拠を理解し、対象のニーズに応じた具体的な介入方法を身につける。 2) 講義・演習をつうじて看護職者として必要な知識・技術・態度を考察し、身につける。
授業計画	<p>1 オリエンテーション 看護技術の根拠をなすもの 環境調整技術 安全確保の技術 基礎看護援助論Ⅱを学習するにあたって（学習方法と演習方法の説明） 環境を整える技術/寝床内環境（講義） 環境の要素を理解し、具体的な調整のしかた/方法を理解する 安全について考え、方法と技術を身につける</p> <p>2 食事援助技術 自力で食事摂取ができない患者に対して、セルフケア能力・生活習慣を考慮した安全・安楽な食事介助ができる 安全な経管栄養法のチューブ管理と栄養剤の注入方法を理解し、モデル人形を用いた経管栄養剤の準備と注入ができる</p> <p>3 食事援助技術 自力で食事摂取ができない患者に対して、セルフケア能力・生活習慣を考慮した安全・安楽な食事介助ができる 安全な経管栄養法のチューブ管理と栄養剤の注入方法を理解し、モデル人形を用いた経管栄養剤の準備と注入ができる</p> <p>4 排泄援助技術 排泄の援助技術 床上安静患者の安全・安楽な排尿、排便の援助と排泄後の清潔を保つ方法を理解する 排便を促すケア：腹部マッサージ・浣腸・摘便の方法について理解する</p> <p>5 排泄援助技術 排泄の援助技術 床上安静患者の安全・安楽な排尿、排便の援助と排泄後の清潔を保つ方法を理解する 排便を促すケア：腹部マッサージ・浣腸・摘便の方法について理解する</p> <p>6 清潔・衣生活援助技術 総論 清潔とは 清潔の意義 整容の意義と方法 入浴/手浴/足浴/陰部洗浄/口腔ケアの意義と方法 生活における清潔の意義と重要性を理解する</p> <p>7 清潔・衣生活援助技術 全身清拭 全身清拭の意義と方法 床上安静患者の身体を清潔にする方法について理解する 対象の健康状態を考慮した全身清拭が行える 寝衣交換の方法を理解し、安全安楽に実施することができる</p> <p>8 清潔・衣生活援助技術 全身清拭 全身清拭の意義と方法（講義/デモンストレーション・演習） 床上安静患者の身体を清潔にする方法について理解する 対象の健康状態を考慮した全身清拭が行える 寝衣交換の方法を理解し、安全安楽に実施することができる</p> <p>9 清潔・衣生活援助技術 全身清拭 全身清拭の意義と方法 床上安静患者の身体を清潔にする方法について理解する 対象の健康状態を考慮した全身清拭が行える 寝衣交換の方法を理解し、安全安楽に実施することができる</p> <p>10 清潔・衣生活援助技術 洗髪 洗髪の意義と方法 床上安静患者の洗髪：ケリーパット、洗髪車、ドライシャンプー、洗髪台を用いた方法を理解し、患者の状態に合わせた援助方法を理解する 対象に合わせた方法を選択し、安全・安楽な洗髪ができる</p> <p>11 清潔・衣生活援助技術 洗髪 洗髪の意義と方法 床上安静患者の洗髪：ケリーパット、洗髪車、ドライシャンプー、洗髪台を用いた方法を理解し、患者の状態に合わせた援助方法を理解する 対象に合わせた方法を選択し、安全・安楽な洗髪ができる</p> <p>12 清潔・衣生活援助技術 洗髪 洗髪の意義と方法（講義・デモンストレーション・演習） 床上安静患者の洗髪：ケリーパット、洗髪車、ドライシャンプー、洗髪台を用いた方法を理解し、患者の状態に合わせた援助方法を理解する 対象に合わせた方法を選択し、安全・安楽な洗髪ができる</p> <p>13 清潔・衣生活援助技術 手浴/足浴/フットケア 足浴の意義と方法</p>

14	<p>床上安静患者の身体を清潔にする方法について理解する 対象の健康状態を考慮した足浴が行える 清潔・衣生活援助技術 手浴/足浴/フットケア 足浴の意義と方法</p>
15	<p>床上安静患者の身体を清潔にする方法について理解する 対象の健康状態を考慮した足浴が行える 清潔・衣生活援助技術 手浴/足浴/フットケア 足浴の意義と方法</p>
16	<p>床上安静患者の身体を清潔にする方法について理解する 対象の健康状態を考慮した足浴が行える 清潔・衣生活援助技術 陰部洗浄/洗面/眼・耳・鼻の清潔 整容</p>
17	<p>各部位を清潔にする意義と安全なケアの方法を理解する セルフケア能力/生活習慣を考慮しつつ、安全安楽に各部位への清潔のケアが実施できる 清潔・衣生活援助技術 口腔ケア 口腔ケアの意義と安全な口腔ケアの方法を理解する セルフケア能力/生活習慣を考慮しつつ、安全安楽に口腔ケアが実施できる</p>
18	<p>活動・休息援助技術 1 体位、体位変換、移動、移乗・移送と、睡眠と休息への援助を理解する。</p>
19	<p>活動・休息援助技術 2 体位、体位変換、移動、移乗・移送と、睡眠と休息への援助が実施できる。</p>
20	<p>苦痛の緩和・安楽確保の技術 1 体位保持（ポジショニング）の理解と援助の実際</p>
21	<p>苦痛の緩和・安楽確保の技術 2 菴法についての理解と援助の実際</p>
22	<p>呼吸・循環を整える技術 酸素吸入療法、吸引（一時的・持続的）、排痰ケア（体位ドレナージ・スクイーミング・咳嗽介助法・ハフティング）、吸入、人工呼吸療法、体温管理の技術、末梢循環促進ケアについて理解する。</p>
23	<p>救命・救急処置技術 救命救急処置の基礎的知識と心肺蘇生法、止血法、院内急変時の対応について理解する。</p>
24	<p>症状・生体機能管理技術 検体検査、生体情報のモニタリングについて理解する。</p>
25	<p>診察・検査・処置の介助技術 生体検査、穿刺の介助、洗浄の介助について理解する。</p>
26	<p>技術試験 課題はおって提示する。技術試験までに各項目につき最低3回移乗練習していることを受験の必須要件とする。</p>
27	<p>技術試験 課題はおって提示する。技術試験までに各項目につき最低3回移乗練習していることを受験の必須要件とする。</p>
28	<p>技術試験 課題はおって提示する。技術試験までに各項目につき最低3回移乗練習していることを受験の必須要件とする。</p>
29	<p>死の看取りの援助 死亡の場所とケア、死にゆく人と周囲の人々へのケア、わが国の風習に根づく死後の処置のあり方、死後の処置について理解する。</p>
30	<p>筆記試験/まとめ</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)に ついて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎看護援助論Ⅱは履修する項目が多いので、講義までに必ず教科書、参考書の該当箇所を読んで講義/演習にのぞむこと。 ・ 各技術は積み上げの学習であるので、次の項目に入るまでに空きコマや放課後の時間を計画的に利用し自己学習を行い、技術を順次マスターすること。 ・ 技術項目の自己学習（練習）のために、実習室は9:30～19:00まで使用できる。希望者は申請の上、自主的に練習すること。ただし、指導に応じず実習室の利用状況が悪い場合は利用を制限する場合がある。 ・ 事前学習、事後学習課題は講義内で指示する。レポート等は必ず期限を守って提出すること。提出物はすべて成績評価の対象とする。
教科書	<p>1) 「新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ」深井喜代子編集、メジカルフレンド社 2) 「新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ」深井喜代子編集、メジカルフレンド社 3) 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院</p> <p>※ 全て前期に購入済み</p>
参考書	<p>「看護技術プラクティス」学研</p>
成績評価	<p>講義演習の3/5以上の出席が定期試験受験の要件でありまた、技術試験、筆記試験共に60%以上の到達であることが成績評価の対象となる。その他提出されたレポートや看護師としてふさわしい態度等を総合的に評価する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員 : 仲口 路子 研究室 : 10号館7F 712研究室 メールアドレス : nakaguchi @meiji-u. ac. jp オフィスアワー : 月曜 1限 この時間以外はメールで相談すること</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
田中 眞里子			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義・演習	

授業目標	1) ヘルスアセスメントの概念が理解できる。 2) バイタルサインの重要性と測定の意義、方法について理解することができる。 3) 原理原則に基づきバイタルサイン測定が実施できる。
授業計画	<p>第1回 ヘルスアセスメントの概念・体温の基礎知識と測定方法（講義） 【学習目標】 ・ヘルスアセスメントの概念と治療的人間関係の意義が理解できる。 ・フィジカルアセスメントの概念が理解できる。 ・バイタルサインの概念と重要性が理解できる。 ・体温の基礎知識と測定方法、留意事項が理解できる。 ・体温の基礎知識と測定方法、留意事項が述べられる。</p> <p>第2回 呼吸の基礎知識と測定方法（講義） 【学習目標】 ・呼吸の基礎知識と測定方法、留意事項が理解できる。</p> <p>第3回 脈拍・血圧の基礎知識と測定方法／バイタルサインの測定方法（講義） 【学習目標】 ・脈拍・血圧の基礎知識と測定方法、留意事項が理解できる。 ・生命兆候を把握するためのバイタルサインの測定方法が理解できる。</p> <p>第4回 看護における観察・記録・報告（講義） 【学習目標】 ・看護における観察・記録・報告の意義と方法が理解できる。</p> <p>第5回 バイタルサインの測定方法（デモンストレーションの見学） 【学習目標】 ・原理原則に基づいたバイタルサイン測定の方法が理解できる。</p> <p>第6回 バイタルサインの測定方法（演習） 【学習目標】 ・原理原則に基づいたバイタルサイン測定の方法が習得できる。 ・バイタルサインの測定値からアセスメントし、記録することができる。</p> <p>第7回 バイタルサインの測定：技術試験 【学習目標】 ・安全・安楽かつ正確にバイタルサイン測定が実施できる。</p> <p>第8回 筆記試験 実施日は、講義開始時に伝える。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>・人体の機能と構造・生理学等の基礎知識がないと全身を系統的にアセスメントすることができないので、事前学習として必要な知識を予習し授業に臨むこと。特に体温・呼吸・循環に関する基礎知識が分らないと演習ができないため、十分に学習しておくこと。</p> <p>・技術の自己学習（練習）のために、実習室は9:30～19:00まで使用可能。希望者は申請の上、自主的に練習すること。</p> <p>・事前学習、事後学習課題は講義内で指示する。レポート等は、必ず期限を守って提出すること。提出物はすべて成績評価の対象とする。</p>
教科書	<p>1) 「新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ」深井喜代子編集，メジカルフレンド社</p> <p>2) 「新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ」深井喜代子編集，メジカルフレンド社</p> <p>3) 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院</p> <p>4) 「ぜんぶわかる人体解剖図」阪井建雄・橋本尚詞（著），成美堂出版，2015.</p> <p>5) 「ヘルスアセスメント 臨床実践能力を高める」三上れつ，小松万喜子，小林正弘（著），南江堂，2014.</p>
参考書	<p>1) 「はじめてのフィジカルアセスメント」：横山美樹（著），メジカルフレンド社，2012.</p> <p>2) 「フィジカルアセスメントガイドブック」：山内豊明 編著，医学書院，2011.</p> <p>3) 「看護技術プラクティス」学研</p>
成績評価	講義演習の3/5以上の出席が定期試験受験の要件であり、また技術試験、筆記試験共に60%以上の到達であることが成績評価の対象となる。その他提出されたレポート等を総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：田中 眞里子 研究室：10号館7F メールアドレス：m_tanaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日14:00～15:00</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
仲口 路子			
配当学部：看護学部	時間数：45時間	授業形態：実習	

授業目標	<p>様々な治療の場と看護活動を見学し、療養している看護の対象を理解する。</p> <p>看護援助の見学・体験を通して看護の機能と役割について学ぶ。</p> <p>1) 療養中の人々の療養環境を知る。 2) コミュニケーションを通して療養中の人々を知る。 3) 日常生活行動の援助の体験を通して看護援助の重要性がわかる。 4) 病院の機能と役割を知り医療チームにおける看護の機能と役割を考える。 5) 看護学生としてふさわしい行動をとることができる。 6) 実習経験をおして看護について考えることができる。</p>
授業計画	<p>1日目 病院オリエンテーション、病棟オリエンテーション 病院実習（1日目） 午前：病院オリエンテーション（病院の概要および看護部の役割と組織について） 病院施設内見学（外来・病棟・手術室・検査室等） 外来診察見学（各診療科・処置室等） 午後：病棟オリエンテーション カンファレンス</p> <p>2日目 病院実習2日目 病院実習：①患者の生活の場を知る （2日目）②患者による援助方法の違いを知る ③コミュニケーションを通して療養中の人々を知る ④カンファレンスを通して実習の学びを整理する</p> <p>3日目 病院実習3日目 病院実習：①日常生活行動の援助の体験を通して、新重要性がわかる （3日目）②看護師と共に安全・安楽に留意して看護援助を行う（環境整備、理念交換、車椅子移送など） ③患者の全体像をとらえる ④カンファレンスを通して実習の学びを整理する</p> <p>4日目 鍼灸センター・リハビリテーションセンター見学実習 鍼灸センター・総合リハビリテーションセンター見学実習 ①鍼灸センター・総合リハビリテーションセンターの特徴が述べられる。 ②医療チームにおける多職種役割を連携について考える。 ③カンファレンスを通して実習の学びを整理する 午前：鍼灸センター見学実習 午後：リハビリテーションセンター見学実習</p> <p>5日目 実習のまとめ・発表会 実習目標に沿って意見交換することで学習を深め、学びを共有する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>1) 「基礎看護援助論 I」「ヘルスアセスメント I」の演習で学んだ技術を実際に行うので、人権尊重と安全・安楽が保証されるように技術練習しておくこと。 特に、バイタルサインの測定と一般状態の観察は必ず行う技術である。</p> <p>2) 「看護基礎理論」で学んだナイチンゲールの「看護覚え書」とヘンダーソンの「看護の基本となるもの」を念頭において実習を行うので、意識して読んでおくこと。</p>
教科書	実習要項を事前に配布する。
参考書	「看護学概論」「看護基礎理論」「基礎看護援助論 I」「ヘルスアセスメント I」で学習したテキスト・資料、及び紹介した文献
成績評価	<p>1) 実習時間の5分の4以上の出席がなければ評価対象とはならない。</p> <p>2) 実習目標達成度を実習内容、実習姿勢、実習記録、レポート等により総合的に100%で評価する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 仲口 路子 研究室 : 10号館7F 712研究室 メールアドレス : nakaguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 田中 眞里子 研究室 : 10号館7F 701研究室 メールアドレス : m_tanaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 伊賀さくら 研究室 : 10号館6F 782共同研究室 メールアドレス : s_iga@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p>

	担当教員名 : 大橋 映里 研究室 : 10号館6F 781共同研究室 メールアドレス : e_ohashi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	[実習期間] 平成28年11月7日(月)～11日(金) 但し10月20日(木), 11月4日(金) オリエンテーション, 11月18日(金) まとめ
	[実習施設] 明治国際医療大学附属病院 亀岡市立病院 綾部市立病院 草津総合病院 明治国際医療大学附属鍼灸センター 明治国際医療大学附属病院総合リハビリテーションセンター
	[実習方法] 様々な治療の場と看護活動の見学, 及び可能な援助の体験を指導のもとに行う。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
寺谷 愉利子、藤田 智恵子			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	成人期は、青年期・壮年期・向老期という長いライフサイクルを経過します。また、人生の大半を占め、社会的にも重要な使命と役割を担う時期でもあります。成人期の人々の特徴と健康上の問題を理解し、急性期・回復期・慢性期・終末期の健康障害の特徴と経過と、これらの人々の健康維持・促進ならびに健康障害時に活用される看護理論に視点を置き、幅広く効果的な援助の方法について学習します。
授業計画	<p>1回 【授業概要】成人看護学とは、成人各期の特徴① 【到達目標】成人看護学の概念と構成、特性が理解できる。成人期の特徴と発達課題が理解できる。 【備考】教科書「Part1 成人看護学の概念」を読んでおく。</p> <p>2回 【授業概要】成人看護学とは、成人各期の特徴② 【到達目標】保健・医療・福祉における動向と課題が理解できる。成人看護における倫理と看護者の役割が理解できる。 【備考】第三章 保健・医療・福祉における動向と課題を読み、「生活習慣・ストレスに関連する健康障害」を要約・考察した内容をレポートにまとめ授業前日9時30分までに提出する。</p> <p>3回 【授業概要】成人期にある人の健康 【到達目標】成人期における健康障害の特徴と健康レベルにおける枠組みについて理解できる。 【備考】</p> <p>4回 【授業概要】成人期の健康障害の特徴① 【到達目標】慢性期・終末期の特徴と経過が理解できる。 【備考】教科書の「病みの軌跡」を読み、「事例」を説明し、授業前日9時30分までにレポートを提出する。</p> <p>5回 【授業概要】成人期の健康障害の特徴② 【到達目標】急性期・回復期の特徴と経過が理解できる。 【備考】教科書「成人看護学の対象論」、「成人看護学の援助論」を読んでおく。</p> <p>6回 【授業概要】成人看護で活用される理論 【到達目標】危機理論について理解できる。 【備考】前授業で指示する。</p> <p>7回 【授業概要】問題解決思考① 【到達目標】成人看護学領域における問題解決思考について理解できる。 【備考】前授業で指示する2事例の、①認知的評価、②コーピング行動、③コーピング資源、について比較して、授業前日9時30分までにレポートを提出する。</p> <p>8回 【授業概要】問題解決思考① 【到達目標】ヘルスアセスメントや問題抽出に必要な理論について理解できる。 【備考】授業で取り上げていない理論・モデルを教科書内から一つ要約・考察してレポートにまとめ授業前日9時30分までに提出する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	毎授業時、「授業計画」の【備考】を参照して下さい。
教科書	『成人看護学概論』ヌーヴェルヒロカワ 教科書を元に授業を進めるので、必ず授業時毎回持参して下さい。
参考書	授業中に提示します。
成績評価	出席状況、授業課題レポート、ミニテストなどで総合的に評価します。 授業課題レポートは、引用した出典文献を明記すること。また他の学生のレポートの盗用はカンニング行為とみなして厳罰処分します。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 寺谷愉利子 研究室 : 10号館 8階 808 メールアドレス : y_teratani@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日2限目</p> <p>担当教員名 : 藤田智恵子 研究室 : 10号館 8階 メールアドレス : c_fujita@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日2限目</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
杉山 敏宏			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	目標：精神看護に必要な基礎的知識について学ぶ。 概要：教科書および配布資料を用いて、精神看護に関する知識を網羅的に学ぶ。
授業計画	<p>1回目 精神医療の現状と精神看護の目指すもの [到達目標] 精神医療の現状と精神看護の目的が理解できる。</p> <p>2回目 「精神の障害」とは何か [到達目標] 「精神の障害」とは何かを考えることができる。</p> <p>3回目 こころの問題を理解するための様々な理論 (1) [到達目標] 自我と自己・知能・意識・思考・認知・感情について学ぶことができる。</p> <p>4回目 こころの問題を理解するための様々な理論 (2) [到達目標] 精神分析の基本的な考え方を学ぶことができる。</p> <p>5回目 こころの問題を理解するための様々な理論 (3) [到達目標] エリクソンの発達理論・対象関係論等を学ぶことができる。</p> <p>6回目 危機介入とストレス [到達目標] 危機介入とストレスに関する基本的な考え方を学ぶことができる。</p> <p>7回目 こころの問題と家族及び集団との関係 [到達目標] こころの問題に影響を及ぼす家族と集団の影響について学ぶことができる。</p> <p>8回目 まとめ 講義で学んだ内容について試験を実施する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	自己学習により講義内容の理解を深め、知識を広げるため、適宜課題を課す。 (各講義で提示する)
教科書	系統看護学講座 「精神看護の基礎」 精神看護学① (医学書院)
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験および提出課題、授業への参加によって評価する。 (定期試験70%・レポート20%・出席および受講態度10%)
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：杉山敏宏 (科目責任者) 研究室：10号館8階807研究室 メールアドレス：t_sugiyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時 (精神看護学実習のため病院出張以外)</p> <p>担当教員名：戸田一男 研究室：10号館7階702研究室 メールアドレス：k_toda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時 (精神看護学実習のため病院出張以外)</p> <p>担当教員名：梶川拓馬 研究室：10号館7階713教室 メールアドレス：t_kajikawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時 (精神看護学実習のため病院出張以外)</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
矢野 恵子、他			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	母性看護学の基礎となる事柄について学び、母性とは何か、母性看護とは何かについて考える		
授業計画	1	母性とは、母性看護とは 母性とは何か、母性看護とは何かについて考える	
	2	ライフサイクルとセクシュアリティ 1 ライフサイクル各期ののセクシュアリティについて学ぶ	
	3	ライフサイクルとセクシュアリティ 2 ライフサイクル各期ののセクシュアリティについて学ぶ	
	4	母性看護を取り巻く社会的状況 1 母性看護学の変遷、および母子保健関連統計について学ぶ	
	6	母性看護を取り巻く社会的状況 2 母子保健関連法規、およびリプロダクティブヘルス・ライツの考え方など母性看護関連事項について学ぶ	
	7	妊孕性と母性看護 妊孕性に関する医学的・社会的状況と母性看護の在り方について考える	
	8	まとめ（試験等）	
授業時間外の学習 （準備学習等）について	母性看護や産婦人科領域に関するニュースや記事等関連情報の収集に努める。 必要に応じ、課題学習・補習を取り入れる。		
教科書	『新体系看護学全書 母性看護学①母性看護学概論 女性のライフサイクルと看護』新藤幸恵他編集（メヂカルフレンド社） 『母子保健の主なる統計』財団法人母子衛生研究会編集（母子保健事業団）		
参考書	『わが国の母子保健』財団法人母子衛生研究会編集（母子保健事業団） （その他、授業中に随時提示する）		
成績評価	筆記試験、レポート、および出席日数・授業参加態度で総合的に評価 （試験・レポート80%、授業参加態度および出席状況20%で評価する。）		
担当教員の基本情報	研究室	：10号館8階	
	メールアドレス	：k_yano@meiji-u.ac.jp	
	オフィスアワー	：原則として火曜日11：00～12：00	
備考			

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
山下 八重子			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	小児看護に必要な概念と理論を理解し、小児看護の役割と機能について学ぶ。子どもの権利の尊重、子どもの成長発達と看護、子どもを取り巻く社会環境及び健康問題の施策について学び、小児看護について考える。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、小児看護の対象と役割 [到達目標] 1)小児看護の対象と役割について理解する。 2)小児看護の歴史と変遷について理解する。</p> <p>第2回 子どもの権利条約及び母子保健衛生の動向 1)子どもの権利条約・虐待について理解する。 2)母子の保健統計資料を読むことができる。</p> <p>第3回 子どもの成長発達 1)子どもの成長発達の原則を理解する。 2)子どもの発達課題について理解する。 3)発達のアセスメントについて理解する</p> <p>第4回 乳児期の子どもの特徴 1)機能的発達の特徴について理解する。 2)心理・社会的発達の特徴について理解する。</p> <p>第5回 幼児期の子どもの特徴 1)幼児期における成長発達の特徴を理解する。 2)生活習慣の形成過程と支援のポイントについて理解する。 3)自我発達理論・認知発達理論・愛着理論を理解する</p> <p>第6回 学童期及び思春期の子どもの特徴 1)標準的な成長発達の特徴について理解する。 2)発達課題について理解する。 3)小児期の主な伝染性疾患と予防について理解する。</p> <p>第7回 小児看護における主な理論と小児看護の課題 1)セルフケア理論・家族システム理論の概要を理解する。 2)成長発達と評価について理解する。</p> <p>第8回 試験 筆記試験</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>1) 毎時間の学習内容を予習復習して理解を深める。</p> <p>2) 活用した資料をまとめて重要事項の調べ直しをする。</p> <p>3) 提示された課題を解いて理解の有無を確認し、再学習する。</p> <p>4) 教科書をしっかり読んで理解を深める。</p> <p>5) 自分の周囲にいる子どもの言動を観察して何歳くらいか考える。</p>
教科書	ナーシング・グラフィカ 小児の発達と看護 中野綾美編 (MCメディカ) 小児臨床看護概論 小児臨床看護総論 医学書院
参考書	適宜紹介 母子健康手帳
成績評価	講義時に前回の講義の小テスト実施。3×5=15点 発達課題レポート15点 最終試験 筆記70点
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 山下八重子</p> <p>研究室 : 10号館8階</p> <p>メールアドレス : y_yamashita@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 火曜日 15:00~16:00</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
上仲 久			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	老いていく人の心身の特徴と変化およびその社会生活の特徴と変化を理解し、対象の健康維持や高いQuality of Lifeの実現について学習する。
授業計画	<p>第一回 老年看護の概念 [到達目標] 老年看護の概念、及び、老年看護活動の特徴について理解できる。 (授業時間外学習の指示等) テキスト(医学書院)の第三章を事前に読んでおくこと。</p> <p>第二回 老いの理解・ライフサイクル論 [到達目標] 老いることとライフサイクル論についての理解をする。 (授業時間外学習の指示等) 「エイジング」「生涯発達」とはどういうことかを事前に調べておくこと。テキスト第一章を事前に読んでおくこと。</p> <p>第三回 老年期の特徴(1) [到達目標] 高齢期の身体的特徴や変化について、理解を深めることができる。 (授業時間外学習の指示等) 老年看護学・老年看護 病態 疾患論 の教科書を用いて予習復習すること。</p> <p>第四回 高齢社会と社会保障 [到達目標] わが国の高齢社会の統計的輪郭と保健医療福祉の動向について理解できる。介護保険と高齢者医療制度について取り上げ学ぶ。 (授業時間外学習の指示等) インターネットを利用し、内閣府の統計「高齢社会白書」を一読しておくこと。また、介護保険については、厚生労働省のHP>政策について>福祉・介護>介護・高齢者福祉>介護保険制度の概要を参考にすると良い。</p> <p>第五回 老年期の特徴(2) [到達目標] 認知症について、理解を深めることができる。 (授業時間外学習の指示等) 認知症の中核症状やBPSD、記憶について、老年看護 病態 疾患論 の教科書を含めて予習をしておくこと。</p> <p>第六回 高齢者ケアと事故防止 [到達目標] 身体能力や認知能力の低下などがある高齢者を看護するとき、重要な視点となる転倒転落・誤嚥窒息などの事故予防と感染管理に関する学びを深める。 (授業時間外学習の指示等) 参考図書やインターネット検索を用いて「寝たきりゼロ」「嚥下のメカニズム」に関する情報を入手して講義に臨むこと。</p> <p>第七回 高齢社会における権利擁護 [到達目標] 援助職者の倫理に関する学習をする。高齢者虐待や身体拘束などについて理解を深める。 (授業時間外学習の指示等) ステイグマ・アドボカシー・ステレオタイプなどの言葉の意味を調べておくこと。日本看護協会のHPにて、倫理についての理解を深めておくこと。</p> <p>第八回 [到達目標] まとめ (授業時間外学習の指示等) 筆記試験を行うので、これまでの講義での学びをまとめておくこと。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	事前に教科書を読んでおくこと。そして、新しいキーワードや十分理解できなかった内容は復習し、次の講義に備える事。(予習と復習の徹底)
教科書	「老年看護学(系統看護学講座専門Ⅱ)」(第8版) 北川公子ほか著(医学書院)、2015 「老年看護学概論・老年保健①」鎌田ケイ子編(メヂカルフレンド社)、2014
参考書	「生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図」(第2版) 山田 律子 編 医学書院、2012 「老年看護学」(改訂版) 川島みどり 看護の科学社、2015 老年看護学 概論と看護の実践 第4版、奥野 茂代・大西 和子(著) ニューベルヒロカワ、2014
成績評価	小テストを含む筆記試験(45%)・提出課題(40%)と日常点(15%)を合計し、総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 上仲久(科目責任者) 研究室 : 10号館 7階 706 メールアドレス : uenaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時(事前にメールにてアポイントメントをとること) 担当教員名 : 山崎 尚美(ゲストスピーカー)未定

	研究室 : 畿央大学
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
斉藤 宗則			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	チーム医療の中で鍼灸師や漢方の専門医が使う東洋医学の言葉を理解できるようになるための科目です。東洋医学を応用したナーシングを実践するための基礎にもなります。 東洋医学における人体のとらえ方や自然界との関わりを学習します。そして、病になる原因や簡単なツボ療法についても紹介し、東洋医学の基礎を身につけることが目標です。
授業計画	<p>1回目 東洋医学とは何か [到達目標] 東洋医学の特徴を説明できる [備考] P18～23：東洋医学の概念、統一体観を覚える</p> <p>2回目 気 [到達目標] 人体を構成する4要素や気の概念を説明できる [備考] P24～29：4要素、気の種類、気的作用を覚える</p> <p>3回目 血・津液・精・神 [到達目標] 血・津液・精・神の概念を説明できる [備考] P30～35：血・津液的作用、精・神の種類、気虚・気滞を覚える</p> <p>4回目 血・津液・精の変調 [到達目標] 各変調の概要を説明できる [備考] P36～41：各変調の概要（key word参照）を覚える</p> <p>5回目 五臓六腑、心・肺 [到達目標] 五臓六腑と心・肺を説明できる [備考] P42～45：五臓六腑の名称、心・肺の主な機能を覚える</p> <p>6回目 脾・肝・腎、六腑 [到達目標] 脾・肝・腎、六腑を説明できる [備考] P46～49：脾・肝・腎の主な機能や六腑の名称を覚える</p> <p>7回目 五行説と心・肺の変調 [到達目標] 相生・相克と心・肺の症状を説明できる [備考] P50～55：相生・相克の概念、心・肺の主な症状を覚える</p> <p>8回目 脾・肝・腎の変調 [到達目標] 脾・肝・腎の症状を説明できる [備考] P56～61：脾・肝・腎の主な症状を覚える</p> <p>9回目 六腑の変調、色体表 [到達目標] 六腑の症状を説明できる [備考] P62～67：六腑の主な症状と色体表を覚える</p> <p>10回目 病因1 [到達目標] 外因を概説できる [備考] P68～71：病因の種類、外因の概念を覚える</p> <p>11回目 病因2 [到達目標] 内因と不内外因を概説できる [備考] P72～75：内因・不内外因の概念を覚える</p> <p>12回目 経絡 [到達目標] 経絡の概念を説明できる [備考] P116～125：経絡の概念、十二経脈名を覚える</p> <p>13回目 経穴 [到達目標] 経穴の概念を説明できる [備考] P126～139：経穴の概念を覚える</p> <p>14回目 東洋医学の可能性と展望 [到達目標] 東洋医学の応用分野を概説できる [備考] P184～205：東洋医学の可能性のある分野を覚える</p> <p>15回目 まとめ</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義の前日までに教科書の該当部分を読み、おおよその内容を理解しておいてください。復習は主に授業計画の備考欄にある内容を覚えてください。
教科書	「東洋医学のしくみ」兵頭 明 監修（新星出版社）
参考書	「東洋医学概論」東洋療法学校協会（医道の日本社） 「鍼灸学基礎編」日中共同編集（東洋学術出版社）
成績評価	評価方法：受講状況と試験結果を総合して評価する。 評価割合：受講状況30%；受講態度（取り組み）、成果物など 試験 70%；形式は穴埋め、語句の説明、記述など。
担当教員の基本情報	担当教員名： 斉藤宗則 研究室： 6号館2階基礎鍼灸学教員室 メールアドレス： mu_saitoh@meiji-u.ac.jp オフィスアワー： 随時

備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択必修
担当教員			
池本 敬博			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	【医療機関で行っている運動療法】 手作り器具を使用して、生活習慣病の予防と改善、病態別、介護予防、健康増進のための運動療法を通して、個人の健康・体力に応じた集団運動指導ができることを目的とします。
授業計画	<p>1 手作り器具を中心に生活習慣病予防と改善、病態別、介護予防、健康増進のための医療機関で実施している運動療法を体験する。 個人の健康づくりと体力向上のため、運動実践の大切さと集団運動指導法を実践する。</p> <p>2 ウォーキング1 健康ウォーキング理論（目的・効果・強度・頻度・注意事項他）と屋外ウォーキングの実践1（フォーム・スピード）</p> <p>3 ウォーキング2 屋外ウォーキングの実践2（コースA）持久力</p> <p>4 ウォーキング3 屋外ウォーキングの実践2（コースB）持久力</p> <p>5 ウォーキング4 屋外ウォーキングの実践2（コースC）持久力</p> <p>6 ボール運動1 スローイング系種目（筋力・巧緻性） 布ボール、軽量ボール、1 kg・2 kg・3 kgボール使用。</p> <p>7 ボール運動2 ボウリング系種目（筋力・バランス） 1 kg・2 kg・3 kgボール使用。</p> <p>8 ボール運動3 バッティング系種目（転倒予防・骨粗鬆症予防） トス・バッティング、スポンジボール他</p> <p>9 手作り使用1 （持久力・転倒予防・認知症予防） ステップ・シートウォーキング</p> <p>10 手作り使用2 （持久力・転倒予防・認知症予防） スクエアシート他</p> <p>11 手作り使用3 （筋力・体幹強化） パターゴルフ、ハンマースウィング他</p> <p>12 卓球・バドミントン （健康増進・介護予防） 健康卓球、バドミントン他</p> <p>13 卓球・テニス （健康増進・介護予防） 健康卓球、ミニ・テニス他</p> <p>14 ソフト・バレーボール （健康増進・介護予防） ソフト・バレーボールゲーム</p> <p>15 まとめ まとめ</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	柔軟やストレッチを行うこと。
教科書	指定しない
参考書	指定しない
成績評価	成績評価は出席（75%以上）を中心にし、授業態度及び参加度を加味して、評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名：池本 敬博 研究室：体育館・教員室 メールアドレス：iketurn@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択必修
担当教員			
西尾 庄平			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	人間にとって身体を動かすことは、生涯を全うするために必要不可欠なことである。身体運動は、発育期の青少年期はもちろん、中高年齢等に対しても、心身ともに充実した人生を送るための基本として、健康・体力の保持増進を心がけることは重要である。この科目は、選択必修科目であり、使用可能施設および受講人数に応じて、ソフトバレーボール、グラウンドゴルフ、ターゲットバードゴルフ、ゴルフ、インディアカなどレクリエーションスポーツの様々な運動・スポーツ、ルールについて学ぶ。
授業計画	<p>1 ガイダンス エアロビック運動実習のねらいと評価の方法や各種履修にあった諸注意を説明し、理解させる。</p> <p>2 ソフトバレーボール（１）基本・基礎技術の練習 オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、アンダーハンドサーブの動作をそれぞれ説明し、反復練習を行い修得させる。</p> <p>3 ソフトバレーボール（２）審判法とゲーム 審判方法とゲームの進め方やマナーを理解させ、ダブルスゲームを行わせる。</p> <p>4 ソフトバレーボール（３）応用技術とゲーム チーム分けの再編成を行い、コミュニケーションの理解に重点を置いたダブルスゲームを行わせる。</p> <p>5 グラウンドゴルフ（１）基礎技術の練習 グリップと構え、基本スイング、パッティングの動作を説明し、反復練習を行い修得させる。</p> <p>6 グラウンドゴルフ（２）ルールとゲーム ルールとゲームの進め方やマナーを理解させ、簡易ゲームを行わせる。</p> <p>7 グラウンドゴルフ（３）応用技術とゲーム チーム編成を行いラウンドゲームを行わせる。</p> <p>8 ターゲットバードゴルフ（１）基礎技術の練習 グリップと構え、基本スイングの動作を説明し、反復練習を行い修得させる。</p> <p>9 ターゲットバードゴルフ（２）ルールとゲーム ルールとゲームの進め方やマナーを理解させ、簡易ゲームを行わせる。</p> <p>10 ターゲットバードゴルフ（３）応用技術とゲーム チーム編成を行いラウンドゲームを行わせる。</p> <p>11 ゴルフ（１）基本・基礎技術の練習 ゴルフ打撃場にて、グリップと構え、基本スイングの動作を説明し、ボールを遠くへ飛ばすことを目的とした反復練習を行い修得させる。（PI）</p> <p>12 ゴルフ（２）基本・基礎技術の練習 ゴルフ打撃場にて、狙った所へボールを飛ばすことを目的としたグリップと構え、基本スイングの動作を説明し、反復練習を行い修得させる。（PI）</p> <p>13 ゴルフ（３）基本・基礎技術の練習（パット・パットゴルフ） テニスコート（人工芝）内で、パットの際におけるグリップと構え、基本スイングの動作を説明し、反復練習を行い修得させる。また、チーム編成を行い、ラウンドゲームを行わせる。</p> <p>14 インディアカ（１）基本・基礎技術の練習とルールと簡易ゲーム オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、アンダーハンドサーブの動作をそれぞれ説明し、反復練習を行い修得させる。また、審判方法とゲームの進め方やマナーを理解させ、簡易ゲームを行わせる。</p> <p>15 インディアカ（２）応用技術とゲーム チーム編成を行いラウンドゲームを行わせる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業後にストレッチングなど、身体のケアを充分に行うこと。
教科書	授業資料は、適宜配付する。
参考書	授業資料は、適宜配付する。
成績評価	授業態度50%、授業への貢献度20%、実技評価30%。「授業態度、授業への貢献度」では、授業に出席し、自律的に目標を設定し、積極的にグループ活動に参加しているかを評価する。
担当教員の基本情報	西尾庄平 Office Hours 月曜日・水曜日12時50分～13時30分 教員室 また、メール (s_nishio@meiji-u.ac.jp)でも受け付ける。 教員氏名：中才幸雄 オフィスアワー：随時
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択必修
担当教員			
池本 敬博			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	【レクリエーション】 いろいろなスポーツ・レクリエーションを体験することで、生涯スポーツの必要性を理解するとともに、将来、医療現場で生かせる楽しい集団運動指導ができることを目的とします。また、医療人としてのコミュニケーション能力の向上を目指します。
授業計画	1 いろいろなスポーツ・レクリエーションを通して、将来医療現場で生かせる楽しい集団運動指導ができることを目指す。 医療人としてのコミュニケーション能力の向上と、楽しい運動実践と集団運動指導法を体得する。 2 室内スポーツ1 卓球1 3 室内スポーツ2 卓球2 4 室内スポーツ3 テニス1 5 室内スポーツ4 テニス2 6 室内スポーツ5 バドミントン1 7 室内スポーツ6 バドミントン2 8 室内スポーツ7 バレーボール1 9 室内スポーツ8 バレーボール2 10 レクリエーション1 11 レクリエーション2 12 レクリエーション3 13 レクリエーション4 14 レクリエーション5 15 まとめ
授業時間外の学習 (準備学習等)について	指定しない
教科書	指定しない
参考書	指定しない
成績評価	成績評価は出席（75%以上）を中心にし、授業態度及び参加度を加味して、評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 池本 敬博 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : iketurn@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
浅野 敏朗			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>今日、世界中で医療情報の多くが英語でやりとりされています。グローバルな視野を持って活躍する医療人にとって、英語によるコミュニケーション能力や情報処理能力の育成は、まさに不可欠かつ緊急の課題であると言っていいでしょう。</p> <p>この科目は、医療・保健・看護にかかわる基礎的な英語語彙力・読解力・表現力の習得を目指します。医療分野で頻繁に使用される基本的な語彙をできるだけ多く記憶することに努めましょう。覚えるためには、繰り返して発音したり書いたりする反復練習が大切です。また、できる限りみなさんに興味・関心をもって読んでもらえる医療に係るテキストを用意します。直読直解ができるようになること、すなわち日本語に直さないで英語の語順で理解ができるようになること、概要や要点をしっかり把握しながら読み進むことなどを当面の目標といたしましょう。さらに、医療現場で使用される英語短文表現を反復練習して身に付けることにも努力しましょう。</p> <p>なお、下記の「授業計画」の内容は現在の予定です。実際の授業では、みなさんの理解度や、意見・感想をもとに適宜改善・更新していきます。</p>
授業計画	<p>第1回 この科目のオリエンテーション 〔到達目標〕 この科目の目標、内容等が理解できる。 〔備考〕 この科目に係わる基本的な学習方法、また授業時間外における予習・復習の仕方等についても説明します。</p> <p>第2回 医療分野の読み物（1） 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（1） 医療分野の短文表現（1）</p> <p>第3回 医療分野の読み物（2） 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（2） 医療分野の短文表現（2）</p> <p>第4回 医療分野の読み物（3） 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（3） 医療分野の短文表現（3）</p> <p>第5回 医療分野の読み物（4） 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（4） 医療分野の短文表現（4）</p> <p>第6回 医療分野の読み物（5） 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（5） 医療分野の短文表現（5）</p> <p>第7回 医療分野の読み物（6） 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（6） 医療分野の短文表現（6）</p> <p>第8回 医療分野の読み物（7） 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（7） 医療分野の短文表現（7）</p> <p>第9回 医療分野の読み物（8） 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（8） 医療分野の短文表現（8）</p> <p>第10回 医療分野の読み物（9） 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（9） 医療分野の短文表現（9）</p> <p>第11回 医療分野の読み物（10） 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p>

	<p>〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙 (10) 医療分野の短文表現 (10) 医療分野の読み物 (11)</p> <p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙 (11) 医療分野の短文表現 (11) 医療分野の読み物 (12)</p> <p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙 (12) 医療分野の短文表現 (12)</p> <p>第14回 総復習 (1)</p> <p>〔到達目標〕 これまで扱ってきた教材の主なものについて、十分意味内容が理解できる。</p> <p>〔備考〕 大切な文は正しく音読ができる、さらに暗誦することができることも目指しましょう。</p> <p>第15回 総復習 (2)</p> <p>〔到達目標〕 これまで扱ってきた教材の主なものについて、十分意味内容が理解できる。</p> <p>〔備考〕 大切な文は正しく音読ができる、さらに暗誦することができることも目指しましょう。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	<p>英語力の向上を目指して、授業時間外に少しでも多く予習と復習の時間を確保してください。以下は、授業時間外の学習についての留意事項です。</p> <p>1) 英語に触れる機会を少しでも多くしてください。たとえ10分でも20分でも集中すればそれだけの効果があります。</p> <p>2) 英語の学習の基本は、理解することと練習することです。この両方に半分ずつのエネルギーを使ってください。内容理解と反復練習のサイクルを積み重ねることにより、英語力は着実に向上していきます。</p> <p>3) 与えられた英文の意味を、語彙力と構文力を使って正確に理解することがまず第一歩です。辞書を活用しながら、推測力を働かせてわからない個所の意味を把握しようとしてください。</p> <p>4) 意味が理解できたら、その次は反復練習です。繰り返して音読、音読+筆写することによって、その英文をできるだけしっかりと身につけよう、覚えてしまおうとする努力が大切です。</p> <p>5) 英語の学習もまずは自分から主体的に取り組む姿勢が肝心です。授業を刺激剤として意欲を活性化し、自らの力で問題解決を試み、能力・技能を身につけていこうとする積極性が大切です。</p>
教科書	特に指定しない。(毎時間プリントを配布します)
参考書	英和辞典は授業時に必携です。
成績評価	授業参加への積極性、授業での発言・発表、提出物、そして定期試験の結果などにより総合的に評価します。とりわけ授業参加への積極性は、重要な評価の対象です。評価の内訳は目安として、授業参加 20～30%、発言・発表と提出物 10～20%、定期試験 50～70% を考えています。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 浅野敏朗 オフィスアワー : 授業後10分間
備考	スムーズな単位認定を進めるため、習熟度別クラス編成を実施する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択必修
担当教員			
鳴瀬 善久			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	分子生物学をはじめとする生命科学、ナノテクノロジーやコンピュータ科学の3大技術を利用して社会が激変しようとしている。この講義では、先端科学の1分野である分子生物学について基本的なことから解説し、テレビや新聞で取り上げられる生命科学ニュースを題材に分子生物学（分子遺伝学）をキーワードに生命（life「命」）について考え、理解することを目標とする。 2003年に私たちの設計図であるDNA暗号が解読されて以来、それらを基に医療が変革を遂げている。遺伝現象の解析、遺伝子（DNA）と構造、遺伝子複製のメカニズムと細胞分裂、遺伝子の情報発現とその調節、遺伝子操作など基礎的知識を学び、さらに、遺伝子診断と治療、iPS細胞と再生医療、遺伝子操作や幹細胞移植による寿命の延長、年をとらないヒト（ある年齢の容姿で成長が止まっている）などの科学ニュースを題材に講義し、生命科学により未来がどのように変わるのかを考察できる力を身に付ける。
授業計画	1回目 序論：生命とは、DNAの遺伝情報からつくられたタンパク質等でできた分子機械なのか？ [到達目標] 分子生物学（分子遺伝学）の歩みを説明できる。 [備考] 毎回、講義時間にプリントを渡します。それについて、必ず復習して下さい。疑問点は次回の講義で質問し、問題解決に努めること。 2回目 生命の設計図DNAの構造と機能 [到達目標] DNA、RNA、タンパク質について説明できる。セントラルドグマについて説明できる。 3回目 DNAの遺伝子情報を基にRNAの合成（転写と翻訳）とRNAからタンパク質の合成（翻訳） [到達目標] DNAからRNAを合成する転写制御について説明できる。 コドンとアンチコドン、翻訳について説明できる。遺伝暗号を読み取ることができる。 4回目 DNAの複製とDNAの組換え、損傷、修復 [到達目標] 半保存的複製、細胞周期、体細胞分裂、減数分裂、染色体について説明できる。 DNAの組換え、DNA損傷の修復について説明できる。 5回目 RNAの多様性とその働き [到達目標] RNAの種類と働き、小分子RNAとRNA抑制、RNAワールドについて説明できる。 6回目 分子生物学（分子遺伝学）に基づく生命工学とは [到達目標] 組換えDNA技術、シーケンス、PCR、 遺伝子診断、遺伝子治療、遺伝子組換え製品、GM作物、クローン動物について理解できる。 7回目 分子生物学（分子遺伝学）を用いた先端医療 [演習] [到達目標] 再生医療、幹細胞、iPS細胞、遺伝子操作、生命と寿命、老化について理解できる。 8回目 総括と試験 [備考] 講義を総括し、講義内容の理解度として作成した試験を行う。総合評価を100点満点として、60点以上を合格とする。
授業時間外の学習（準備学習等）について	毎回、講義時間にプリントを渡します。その日のうちに必ず復習し、理解しようと努めること！ 講義は遅刻・欠席厳禁で、受講者は全ての講義に出席すること！
教科書	特になし（講義時間ごとにプリントを配布）
参考書	『コア講義 分子遺伝学』田村隆明著 裳華房（2014） 『カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第2巻 分子遺伝学』ブルーバックス [新書] 『遺伝子医療革命』フランス・S・コリンズ NHK出版（2011）
成績評価	講義内容に関連した知識を筆記試験にて把握し、その理解度を評価する。 評価割合：（試験70%、出席と授業内演習30%）
担当教員の基本情報	担当教員名 : ○鳴瀬 善久 研究室 : 8号館4階 教授室 メールアドレス : ynaruse@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水、木曜日放課後 担当教員名 : 廣瀬 英司 研究室 : 8号館4階 教授室 メールアドレス : ehirose@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 木、金曜日放課後
備考	

--	--

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択必修
担当教員			
栗田 裕			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	授業目標：日常生活や看護・介護の場面に現れるさまざまな姿勢や動作の良し悪しを、力学的根拠に基づいて判断できる力を養う。 概要：講義や演習に加えて、その場で実際に動作を行い、その負担を体感することで、ボディメカニクスの本質を直感的に理解できるようにする。
授業計画	<p>1 ガイダンス、おじぎ動作の観察 姿勢の安定と重心位置の関係を説明できる</p> <p>2 重心、支持基底面 水平面上で、支持基底面と重心位置を指摘できる</p> <p>3 人体各部の質量と寸法、種々の姿勢と重心位置 下半身・上半身・全身の重心を指摘できる</p> <p>4 物体に働く力とモーメントのつりあい 姿勢の保持と関節モーメントの関係を説明できる</p> <p>5 上体の傾きと腰関節モーメント 腰関節モーメントの大きさを判断できる</p> <p>6 種々の姿勢と腰の負担 作業姿勢の善し悪しを判断できる</p> <p>7 押す力・引く力と作業姿勢 体重を利用して押し引きする方法を説明できる</p> <p>8 加速・減速に必要な力とモーメント 加速時間・減速時間と力の関係を説明できる</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	集中講義への出席とレポートによる。
教科書	配布プリントの対応部分を精読し、わからない部分があれば調べ、それでもわからなければ質問したりして解決すること。
参考書	「看護動作を助ける基礎人間工学」小川鑛一著（東京電機大学出版局） 「看護動作のエビデンス」小川鑛一著（東京電機大学出版局）
成績評価	なし（授業中にプリントを配布する）
担当教員の基本情報	担当教員名：栗田 裕 研究室：滋賀県立大学工学部機械システム工学科 メールアドレス：kurita@mech.usp.ac.jp オフィスアワー：授業後
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
浅沼 博司			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>【臨床検査】 臨床検査についての意義と必要性、疾病の確定診断の重要な手段であることを理解し、患者の病状・症状の査定をする上での活用方法について説明できる。</p> <p>【臨床放射線医学】 放射線診断が疾病の確定診断の重要な手段であることを理解し、患者の病状・症状の査定をする上での活用方法について説明できる。そして、薬物療法、手術療法と並び三大治療法の一つである放射線治療の種類、適応疾患、効果・副作用について理解する。</p> <p>【外科学】 外科学の基本的知識を学び、外科疾患の対応について理解する。</p> <p>【麻酔学】 麻酔学の基本的知識を学ぶとともに、救急時の対応について理解する。</p>
授業計画	<p>1回目 臨床検査（1）浅沼教授 臨床検査の意義と目的（尿検査・血液検査・輸血）、検体の取り扱いを説明することができる。 （時間外学習の指示など）臨床検査の意義と目的（尿検査・血液検査・輸血）、検体の取り扱い、データの読み方の基礎と基準値を教科書「臨床検査」で調べる。 ※臨床検査（医学書院）を持参。</p> <p>2回目 臨床検査（2）浅沼教授 臨床検査のデータの読み方の基礎と基準値を説明することができる。また、それらの示すデータからどのような病態が推測できるか説明できる。 （時間外学習の指示など）臨床検査の意義と目的（尿検査・血液検査・輸血）、検体の取り扱い、データの読み方の基礎と基準値を教科書「臨床検査」で調べる。 ※臨床検査（医学書院）を持参。</p> <p>3回目 臨床検査（3）浅沼教授 心電図・呼吸機能などの生理学的検査、内視鏡検査の種類と適応を説明することができる。 （時間外学習の指示など）心電図・呼吸機能などの生理学的検査、内視鏡検査の種類と適応を教科書で調べる。 ※臨床検査（医学書院）を持参。</p> <p>4回目 臨床放射線医学（1）北村先生 医用X線の性質と種類、単純X線検査の読影の基本、CT・エコー・MRIの基本的性質とその違いを説明することができる。 （時間外学習の指示など）医用X線の性質と種類、単純X線検査の読影の基本、CT・エコー・MRIの基本的性質とその違いを「臨床検査」教科書で調べる。 ※臨床放射線医学（医学書院）を持参。</p> <p>5回目 臨床放射線医学（2）北村先生 放射線治療の原理と種類、放射線治療の適応疾患、放射線治療の副作用を説明することができる。 （時間外学習の指示など）放射線治療の原理と種類、放射線治療の適応疾患、放射線治療の副作用を教科書「臨床放射線医学」で調べる。 ※臨床放射線医学（医学書院）を持参。</p> <p>6回目 外科学総論、外科診断学 糸井教授 外科概論と歴史、外科的診断法、損傷と創傷について学ぶ。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護総論（6, 189, 209, 215, 126-151, 434-450） 創傷処置を復習する。 ※臨床外科看護総論（医学書院）を持参</p> <p>7回目 外科的基本手技、基本技術 糸井教授 周術期の管理、術前・術中の管理と合併症の予防、特に集中治療における管理、あるいは高齢者術後の管理と合併症の予防について学ぶ。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護総論（12-19, 212-432, 434-450） 外科的基本手技を復習すること。 ※臨床外科看護総論（医学書院）を持参</p> <p>8回目 炎症・外科的感染症、消毒と滅菌 神山教授 炎症の原因・症状、外科的感染症の治療、消毒法の実際、無菌法、外科的処置について学ぶ。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護総論（20-35, 126-151, 305-312, 363-370） ※臨床外科看護総論（医学書院）を持参</p> <p>9回目 外科的栄養管理、輸血法、腫瘍の診断と治療 糸井教授 外科領域の栄養管理：輸液・経腸栄養の実際について学ぶ。血液型、輸血について学ぶ。腫瘍の検査法と治療法（手術療法、化学療法、放射線療法）について学ぶ。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護総論（36-45, 90-115） ※臨床外科看護総論（医学書院）を持参</p> <p>10回目 内視鏡手術、鏡視下手術の特徴と術後管理 糸井教授 最新の内視鏡手術、鏡視下手術の特徴とその術後管理について理解する。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護総論（152-160） 臨床外科看護各論（新分野140） ※臨床外科看護総論・各論（医学書院）を持参</p> <p>11回目 医療者に必要な心肺蘇生法 神山教授 BLSの要点からALSへの発展までが理解できる。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護総論（170-186） BLSとALSの内容と手順について学習 ※臨床外科看護総論（医学書院）を持参</p> <p>12回目 麻酔科学 総論 野村講師</p>

	<p>周術期における呼吸・循環器系の危機状況の内容と対処法・モニタリングを理解する。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護総論(54-90) 痛みの感覚の伝達経路について予習しておく。</p> <p>13回目 麻酔科学 総論 野村講師 鎮痛のメカニズムと全身麻酔・硬膜外麻酔・腰椎麻酔など代表的な鎮痛法の内容が理解する。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護総論(54-90) 各種の麻酔方法とメカニズムについて、鎮痛法について復習する。</p> <p>14回目 各種麻酔による生体侵襲 野村講師 麻酔による生体侵襲について理解できる。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護総論(54-90)</p> <p>15回目 まとめ 講義で学んだ事項の理解度を評価する。講義全体のまとめをする。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>臨床検査および臨床放射線医学について(第1回～第5回)： 外科学の分野について(第6回～第11回)：外科学の講義は基礎医学(解剖学・生理学・病理学など)と臨床医学(内科学)の知識を前提としています。しかし、他の講義も同時に進むため、未だ学んでいない事項が出てくるかもしれません。このような場合、分からない点を教科書や参考書に戻って再確認することが大切です。講義内容は、授業計画の備考には、臨床外科看護総論・各論の講義に関係する頁を記載してありますから参考にしてください。</p> <p>麻酔科学の分野について(第12回～第14回)：毎回の講義で講義内容の概要をプリントとして渡しますが、講義を聴くための資料であり講義を聴かずにそれだけを勉強することは非効率です。生理学・解剖学や他の臨床医学の基礎で合わせて勉強するべき部分はシラバスや講義中に指摘するので各自で次回の講義までに予復習として準備学習することが大切です。</p>
教科書	<p>(内科系) 『系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学』(医学書院) 『系統看護学講座 別巻 臨床検査』(医学書院)</p> <p>(外科系) 『系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論』(医学書院) 『系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論』(医学書院)</p>
参考書	<p>(外科系) 「チーム医療従事者のための臨床医学全科」渡邊 洵編(金芳堂) 「標準外科学」第12版 小柳 仁編(医学書院) 「標準麻酔科学」第6版 弓削孟文監修(医学書院)</p>
成績評価	出席状況、授業態度、レポート、筆記試験にて総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 浅沼 博司 研究室 : 病院2階教授室 メールアドレス : h_asanuma@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業後</p> <p>担当教員名 : 糸井啓純 研究室 : 附属病院2階教授室 メールアドレス : hitoi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00</p> <p>担当教員名 : 神山 順 研究室 : 附属病院2階医局 メールアドレス : jkami@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00</p> <p>(麻酔科学) 担当教員名 : 野村 麻由子 研究室 : 附属病院2階医局 メールアドレス : m_nomura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 木曜日12:00-13:00</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
糸井 啓純			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	外科学総論の基礎を学び、臓器別に外科（観血）的治療を理解する。そして、幅広い医学的知識を身につけることをこの講義の目標とする。 疾病治療論は外科学全般の臨床医学の講義である。講義では外科（観血）的治療を解説するため、基礎医学や内科の知識を理解していることが前提となります。また、短時間で最新の医療を講義するため難易度が高いので、外科学の看護学を頑張ってお勉強していただきたい。外科学の講義は基礎医学（解剖学・生理学・病理学など）と臨床医学（内科学）の知識を前提としています。しかし、他の講義も同時に進むため、未だ学んでいない事項が出てくるかもしれません。このような場合、分からない点をメモし、教科書や参考書に戻って、再確認することが大切です。
授業計画	<p>1回目 消化器外科① 食道、胃の外科治療 糸井教授 食道癌、胃癌を中心に外科治療を理解する。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護各論(172-183, 184-199) 成人看護学5 消化器 ※臨床外科看護各論(医学書院)を持参</p> <p>2回目 消化器外科② 小腸、大腸の外科治療 糸井教授 大腸癌を中心に外科治療を理解する。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護各論(200-243) 成人看護学5 消化器 ※臨床外科看護各論(医学書院)を持参</p> <p>3回目 消化器外科③ 肝、胆、膵の外科的治療 糸井教授 肝、胆、膵を中心に外科治療を理解する。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護各論(135-141, 245-290) 成人看護学5 消化器 ※臨床外科看護各論(医学書院)を持参</p> <p>4回目 消化器外科④ 急性腹症の外科的治療 糸井教授 腹部外傷を含む腹部外科疾患から急性腹症の診断と治療、とくに腸閉塞、腹膜炎について学ぶ。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護各論(187-192, 204-223, 238-245, 290-297) 成人看護学5 消化器 ※臨床外科看護各論(医学書院)を持参</p> <p>5回目 乳腺・内分泌外科 神山教授 乳腺疾患ならびに甲状腺・副甲状腺・副腎疾患の外科的治療について理解する。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護各論(26-37, 63-80, 427-438, 297-305) ※臨床外科看護各論(医学書院)を持参</p> <p>6回目 血管疾患の外科治療 神山教授 大動脈瘤・動脈閉塞症・静脈疾患の外科治療について理解する。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護各論(108-134) 系統看護学講座成人看護学2 循環器疾患患者の看護 ※臨床外科看護各論(医学書院)を持参</p> <p>7回目 呼吸器疾患の外科治療 糸井教授 良性・悪性の呼吸器疾患に対する外科的治療について理解する。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護各論(8-62)ならびに系統看護学講座成人看護学2(呼吸器疾患患者の看護) ※臨床外科看護各論(医学書院)を持参</p> <p>8回目 小児外科の外科治療(予定) 小児で外科的治療を必要とする疾患について理解する。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護総論(396-407) 臨床外科看護各論(460-486, 506-515, 521-536) ※臨床外科看護各論(医学書院)を持参 定期試験 講義で学んだ事項の理解度を評価する。講義全体のまとめとして筆記試験を実施する。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	外科学では学ぶ項目が多岐に及ぶため、まとめの講義を設定しませんが、講義では適時まとめのプリントを配布します。そして、授業内容の理解度を確認するために、講義の重要な事項を試験問題の形式で提示します。これを解くことで、講義への理解を深めてください。臨床外科看護総論・各論のそれぞれの講義に関係する頁を記載してありますから参考にしてください。
教科書	『系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論』(医学書院) 『系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論』(医学書院) 『系統看護学講座 別巻 成人看護学2 呼吸器』(医学書院) 『系統看護学講座 別巻 成人看護学3 循環器』(医学書院) 『系統看護学講座 別巻 成人看護学5 消化器』(医学書院)
参考書	「チーム医療従事者のための臨床医学全科」渡邊 決編(金芳堂) 「標準外科学」第12版 小柳 仁編(医学書院)
成績評価	定期試験、出席状況、授業態度、レポートなどから総合的に評価する。 追・再試験は、試験あるいはレポートとする。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 糸井啓純 研究室 : 附属病院2階教授室 メールアドレス : hitoi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00

	担当教員名 : 神山 順 研究室 : 附属病院 2階教授室 メールアドレス : jkami@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日 17:00-18:00
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	必修
担当教員			
苗村 建慈			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	内科疾患を中心とした慢性期疾患の病態、診断、治療法について、理解を深める。		
授業計画	小野准教授	消化器疾患 (1)：病態、診断、治療法について、基礎的理解を深める。 食道、胃、腸疾患の概念・症状・検査所見・診断・最新の治療法を理解する。	
	小野准教授	消化器疾患 (2)：病態、診断、治療法について、基礎的理解を深める。 肝、胆、膵疾患(1)の概念・症状・検査所見・診断・最新の治療法を理解する。	
	小野准教授	消化器疾患 (3)：病態、診断、治療法について、基礎的理解を深める。 肝、胆、膵疾患(2)の概念・症状・検査所見・診断・最新の治療法を理解する。	
	苗村教授	呼吸器疾患 (1)：気道感染症、胸膜疾患、間質に病変のある肺疾患の病態、診断、治療法について、基礎的理解を深める。 呼吸器病学総論及び気道感染症である上気道炎、気管支炎、肺炎、肺結核、気胸、胸膜炎、間質性肺炎、塵肺症の概念・症状・検査所見・診断・最新の治療法を理解する。	
	苗村教授	呼吸器疾患 (2)：アレルギーの関与する肺疾患、閉塞性気道病変のある肺疾患の病態、診断、治療法について、基礎的理解を深める。 過敏性肺臓炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患の概念・症状・検査所見・診断・最新の治療法を理解する。	
	苗村教授	呼吸器疾患 (3)：肺癌、肺循環障害を伴う肺疾患、呼吸調節障害のある肺疾患の病態、診断、治療法について、基礎的理解を深める。 肺癌、肺塞栓症、肺水腫、過換気症候群、睡眠時無呼吸症候群の概念・症状・検査所見・診断・最新の治療法を理解する	
	苗村教授	代謝・内分泌疾患 (1)：病態、診断、治療法について、基礎的理解を深める。 代謝・内分泌疾患 (1)：糖尿病、高脂血症、肥満、高尿酸血症の概念・症状・検査所見・診断・最新の治療法を理解する。	
	苗村教授	代謝・内分泌疾患 (2)：下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患の病態、診断、治療法について、基礎的理解を深める。 代謝・内分泌疾患 (2)：巨人症・先端巨大症、下垂体機能低下を示す疾患、尿崩症、バセドウ病、甲状腺機能低下の原因となる疾患、副甲状腺機能亢進症、副甲状腺機能低下症、3つの副腎皮質疾患、褐色細胞種の概念・症状・検査所見・診断・最新の治療法を理解する。	
	苗村教授	血液疾患 (1)：貧血症の病態、診断、治療法について、基礎的理解を深める。 血液疾患 (1)：鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、再生不良性貧血、溶血性貧血の概念・症状・検査所見・診断・最新の治療法を理解する。	
	苗村教授	血液疾患 (2)：白血球疾患と止血・凝固障害を起こす疾患の病態、診断、治療法について、基礎的理解を深める。 白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、特発性血小板減少症、アレルギー性紫斑病、血友病、DICの概念・症状・検査所見・診断・最新の治療法を理解する。	
	苗村教授	アレルギー疾患と膠原病：これらの疾患の病態、診断、治療法について、基礎的理解を深める。 アレルギー疾患と膠原病：アレルギー疾患の分類とその機序、症状、及び膠原病として慢性関節リウマチ、SLE、シェーグレン症候群、強皮症、多発性筋炎・皮膚筋炎、混合性結合組織、ベーチェット病の概念・症状・検査所見・診断・最新の治療法を理解する。	
	苗村教授	感染症：細菌、寄生虫、ウイルスによる感染症の病態、診断、治療法について、基礎的理解を深める。 一般細菌、抗酸菌、原虫、寄生虫、ウイルスによる臨床的に問題となる感染症について、概念・症状・検査所見・診断・最新の治療法を理解する。	
	浅沼教授	循環器疾患 (1)：虚血性心疾患、不整脈の病態、診断、治療法について、基礎的理解を深める。 循環器疾患 (1)：虚血性心疾患 (狭心症・心筋梗塞)、主要な不整脈の概念・症状・検査所見・診断・最新の治療法を理解する。	
	浅沼教授	循環器疾患 (2)：心弁膜症・心筋症・心内膜炎の病態、診断、治療法についての基礎的理解を深める。 循環器疾患 (2)：心弁膜症・心筋症・心内膜炎の概念・症状・検査所見・診断・最新の治療法を理解する。	
	浅沼教授	循環器疾患 (3)：腎疾患：心不全・高血圧症・主要な血管疾患、主要な腎疾患の病態、診断、治療法について、基礎的理解を深める。 循環器疾患 (3)、腎疾患：うっ血性心不全・高血圧症・深部静脈血栓症、急性糸球体腎炎、慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群の概念・症状・検査所見・診断・最新の治療法を理解する。	
授業時間外の学習 (準備学習等) について	教科書を読み、予習しておくこと。 (苗村教授、浅沼教授、小野准教授)教科書を読んでおくこと。授業で配布するプリントを精読すること。理解できないところがあれば、下記の参考書で該当するところを調べる。特に、参考書の1.、2.は、辞典のように使えるため、参考書として使用することが勧められる。3.の参考書はさらに詳しい。それでも、解決できなければ、講義の前後に、担当教員に質問して下さい。		
教科書	系統看護学講座 成人看護学〔2〕～〔6〕、〔8〕、〔11〕(医学書院)。		
参考書	1.わかりやすい内科学第4版(文光堂)：医療系学生を対象にしており、分かりやすく書かれている。2.Step内科学(全6巻、分冊別に購入可能)：医学部専門課程の学生用参考書で、詳しいが、分かりやすく書かれて		

	いる（海馬書房）。3.カラー版 内科学 第9版（西村書店）：医学部専門課程の学生だけでなく、一般臨床家も使える。比較的新しく出版された内科学のテキストである。
成績評価	1) 定期試験により評価する。 2) 出席率が低い場合は、受験資格は認めない。 3) 再・追試験は、実施する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 苗村 建慈 研究室 : 病院2階教授室 メールアドレス : k_namura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日16:30-17:00
備考	担当教員名 : 浅沼 博司 研究室 : 病院2階医局 メールアドレス : オフィスアワー :
	担当教員名 : 小野 公裕 研究室 : 病院2階医局 メールアドレス : k_ono@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日16:30-17:00

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
松本 和久			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	総論として、リハビリテーションの歴史、障害の概念、自立について学習する。 各論として、脳血管障害に対するリハビリテーションを学習する。（以上、担当教員 松本和久）		
授業計画	1回	リハビリテーション概論 [授業概要] リハビリテーションの概念と歴史、及び障害（国際障害分類：ICIDH、国際生活機能分類：ICF）について学習する。 [到達目標] 講義終了後、上記内容に関する確認テストにて、適切な解答を導き出すことができる。	
	2回	脳血管障害に対するリハビリテーション [授業概要] 脳における運動と感覚のメカニズムを理解し、脳血管障害に対するリハビリテーションについて学習する。 [到達目標] 講義終了後、上記内容に関する確認テストにて、適切な解答を導き出すことができる。	
	3回	運動器疾患①：運動器疾患の特徴、骨粗鬆症、関節疾患 運動器疾患の特徴と骨と関節の機能及び形態の障害とリハビリテーションの理解(担当：Dr 糸井恵)	
	4回	運動器の解剖学的特徴や骨・関節の働きについて復習する 運動器疾患②：末梢神経と脊椎・脊髄疾患 末梢神経と脊椎・脊髄疾患とリハビリテーションの理解(担当：Dr 糸井恵) 脊椎・脊髄神経と末梢神経についての診断学と疾患について復習する（教科書P69-87）	
	5回	運動器疾患③：外傷、感染症、下肢の主な疾患と外傷 外傷、感染症、骨・軟部腫瘍、下肢の疾患の病態及び治療とリハビリテーションの理解(担当：Dr 乾堅太郎) 教科書（p88, 92-110）とプリントを復習する	
	6回	運動器疾患④：画像診断、上肢の主な疾患と外傷、 上肢の疾患の病態及び治療とリハビリテーションの理解(担当：Dr 小藤和孝) 教科書（p41-44、54-68、139-143）とプリントを復習する	
	7回	難病疾患⑤ 関節リウマチほか、運動器疾患の復習 難病の病態及び診断治療、リハビリテーションの理解(担当：Dr 糸井恵) 教科書p115-120を復習する	
授業時間外の学習（準備学習等）について	準備学習として、次講義に該当する教科書の項目を予め熟読すること。また復習として、講義内容に関して再度教科書を熟読するとともに、不明な点は担当教員にメールにて連絡し、オフィスアワーに質問すること。		
教科書	平澤泰介（編著） ナースのための整形外科学 南山堂		
参考書	特になし		
成績評価	学年末試験の得点により成績を評価する。		
担当教員の基本情報	担当教員名：松本和久 研究室：8号館4階 メールアドレス：k_matsumoto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：メールにて事前連絡の後、随時調整する 担当教員名：糸井恵(小藤和孝、乾堅太郎) 研究室：病院2階教授室(病院2階医局)		
備考			

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	1	必修
担当教員			
田中 邦雄			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	各種精神疾患ならびに精神保健福祉法についての理解を深める		
授業計画	1回目	総論 1 [到達目標] 脳の構造、精神科用語、症状について把握・理解する。 [備考] あらかじめ、教科書の内容（総論）を把握しておく。	
	2回目	総論 2 [到達目標] 脳の構造、精神科用語、症状について把握・理解する。 [備考] あらかじめ、教科書の内容（総論）を把握しておく。	
	3回目	治療総論 [到達目標] 精神科の治療全体を把握・理解する。 [備考] あらかじめ、教科書の内容（総論）を把握しておく。	
	4回目	精神科疾患総論 [到達目標] 精神科疾患全体を把握・理解する。 [備考] あらかじめ、教科書の内容（総論）を把握しておく。	
	5回目	精神科疾患各論 1：器質性精神障害 [到達目標] 器質性精神障害の病態・治療を把握する。 [備考] あらかじめ、教科書の内容（器質性精神障害）を把握しておく。	
	6回目	精神科疾患各論 2：統合失調症Ⅰ [到達目標] 統合失調症の病態・治療を把握・理解する。 [備考] あらかじめ、教科書の内容（統合失調症）を把握しておく。	
	7回目	精神科疾患各論 3：統合失調症Ⅱ [到達目標] 統合失調症の病態・治療を把握・理解する。 [備考] あらかじめ、教科書の内容（統合失調症）を把握しておく。	
	8回目	精神科疾患各論 4：気分障害 [到達目標] 気分障害の病態・治療を把握・理解する。 [備考] あらかじめ、教科書の内容（気分障害）を把握しておく。	
	9回目	精神科疾患各論 5：てんかんⅠ [到達目標] てんかんの病態・治療を把握・理解する。 [備考] あらかじめ、教科書の内容（てんかん）を把握しておく。	
	10回目	精神科疾患各論 6：てんかんⅡ [到達目標] てんかんの病態・治療を把握・理解する。 [備考] あらかじめ、教科書の内容（てんかん）を把握しておく。	
	11回目	精神科疾患各論 7：神経症 [到達目標] 神経症の病態・治療を把握・理解する。 [備考]	

	<p>12回目 あらかじめ、教科書の内容（神経症）を把握しておく。 精神科疾患各論 8：生理的・身体障害、症候性精神病 [到達目標] 生理的・身体障害、症候性精神病の病態・治療を把握・理解する。</p> <p>[備考] あらかじめ、教科書の内容（生理的・身体障害、症候性精神病）を把握しておく。</p> <p>13回目 精神科疾患各論 8：人格障害 [到達目標] 人格障害の病態・治療を把握・理解する。</p> <p>[備考] あらかじめ、教科書の内容（人格障害）を把握しておく。</p> <p>14回目 精神科疾患各論 10：少年期・青春期の精神障害 [到達目標] 少年期・青春期の精神障害の病態・治療を把握・理解する。</p> <p>[備考] あらかじめ、教科書の内容（少年期・青春期の精神障害）を把握しておく。</p> <p>15回目 精神保健福祉法・司法精神医学 [到達目標] 精神医学に関連する法律を説明できる</p> <p>[備考] あらかじめ、教科書の内容（精神保健福祉法・司法精神医学）を把握しておく。</p>
授業時間外の学習 （準備学習等）について	教科書を熟読すること。
教科書	STEP Series 「精神科」高橋茂樹著 海馬書房
参考書	現代臨床精神医学 改訂第11版」大熊輝雄著 金原出版 教科書にそって、解説しながらの授業をするので、教科書は必ず持参のこと。
成績評価	評価方法（試験） 評価割合（試験100%）
担当教員の基本情報	担当教員名 : 田中邦雄（教授） 研究室 : 統合医療学（明治国際医療大学附属統合医療センター） メールアドレス : ku_tanaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : メールで予約して、明治国際医療大学附属統合医療センターにて対応。
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
才村 泰生			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>高齢者疾患の一般的な特徴や病態について理解する。また、その治療や看護的対応について学習し、医療現場で正しく行動できることを目標とします。</p> <p>なお、毎回レジュメを配布し講義をすすめます。講義の理解を確認するため、2回の確認試験を行います。また、講義全体の理解度を確認する全体テストを行います。最後に、個別に口頭試験を行い、知識の定着を確認します。</p> <p>なお、学習を深めるためレポートの課題を出します。講義中や講義後に質問等を積極的に行って下さい。</p> <p>なお、講義中の私語は厳禁とします。</p>		
授業計画	1回目	<p>高齢者の生理的特徴・老年症候群</p> <p>[到達目標]</p> <p>老化について理解し高齢者の生理的特徴を知る 高齢者に起こりやすい症候を理解する</p> <p>[備考]</p> <p>教科書 第1章「高齢者の生理的特徴」第2章「老年症候群」 事前に熟読しておいて下さい</p>	
	2回目	<p>認知症①</p> <p>[到達目標]</p> <p>認知症の概要・症状を理解する</p> <p>[備考]</p> <p>教科書 第4章 A「認知症」 事前に熟読しておいて下さい</p>	
	3回目	<p>認知症②</p> <p>[到達目標]</p> <p>認知症の概要・症状を理解する</p> <p>[備考]</p> <p>教科書 第4章 A「認知症」 事前に熟読しておいて下さい</p>	
	4回目	<p>復習講義（1～3回）</p> <p>[到達目標]</p> <p>1～3回までの講義内容の理解度を確認します</p> <p>[備考]</p> <p>1～3回で学習した内容の確認テストを行います</p>	
	5回目	<p>精神・神経疾患</p> <p>[到達目標]</p> <p>脳血管障害・うつ病について理解する。</p> <p>[備考]</p> <p>教科書 第4章 B「精神・神経疾患」事前に熟読しておいて下さい</p>	
	6回目	<p>循環器・呼吸器疾患</p> <p>[到達目標]</p> <p>循環器・呼吸器疾患について理解する。</p> <p>[備考]</p> <p>教科書 第4章 C「循環器系の疾患」・D「呼吸器系の疾患」 事前に熟読しておいて下さい</p>	
	7回目	<p>内分泌・代謝疾患</p> <p>[到達目標]</p> <p>内分泌・代謝疾患について理解する</p> <p>[備考]</p> <p>教科書 第4章 F「内分泌・代謝系の疾患」 事前に熟読しておいて下さい</p>	
	8回目	<p>復習講義（5～7回）</p> <p>[到達目標]</p> <p>5～7回までの講義内容の理解度を確認します</p> <p>[備考]</p> <p>5～7回で学習した内容のまとめを行います</p>	
	9回目	<p>腎・泌尿器疾患</p> <p>[到達目標]</p> <p>腎・泌尿器疾患について理解する</p> <p>[備考]</p> <p>教科書 第4章 I「腎・泌尿器系の疾患」</p>	

	<p>10回目 事前に熟読しておいて下さい 運動器疾患 [到達目標] 運動器疾患について理解する</p> <p>11回目 [備考] 教科書 第4章 J「運動器の疾患」事前に熟読しておいて下さい まとめ① [備考] 1～4回で学習した内容の総復習をします。</p> <p>12回目 まとめ② [備考] 5～10回で学習した内容の総復習をします。</p> <p>13回目 グループワーク① [備考] 4～5人のグループに分かれて、これまで学習した内容 グループディスカッションを行います。</p> <p>14回目 グループワーク② [備考] 4～5人のグループに分かれて、これまで学習した内容 グループディスカッションを行います。</p> <p>15回目 まとめ③ [備考] これまで学習した内容の全体まとめを行います</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	頻度の高い疾患や重要な疾患については、知識を深めるため教科書等を利用し、予習・復習等をおこなって下さい。
教科書	「老年看護 病態・疾病論」 医学書院
参考書	必要があれば、講義の中で紹介させていただきます
成績評価	出席点・発表点 (30%) 試験 (50%) グループワーク (20%) レポート点 (総合点に加味します)
担当教員の基本情報	担当教員名 : 才村 泰生 (サイムラ ヤスオ) (非常勤講師) 研究室 : 6号館非常勤講師室 メールアドレス : saimura730@gmail.com オフィスアワー : 授業終了後
備考	講義内容は、場合により変更することがあります。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	1	必修
担当教員			
松尾 憲典			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	小児に多い疾患および小児各期特有の疾患の病態、診断、治療、予後について系統別に学習し、臨床実習にむけて、看護計画をたてられるようにする。
授業計画	<p>第1講 総説（松尾） 小児科の特色の理解</p> <p>第2講 代謝・内分泌（松尾） 成長障害（成長ホルモン分泌不全関連）、1型糖尿病、尿崩症、肥満、高血圧、睪臓・下垂体・甲状腺関連の構造と機能など</p> <p>第3講 新生児疾患（伊藤） 新生児の異常と疾患、遺伝：染色体異常（常・性染色体）</p> <p>第4講 免疫・アレルギー（伊藤） よくみられるアレルギー（アレルギーの分類・喘息・食物アレルギー）、若年性リウマチ疾患、全身性エリテマトーデスなど</p> <p>第5講 正常小児（松尾） 発達、栄養</p> <p>第6講 血液疾患（松尾） 血液の構造と機能から疾患を理解：白血病、貧血、出血性疾患など</p> <p>第7講 感染症（伊藤） 知っておきたい感染症：ウイルス感染症、細菌感染症、予防接種、など</p> <p>第8講 消化器疾患（伊藤） よくみられる消化器疾患：横隔膜ヘルニア、食道裂孔ヘルニア、食道閉鎖、肥厚性幽門狭窄症、ヒルシュスプルング病、直腸肛門奇形、胆道閉鎖、急性乳幼児下痢症、消化器の構造と機能など</p> <p>第9講 循環器疾患（竹内） 循環動態から疾患の理解：先天性心疾患川崎病、乳幼児突然死症候群など</p> <p>第10講 腫瘍性疾患（伊藤） 神経芽腫、脳腫瘍</p> <p>第11講 神経・筋疾患（松尾） けいれん性疾患（てんかん、熱性けいれん）、筋疾患（筋ジストロフィー、ミトコンドリア病、重症筋無力症）など</p> <p>第12講 発達障害・精神疾患（松尾） 発達障害：広汎性発達障害（自閉症、LD、ADHD）いじめ、不登校</p> <p>第13講 小児虐待・小児救急（伊藤） 子どもの虐待、小児期に多い事故と救急処置（誤飲、溺水、熱傷など）</p> <p>第14講 腎・泌尿器疾患（竹内） 急性腎炎、ネフローゼ症候群、尿路感染症、膀胱尿管逆流（VUR）、尿道下裂、停留睾丸、腎臓・膀胱の構造と機能</p> <p>第15講 まとめ</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業前に総説、正常小児はナーシング・グラフィカ 小児の発達と看護を、その他の各論は系統看護学講座 小児看護学【2】を自習し、授業後はゼミナールを自分なりに考え、復習する。
教科書	系統看護学講座 小児看護学〔2〕 医学書院 ナーシング・グラフィカ 小児の発達と看護 MCメディア社
参考書	ナースの小児科学 中外医学社
成績評価	評価は試験90%、授業出席10%
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 竹内義博（非常勤講師） 研究室 : 滋賀医科大学 教授 オフィスアワー : 授業後</p> <p>担当教員名 : 伊藤陽里（非常勤講師） 所属 : 公立南丹病院 小児科</p> <p>担当教員名 : 松尾憲典（非常勤講師） 所属 : 田辺中央病院 小児科</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
桂 昌司			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>授業概要は、薬理学総論と各臓器の生理を簡単に復習した後、臨床応用されている薬物を中心に、これらの薬物の薬理作用、作用機序、主な副作用および臨床応用について解説します。</p> <p>薬理学は、薬と生体の相互作用の結果起こる生体機能の変化を調べる学問です。授業の到達目標は、臨床で汎用されている薬物を中心に、これらの薬物の薬理作用、作用機序、主な副作用に関する基本的な知識を習得することです。</p>
授業計画	<p>1回目 薬理学総論 [到達目標] 薬物の作用点という概念について説明できる。</p> <p>2回目 末梢神経作用薬 [到達目標] 自律神経および自律神経節作用薬の薬理作用、機序および副作用について説明できる。</p> <p>3回目 中枢神経作用薬 [到達目標] 中枢神経作用薬および精神疾患治療薬の薬理作用、機序および副作用について説明できる。</p> <p>4回目 循環器系作用薬・利尿薬 [到達目標] 循環器疾患および高血圧治療薬の薬理作用、機序および副作用について説明できる。</p> <p>5回目 炎症薬・抗アレルギー薬・血液作用薬 [到達目標] 炎症、アレルギーおよび血液疾患治療薬の薬理作用、機序および副作用について説明できる。</p> <p>6回目 消化器作用薬・内分泌疾患治療薬 [到達目標] 消化器疾患、糖尿病およびホルモン疾患治療薬の薬理作用、機序および副作用について説明できる。</p> <p>7回目 化学療法薬・漢方薬 [到達目標] 感染性疾患治療薬および漢方薬の薬理作用、機序および副作用について説明できる。</p> <p>8回目 期末試験</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	授業の前には予習してきてください。また、講義で用いた資料を用いて、薬物名、作用機序および副作用についてよく理解できるよう必ず復習してください。
教科書	「《系統看護学講座 専門基礎分野》 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進3 (第13版)」 大鹿英世、吉岡充弘、井関健 著 (医学書院)
参考書	「看護学生のための 薬理学ワークブック」食見忠弘 著 (医学書院) 「イラストで学ぶ薬理学 (第2版)」田中越郎 著 (医学書院) 「ビジュアルノート (第4版)」茨木 保 著 (MEDIC MEDIA)
成績評価	期末試験 (60%)、授業内小テスト (20%) 課題レポート提出 (10%) および授業態度 (10%) により評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 桂 昌司 研究室 : 附属病院 1階薬剤部 メールアドレス : m_katsura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	必修
担当教員			
梅田 雅宏			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>1. コンピュータの扱いに慣れ、医療情報に関する情報を独力で収集・整理を行えることを目標とします。</p> <p>2. 医療情報に含まれる用語などを理解し、表計算ソフトを用いて統計の基本を理解について学修します。コンピュータを利用した「データ処理」を身につけ、実践できる能力を身につけることを目指します。</p> <p>3. 医療情報を扱う上で重要な個人情報保護やネット社会に必要な倫理および悪意のあるプログラムなどの基本的な知識を学び、医療情報のあり方について理解を深めます。</p>
授業計画	<p>第1講 ガイダンス・統計学・疫学概念と用語の説明 [到達目標] データ提示に平均と標準偏差を用いる理由が説明できる 尺度水準が判定できる [備考] 小テストあり</p> <p>第2講 統計の考え方と対応のある t 検定 [到達目標] 対応のある t 検定 (paired t-test) が行える [備考] 小テストあり</p> <p>第3講 分散と対応の有無、対応のない t 検定 [到達目標] 統計学用語の習熟の必要性を理解し、簡単な統計学用語の説明が行える [備考] 小テストあり</p> <p>第4講 データの数値化と定量的でないデータの統計方法 [到達目標] 定量的でないデータを数値化する方法を説明できる 独力で標準偏差付グラフの作成とt検定が行える [備考] 小テストあり</p> <p>第5講 アンケートと X² (カイ 2 乗) 検定 [到達目標] 表計算ソフトでカイ 2 乗検定が行える [備考] 小テストあり</p> <p>第6講 統計用語の習熟、「グラフと表、数値」の適切な読み方と使い方 [到達目標] 統計用語が理解でき、適切に使用できる 数値を見て適切なグラフを選択できる [備考] 小テストあり</p> <p>第7講 統計手法の選択と実践 [到達目標] 数値の質を判断し、適切な統計手法を選択できる [備考] 小テストあり</p> <p>第8講 表計算および統計テスト [到達目標] 様々な 2 群の統計が独力でできる [備考] 表計算および統計のテストを実施する</p> <p>第9講 個人情報保護を知ろう [到達目標] 個人情報保護の概念が説明できる [備考] 授業内課題あり</p> <p>第10講 悪意のあるプログラムとパスワードの重要性を知ろう [到達目標] マルウェアとパスワードの重要性が理解できる [備考] 授業内課題あり</p> <p>第11講 情報セキュリティと電子カルテ概論 [到達目標] 電子カルテで使われるソフトの種類が説明できる [備考] 授業内課題あり</p> <p>第12講 データベースを使ってみよう [到達目標] データベースの基本的操作ができる</p>

	<p>第13講 [備考] 授業内課題あり ウェアラブルデバイスなどからの情報と医療との関連</p> <p>第14講 [到達目標] 健康管理デバイスとして、ウェアラブルデバイスが果たす役割を説明できる [備考] 授業内課題あり 電子カルテを中心とした病院内の医療情報のまとめ</p> <p>第15講 [到達目標] 医療情報の発生源とその関連について理解できる 医療情報システムの構造を理解できる [備考] 授業内課題あり 期末テスト [到達目標] 基本的な統計を独力で実施できる [備考]</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)に ついて	<p>この講義は実習形式で行います。時間内に作業が進められるように以下のように準備および復習を行ってください。</p> <p>1) 次の講義の最初に前回の小テストを行いますので必ず復習を行い解答できるようにしておいて下さい。</p> <p>2) 用語の理解と併せてコンピュータスキルの獲得に努めて下さい。</p> <p>3) 分からない用語などは積極的にwebによる検索などを利用して各自まとめておいて下さい。</p> <p>4) webブラウザのブックマークやリンクの活用、ファイルフォルダを利用したファイル整理などを活用し情報の整理を心がけて下さい。(http://www.meiji-u.ac.jp/md-medinfoの情報リテラシーを参考に)</p> <p>5) 講義をやむなく欠席した場合は必ず前回講義内容を復習し、演習問題を解答してください。分からない場合は病院1F放射線科奥のMRセンターへ梅田を訪ねてください。(もしくはume@meiji-u.ac.jp宛てに、件名:[医療情報学講義に関する質問] 宛先:梅田教授として、最後に学籍番号と氏名を記述してメールして下さい。</p>
教科書	<p>ホームページを利用する。</p> <p>学内専用ホームページ http://mmh1.meiji-u.ac.jp/moodle</p> <p>大学webの医療統計のページ http://www.meiji-u.ac.jp/md-medinfo/lecture/medinfo_intro http://www.meiji-u.ac.jp/md-medinfo/lecture/med_stat/med_stat1</p>
参考書	<p>医療・保健学のためのやさしい統計学 978-4-307-77171-9 正井栄一, 金原出版 3,132円 活用事例でわかる!統計リテラシー 本田直也, NOA出版, 1667円</p>
成績評価	<p>表計算・統計関連 小テスト14%、期末テスト60% セキュリティ・電子カルテ・医療情報関連 授業内課題26%</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○梅田雅宏 研究室 : 病院1階 MR センター メールアドレス : ume@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00</p> <p>担当教員名 : 渡邊 康晴 研究室 : 病院1階 MR センター メールアドレス : nabe@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00</p> <p>担当教員名 : 河合 裕子 研究室 : 病院1階 MR センター メールアドレス : kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
正野 良幸			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	日本では現在、少子高齢化が進み、社会福祉が抱える問題は大きくなっています。また、所得格差が拡大し、貧困問題も重要な問題点となっています。このような日本の社会問題を把握し、歴史的展開や法律、制度・政策、実施主体等を学ぶことにより、幅広い知識や技術を身につけていただきたいと思います。 また、海外の社会福祉の状況を学び日本と比較することで、今後の日本はどのような方向をたどるべきか、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション・社会福祉の基礎概念 [到達目標] 社会福祉の概要やノーマライゼーションの意味を理解することができる。 [備考] 日頃から、新聞やニュースに興味を持ち、日常生活におこる社会問題について、考えて下さい。(以下同じです。)</p> <p>2回目 社会福祉の歴史と展開 [到達目標] 日本の社会福祉に関する歴史的展開を把握し、現代と比較することができる。</p> <p>3回目 諸外国の社会福祉① [到達目標] スウェーデンの社会福祉について理解し、日本の社会福祉と比較することができる。</p> <p>4回目 社会福祉の仕組みと運営 [到達目標] 社会福祉行財政の仕組みについて理解することができる。</p> <p>5回目 社会福祉の援助と方法 [到達目標] ソーシャルワークとは何か？について考えることができる。</p> <p>6回目 諸外国の社会福祉② [到達目標] イギリスの社会福祉について理解し、日本の社会福祉と比較することができる。</p> <p>7回目 これからの社会福祉の課題 [到達目標] 今後の社会福祉の課題について、何が問題であり、どのような解決策があるのかを考えることができる。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	日常生活の中で、ニュースや新聞などに興味を持っていただくと良いかと思います。
教科書	毎回、プリントを配布します。
参考書	厚生労働省編[2014],『厚生労働白書(平成26年版)』日経印刷株式会社。 山縣文治・岡田忠克編[2012],『よくわかる社会福祉』ミネルヴァ書房。 山本隆・山本恵子・岩満賢次・正野良幸・八木橋慶一編[2010],『よくわかる福祉財政』ミネルヴァ書房。
成績評価	出席状況や授業態度を考慮し、授業の最終日に筆記試験を行います。 出席状況20% 授業態度10% 筆記試験70%
担当教員の基本情報	担当教員名 : 正野 良幸 (非常勤講師) 研究室 : メールアドレス : syouno@kyoto-wu.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択必修
担当教員			
上仲 久			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	看護を実践する中で、対象に対して温かい援助的な人間関係がとれるようになるためには、専門的な知識と技術が必要となる。人間関係の援助法として、また、対象への心のケアのためにカウンセリングの理論と方法論を学習する。
授業計画	<p>第1回 本講義の概要：コミュニケーションとカウンセリングについて [到達目標] カウンセリングが、どのような行為をさしているのかを説明できる。</p> <p>[授業時間外学習の指示等] 配布プリントの内容を読みなおし、自分自身の学びをまとめておくこと。</p> <p>第2回 コミュニケーション [到達目標] 非言語の世界(DVD) 体験している現実はある人それぞれであることを理解できる。言葉を使い思考し体験する現実を構成するという意味を知る。 [授業時間外学習の指示等] 配布プリントの内容を読みなおし、自分自身の学びをまとめておくこと。</p> <p>第3回 個人心理学の考え方 [到達目標] Encouragement(勇気づけ)の方法について説明できる。 [授業時間外学習の指示等] 配布プリントの内容を読みなおし、自分自身の学びをまとめておくこと。</p> <p>第4回 論理療法 [到達目標] ABC理論について説明できる。他者に対して言葉を上手に編んでプレゼントすることができる。 [授業時間外学習の指示等] 配布プリントの内容を読みなおし、自分自身の学びをまとめておくこと。</p> <p>第5回 認知療法の考え方 [到達目標] 認知の歪みについて説明でき、自らの中の認知の偏りに気づくことができる。 [授業時間外学習の指示等] 配布プリントの内容を読みなおし、自分自身の学びをまとめておくこと。</p> <p>第6回 マイクロカウンセリング [到達目標] 基本的かかわり技法を用いたコミュニケーションができる。技法を説明できる。 [授業時間外学習の指示等] (レポート課題の提示) 配布プリントの内容を読みなおし、自分自身の学びをまとめておくこと。</p> <p>第7回 アサーティブな自己主張 [到達目標] 自己表現の特徴を理解し、主張的な自己表現のコツについて述べることができる。 [授業時間外学習の指示等] 配布プリントの内容を読みなおし、自分自身の学びをまとめておくこと。</p> <p>第8回 まとめ [到達目標] 講義内容を振り返り自分自身のコミュニケーションスタイルについて内省したことを言葉で表現できる。 カウンセリングの技法を理解し看護に生かす基礎的な知識を習得する。</p> <p>筆記試験を実施する。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	来談者中心療法・論理療法・認知療法・認知行動療法について調べておくこと。 講義の中で近隣の学生と対話することなどがあるが、真面目に実践すること。
教科書	指定しない
参考書	<p>「マイクロカウンセリング技法—事例場面から学ぶ」 福原 眞知子 監修 (風間書房) (2007)</p> <p>「認知療法・認知行動療法カウンセリング初級ワークショップ—CBTカウンセリング」 伊藤 絵美 著 (星和書店) (2005)</p> <p>「ナースのためのアサーション」 平木 典子、野末 聖香、沢崎 達夫 著(金子書房) (2002)</p> <p>「セルフ・アサーション・トレーニング」 菅沼 憲治 著 (東京図書) (2009)</p> <p>「実践論理療法入門—カウンセリングを学ぶ人のために」 ウインディ ドライデン (著), レイモンド デジサッピ (著), 菅沼 憲治 (翻訳) (岩崎学術出版社) (1997)</p> <p>「アドラー心理学トーキングセミナー —性格はいつでも変えられる」 野田 俊作 著(星雲社) (1989)</p>
成績評価	授業への参加(24%)やレポート(50%)・小テスト(26%)による総合評価
担当教員の基本情報	担当教員名 : 上仲 久 研究室 : 10号館7階研究室

	メールアドレス : uenaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (事前にメールにて約束をとること) 担当教員名 : 未定 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー :
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	必修
担当教員			
田中 眞里子			
配当学部：看護学部	時間数：60時間	授業形態：講義・演習	

授業目標	<p>1) 基礎となる治療的看護技術の方法とその根拠が理解でき、安全・安楽に技術が提供できる知識・技術・態度を習得する。</p> <p>2) 医療事故防止の基本を理解し、患者の安全を守るための方法を習得するとともにその責任について考える。</p> <p>3) 検査・治療という直接的に患者の生命に影響を与える場での、看護者として必要な倫理を身につける。</p>
授業計画	<p>第1回 治療的看護技術とは 【学習目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・治療的看護技術の概念が理解できる。 ・検査・治療を受ける人々の看護と看護師の役割・責任・倫理について考えることができる。 <p>第2回3回 感染を予防する技術 隔離（講義・演習） 【学習目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染予防のための看護技術及び援助方法が理解できる。 ・清潔・汚染区域でのガウンテクニックが実施できる。 <p>第4回5回 感染を予防する技術 無菌操作、創傷処置（講義・デモンストレーション） 【学習目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無菌操作の概念及び滅菌物の取り扱い方法が理解できる。 ・創傷治癒過程に基づいた創傷管理の方法が理解できる。 <p>第6回7回 感染を予防する技術 無菌操作、創傷処置、包帯法（演習） 【学習目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原理原則に基づいた無菌操作が実施できる。 ・創傷処置の介助が実施できる。 ・治療の目的や用途に応じた巻軸包帯・三角巾・絆創膏の方法が理解できる。 ・障害に応じた包帯法が実施できる。 <p>第8回9回 症状・生体機能管理技術、診察・検査・処置の介助技術 【学習目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検体検査、生体情報のモニタリングについて理解する <p>第10回11回 排泄の援助 導尿（講義・デモンストレーション） 【学習目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排尿困難時の排泄の援助としての導尿の意義と方法が理解できる。 ・無菌操作による導尿の方法（滅菌包みの開け方、滅菌手袋の装着を含む）が述べられる。 <p>第12回13回 排泄の援助 導尿（演習） 【学習目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無菌操作による導尿の方法が安全・安楽に実施できる。 <p>第14回15回 吸引・酸素療法（講義・デモンストレーション・演習） 【学習目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸を整えるための吸引、吸入の基本的な方法が述べられる。 ・モデル人形を用いて安全に吸引・吸入が実施できる。 ・酸素ポンペの取り扱い方法を理解し、安全に酸素療法が実施できる。 <p>第16回17回 静脈血採取法（講義・デモンストレーション） 【学習目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検査・治療時の看護者の役割が理解できる。 ・原理原則に基づいた静脈血採取の基本的な方法が理解できる。 <p>第18回19回 静脈血採取法（演習） 【学習目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全・安楽に採血モデルに静脈血採血が実施できる。 <p>第20回21回 与薬と医療事故（講義） 【学習目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与薬の概念及び目的、方法が理解できる。 ・薬物の取り扱いと法的根拠について理解できる。 ・与薬方法と薬理作用、留意点が理解できる。 ・医療の場におけるさまざまな危険性と与薬事故について理解し、自己の考えを述べるができる。 <p>第22回23回 与薬の技術（講義） 【学習目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与薬を受ける患者への与薬援助技術に関する知識・技術・態度が理解できる。 <p>第24回25回26回 与薬の技術 筋肉内注射の方法（デモンストレーション・演習） 【学習目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師の指示に基づいた、筋肉内注射の準備が実施できる。 ・モデル人形に安全かつ正確に筋肉内注射（上腕・臀部）が実施できる。 <p>第27回28回 輸液・輸血（講義・演習） 【学習目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸液に関する基礎的知識が理解できる。 ・輸液の管理の方法を理解し、安全かつ正確にモデル人形に実施できる。

	<p>(輸液の準備・穿刺・固定・輸液速度の調整)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸液の滴下量の設定及び時間の管理方法が理解できる。 ・血液の管理と輸血の方法を理解し、安全かつ正確な実施方法が理解できる。 ・輸血に関する医療事故について考えることができる。 <p>第29回30回 技術試験 課題はおって提示する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> ・この科目は、治療的看護技術の習得となるため、解剖学・生理学・薬理学・免疫学の知識の復習をして講義に臨むこと。 ・各技術は、感染や与薬といった一つ一つの技術が患者の生命を脅かしかねないため、自己学習をしっかりと行い確実な技術をマスターすること。 ・各技術は、事例に基づく援助計画が実施できるような演習を行うため、看護過程論の知識を連動させること。 ・技術の自己学習(練習)のために、実習室は9:30～19:00まで使用可能。希望者は申請の上、自主的に練習すること。 ・事前学習、事後学習課題は講義内で指示する。レポート等は、必ず期限を守って提出すること。提出物はすべて成績評価の対象とする。
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 「新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ」 深井喜代子編集, メジカルフレンド社 2) 「新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ」 深井喜代子編集, メジカルフレンド社 3) 「看護技術プラクティス」 学研 4) 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」 医学書院 <p>1), 2) は1年次に購入済み</p>
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 「基礎看護技術 第7版」: 阿曾洋子, 井上智子, 氏家幸子(編著), 医学書院, 2013. 2) 「写真でわかる臨床看護技術①」: 本庄恵子, 吉田みつ子(監修), インターメディカ, 2012.
成績評価	<p>講義演習の3/5以上の出席が定期試験受験の要件であり、また技術試験、筆記試験共に60%以上の到達であることが成績評価の対象となる。その他提出されたレポート等を総合的に評価する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 田中眞里子 研究室 : 10号館7F メールアドレス : m_tanaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日14:00-15:00</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
仲口 路子			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護過程の概念が理解できる。 2) 系統的思考プロセスの各段階とその相互関係について理解できる。 3) 演習を通して看護過程の展開方法について具体的に理解し、実施できる。 4) 看護診断について概要が理解できる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 導入／オリエンテーション 看護過程を学ぶにあたって 2 看護過程 概論 看護過程とは、看護過程と看護理論 看護過程の意義・概要・構造（各段階）を理解する 看護過程と代表的な看護理論の関連を理解する 3 アセスメント 情報収集の理解と方法（S情報／O情報） 4 アセスメント 情報の分析と解釈の理解と方法 ゴードンの機能的健康パターンと看護診断（カルペニート） 5 アセスメント 関連図の理解と方法 6 診断 看護診断の理解と方法 7 診断 診断名の構成と優先順位の理解と方法 8 計画 看護計画の構成の理解と方法 9 計画 具体的な計画とは 10 実施 計画を実施することについての理解と方法 11 評価 評価とは 評価についての理解と方法 12 事例展開 事例を提示するので看護過程の各段階について展開する 13 事例展開 事例を提示するので看護過程の各段階について展開し、提出する 14 事例展開 発表会 15 筆記試験
授業時間外の学習（準備学習等）について	看護過程は看護師として必要な基本的な思考過程を学ぶ科目である。したがって、看護過程を理解できないと、看護師としてはもとよりそれ以前に基礎看護学実習において看護を展開することができないことになる。各自が積極的に授業に参加し看護過程をしっかりと理解することがとても重要となる。看護過程を十分理解するために事例展開を行うので、適宜レポートの提出を求める。
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 「看護過程の解体新書」学研メディカル秀潤社 2) 「NANDA-I看護診断 定義と分類 2015-2017 原書第10版」医学書院 3) 「すぐに役立つ標準看護計画 第2版」照林社 4) 「新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術」メヂカルフレンド社 <p>※ 4) については1年次に購入済み</p>
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 「看護過程展開ガイド」任和子 照林社 2) 「標準看護計画」矢田昭子，泰美恵子編集 照林社 3) 「看護学生のためのブチナース・ブックス 自分で描ける 病態関連図」山岸節子編集 照林社 4) 「エビデンスに基づく症状別看護ケア関連図」阿部俊子監修 中央法規 5) 「エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図」阿部俊子監修 中央法規
成績評価	出席状況，レポートの提出状況と内容，筆記試験等で総合的に評価する。

担当教員の基本情報	担当教員名 : 仲口 路子 研究室 : 10号館 7階 712研究室 メールアドレス : nakaguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜 1 限目 (それ以外は2日前までにメールで連絡すること)
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
仲口 路子			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	1) 看護過程の全段階の理解を深めることができる 2) 基礎看護学実習Ⅱの受け持ち患者に実施した看護の実際を振り返り、看護過程全体の評価ができる 3) 看護過程全体を振り返り、看護についての考察を深め、レポートにまとめることができる
授業計画	1 導入／オリエンテーション 基礎看護学実習Ⅱでの看護実践の振り返り（グループワーク） 授業内レポート：看護過程でもう一度学びたい内容とその理由 2 アセスメント（質問内容／実際にあった出来事からの学び） 情報収集／情報の分析・解釈で困ったこと 3 アセスメント 関連図で困ったこと 4 診断 看護診断の定義について 5 診断 看護診断の表し方について 優先順位について 6 計画 計画の内容の精査 7 実施／評価 実施および評価についての学びを深める 8 まとめ／倫理原則について 領域実習に向けて、全体の学びを深める
授業時間外の学習（準備学習等）について	・看護過程論Ⅰで学んだ内容を復習して講義にのぞむこと ・講義と演習を行うので、それぞれに毎回課題を課す。提出期限を守って必ずレポートを提出すること。なお提出されたレポートはすべて成績評価の対象とする
教科書	1) 「看護過程の解体新書」学研メディカル秀潤社 2) 「NANDA-I看護診断 定義と分類 2015-2017 原書第10版」医学書院 3) 「すぐに役立つ標準看護計画 第2版」照林社 4) 「新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術」メヂカルフレンド社
参考書	1) 「看護過程展開ガイド」任和子 照林社 2) 「基準看護計画」矢田昭子、泰美恵子編集 照林社 3) 「看護学生のためのプチナース・ブックス 自分で描ける 病態関連図」山岸節子編集 照林社 4) 「エビデンスに基づく症状別看護ケア関連図」阿部俊子監修 中央法規 5) 「エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図」阿部俊子監修 中央法規
成績評価	出席が全体の3/5以上であることを必須要件とし、筆記試験またはレポート、課題の提出状況と内容等を加味し、総合的に評価する
担当教員の基本情報	担当教員名 : 仲口 路子 研究室 : 10号館 7階 714研究室 メールアドレス : nakaguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜1限 この時間以外はメールで相談すること
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
田中 眞里子			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：講義・演習	

授業目標	1) 健康状態のアセスメントに必要な知識を学習し、看護におけるヘルスアセスメントの視点を養う。 2) 全身のアセスメントを系統立てて実施できる基礎的知識・技術・態度を習得する。
授業計画	<p>第1回 フィジカルアセスメントの概念(講義) 【学習目標】 ・フィジカルアセスメントの概念が理解でき、系統別アセスメントの視点がわかる。 ・フィジカルイグザミネーションの方法が理解できる。</p> <p>第2回 一般状態の観察とアセスメント/身体計測の方法(講義) 【学習目標】 ・栄養状態、排泄、活動、睡眠などの一般状態の観察及びアセスメントの方法が述べられる。 ・身体計測の方法が述べられる。</p> <p>第3回 呼吸系のヘルスアセスメント(講義) 【学習目標】 ・肺・胸郭のアセスメントの方法が理解できる。</p> <p>第4回 呼吸系のヘルスアセスメント(演習) 【学習目標】 ・肺・胸郭のフィジカルイグザミネーションが実施できる。 ・肺・胸郭のアセスメントが的確に実施できる。</p> <p>第5回 循環器系のヘルスアセスメント(講義) 【学習目標】 ・心・血管系のアセスメント方法が理解できる。</p> <p>第6回 循環器系のヘルスアセスメント(演習) 【学習目標】 ・心・血管系のフィジカルイグザミネーションが実施できる。 ・心・血管系のアセスメントが的確に実施できる。</p> <p>第7回 消化器系のヘルスアセスメント(講義) 【学習目標】 ・消化器系(栄養・代謝・排泄)のアセスメント方法が理解できる。</p> <p>第8回 消化器系のヘルスアセスメント(演習) 【学習目標】 ・消化器系(栄養・代謝・排泄)のフィジカルイグザミネーションが実施できる。 ・消化器系(栄養・代謝・排泄)のアセスメントが的確に実施できる。</p> <p>第9回 感覚器系のヘルスアセスメント(講義) 【学習目標】 ・視覚・聴覚・皮膚知覚のアセスメントの方法が理解できる。</p> <p>第10回 感覚器系のヘルスアセスメント(演習) 【学習目標】 ・視覚・聴覚・皮膚知覚のフィジカルイグザミネーションが実施できる。 ・視覚・聴覚・皮膚知覚のアセスメントが的確に実施できる。</p> <p>第11回 脳神経系のヘルスアセスメント(講義) 【学習目標】 ・脳神経系のアセスメントの方法が理解できる。</p> <p>第12回 脳神経系のヘルスアセスメント(演習) 【学習目標】 ・脳神経系のフィジカルイグザミネーションが実施できる。 ・脳神経系のアセスメントが的確に実施できる。</p> <p>第13回 筋・骨格系のヘルスアセスメント(講義) 【学習目標】 ・筋・骨格系(身体計測、関節可動域)のアセスメントの方法が理解できる。</p> <p>第14回 筋・骨格系のヘルスアセスメント(演習) 【学習目標】 ・筋・骨格系(関節可動域)のフィジカルイグザミネーションが実施できる。 ・筋・骨格系(関節可動域)のアセスメントが的確に実施できる。</p> <p>第15回 事例に基づきシステムレビュー(ロールプレイ演習) ・事例に基づき、患者の訴えから全身のアセスメントを系統立てて実施することができる。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> ヘルスアセスメントⅠ、人体の機能と構造・生理学等の基礎知識がないと全身を系統的にアセスメントすることができないので、事前学習として必要な知識を予習して授業に臨むこと。特に人体の部位と名称、その機能が分からないと演習が実施できないため、十分に学習しておくこと。 技術の自己学習(練習)のために、実習室は9:30～19:00まで使用可能。希望者は申請の上、自主的に練習すること。 事前学習、事後学習課題は講義内で指示する。レポート等は、必ず期限を守って提出すること。提出物はすべて成績評価の対象とする。
教科書	1) 「新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ第3版」：深井喜代子編集，メジカルフレンド社，2014.

	2) 「看護技術プラクティス」学研 3) 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院
参考書	1) 「はじめてのフィジカルアセスメント」：横山美樹（著），メジカルフレンド社，2012. 2) 「フィジカルアセスメントガイドブック」：山内豊明 編著，医学書院，2011. 3) 「ぜんぶわかる人体解剖図」阪井建雄・橋本尚詞（著），成美堂出版，2015. 4) 「ヘルスアセスメント臨床実践能力を高める」三上れつ，小松万喜子，小林正弘(著)，南江堂，2014.
成績評価	講義演習の3/5以上の出席が定期試験受験の要件であり、また筆記試験60%以上の到達であることが成績評価の対象となる。その他提出されたレポート等を総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 田中 真里子 研究室 : 10号館7F メールアドレス : m_tanaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日14:00-15:00
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	必修
担当教員			
仲口 路子			
配当学部：看護学部	時間数：90時間	授業形態：実習	

授業目標	<p>看護の対象を理解し、看護過程の展開ができる基礎的能力を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 指導のもとに受け持ち患者を総合的に理解し、看護過程の展開ができる。 2) 指導のもとに患者の個別性にあわせた看護援助が実施できる。 3) 患者と患者をとりまく人々と良い関係を築き、看護学生としてふさわしい行動をとることができる。 4) 実習経験を通して看護について考え、看護専門職者をめざす自己の課題を明確にできる。
授業計画	<p>1日目 病院・病棟オリエンテーション、受け持ち患者把握 病院オリエンテーション、病棟オリエンテーション、受け持ち患者紹介 受け持ち患者の把握 ・日常生活状況の把握 ・アセスメント 援助場面の見学・実施、受け持ち患者の情報収集</p> <p>2日目 受け持ち患者把握 受け持ち患者の把握 ・日常生活状況の把握 ・アセスメント 援助場面の見学・実施、受け持ち患者の情報収集</p> <p>3日目 全体像把握 受け持ち患者の全体像把握 ・情報収集、病棟の計画に沿った援助の実施</p> <p>4日目 学内実習 全体像把握 看護上の問題点の抽出 情報収集・全体像・看護計画の立案の指導を受ける</p> <p>5日目 看護計画の立案 実現可能な看護計画の立案 ・問題点の中から日常生活の援助を視点においた看護計画を立案（1～2） ・中間評価の提出</p> <p>6日目 看護計画の確認と実施 看護計画の確認と修正、実施 ・立案した計画が実現可能かを指導者に確認・助言・指導を受け、計画の修正 ・立案した計画に基づいて指導者と共に援助の実施 ・中間評価のフィードバック（返却）</p> <p>7日目 看護計画の実施・評価・修正 援助の実施・評価 ・看護過程展開の確認と指導を受ける ・修正した計画に基づいて援助の実施と評価</p> <p>8日目 看護計画の実施・評価・修正 援助の実施・評価 ・看護過程展開の確認と指導を受ける ・修正した計画に基づいて援助の実施と評価</p> <p>9日目 看護計画の実施・評価 援助の実施・評価 ・看護過程展開の確認と指導を受ける ・修正した計画に基づいて援助の実施と評価</p> <p>10日目 カンファレンス・まとめ 午後：病棟ごとの最終カンファレンス（まとめ）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ol style="list-style-type: none"> 1) 受け持ち患者の全体像の把握、病態生理の理解に努めること。 2) 看護過程論Ⅰでの学びを活かし、受け持ち患者の看護過程展開に努めること。 3) 安全・安楽・自立を念頭に置き、その人にあった看護援助方法を考え実践する。
教科書	実習要項を事前に配布する
参考書	「看護学概論」「看護基礎理論」「基礎看護援助論Ⅰ，Ⅱ」「ヘルスアセスメントⅠ，Ⅱ」「看護過程論Ⅰ，Ⅱ」で学習したテキスト・資料、および紹介した文献
成績評価	<ol style="list-style-type: none"> 1) 実習時間の5分の4以上の出席がなければ評価の対象とはならない。 2) 実習目標達成度を実習内容、実習姿勢、実習記録、レポート等により総合的に100%で評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：仲口 路子 研究室：10号館7F 712研究室 メールアドレス：nakaguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時</p> <p>担当教員名：田中 眞里子 研究室：10号館7F 701研究室 メールアドレス：m_tanaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時</p>

	<p>担当教員名 : 伊賀さくら 研究室 : 10号館6F 782共同研究室 メールアドレス : s_iga@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 大橋 映里 研究室 : 10号館6F 781共同研究室 メールアドレス : e_ohashi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p>
備考	<p>[実習期間] 1クール目：平成29年1月30日（月）～2月10日（金） 2クール目：平成29年2月13日（月）～2月24日（金） 3クール目：平成29年2月27日（月）～3月10日（金） 但し12月20日（火），1月27日（金），2月10日（金），2月24日（金）実習オリエンテーション 3月10日（金）実習まとめ（学内）</p>
	<p>[実習場所] 明治国際医療大学附属病院 綾部市立病院 公立南丹病院 京都市立病院 草津総合病院 洛西清水病院</p>
	<p>[実習方法] 成人期～老年期にある患者を1名受け持ち、看護師・教員の指導のもとに看護過程を展開する。</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
藤田 智恵子 今井 理香 原久美子			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	成人期にある対象の急性期から回復期までの過程における基本的な看護について学ぶ。特に、周手術期看護を理解する上で必要な基礎的な知識を学ぶ。
授業計画	<p>1回 急性期・周手術期とは [到達目標]急性期（特に周手術期）の看護の特徴と役割が理解できる。 [備考]発達課題（青年期・壮年期）、急性期について自己学習。</p> <p>2回 手術前の看護 [到達目標]手術に向けての準備と援助方法が理解できる。 [備考]各種検査、術前オリエンテーション、術前カレンダーについて自己学習。</p> <p>3回 手術中の看護 [到達目標]手術室及び回復室看護の役割が理解できる [備考]手術室の環境と特徴、ストレス緩和のための補完代替療法について自己学習。</p> <p>4回 手術直後の看護 [到達目標]手術後の受け入れ方法と観察方法が理解できる [備考]術後ベッド、麻酔覚醒後の観察方法について自己学習。</p> <p>5回 手術後の看護 [到達目標]観察方法とアセスメントの視点が理解できる。 [備考]創部・体内留置ドレーンなどの観察方法、ドレーン留置位置、生命危機状態のモニタリングについて自己学習。</p> <p>6回 回復期の看護 [到達目標]術後の継続看護の必要性が理解できる。 [備考]社会資源・社会保障制度について自己学習。</p> <p>7回 生命危機状態にある患者の看護 [到達目標]ICU看護の特徴と役割について理解できる。 [備考]ICUの環境と特徴、ICUに入室する対象、せん妄について自己学習。</p> <p>8回 テスト</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	講義中に提示。
教科書	<p>1) 臨床外科看護総論 青木照明他 医学書院</p> <p>2) 周手術期看護論 雄西智恵美他 ヌーヴェルヒロカワ</p> <p>3) 救急看護学 山勢博彰 医学書院</p> <p>4) 成人看護実習ガイド I (急性期・周手術期) 井上智子 照林社</p>
参考書	1) 講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護1 外来/病棟における術前看護 竹内登美子編著 医歯薬出版株式会社
成績評価	出席状況・授業態度5%、レポート15%、筆記試験80%として総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 藤田智恵子 研究室 : 10号館8階研究室802 メールアドレス : c-fujita@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日15:00-16:00</p> <p>担当教員名 : 今井理香 研究室 : 10号館7階 研究室703 メールアドレス : r_imai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義中に指示</p> <p>担当教員名 : 原久美子 研究室 : 10号館7階 研究室709 メールアドレス : k_hara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義中に指示</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
藤田 智恵子 今井 理香 原 久美子			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	既習の知識をふまえて、麻酔や手術、突然の発症による生体侵襲が心身に及ぼす影響について学ぶ。また、生体侵襲による心身に及ぼす影響を予防するために必要な知識・技術・態度について学ぶ。そして、症状別、疾患別など対象の病態・状態に応じた看護について学ぶ。 1) 周手術期または生命危機にある対象の系統的なアセスメントの視点が理解できる。 2) 術後の機能障害が対象のセルフケア能力に及ぼす影響についてアセスメントすることができる。 3) 看護過程を通して、周手術期または生命危機にある対象の看護を考えることができる。 4) 周手術期に必要な看護技術が習得できる。 5) 対象の病態・状態をふまえ、統合医療の理念を取り入れた看護を考えることができる。 6) 看護過程を通して対象に応じた看護実践について考えることができる。
授業計画	<p>1回 術後合併症と看護① [到達目標]術後合併症の原因と発生機序をふまえた術前アセスメントの視点、予防等を理解できる。 [備考]術後合併症については夏季休暇前に課題提示。</p> <p>2回 術後合併症と看護② [到達目標]術後合併症の観察の視点と早期離床の目的と方法を理解できる。 [備考]早期離床とその目的について自己学習。術後カレンダーの作成。</p> <p>3回 周手術期の患者の看護① [到達目標]呼吸器系の手術を受ける患者の特徴を理解できる。 [備考]呼吸器系の解剖・生理、肺がんの原因、症状、診断、治療について自己学習。</p> <p>4回 周手術期の患者の看護② [到達目標]呼吸器系の手術を受ける患者の看護を理解できる。 [備考]前時間に指示。</p> <p>5回 周手術期の患者の看護③ [到達目標]消化器系の手術を受ける患者の特徴を理解できる。 [備考]消化器系の解剖・生理、胃がんの原因、症状、診断、治療について自己学習。</p> <p>6回 周手術期の患者の看護④ [到達目標]消化器系の手術を受ける患者の看護を理解できる。 [備考]前時間に指示。</p> <p>7回 周手術期の患者の看護⑤ [到達目標]乳腺系の手術を受ける患者の特徴と看護を理解できる。 [備考]乳腺系の解剖・生理、乳がんの原因、症状、診断、治療、リンパマッサージ、リラクゼーションについて自己学習。</p> <p>8回 看護過程の展開① [到達目標]事例に応じた情報の整理と分析ができる。 [備考]看護過程の課題①（前時間に指示）</p> <p>9回 看護過程の展開② [到達目標]事例に応じた問題点が抽出できる。 [備考]看護過程の課題②（前時間に指示）</p> <p>10回 看護過程の展開③ [到達目標]事例に応じた看護計画が立案できる。 [備考]看護過程の課題③（前時間に指示）</p> <p>11回 急性期看護に必要な看護技術① [到達目標]生命危機状態にある患者の観察・看護技術が習得できる。 [備考]看護技術の課題①（前時間に指示）</p> <p>12回 急性期看護に必要な看護技術② [到達目標]早期離床に必要な看護技術が習得できる。 [備考]看護技術の課題②早期離床の課題（前時間に指示）</p> <p>13回 重症患者の看護① [到達目標]循環器系の重症患者の看護が理解できる。 [備考]循環器系の解剖・生理、虚血性心疾患の原因、症状、診断、治療について自己学習。</p> <p>14回 重症患者の看護② [到達目標]呼吸器系の重症患者の看護が理解できる。 [備考]呼吸器系の解剖・生理、呼吸不全の原因、症状、診断、治療、人工呼吸器について自己学習。</p> <p>15回 テスト</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義中に提示。
教科書	1) 急性期看護援助論Ⅰに同じ 2) 臨床外科看護各論 北島政樹 医学書院 3) 系統看護学講座 成人看護2・3・5呼吸器、循環器、消化器 浅野浩一郎他 医学書院

参考書	1) 講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護2・3 術中術後の生体反応と急性期看護 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護 竹内登美子 医歯薬出版株式会社 2) カラー版 まんがで見る 術前・術後のケアのポイント 下間正隆 照林社
成績評価	出席状況・授業態度5%、レポート15%、筆記試験80%として総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 藤田智恵子 研究室 : 10号館8階 研究室802 メールアドレス : c-fujita@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日15:00-16:00</p> <p>担当教員名 : 今井理香 研究室 : 10号館7階 研究室703 メールアドレス : r_imai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義中に指示</p> <p>担当教員名 : 原久美子 研究室 : 10号館7階 研究室709 メールアドレス : k_hara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義中に指示</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
小倉 之子			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	1) 慢性に経過する健康障害の特徴および健康障害が生活に与える影響について理解する。 2) 慢性に経過する健康障害をもつ成人期の患者とその家族が、健康障害を受容し対処していくための看護援助の方法について理解する。
授業計画	<p>1回 〔授業概要〕 慢性病と看護 〔到達目標〕 慢性病をもつ人々における看護の特徴を学ぶ。 〔備考〕 ・1年次に成人看護学概論で学んだことを復習しておく。</p> <p>2回 〔授業概要〕 生活の再編成を必要とする患者とその家族への看護（1） 〔到達目標〕 慢性の呼吸機能障害（COPD、気管支喘息）をもつ人々における看護の役割が理解できる。 〔備考〕 ・教科書の〔慢性の呼吸機能障害をもつ患者の看護〕の項を読んでおく。</p> <p>3回 〔授業概要〕 生活の再編成を必要とする患者とその家族への看護（2） 〔到達目標〕 慢性の栄養摂取・消化機能障害をもつ人々における看護の役割が理解できる。 〔備考〕 ・教科書の〔慢性の栄養摂取・消化機能障害をもつ患者の看護〕の項を読んでおく。</p> <p>4回 〔授業概要〕 生活の再編成を必要とする患者とその家族への看護（3） 〔到達目標〕 慢性の循環機能障害（狭心症）をもつ人々における看護の役割が理解できる。 〔備考〕 ・教科書の〔慢性の循環機能障害をもつ患者の看護〕の項を読んでおく。</p> <p>5回 〔授業概要〕 生活の再編成を必要とする患者とその家族への看護（4） 〔到達目標〕 慢性の循環機能障害（心不全）をもつ人々における看護の役割が理解できる。 〔備考〕 ・教科書の〔慢性の循環機能障害をもつ患者の看護〕の項を読んでおく。</p> <p>6回 〔授業概要〕 生活の再編成を必要とする患者とその家族への看護（5） 〔到達目標〕 慢性肝炎・肝硬変・肝臓がんの人々における看護の役割が理解できる。① 〔備考〕 ・教科書の〔慢性の栄養摂取・消化機能障害をもつ患者の看護〕の項を読んでおく。</p> <p>7回 〔授業概要〕 生活の再編成を必要とする患者とその家族への看護（6） 〔到達目標〕 慢性肝炎・肝硬変・肝臓がんの人々における看護の役割が理解できる。② 〔備考〕 ・教科書の〔慢性の栄養摂取・消化機能障害をもつ患者の看護〕の項を読んでおく。</p> <p>8回 まとめ 〔到達目標〕 〔備考〕 終講試験</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	・毎授業時、「授業計画」の〔備考〕を参照して下さい。
教科書	『慢性期看護論』（ヌーヴェルヒロカワ）教科書を元に授業を進めるので、必ず授業時毎回持参して下さい。 『疾病治療論』教材（『系統看護学講座 成人看護学②呼吸器、③循環器、⑤消化器』（医学書院）
参考書	『病気がみえる（1）～（4）』（MEDIC MEDIA） 『ナーシング・グラフィカ成人看護学③セルフマネジメント』（メディカ出版）
成績評価	出席状況、授業課題レポート、筆記試験で総合的に評価します。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 小倉 之子 研究室 : 10号館（看護学部棟）8階801 メールアドレス : y_ogura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 適時対応します</p> <p>担当教員名 : 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー :</p> <p>担当教員名 : 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー :</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
小倉 之子、宇城 靖子、鈴木 規子			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	1) 慢性に経過する健康障害をもつ成人期の患者とその家族が、健康障害を受容し対処していくための看護援助の方法について理解する。 2) 慢性病をもつ成人期の患者にふさわしい看護援助法について演習や事例を通して学ぶ。 3) 慢性に経過する健康障害をもつ成人期の患者の日常生活を維持・支援するための看護活動や継続看護の必要性・方法を理解する。
授業計画	<p>1回 [授業概要] 生活の再構築を必要とする患者とその家族への看護（1） [到達目標] 慢性の代謝機能障害（糖尿病）をもつ対象者の疾病管理ができる。（1） [備考]</p> <p>2回 [授業概要] 生活の再構築を必要とする患者とその家族への看護（2） [到達目標] 慢性の代謝機能障害（糖尿病）をもつ対象者の疾病管理ができる。（2） [備考]</p> <p>3回 [授業概要] 生活の再構築を必要とする患者とその家族への看護（3） [到達目標] 慢性の内部環境調節障害（慢性腎不全）をもつ対象の疾病管理が理解できる。 [備考] ・教科書の[慢性の内部環境調節障害をもつ患者の看護]の項を読んでおく。</p> <p>4回 [授業概要] 生活の再構築を必要とする患者とその家族への看護（4） [到達目標] 慢性の内部環境調節障害（人工透析）を受ける対象の疾病管理が理解できる。 [備考] ・教科書の[慢性の内部環境調節障害をもつ患者の看護]の項を読んでおく。</p> <p>5回 [授業概要] 化学療法を受ける患者の特徴と看護 [到達目標] 化学療法を受ける対象者の疾病管理が説明できる [備考] ・教科書の「化学療法を受ける患者の看護」の項を読んでおく。</p> <p>6回 [授業概要] 放射線治療を受ける患者の特徴と看護 [到達目標] 放射線治療を受ける対象の疾病管理が説明できる。 [備考] ・教科書[第9章 放射線治療と看護]の項を読んでおく。</p> <p>7回 [授業概要] 生活の再構築を必要とする患者とその家族への看護（5） [到達目標] 慢性の脳・神経機能障害（脳梗塞）をもつ対象の疾病管理が説明できる。 [備考]</p> <p>8回 [授業概要] まとめ [到達目標] [備考] 終講試験</p> <p>9回 [授業概要] 慢性期看護過程演習（1） [到達目標] 慢性期看護過程演習授業をイメージすることができる。 グループにおける自分の役割を説明することができる。 グループで事例を読み、患者の健康を理解する際の専門用語を探すことができる。 [備考] ・基礎看護学「看護過程論」の授業で使った教科書と参考書を持参する。 グループメンバーはグループで決めた役割分担をする。 [個人課題]</p> <p>10回 [授業概要] 慢性期看護過程演習（2） [到達目標] 事例を通して情報整理・アセスメントができる。 [備考]</p> <p>11回 [授業概要] 慢性期看護過程演習（3） [到達目標] 事例を通してアセスメントから関連図を作成することができる。 [備考]</p> <p>12回 [授業概要] 慢性期看護過程演習（4） [到達目標] 事例を通して問題点抽出、ネーミングを挙げるができる。 [備考]</p> <p>13回 [授業概要] 慢性期看護過程演習（5） [到達目標] 事例を通して計画立案ができる。 [備考]</p> <p>14回 [授業概要] 慢性期看護過程演習（6） [到達目標] 事例を通して退院指導案が作成できる。 [備考]</p> <p>15回 [授業概要] 慢性期看護過程演習（7） [到達目標] 事例を通して具体的な退院指導ができる。 [備考] [グループ課題] 「パンフレット」を作成</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	・毎授業時、「授業計画」の〔備考〕を参照して下さい。
教科書	『慢性期看護論』(ヌーヴェルヒロカワ)教科書を元に授業を進めるので、必ず授業時毎回持参して下さい。 「疾病治療論」教材：「『系統看護学講座 成人看護学④血液・造血器、⑥内分泌・代謝、⑦脳・神経、⑧腎・泌尿器、別巻 臨床放射線医学』(医学書院) 「基礎看護学 看護過程」教材
参考書	『病気がみえる(6)～(8)』(MEDIC MEDIA) 『ナーシング・グラフィカ成人看護学③セルフマネジメント』(メディカ出版) 『NANDA-I 看護診断 定義と分類 2015-2017』(医学書院)
成績評価	出席状況、授業課題レポート、筆記試験で総合的に評価します。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 小倉 之子 研究室 : 10号館(看護学部棟)8階801 メールアドレス : y_ogura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 適時対応します 担当教員名 : 宇城靖子 研究室 : 10号館(看護学部棟)7階706 メールアドレス : s_ushiro@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 担当教員名 : 鈴木 規子 研究室 : 10号館(看護学部棟)7階709 メールアドレス : n_suzuki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 適時対応します
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
杉山 敏宏			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	精神疾患がもたらす様々な症状や生活上の困難について学び、精神に「障害」を持つ人への援助のあり方について学ぶ。
授業計画	<p>1回目 「精神疾患」という経験 [到達目標] 「精神疾患」を持つ人の経験について学ぶことができる。</p> <p>2回目 精神症状の理解と看護（1） [到達目標] 思考の障害・感情の障害・意欲の障害とその看護について学ぶことができる。</p> <p>3回目 精神症状の理解と看護（2） [到達目標] 知覚の障害・意識の障害・記憶の障害等とその看護について学ぶことができる。</p> <p>4回目 疾患の理解と看護（1） [到達目標] ①統合失調症の理解と看護について学ぶことができる。</p> <p>5回目 疾患の理解と看護（1） [到達目標] ②統合失調症の理解と看護について学ぶことができる。</p> <p>6回目 疾患の理解と看護（2） [到達目標] ①気分障害の理解と看護について学ぶことができる。</p> <p>7回目 疾患の理解と看護（2） [到達目標] ②気分障害の理解と看護について学ぶことができる。</p> <p>8回目 まとめ 講義で学んだ内容について試験を実施する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	自己学習により講義内容の理解を深め、知識を広げるため、適宜課題を課す。 (各講義で提示する)
教科書	系統看護学講座 「精神看護の基礎」 精神看護学① (医学書院) 「表情看護のすすめ」 平澤久一 監修 (メディカ出版)
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験および提出課題、授業への参加によって評価する。 (定期試験70%・レポート20%・出席および受講態度10%)
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 杉山敏宏 (科目責任者) 研究室 : 10号館8階807研究室 メールアドレス : t_sugiyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (精神看護学実習のため病院出張以外)</p> <p>担当教員名 : 戸田一男 研究室 : 10号館7階702研究室 メールアドレス : k_toda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (精神看護学実習のため病院出張以外)</p> <p>担当教員名 : 梶川拓馬 研究室 : 10号館7階713研究室 メールアドレス : t_kajikawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (精神看護学実習のため病院出張以外)</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
杉山 敏宏			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	精神看護において必要なケアとその技術について理解・習得できる。 さらに精神看護における看護過程展開技術について理解できる。
授業計画	<p>1回目 精神科ケアの前提と原則 [到達目標] 精神科ケアの前提・原則を言うことができる。</p> <p>2回目 精神科の治療的環境 [到達目標] 精神科病棟の特徴と治療の関係性について説明することができる。</p> <p>3回目 精神科におけるリハビリテーション [到達目標] 精神科リハビリテーションにはどのような種類と目的があるかを言うことができる。</p> <p>4回目 身体ケア [到達目標] 精神科における身体ケア（薬物の副作用や身体合併などのケア）とは何かを言うことができる。</p> <p>5回目 精神科ケアの方法（1）自分を知る [到達目標] 価値観や自己概念について考えることでコミュニケーションに必要な「自分を知る」ことができる。</p> <p>6回目 精神科ケアの方法（2）コミュニケーション技法 [到達目標] 他者とのコミュニケーション技法にはどのようなものがあるかを言うことができる。</p> <p>7回目 精神科ケアの方法（3）コミュニケーション技法 [到達目標] 患者の思い・心を表情から読み取り表情看護とは何かを知ることができる。</p> <p>8回目 患者-看護師関係のアセスメント（1）プロセスレコードの理解 [到達目標] プロセスレコードを書く目的が説明できる。</p> <p>9回目 患者-看護師関係のアセスメント（2）プロセスレコードの実践 [到達目標] 日常会話を材料に実際にプロセスレコードを書くことができる。</p> <p>10回目 セルフケア理論とは [到達目標] セルフケアの定義が理解でき説明できる。</p> <p>11回目 統合失調症患者の看護展開演習（1） [到達目標] 事例をもとにSOAP形式で書くことができる。</p> <p>12回目 統合失調症患者の看護展開演習（2） [到達目標] 事例をもとに看護展開の流れが理解できる。</p> <p>13回目 統合失調症患者の看護展開演習（3） [到達目標] 事例の患者情報をもとにアセスメントができる。</p> <p>14回目 統合失調症患者の看護展開演習（4） [到達目標] 事例の患者に対する看護が考えられる。</p> <p>15回目 試験</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義前に、教科書の該当するページを読んでくること。
教科書	「精神看護学Ⅱ」精神臨床看護学 川野雅資 他著（ヌーヴェルヒロカワ） 「表情看護のすすめ」平澤久一 監修（メディカ出版） 「精神看護学」学生-患者のストーリーで綴る実習展開 田中美恵子 編著（医歯薬出版）
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験および提出課題、授業への参加によって評価する。 （試験60%・提出課題30%・出席および受講態度10%）
担当教員の基本情報	担当教員名：杉山敏宏（科目責任者） 研究室：10号館8階807研究室 メールアドレス：t_sugiyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（精神看護学実習のため病院出張以外） 担当教員名：戸田一男

	研究室 : 10号館7階702研究室 メールアドレス : k_toda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (精神看護学実習のため病院出張以外) 担当教員名 : 梶川拓馬 研究室 : 10号館7階713研究室 メールアドレス : t_kajikawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (精神看護学実習のため病院出張以外)
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
デッカー 清美			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	妊娠・分娩期にある母子およびその家族の特徴と身体的・心理的・社会的変化を理解し、必要な看護を学ぶ。また、正常から逸脱した母子への看護について学ぶ。		
授業計画	第1回	妊娠期における看護 (1) 妊娠期の身体的・心理的・社会的特性について理解できる	
	第2回	妊娠期における看護 (2) 妊婦と胎児のアセスメントについて理解できる	
	第3回	妊娠期における看護 (3) 妊婦と家族の看護について理解できる	
	第4回	妊娠期における看護 (4) 親になるための準備教育について理解できる	
	第5回	分娩期における看護 (1) 分娩の3要素・経過について理解できる	
	第6回	分娩期における看護 (2) 産婦・胎児・家族のアセスメントについて理解できる	
	第7回	分娩期における看護 (3) 産婦と家族の看護について理解できる	
	第8回	分娩期における看護 (4) 分娩期の看護の実際について理解できる	
	第9回	妊娠・分娩期における看護 (1) 妊娠・分娩期の事例を検討することができる	
	第10回	妊娠・分娩期における看護 (2) 妊娠・分娩期の看護過程を展開することができる	
	第11回	妊娠・分娩期における看護 (3) 妊娠・分娩期の健康教育・保健指導について考えることができる	
	第12回	妊娠・分娩期における看護 (4) 妊娠・分娩期の看護技術を習得することができる	
	第13回	妊娠期の異常と看護 妊娠期の異常について学ぶ	
	第14回	分娩期の異常と看護 分娩期の異常について学ぶ	
	第15回	まとめ (試験等) 妊娠・分娩期の特徴を理解し、必要な看護について理解できる。	
授業時間外の学習 (準備学習等) について	基本的には、各自、教科書などで予習・復習を行い、授業内容の理解が深められるようにする事。配布プリントを精読し、不明部分は調べ、それでもわからなければ質問等を行い解決すること。		
教科書	「系統看護学講座25 母性看護学各論」 森 恵美他 医学書院		
参考書	「母性看護学 1 妊娠・分娩」 村本淳子他 医歯薬出版 「ナーシンググラフィカ30 母性看護実践の基本」 横尾京子他 メディカ出版 「ナーシンググラフィカ31 母性看護技術」 横尾京子他 メディカ出版 (その他授業内で随時提示する)		
成績評価	原則は試験100%で評価する。ただし、欠席状況やレポート等の内容について考慮する場合がある。演習時の欠席は病休や特別の配慮が必要な事由でない限り認められないので、教務への欠席届：原則として受診のわかる診断書及び領収書の提示等が必要。		
担当教員の基本情報	未定		
備考	教科書や講義内容をもとに配布資料の空欄や重要ポイントを記載していくこと。		
	第9回 看護過程事例等 提示 第10回 分娩期の事例についてアセスメント、ケアプランを立案する。 ※10・11・12 回は3グループに分かれてローテートして実施		
	第11回 妊婦体験によって妊娠期に必要な看護や保健指導について考える。妊婦体操、産痛緩和法、胎児心拍数陣痛図について学習しておくこと 第12回 白衣着用にて母性看護学実習室で演習を行う。妊婦健康診査について学習しておくこと		

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
デッカー 清美			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	1. 妊娠・分娩・産褥各期で健康障害のある女性の看護について理解し、その看護援助方法について説明できる。 2. 健康障害のある胎児・新生児に発達・生理を理解し、看護援助方法について説明できる。 3. 夫（パートナー）・家族の看護を理解し、看護援助方法について説明できる。
授業計画	<p>第1回 新生児の生理 胎児から新生児への生理的变化、新生児の身体的特性について理解できる。</p> <p>第2回 新生児のアセスメント DVD試聴（沐浴） 新生児の診断、発育の評価方法等と共に、健康状態のアセスメントに必要な情報・収集技術・アセスメントの視点について理解できる。</p> <p>第3回 演習 ・ 事例展開 ①新生児の沐浴 ②バイタルサイン測定・身体計測 ③事例展開 沐浴が安全に実施できる。新生児のバイタルサイン、身体測定について理解できる。 新生児期のまとめ：事例展開（新生児の看護の要点復習と新生児事例の看護過程が展開できる。）</p> <p>第4回 演習 ・ 事例展開 ①新生児の沐浴 ②バイタルサイン測定・身体計測 ③事例展開 沐浴が安全に実施できる。新生児のバイタルサイン、身体測定について理解できる。 新生児期のまとめ：事例展開（新生児の看護の要点復習と新生児事例の看護過程が展開できる。）</p> <p>第5回 演習 ・ 事例展開 ①新生児の沐浴 ②バイタルサイン測定・身体計測 ③事例展開 沐浴が安全に実施できる。新生児のバイタルサイン、身体測定について理解できる。 新生児期のまとめ：事例展開（新生児の看護の要点復習と新生児事例の看護過程が展開できる。）</p> <p>第6回 新生児の看護 DVD試聴（新生児の生理・呼吸循環器） 出生直後の新生児のアセスメントと看護について理解できる。</p> <p>第7回 新生児の看護 DVD試聴（消化器・代謝・反射など） 出生後から24時間の新生児のアセスメントと看護について理解できる。</p> <p>第8回 新生児の看護・事例検討について補足 出生後24時間以降から退院までの新生児、および退院後の新生児のアセスメントと看護について理解できる。</p> <p>第9回 産褥期における看護 産褥期の身体的変化（退行性変化と進行性変化）</p> <p>第10回 産褥期の心理・社会的変化 産褥期の心理・社会的変化</p> <p>第11回 母乳育児支援 DVD産褥早期のアセスメント（産） 乳房の構造と機能、乳汁分泌機構と共に、新生児の生理機能、吸着・吸吸機構を学び母乳育児の特性を知り、その支援を理解できる。</p> <p>第12回 褥婦と家族の看護 産褥期の母親と家族の特徴と発達段階を理解し、必要な支援を考えることができる。</p> <p>第13回 産褥期の異常と看護 新生児期の異常について学ぶ。</p> <p>第14回 新生児期の異常と看護 新生児期の異常について学ぶ。</p> <p>第15回 まとめ（試験等） 産褥期と新生児期の特徴を理解し、正常からの逸脱状況および看護について理解できる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	基本的には、各自、教科書などで予習・復習を行い、授業内容の理解が深められるようにする事。配布プリントを精読し、不明部分は調べ、それでもわからなければ質問等を行い解決すること。
教科書	「系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学②」 森恵美他 医学書院
参考書	「ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程」 太田操 医歯薬出版株式会社 「ナーシンググラフィカ30 母性看護実践の基本」 横尾京子 メディカ出版 「病気が見える」 メディックメディア出版
成績評価	原則は試験100%で評価する。ただし、欠席状況（演習の欠席は認めない）やレポート等の内容についても考慮する場合がある。体調不良の場合などは、教務への欠席届：原則として受診のわかる診断書及び領収書の提示が必要。

担当教員の基本情報	担当教員：デッカー清美 オフィスアワー：授業終了後
備考	授業前には教科書を読んでおく。 授業の重要と思われる箇所と配布資料の空欄について記載し、不明な部分は自分でも調べておくこと。
	第1-2回の演習。原則演習の欠席は認めない。第3, 4回と第5, 6回までは2コマ続きで金曜日の1, 2限、その後は毎月曜日の1限目、間違わないように注意。 5F 母性・成人看護実習室、授業始まる10分前に集合のこと。 白衣・ナースシューズ着用のこと。基本的に実習に準ずる。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
山下 八重子			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	病気や入院による子どもと家族への影響を知り、苦痛やストレス緩和の支援を学ぶ。 成長発達段階での援助を理解し、対象に合わせた衣・食・住への援助を考慮することができる。 小児特有の疾患の観察ポイントを理解する。		
授業計画	第1回	子どもの病気や入院が子どもと家族に与える影響について理解する。 子どもの病気や入院が子どもと家族に与える影響について理解することができる。子どもの入院環境について知り、子どもの成長発達、安全、安楽の視点からどうあるべきかを考えることができる。	
	第2回	子どもに特有な症状とその看護を理解する。 発熱、脱水、けいれん、呼吸困難 ショック、	
	第3回	子どもの症状とその看護について理解する。 痛み、発疹、嘔吐、下痢、熱傷	
	第4回	外来・在宅における子どもと家族の看護 処置を優先する状況の理解をする。 診察介助、隔離、検査、 在宅での療養の問題点を理解する。 在宅酸素療法、気管切開患児、人工肛門、インスリン自己注射など	
	第5回	プレパレーション・デストラクション・遊びについて理解する。 発達段階に応じた遊びの種類や遊ばせ方を学ぶ。 病児にとっての遊びの意義を考慮することができる。 プレパレーションとデストラクションの理解をする。	
	第6・7回	排泄の援助、清潔ケア・身体計測、バイタルサインの測定を演習を通じて学ぶ。 演習項目 清拭・おむつ交換・更衣、身体計測（体重・身長・胸囲・頭囲）、 バイタルサイン（呼吸・脈拍・体温・血圧） グループに分かれてローテーションして全て演習する。	
	第8回	まとめと課題提出について 単位修得には課題レポート（30点）が提出が必須条件	
	第8回	試験 筆記試験 70点	
授業時間外の学習 （準備学習等）について	1) 毎時間の学習内容を予習復習して理解を深める 2) 配布した資料について教科書等を持ちいて再確認し理解を深める。		
教科書	ナーシング・グラフィカ 小児の発達と看護 中野綾美編（MCメディア） ナーシング・グラフィカ 小児看護技術 中野綾美編（MCメディア） ナーシング・グラフィカ 小児の疾患と看護 中村友彦（MCメディア） 系統看護学講座 小児臨床看護各論 奈良間美穂編（医学書院）		
参考書	根拠と事故防止から見た小児看護技術 浅野みどり編 医学書院 発達段階から見た小児看護過程 浅野みどり編 医学書院		
成績評価	課題レポート30点 最終筆記試験70点 合計100点		
担当教員の基本情報	担当教員名	： 山下八重子	
	研究室	： 10号館8階	
	メールアドレス	： y_yamashita@meiji-u.ac.jp	
	オフィスアワー	： 金曜日 14：00～15：00	
備考			

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
山下 八重子			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	健康障害をもつ子どもとその家族の看護を理解する。急性期・慢性期・終末期にある子どもとその家族に必要な援助について理解する。小児の看護に必要な看護技術を学ぶ。事例を用いてアセスメントの方法、看護問題と看護計画について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 小児のフィジカルアセスメントの重要性について理解できる。 健康障害を持つ子どものからだを見る看護技術としての小児のフィジカルアセスメントの方法を学ぶ。 子どもの全身の評価を行う。</p> <p>第2回 急性期・慢性期・終末期の子どもと家族の看護 各病期の特徴と家族の心理について考える。 在宅・外来における子どもと家族を支える看護師の役割。 継続ケアに必要な子どもを地域で支えるための連携の必要性を学ぶ。 終末期の子どもと家族を理解し、対象への看護を考えることができる。</p> <p>第3回 手術を受ける子どもと家族への看護 緊急入院・緊急手術をうける子ども家族に必要な看護を学ぶ。 手術を要する疾患と看護を理解する。 生命兆候の危機時の看護について理解し、対象への看護を考えることができる。 痛みのある子どもと家族への看護。</p> <p>第4回 検査処置を受ける子どもと家族への看護 苦痛を伴う検体採取：マルク、ルンバール、採血 絶対安静が必要な検査：脳波、MRI、CT 理解度にあわせた説明と同意：インフォームドコンセント、インフォームドアセント</p> <p>第5回 特別な支援を必要とする子どもとその家族への看護 被災児・被虐待児・障害児の理解と看護 子どもに及ぼす心身への影響を理解する。 トラウマ、PTSD、発達遅延など</p> <p>第6回 子どもの救命救急の方法と看護 意識レベルの見方、蘇生の手順を理解する。 演習を行い体験して理解する</p> <p>第7・8回 子どもに特有な看護技術について学び、基礎的技術を習得することができる。 点滴管理：留置針の挿入介助と固定、輸液ポンプの原理 固定方法：採血介助、ルンバール、 採尿方法：採尿バック 吸入・吸引</p> <p>第9回 模擬患者の事例展開 疾患と治療、検査の理解と入院治療を受ける子どもとその家族のアセスメント 成長発達段階に応じた看護計画を立案を学ぶ。 (情報収集・アセスメント・関連図・計画立案)</p> <p>第10・11回 模擬患者の事例展開 グループワーク・レポート課題の提示 提示された模擬患者の情報収集・アセスメント・関連図・計画立案を行い発表する。</p> <p>第12・13回 模擬患者の事例展開 個人ワーク 事例展開 情報収集・アセスメント・関連図・計画立案を時間内で書くことができる。</p> <p>第14・15回 看護技術テスト (単位修得には合格が必須) 看護技術テスト(バイタルサイン) 10点 正確に測定できる技術を習得し実践できる。 実習に必要な記録の能力を養うことができる。</p> <p>試験と課題 筆記試験 70点 実技試験+レポート課題点数を加え 100点する。 レポート課題の提出は単位修得に必須。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	1) 毎時間の学習内容について教科書を読んで予習復習して理解を深める。 2) 教科書を用いて指示された内容を記載された章を何度も熟読し内容を理解する。 3) 提示された課題を文献や教科書を活用し提出締め切りを守り提出する。
教科書	ナーシング・グラフィカ① 小児の発達と看護 中野綾美編 (MCメディカ) ナーシング・グラフィカ② 小児看護技術 中野綾美編 (MCメディカ) ナーシング・グラフィカ③ 小児の疾患と看護 中村友彦編 (MCメディカ) 系統看護学講座① 小児臨床看護総論奈良間美穂編 (医学書院) 系統看護学講座② 小児臨床看護総論各論 奈良間美穂編 (医学書院)
参考書	発達段階から見た小児看護過程 浅野みどり編 医学書院 子どもの病気の地図帳 鴨下重彦・柳澤正義監修 講談社
成績評価	レポート20点 (単位修得には提出が必須) 実技テスト10点 (単位修得には合格が必須) 筆記試験70点

担当教員の基本情報	担当教員名 : 山下八重子 研究室 : 10号館8階 メールアドレス : y_yamashita@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日 14:00~16:00
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
上仲 久			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	老年期にある人々の健康障害とそれに伴う生活上の諸問題を理解し、高齢者とその家族に対する看護の方法について学習する。高齢者の質（QOL）に重点を置きながら、高齢者の様々なニーズを総合的に評価する視点を学ぶ。また、高齢者を全体論的に理解し援助する方法の一つとして「人生を回想すること」についても学ぶ。
授業計画	<p>第1回 高齢者の日常生活を支える基本動作と生活援助。 [到達目標] ・高齢者を生活者としてとらえることができる ・基本的動作のアセスメントと援助について理解ができる。</p> <p>[授業時間外学習の指示等] 「老い」について老年看護学概論の復習 基本的動作の観察・アセスメントの視点についての復習しておくこと。</p> <p>第2回 高齢者の食生活とその援助 [到達目標] ・高齢者の食生活に影響を及ぼす要因が理解できる。 ・高齢者が安全かつ快適に食生活を送るためのアセスメントと援助が理解できる。</p> <p>[授業時間外学習の指示等] 加齢に伴う消化機能・嚥下機能に変化の復習しておくこと。</p> <p>第3回 高齢者の排泄と生活援助 [到達目標] ・高齢者に生じやすい排泄障害とその看護が理解できる。 ・高齢者はなぜ脱水を起こしやすいのかを説明し、脱水時やその予防の看護について理解ができる。</p> <p>[授業時間外学習の指示等] 加齢に伴う、加齢に伴う排泄障害の特徴の復習しておくこと。</p> <p>第4回 高齢者の生活リズムへの援助 [到達目標] ・高齢者の生活行動の変化、睡眠と覚醒の変化、服薬について理解ができる。</p> <p>[授業時間外] 高齢者の生活における活動と休息に影響する要因についてまとめる。学習の指示等]</p> <p>第5回 高齢者の清潔と生活援助 [到達目標] ・高齢者の皮膚の特徴が理解できる。 ・褥瘡を含むスキンケア、フットケアの意義が理解できる。</p> <p>[授業時間外学習の指示等] 皮膚の構造・機能の復習しておくこと。</p> <p>第6回 高齢者のコミュニケーションと看護ケア [到達目標] ・高齢者のコミュニケーションの特徴を理解し、かかわり方を考えることができる。</p> <p>[授業時間外学習の指示等] 高齢者とのコミュニケーションを行う上で配慮すべき点とその理由を整理しておくこと。</p> <p>第7回 高齢者の生活史を聴く（回想法） [到達目標] ・高齢者の全体理解と援助の方法として、昔語りに関わることの重要性を理解する。</p> <p>[授業時間外学習の指示等] 文献やインターネットにて回想法について調べておくこと。</p> <p>第8回 まとめ [到達目標] 筆記試験を実施する [授業時間外学習の指示等] 講義の内容を振り返り復習しておくこと。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	事前に教科書を読んでおくこと。そして、新しいキーワードや十分理解できなかった言葉については、その日のうちに復習し、次の講義に備える事。 （予習と復習の徹底）
教科書	「老年看護学（系統看護学講座専門分野Ⅱ）」（第7版）北川公子ほか著（医学書院）、2015
参考書	老年看護学（改訂版）川島みどり（著）看護の科学社、2015 老年看護学 概論と看護の実践 第4版、奥野 茂代・大西 和子（著）ヌーベルヒロカワ、2014 生活機能からみた 老年看護過程+病態・生活機能関連図 第2版 山田 律子（編集）医学書院 2012
成績評価	小テストを含む筆記試験（55%）・提出課題（30%）と日常点（15%）を合計し、総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 上仲 久 研究室 : 10号館8階研究室 メールアドレス : uenaka@meiji-u.ac.jp

	オフィスアワー : 随時 (事前にメールにて約束をとること)
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	必修
担当教員			
栗山真由美			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	老年期にある人々の健康障害とそれに伴う生活上の諸問題を理解し、老年者とその家族に対する看護の方法について学習する。ここでは、老年看護援助論Ⅰをふまえ、看護過程展開を中心に学習する。
授業計画	<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス：「老年看護援助論Ⅱ」の位置づけ・授業の進め方 [到達目標] ・老年病・老年症候群の特徴と看護の視点を理解する。 ・評価の目的、スケールを理解する。 [授業時間外学習の指示等] 老年疾病治療論の復習をしておくこと。 <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者の医療的援助と看護① [到達目標] ・疾病・治療が高齢者に及ぼす影響について理解する。 ・検査、手術、入院、退院における看護を理解する。 [授業時間外学習の指示等] 高齢者・家族にとって病院とはどのような環境かを整理しておくこと。 <p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者の医療的援助と看護② [到達目標] ・薬物療法（有害反応・抗がん剤など）に対する看護師の役割を理解する。 [授業時間外学習の指示等] 教科書の関連部分を復習しておくこと。 <p>第4回</p> <ul style="list-style-type: none"> 疾患を持つ高齢者の看護① [到達目標] 高齢者によく見られる循環器系疾患の特徴と看護を理解する。 ・虚血性心疾患、心不全、不整脈、高血圧、動脈硬化症の特徴と看護を理解する。 [授業時間外学習の指示等] 教科書の関連部分を復習しておくこと。 <p>第5回</p> <ul style="list-style-type: none"> 疾患を持つ高齢者の看護② [到達目標] 老年期における認知機能の影響要因、認知症、うつ病、せん妄の看護を理解する。 [授業時間外学習の指示等] 視聴覚教材を使用する。文脈を整理するなどの工夫を考へておくこと。 <p>第6回</p> <ul style="list-style-type: none"> 疾患を持つ高齢者の看護③ [到達目標] 高齢者によく見られる脳神経系疾患の特徴と看護を理解する。 ・脳血管疾患、パーキンソン病などの特徴と看護を理解する。 [授業時間外学習の指示等] 教科書の関連部分を復習しておくこと。 <p>第7回</p> <ul style="list-style-type: none"> 疾患を持つ高齢者の看護④ [到達目標] 高齢者によく見られる運動器系疾患の特徴と看護を理解する。 ・骨折、変形性膝関節症、骨粗鬆症などの特徴と看護を理解する。感染と看護肺炎、ノロウイルス、結核の症状・予防と看護について理解する。 [授業時間外学習の指示等] 教科書の関連部分を復習しておくこと。 <p>第8回</p> <ul style="list-style-type: none"> 疾患を持つ高齢者の看護⑤ [到達目標] 高齢者によく見られる呼吸器系疾患の特徴と看護を理解する。 ・肺炎、慢性閉塞性肺疾患、肺結核等の特徴と看護を理解する。老年期における認知機能の影響要因、認知症の症状について理解する [授業時間外学習の指示等] 教科書の関連部分を復習しておくこと。 <p>第9回</p> <ul style="list-style-type: none"> 疾患を持つ高齢者の看護⑥ [到達目標] 高齢者によく見られる感染症と看護を理解する。 ・尿路感染症、インフルエンザ、ノロウイルス、疥癬、白癬等の症状と予防、看護を理解する。 [授業時間外学習の指示等] 教科書の関連部分を復習しておくこと。 <p>第10回</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者支援の方法と施設生活と看護 [到達目標] ・施設で生活する高齢者への看護と高齢者を介護する家族への支援（家族の物語について興味を持つ）について理解できる。 ・アクティビティーケアについて理解を深める。視聴覚教材を用いる。 [授業時間外学習の指示等] 介護保険施設の各々の役割・違いについて確認しておくこと。 [事後学習課題]高齢者施設でのアクティビティーケアについて、自分自身の考えや学びをまとめてレポート提出する。 <p>第11回</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者のリスクマネジメント

	<p>[到達目標] ・高齢者のスクマネジメントの重要性と看護の役割責務が理解できる。(転倒・誤嚥・災害等) [授業時間外学習の指示等] ハインリッヒの法則、事故・過誤の概念について復習しておくこと。</p> <p>第12回 高齢者看護における倫理的課題</p> <p>[到達目標] ・高齢者に起こりやすい倫理的課題の背景と求められる高齢者看護専門職に求められる倫理的能力が理解できる。 [授業時間外学習の指示等] 事前に既習の看護学概論(看護における倫理と価値)について復習しておくこと。</p> <p>第13回 高齢者の終末期看護 終末期ケアとチーム医療、高齢者の意思決定と家族を支える看護について理解できる。 [授業時間外学習の指示等] 教科書の関連部分を復習しておくこと。</p> <p>第14回 高齢者の看護過程</p> <p>[到達目標] ・高齢者の特徴を踏まえた看護過程の考え方が理解できる。 [授業時間外学習の指示等] 事前に既習の看護過程論・ヘルスアセスメントを復習しておくこと。 [事後学習課題]提示した事例について自分自身の考えや学びをまとめてレポート提出する。</p> <p>第15回 筆記試験 [授業時間外学習の指示等] 教科書の関連部分を復習しておくこと。試験範囲・内容などについては事前に説明するので試験対策をすること。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	教科書を熟読すること。配布プリントを精読し、不明な部分について調べる。講義後は配布資料や教科書の該当部分を振り返り学びを整理する。
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」北川公子ほか著(医学書院) 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態 疾患論」佐々木英忠ほか著(医学書院) 「ナーシンググラフィカ老年看護学① 高齢者の健康と障害」堀内ふき他著(メディカ出版) 「ナーシンググラフィカ老年看護学② 高齢者看護の実践」堀内ふき他著(メディカ出版)
参考書	講義に関連する他の教科書を参照することがある(必要時指示)。
成績評価	小テストを含む筆記試験(55%)・提出課題レポート(30%)と日常点：講義やグループワークなどの貢献度(15%)を合計し、総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 栗山 真由美 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : m_kuriyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (メールにて約束をとること)</p> <p>担当教員名 : 宇城 靖子 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : y_ushiro@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (メールにて約束をとること)</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
河原照子 ・ 松岡みどり			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p><概要> 治療に重点が置かれる段階を終えた病気や外傷の後遺症を持つ人に対して、医療チームのメンバーが連携しつつ、様々な側面から指導や訓練、ケアを提供することによって機能の回復、社会復帰を目指す、というリハビリテーションの意味を理解し、その中で看護が担う役割、機能について学ぶ。</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションの概念と障害を持つ人に対する基本理念を理解する。 2. リハビリテーション看護の定義と各健康段階におけるリハビリテーション看護を理解する。 3. 障害を持つ人の生活と心理について理解する。 4. リハビリテーションを必要とする人のADLと援助の基本を理解する。 5. 安静に伴う廃用症候群、誤用・過用症候群の病態について理解する。 6. 廃用症候群を含む二次的障害の予防方法の実際を体験的に理解する。 7. リハビリテーションセラピストの役割と看護チームとの連携について考える。 8. 障害を持つ人の人生の質と支援について考える。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 リハビリテーションの概念、障害者に関する法律、ICF、ノーマライゼーション等について リハビリテーションの概念と対象、リハビリテーションの基本理念を述べることができる。 ICFの理念について 2 リハビリテーション看護の定義、対象、役割機能、各健康段階(回復過程)とリハビリテーション看護のあり方について リハビリテーション看護について述べるができる。 3 障害を持つ人の日常生活体験(演習) 障害者体験を通して、障害を持つ人が日常生活で体験していることを述べるができる。 クラスを3班に分けて演習する。演習はグループに分かれて障害者体験をする。 事前レポート：演習内容についての手順書の作成 4 障害を持つ人の日常生活体験(演習) 障害者体験を通して、障害を持つ人が日常生活で体験していることを述べるができる。 クラスを3班に分けて演習する。演習はグループに分かれて障害者体験をする。 演習後体験レポート課題 5 コーン、フィンクの障害の受容過程について 障害を持つ人の心理と障害の受容過程を述べるができる 6 障害を持った人の事例(DVD鑑賞) 事例を通して障害を持つ人の心理について述べるができる。 DVD鑑賞後感想レポート提出 7 ADLの概念、分類、評価について リハビリテーションを必要とする人のADLについて基本的内容を述べるができる。 また、その評価方法について述べるができる。 8 ADLの主な評価法と自立に向けての援助の基本 ADLの援助の基本について述べるができる。 9 廃用症候群について 安静に伴う廃用症候群やその他の二次的障害の病態と予防の必要性を述べるができる。 10 廃用症候群予防の基本的看護について 廃用症候群を予防する基本的看護について述べるができる。 11 関節可動域訓練、筋力増強訓練、ポジショニング、座位訓練等の実践について グループ演習。基本的方法について、演習を行い、実施することができる。 事前レポート課題：演習内容についての手順書等作成 12 関節可動域訓練、筋力増強訓練、ポジショニング、座位訓練等の実践について 廃用症候群を予防する基本的援助方法のポイントがわかり実践することができる。 グループ発表 13 理学療法、作業療法、言語聴覚療法の基本的な内容と看護との連携 リハビリテーション療法とセラピストの役割について理解し、リハビリテーション医療チームの連携について考える。 14 障害を持つ人の生活行為・社会参加への援助と社会資源の整備・活用について 障害を持つ人の人生の質と支援について考える。 15 まとめ
授業時間外の学習(準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> ・配布プリント、教科書の対応部分を精読し、わからない部分があれば調べ、それでもわからない場合は質問して解決すること。 ・授業内容によっては事前及び事後レポートを課すことがある。
教科書	成人看護学「リハビリテーション看護論」第2版中西純子他編(ヌーベルヒロカワ)
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑤『リハビリテーション看護』 奥宮暁子編(メディカ出版) 2. 系統看護学講座 別巻『リハビリテーション看護』 武田宜子他著(医学書院)

	3. ナーシングセレクション⑩『リハビリテーション看護』奥野暁子監修（学研）
成績評価	筆記試験70%、課題レポート20%、授業内演習に臨む態度10%
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 河原照子 研究室 : 10号館8階 研究室804 メールアドレス : t_kawara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 特に指定なし 事前にメール連絡のこと</p> <p>担当教員名 : 松岡みどり 研究室 : 10号館 6階 共同研究室 メールアドレス : m_matsuoka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 特に指定なし</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
河原照子 ・ 松岡みどり			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p><概要> 主な症候や症状、また主な疾患に対するリハビリテーション看護の方法について理解するとともに、臨床で多く出会う事例を通して看護過程の展開を学ぶ。</p> <p><目標> 1. 感覚機能に障害をもつ人のリハビリテーション看護が理解できる。 2. 呼吸器に障害をもつ人のリハビリテーション看護が理解できる。 3. 骨折による治療を受けた患者のリハビリテーション看護が理解できる。 4. 運動障害がある人のリハビリテーション看護が理解できる。 5. 神経・筋疾患患者のリハビリテーション看護が理解できる。 6. 脳卒中患者のリハビリテーション看護が理解できる。 7. 高次脳機能障害をもつ人のリハビリテーション看護が理解できる。 8. 失語症がある人のリハビリテーション看護が理解できる。 9. リハビリテーションを必要とする患者事例の看護過程が展開できる。</p>
授業計画	<p>1 感覚障害（視覚障害・聴覚障害）を持つ人のリハビリテーション看護 視覚障害・聴覚障害の原因、分類が理解でき、障害をもつ患者のリハビリテーション看護がわかる。 事前学習課題の発表</p> <p>2 呼吸器に障害をもつ人のリハビリテーション看護 呼吸障害の種類、その特徴について理解できる。 慢性閉塞性肺疾患の病態や患者のリハビリテーション看護が理解できる。 事前学習の発表</p> <p>3 大腿骨頸部骨折を負った人のリハビリテーション看護 大腿骨頸部骨折の病態・治療がわかり、患者のリハビリテーション看護が理解できる。 事前学習課題の発表</p> <p>4 脊椎損傷を負った人のリハビリテーション看護 脊椎損傷での起こりうる障害がわかり、その患者のリハビリテーション看護が理解できる。 事前学習課題の発表</p> <p>5 パーキンソン病患者のリハビリテーション看護 パーキンソン病患者のリハビリテーション看護が理解できる。 事前学習課題の発表</p> <p>6 意識障害を持つ人のリハビリテーション看護 意識障害が起こる主な疾患である脳卒中についてわかり、意識障害を持つ人の看護について理解できる。 事前学習課題の発表</p> <p>7 高次脳障害をもつ人のリハビリテーション看護 高次脳障害の内容がわかり、それぞれの障害についてのリハビリテーション看護が理解できる。 事前学習課題の発表</p> <p>8 失語症をもつ人のリハビリテーション看護 失語症の分類と障害部位、リハビリテーション看護について理解できる。 事前学習課題の発表</p> <p>9 まとめ(中間試験) 中間試験 事例演習のグループ編成、演習の進め方、事例紹介、事前課題等の連絡含む</p> <p>10 ゲストスピーカー：脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 臨床現場で培った豊富な経験を基に療養者に対するケアマインド、paper Patientでは学べない臨床での体験を通じたアセスメントのポイントなど講義予定。 専門的立場から高い技術や、幅広い見識のもとに講義予定。</p> <p>11 事例を通して看護過程展開(演習1) リハビリテーションを必要とする患者の看護過程の展開ができる。 課題に応じて個人ワーク グループワーク</p> <p>12 事例を通して看護過程展開(演習2) ゲストスピーカー：臨床講師として臨床指導者1名予定 臨床現場で培った豊富な経験を基に療養者に対するケアマインド、paper Patientでは学べない臨床での体験を通じたアセスメントのポイントなど講義予定。</p> <p>13 事例を通して看護過程展開(演習3) リハビリテーションを必要とする患者の看護過程の展開ができる。 課題に応じて個人ワーク グループワーク</p> <p>14 患者事例を通して看護過程展開(演習4) リハビリテーションを必要とする患者の看護過程の展開ができる。 課題に応じて個人ワーク グループワーク</p> <p>15 看護過程発表(演習5) リハビリテーションを必要とする患者の看護過程の発表。</p>

	グループ発表
授業時間外の学習 (準備学習等)について	配布プリント、教科書の対応部分を精読し、わからない部分があれば調べ、それでもわからない場合は質問して解決すること。講義および演習ではレポートあり。
教科書	成人看護学「リハビリテーション看護論」第2版中西純子他編(ヌーベルヒロカワ)
参考書	1. ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑤『リハビリテーション看護』 奥宮暁子編 (メディカ出版) 2. 系統看護学講座 別巻『リハビリテーション看護』武田宜子他著 (医学書院) 3. ナーシングセレクション⑩『リハビリテーション看護』奥野暁子監修 (学研) 4. 『リハビリテーション ビジュアルブック』落合慈之監修 (学研) 5. 「QOL向上につながるベッドサイドリハビリテーション実践ガイド」稲川利光編 (学研)
成績評価	筆記試験50%、課題レポート10%、演習レポート40%
担当教員の基本情報	担当教員名 : 河原照子 研究室 : 10号館8階 研究室804 メールアドレス : t_kawara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 特に指定なし 事前にメール連絡を入れること 担当教員名 : 松岡みどり 研究室 : 10号館6階 共同研究室 メールアドレス : m_matsuoka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 特に指定なし
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
田中 小百合			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>概要：在宅で療養生活している人々とその家族を理解し、在宅看護の理念や機能、療養を支援する人や専門チームの役割、社会資源などを学習する。</p> <p>目標：在宅看護の定義・目的・機能・役割が理解できる。在宅看護の対象が理解できる。在宅看護に必要な制度・社会資源活用について学ぶ。在宅看護導入までの流れを知ることができる。訪問看護ステーションの活動について知ることができる。</p>
授業計画	<p>1回 在宅看護の目的と特性 在宅看護がイメージできる 在宅看護の目的や特徴について理解できる 訪問看護と施設内看護の違いを理解できる 入退院時の連携と退院支援について理解できる</p> <p>2・3回目 在宅看護の対象者 対象者の特徴を理解できる 在宅療養を支える家族介護について理解できる 在宅療養の成立条件を理解する。</p> <p>4回目 在宅療養者・家族の権利擁護 在宅看護の倫理性と看護者の責務について考えることができる 成年後見制度を理解する。権利擁護について理解する。</p> <p>5・6回目 在宅看護の制度 介護保険制度、医療保険制度のしくみを理解できる 訪問看護ステーションの設置、運営、従業者、管理、対象者、サービスと利用までの流れについて理解できる</p> <p>7回目 多職種との連携 在宅における多職種との連携・協働、ケアマネージャーの役割が理解できる</p> <p>8回目 まとめ</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書2冊を使用しながら進行するので、教科書を熟読してくること。レジメに書かれている教科書のページ番号を参考にしたり、配布資料も使用しながら復習を行うこと。在宅看護は統合科目であるので、これまでに習った知識（例えば、基礎看護学・老年看護学・社会福祉・家族社会学など）を前提にして、授業を進行することが多い。忘れていた知識は各自で再確認しておくこと。
教科書	「地域療養を支えるケア」櫻井尚子他編集（メディカ出版） 「在宅看護論」秋山正子他著（医学書院）
参考書	随時、提示する
成績評価	試験にて評価する。
担当教員の基本情報	研究室 : 10号館 7階 メールアドレス : sayutana@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日1240～1330
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
佐藤 裕見子			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	公衆衛生看護の理念、目標、歴史、倫理を理解し、個人、家族、集団、組織を含むコミュニティ及び地域を構成する人々の集合体（地域全体）の健康増進、改善を目指すアプローチの基本的な考え方を学ぶ。 さらに、計画策定・施策化と予算のしくみ、地域保健管理（組織・人材・社会資源・情報・予算）の実際を学ぶ。
授業計画	<p>1回 公衆衛生看護の理念 公衆衛生看護とは、公衆衛生看護を基盤とした看護活動である。対象集団全体の健康増進と疾病予防を目指すことを理解する。また、対象者の健康問題を構造的に理解する。</p> <p>2回 公衆衛生看護の基盤となる概念 公衆衛生看護は住民の暮らしと健康を守る公共的な活動である。公衆衛生看護を支える概念として、基本的人権、権利擁護、エンパワメントが重要であることを理解する。</p> <p>3回 公衆衛生看護の対象の特徴 公衆衛生看護の対象は、地域で生活する人々であり、個人・家族・集団・組織・地域である。個人の抱える健康問題と生活を関連づけて捉え、家族を1つの単位として支援することを理解する。</p> <p>4回 公衆衛生看護の場（1） 行政・施設、在宅・医療の場における保健師活動を理解する。</p> <p>5回 公衆衛生看護の場（2） 産業保健における保健師の活動を理解する。</p> <p>6回 公衆衛生看護の場（3） 学校保健における養護教諭の活動を理解する。</p> <p>7回 社会環境の変化と健康問題 社会環境や生活環境の変化と健康問題との関連について理解する。</p> <p>8回 公衆衛生看護活動の展開 人々の健康は、生活・社会と密接に関連しており、生活構造、生活実態から総合的に捉えることが重要である。また、保健活動の基本的方向を視点におき、禁煙指導を例に、地域、大学、家族及び個人に対するアプローチを駆使して活動することを理解する。</p> <p>9回 公衆衛生看護活動の展開における地域診断 地域診断は、人々の健康にかかる情報を分析し、問題とその背景を明らかにするプロセスであり、地域看護活動の展開に不可欠であることを理解する。</p> <p>10回 公衆衛生看護活動の展開に計画・実践・評価 地域看護活動の目標設定・計画策定・実践・評価の一連の流れを理解する。</p> <p>11回 公衆衛生看護の歴史 公衆衛生看護の変遷をその時代背景とともに学び、公衆衛生看護の歴史を概観する。時代の地域看護・公衆衛生看護の課題を考える</p> <p>12回 看護法令 公衆衛生看護活動は多くは法的根拠がある。住民にとって法令とは何かを常に考える役割がある。保健師は、関係職種と連携しながら保健活動を行うことが重要である。</p> <p>13回 公衆衛生看護管理 地域看護管理の理念、組織、人材、資源、予算の管理について理解する。</p> <p>14回 健康危機管理とリスクマネジメント 危機管理はハウツウではなく、枠組みを考える力を持つことが重要である。健康被害を少なくするためには、平時宇治からの準備が重要である。適切な対応のためには公衆衛生の視点が重要である。</p> <p>15回 まとめ 筆記試験</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	必要に応じ、授業内でインフォメーションする。
教科書	標準保健師講座1「公衆衛生看護学概論」標 美奈子 他（医学書院）
参考書	「国民衛生の動向2015/2016」（財団法人 厚生統計協会編集・発行）
成績評価	出席状況、授業態度、レポート、ミニテスト、筆記試験等により総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>佐藤 裕見子 研究室 : 10号館8階 メールアドレス : y-sato@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日午後</p> <p>担当教員名 : 三浦 康代 研究室 : 10号館7階</p>

	メールアドレス : miura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 金曜日午前
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
和辻 直、斉藤宗則			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	最近、医療では伝統医学の再評価がなされ、活用されはじめています。心身の状態を包括的に把握できる東洋医学を看護実践に生かすことができるように、基本的な東洋医学の診断・治療学について学習することが目的です。到達目標は、基本的な東洋医学の診察法・病証・治療を理解することです。また東洋医学の基礎知識を理解することです。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス、東洋医学の身体観、気の医学 [到達目標] 東洋医学の身体観を学び、心と体の関係を簡単に説明できる。 予習：1年次の東洋医学の基礎理論を読む。 復習：東洋医学の身体観を学び、心と体の関係をまとめる。</p> <p>2回目 気・血・津液、臓腑と経絡について [到達目標] 気・血・津液、臓腑の働きを学び、概略が説明できる。 復習：配布プリントを読んでまとめる。</p> <p>3回目 東洋医学の診察1（望診、舌診） [到達目標] 望診（眼、鼻、口、髪、爪）や舌診の概要が説明できる。 復習：配布プリントを読んで、望診の内容をまとめる。</p> <p>4回目 東洋医学の診察2（問診、聞診） [到達目標] 東洋医学の問診（声診）、問診の概要を説明できる。 復習：配布プリントを読んで、問診・聞診の内容をまとめる。</p> <p>5回目 東洋医学の診察3（舌診と腹診） [到達目標] 舌診、腹診を体験し、その診察の概要を説明できる。 復習：配布プリントを読んで、舌診・腹診の内容をまとめる。</p> <p>6回目 東洋医学の診察4（切経、背診） [到達目標] 脈診を体験し、その診察の概要を説明できる。 復習：配布プリントを読んで、切経・背診の内容をまとめる。</p> <p>7回目 東洋医学の診察5（脈診、小括） [到達目標] 脈診の正常な脈、六祖脈の概要を説明できる。 復習：配布プリントを読んで、脈診の内容をまとめる。</p> <p>8回目 東洋医学の診断1（八綱の弁証） [到達目標] 基本的な病証を理解でき、その概略を説明できる。 復習：配布プリントを読んで、八綱の弁証をまとめる。</p> <p>9回目 東洋医学の診断2（気血津液の証） [到達目標] 気・血・津液病証を理解でき、その概略を説明できる。 復習：配布プリントを読んで、気血津液の証をまとめる。</p> <p>10回目 東洋医学の診断3（臓腑の証） [到達目標] 臓腑の証を理解でき、臓腑の主症状を説明できる。 復習：配布プリントを読んで、臓腑の証をまとめる。</p> <p>11回目 漢方薬について [到達目標] 生薬や漢方薬の概括を知ることができる。 復習：配布プリントを読んで、漢方薬の種類をまとめる。</p> <p>12回目 鍼灸・按摩について [到達目標] 鍼・灸を理解し、鍼灸治療の応用を知ることができる。 復習：配布プリントを読んで、鍼灸治療の種類をまとめる。</p> <p>13回目 東洋医学の治療学のとらえ [到達目標] 東洋医学の治療学の概括を説明できる。 復習：配布プリントを読んで、東洋医学の治療の種類をまとめる。</p> <p>14回目 総括1：東洋医学の診断・治療学 [到達目標] 東洋医学の診断・治療学の要点を説明できる。 復習：これまでの配布プリントを読んで、東洋医学診断・治療学の要点を整理し、まとめる。</p> <p>15回目 総括2：東洋医学の診断・治療学 [到達目標] 東洋医学の診断・治療学の要点を記載できる。 予習：東洋医学診断・治療学の要点に関する設問に答え記載する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業内に配られたプリントの復習を行う。わからない部分があれば調べ、それでもわからなければ担当教員に質問したりして解決すること。
教科書	徹底図解 東洋医学のしくみ、兵頭 明監修 新星出版社 授業内の配布プリント
参考書	図解 よくわかる東洋医学のしくみ、関口善太監修 ナツメ社
成績評価	1. 授業回数の5分の3以上出席した者に対して評価を行う。 2. 評価割合は筆記試験80%、小テスト10%、授業態度の評価10%等を総合して行う。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 和辻 直 研究室 : 基礎鍼灸学講座（6号館2階） メールアドレス : t_watsuji@meiji-u.ac.jp

	オフィスアワー : 随時 担当教員名 : 斉藤宗則 研究室 : 基礎鍼灸学講座 (6号館2階) メールアドレス : mu_saitoh@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択必修
担当教員			
藤田 智恵子			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	1) 応急・救急法の必要性が理解できる。 2) BLS（一次救命処置）の技術が習得できる。 3) ALS（二次救命処置）の技術が習得できる。 4) 救急看護の役割と意義について理解できる。 5) 救急現場の実際を見学することで看護師の役割について理解できる。 6) 救急現場に関わる多職種との連携について理解できる。 7) 救急搬送される患者および家族への看護について考えることができる。
授業計画	<p>1回 オリエンテーション [到達目標]臨地見学実習や講義のねらいについて理解できる。</p> <p>2回 救急看護の目的と意義 [到達目標]救急看護の対象とその特徴、看護の役割について理解できる。 [備考]救急看護の目的について教科書を読んでおくこと。</p> <p>3回 医療者に必要な心肺蘇生法 [到達目標]心肺蘇生法の具体的方法について理解できる。 [備考]救命の連鎖について調べておくこと。</p> <p>4回 臨地見学実習 [到達目標]救急看護の目的と意義について理解できる。 [備考]洛和会音羽病院、公立南丹病院、大阪府三島救命救急センターにて見学。見学施設の特徴について調べておくこと。</p> <p>5回 臨地見学実習 [到達目標]救急看護の目的と意義について理解できる。 [備考]洛和会音羽病院、公立南丹病院、大阪府三島救命救急センターにて見学。見学施設の特徴について調べておくこと。</p> <p>6回 臨地見学実習 [到達目標]救急看護の目的と意義について理解できる。 [備考]洛和会音羽病院、公立南丹病院、大阪府三島救命救急センターにて見学。見学施設の特徴について調べておくこと。</p> <p>7回 臨地見学実習 [到達目標]救急看護の目的と意義について理解できる。 [備考]洛和会音羽病院、公立南丹病院、大阪府三島救命救急センターにて見学。見学施設の特徴について調べておくこと。</p> <p>8回 心肺蘇生法の実際 [到達目標]BLSの具体的方法が習得できる。 [備考]BLSの具体的方法と注意点について事前課題をまとめておくこと。</p> <p>9回 心肺蘇生法の実際 [到達目標]BLSの具体的方法が習得できる。 [備考]BLSの具体的方法と注意点について事前課題をまとめておくこと。</p> <p>10回 心肺蘇生法の実際 [到達目標]ALSの具体的方法が習得できる。 [備考]ALSの具体的方法と注意点について事前課題をまとめておくこと。</p> <p>11回 心肺蘇生法の実際 [到達目標]ALSの具体的方法が習得できる。 [備考]ALSの具体的方法と注意点について事前課題をまとめておくこと。</p> <p>12回 グループワーク① [到達目標]グループでのディスカッションを通じ、救急看護の目的と役割について理解できる。 [備考]自由テーマを設定しグループ討議する。</p> <p>13回 グループワーク② [到達目標]グループでのディスカッションを通じ、救急看護の目的と役割について理解できる。 [備考]自由テーマを設定しグループ討議する。</p> <p>14回 グループワーク③ [到達目標]グループでのディスカッションを通じ、救急看護の目的と役割について理解できる。 [備考]自由テーマを設定しグループ討議する。</p> <p>15回 まとめ [到達目標]グループでまとめた内容を発表し、学びを共有することができる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	事前オリエンテーション時に提示する。
教科書	系統看護学講座 救急看護学 山勢博彰他 医学書院
参考書	講義中に紹介する。
成績評価	1) 原則、3日間、すべての講義と見学に参加している者を評価対象とする。 2) グループ発表および個人のレポート内容などにより評価する。

<p>担当教員の基本情報</p>	<p>担当教員名 : 藤田智恵子 研究室 : 10号館8階 研究室802 メールアドレス : c-fujita@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義中に指示</p> <p>担当教員名 : 今井理香 研究室 : 10号館7階 研究室703 メールアドレス : r_imai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義中に指示</p> <p>担当教員名 : 原久美子 研究室 : 10号館7階 研究室709 メールアドレス : k_hara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義中に指示</p>
<p>備考</p>	<p>見学実習施設のグループメンバーは大学で決定する。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
渡邊 勝之			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	世界的には東洋医学（鍼灸・漢方）は非正当医学から伝統医学、さらには補完・代替医療(CAM)から統合医療として注目されている。日本においても漸くその機運が高まりつつあるのが現状である。医療人として、現代医療にどのように貢献していくのか、また統合医療においてどのような役割を担うことができるのかを考え、今後の方向性について考えることを目的とする。鍼灸師からの視点はもちろんであるが、医師、看護師らのメディカルスタッフの立場・考え・役割を知ることにより、チーム医療ならびに統合医療の実現に向けて考えていきたい。
授業計画	<p>概論1 統合医療のこれまでの歴史を理解し、定義と実践についての概要を説明できる。 統合医学を学ぶことの意味、目的を理解する。統合医学とは何かを理解する。補完医療、代替医療との相違。伝統医学と近代医学、東洋医学と西洋医学の統合について考える</p> <p>概論2 統合医療の基本となる哲学についての概要を説明できる。 教科書第9章：自然観・生命観・人間観・健康観・疾病観について考える</p> <p>討論1 日本における統合医療の現状の概要を説明できる 日本における統合医療の現状についてレポートを提出する レジュメを作成し個人発表およびディスカッションを行う</p> <p>討論2 中国・台湾における現状の概要を説明できる 中国・台湾における統合医療の現状についてレポートを提出する レジュメを作成し個人発表およびディスカッションを行う</p> <p>討論3 韓国・インドにおける現状の概要を説明できる 韓国・インドにおける統合医療の現状についてレポートを提出する レジュメを作成し個人発表およびディスカッションを行う</p> <p>討論4 アメリカ・キューバの現状の概要を説明できる アメリカ・キューバにおける統合医療の現状についてレポートを提出する。レジュメを作成し個人発表およびディスカッションを行う</p> <p>討論5 ヨーロッパ（イギリス・フランス）の現状の概要を説明できる イギリス・フランスにおける統合医療の現状についてレポートを提出する。レジュメを作成し個人発表およびディスカッションを行う</p> <p>討論6 ヨーロッパ（ドイツ・デンマーク・スウェーデン）の現状の概要を説明できる 北欧における統合医療の現状についてレポートを提出する。レジュメを作成し個人発表およびディスカッションを行う</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	プリント配布をしますので、事前に一読して講義を受講して下さい。 また、参加型の講義を実施しますので、能動的に取り組んで下さい。
教科書	「医療原論」 渡邊勝之 編 医歯薬出版社 プリント教材
参考書	「統合医療 基礎と臨床」(Part1・Part2) 渥美和彦 編集 日本統合医療学会 「別冊 医学のあゆみ 代替医療のいま」 今西二郎 編集 医歯薬出版社
成績評価	受動的な講義形式と、学生自らが調査・発表・討論を行う。能動的な講義形式を多面的に行うことにより、単なる知識ではなく応用力を身に付ける。 出席日数は、3/5以上を受験資格とし、60点以下の者は、追再試験を実施する。 両者の評価を総合して、60点以上を可、70点以上を良、80点以上を優とする。 レポート評価(30%)、出席および平常評価(30%)、試験評価(40%)とする。 レポートおよび個人発表で、優秀者は試験を免除することもある。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 渡邊勝之 研究室 : 6号館2階 基礎鍼灸学講座 教員室 メールアドレス : k_watanabe@mst.meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時（統合医療センター出向のため、火・水・金曜日以外）
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
松田 哲			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>授業では、「グローバル化の趨勢」と「子どものおかれている現状」について概観したうえで、「子どもの安全」に対する脅威にどのようなものがあるのか、それがグローバル化とどのように関係しているのか、さらには、子どもの安全を守る取り組みにどのようなものがあるのか等について、講義していく。具体的には貧困・戦争・教育・医療等の問題を扱い、それが「グローバル化」のなかでどのようにして子どもの安全に影響を及ぼしているのかを考えていきたい。</p> <p>到達目標は、「グローバル化」が進む国際社会において、「子どもの安全」がどのように脅かされているのかを説明できるようになること、途上国社会の在り方が子どもの生命・健康にどのような影響を及ぼしているかを説明できるようになること、とする。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス：グローバル化とは？ グローバル化の特徴について理解する。</p> <p>2 子どもの現状 子どものおかれている現状について理解する。</p> <p>3 貧困と子ども ストリート・チルドレンの問題点について理解する。 児童労働の問題点について理解する。</p> <p>4 戦争と子ども 戦争がもたらす子どもに対する肉体的・心理的ダメージについて理解する。 子ども兵士の問題点について理解する。 内戦後の学校教育が子どもに与える影響について理解する。</p> <p>5 生きる権利と子ども 「経済制裁」が子どもに与える悪影響について理解する。 子どもと教育の関わりについて理解する。 貧富の差から生まれる、子どものおかれた境遇の違いについて理解する。</p> <p>6 子どもを守る 「子どもの権利条約」とその意義について理解する。 人身売買を防止するための国際的取り組みについて理解する。 子どもを守る活動をしている医療NGOが直面する問題について理解する。</p> <p>7 子どもの現状：再考 講義のアウトラインを再確認する。</p> <p>8 まとめ</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書をよく読んでおくこと。コメントカードの提出を求めるので、提出が求められた場合には自宅で執筆してくること。
教科書	『国際関係のなかの子ども』初瀬龍平・松田哲・戸田真紀子編著（御茶の水書房）
参考書	講義に際して適宜紹介する。
成績評価	コメントカードの提出（40%）、期末試験（60%）
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：松田 哲（非常勤講師）</p> <p>研究室：非常勤講師</p> <p>メールアドレス：</p> <p>オフィスアワー：授業後</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	必修
担当教員			
小山 晃英、佐藤 裕見子			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	疫学とは、医療・保健において、健康な状態から疾病状態までの問題点を把握し、その解決策を模索する一連の流れの中で、問題点を分析する論理的な思考法と、それを裏付ける情報(データ)の処理、解析する手法について学ぶ学問である。具体的には、人間集団を対象にして調査を行い、その対象に存在する医療・保健に関する問題点を数値(指標)で表現し、その表現された数値間の関係を、統計学等の基礎学問の論理により解析、分析を行い、「原因と結果」という形で問題点を明確にし、さらにその問題を解決する方法を模索する。 到達目標：本授業では、疫学の基本的な考え方、疫学での基本的かつ重要な指標の意味と算出方法を知り、指標の数値から導かれる状況の把握と、問題点を明確にする論法を理解し、問題解決法を模索することができることを目標にする。		
授業計画	第1回	疫学の紹介(佐藤) 歴史的な疫学事例を通して、疫学の原理を考える。	
	第2回	集団の健康状態の把握(佐藤) 有病率、罹患率、死亡率、致命率、RMR、PMIの理解ができ、計算ができる。	
	第3回	疫学的研究方法(佐藤) 観察研究・介入研究・疫学研究における信頼性と妥当性・因果関係の立証について理解する。	
	第4回	アウトブレイク発生時の調査(佐藤) アウトブレイク発生時の疫学調査の方法について事例を通して理解することができる。	
	第5回	疾病の予防とスクリーニング・感染症の基礎概念(小山) 疾病予防の3段階、スクリーニング検査の評価について理解する。	
	第6回	おもな疾患の疫学(小山) 喫煙・飲酒・栄養・運動等の生活習慣と疾病発生状況の関連を理解する。	
	第7回	人口統計の基礎(小山) 人口統計の意義、主な人口統計指標の分母と分子について理解する。平均余命の計算方法を理解する。	
	第8回	統計で利用するグラフ(小山) ヒストグラムと散布図を作成することができる。	
	第9回	正規分布(小山) ヒストグラムと正規分布の関係を理解する。	
	第10回	標準偏差(小山) 平均値と標準偏差を用いて正規分布のグラフを説明できる。	
	第11回	区間推定(小山) 正規分布する集団について、標本から母集団の平均値を統計的に推定できる。	
	第12回	仮説検定1(小山) 帰無仮説と対立仮説を立てることができる。	
	第13回	仮説検定2(小山) 有意水準5%で帰無仮説を検定することができる。	
	第14回	まとめ1(佐藤)	
	第15回	まとめ2(佐藤)	
授業時間外の学習(準備学習等)について	教科書及び参考書により予習及び復習をすること。(各30分～1時間程度)		
教科書	標準保健師講座・別巻2 疫学・保健統計学 牧本清子 著、医学書院 発行 (ISBN978-4-260-00751-1)		
参考書	社会人1年生のための統計学教科書 -データの見方からリスク・リテラシーまで- 浅野晃 著、SBクリエイティブ 発行 (ISBN978-4-7973-7517-6)		
成績評価	出席、レポート及び試験による		
担当教員の基本情報	担当教員名	研究室	メールアドレス
	小山 晃英		tkoyama@koto.kpu-m.ac.jp
	佐藤 裕見子	10号館8階	y-sato@meiji-u.ac.jp
			オフィスアワー
			金曜日
			火曜日午後
備考			

--	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
坂井 茂子			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	公衆衛生は共同社会の組織的な努力を通じて、疾病を予防し、寿命を延長し、身体的・精神的健康と能率の増進を図る科学技術である（鈴木、久道他2010）。公衆衛生学では、人間集団を対象とした環境整備、疾病の予防、健康の保持増進を図ることを目的とした内容について学ぶ。
授業計画	<p>1回目 公衆衛生の概念 公衆衛生の発展の歴史を踏まえ、公衆衛生の特性、プライマリー・ヘルスケアを理解する。</p> <p>2回目 健康の指標 公衆衛生における疫学指標について理解する。</p> <p>3回目 感染症とその予防 公衆衛生における感染症の予防の基本を理解する。</p> <p>4回目 公衆衛生活動の実際 母子保健・精神保健・難病対策について理解する。</p> <p>5回目 生活習慣病の予防 メタボリックシンドロームの予防と対策を中心とした疾病管理を理解する。</p> <p>6回目 健康と環境、疫学的方法について 環境全般や生活環境の保全について理解する。講師：ゲストスピーカー</p> <p>7回目 これからの公衆衛生 各自がこれからの公衆衛生について課題について考え、ディスカッションを通して学びを深める。 *公衆衛生の課題を1つ選び、自分の考えをまとめレポートする。</p> <p>8回目 試験</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	(1) 教科書のその日にやったところを読み返しておくこと。 (2) その日に指示されたキーワードを文章でまとめておくこと。
教科書	「公衆衛生学」 清水忠彦 佐藤拓代著（ヌーヴェルヒロカワ）
参考書	「国民衛生の動向」（厚生統計協会）
成績評価	出席状況・参加態度・レポート20%、筆記試験80%により総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 坂井茂子 研究室 : 研究棟 10号館 7F メールアドレス : s_sakai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日午後
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
小倉 之子			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	1. 終末期にある患者とその家族の身体的・精神的・社会的・霊的苦痛について理解する。 2. 終末期にある患者の家族および遺族のニーズについて考察する。 3. 終末期にある患者に対する看護援助の特徴を理解する。
授業計画	<p>1回 [授業概要] I 緩和・ターミナルケア看護学序説(1) [到達目標] 終末期ケア、緩和ケアの考え方や死にまつわる文化について理解する。 [備考] 教科書p4～p60を読んでおく。</p> <p>2回 [授業概要] 現代における終末期ケアの課題（グループワーク） [到達目標] これまでの学習や生活体験から終末期ケアに関連した疑問を表出し終末期ケアの課題を考えることができる [備考] ・事前に終末期ケアに関する疑問を最低1人1つは考え、グループ討議ができるよう準備をしておくこと。</p> <p>3回 [授業概要] 現代における終末期ケアの課題（グループ討議） [到達目標] これまでの学習や生活体験から終末期ケアに関連した疑問を表出し終末期ケアの課題を考えることができる [備考] ・事前に終末期ケアに関する疑問を最低1人1つは考え、グループ討議ができるよう準備をしておくこと。</p> <p>4回 [授業概要] I 緩和・ターミナルケア看護学序説 [到達目標] 医療施設における終末期ケアにおける看護の役割、死をめぐる倫理的問題と課題、終末期ケアとチーム医療について理解する。 [備考] ・教科書p25～p60を読んでおく。</p> <p>5回 [授業概要] II ターミナル期にある人とその家族の特徴と看護援助(1) [到達目標] 終末期期にある人の身体・精神・社会・霊的特徴とその課題を理解する。終末期にある患者の死にゆくことへの態度、その家族の特徴について理解する。 [備考] ・教科書p61～p103を読んでおく。</p> <p>6回 [授業概要] III ターミナル期にある人とその家族への看護援助(2) [到達目標] ターミナル期におけるQOLの維持向上について理解する。家族の予期悲嘆における看護の役割を理解する。 [備考] ・教科書p100～p139</p> <p>7回 [授業概要] 実践編 疼痛コントロール [到達目標] 薬剤の活用およびその副作用について理解できる。 [備考] ・教科書p245～p277を読んでおく。</p> <p>8回 [授業概要] まとめ [到達目標] [備考] 終講試験</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	毎授業時、「授業計画」の〔備考〕を参照して下さい。
教科書	『緩和・ターミナルケア看護論 第2版』（ヌーヴェルヒロカワ）教科書を元に授業を進めるので、必ず授業時毎回持参して下さい。
参考書	『系統看護学講座 別巻 緩和ケア』（医学書院）『ナーシンググラフィカ 緩和ケア』（メデイカ出版）
成績評価	出席状況、レポート、筆記試験により総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 小倉 之子 研究室 : 10号館（看護学部棟）8階801 メールアドレス : y_ogura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 適時対応します。</p> <p>担当教員名 : 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー :</p> <p>担当教員名 : 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー :</p>
備考	

--	--

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3-4	3	必修
担当教員			
藤田 智恵子 今井 理香 原 久美子			
配当学部：看護学部	時間数：135時間	授業形態：実習	

授業目標	1. 手術を受ける対象の特徴および手術前・中・後の3つの医療環境を理解した上で、対象のニーズに応じた援助ができる。 2. 治療に伴う機能障害や形態の変化を受容し、適応に向けての援助ができる。 3. 対象の退院後の生活背景を把握、回復状態に応じた日常生活の自立への援助ができる。 4. 危機的な状況にある対象および家族または重要他者への援助方法について考えることができる。 5. 保健医療チームメンバー間の連携および社会資源の活用方法について理解できる。
授業計画	詳細は急性期看護学実習要項を参照。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	事前学習は実習オリエンテーションで提示する。
教科書	実習要項を事前に配布する。
参考書	成人看護学概論、急性期看護援助論Ⅰ・Ⅱで紹介したものを使用する。
成績評価	出席状況、実習への積極的姿勢、実習記録により総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 藤田智恵子 研究室 : 10号館8階 研究室802 メールアドレス : c-fujita@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 実習中に指示</p> <p>担当教員名 : 今井理香 研究室 : 10号館7階 研究室703 メールアドレス : r_imai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 実習中に指示</p> <p>担当教員名 : 原久美子 研究室 : 10号館7階 研究室709 メールアドレス : k_hara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 実習中に指示</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3-4	3	必修
担当教員			
小倉 之子、宇城靖子、鈴木 規子			
配当学部：看護学部	時間数：135時間	授業形態：実習	
授業目標	実習目的： 慢性的な健康課題を有するあるいは終末期にある人とその家族を対象とし、その対象者への看護実践をとおして、慢性期看護学の本質と看護方法について理解を深める。 実習目標 1. 対象者の健康生活を理解し、看護過程を活用して看護を実践するために必要な基本的知識・技術・態度を養う。 2. 対象者の健康生活を支援する保健医療福祉体制の実際と、その中での看護の役割・機能について理解を深める。 3. 慢性期看護学実習をとおして、看護者としての倫理観・看護観を養い、自己の課題を明らかにする。		
授業計画	『臨地実習要項 慢性期看護学実習』を参照して下さい。		
授業時間外の学習（準備学習等）について	『臨地実習要項 慢性期看護学実習』を参照して下さい。		
教科書	『臨地実習要項 慢性期看護学実習』		
参考書	適宜紹介します。		
成績評価	『臨地実習要項 慢性期看護学実習』を参照して下さい。		
担当教員の基本情報	担当教員名 : 小倉 之子 研究室 : 10号館（看護学部棟）8階801 メールアドレス : y_ogura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 適時対応します 担当教員名 : 宇城靖子 研究室 : 10号館（看護学部棟）7階706 メールアドレス : s_ushiro@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 適時対応します 担当教員名 : 鈴木 規子 研究室 : 10号館（看護学部棟）7階709 メールアドレス : n_suzuki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 適時対応します		
備考			

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
杉山 敏宏			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	精神（こころ）の健康問題を多面的に理解するための幅広い知識を学ぶ。
授業計画	<p>1 回目 精神保健の歴史 [到達目標] 精神保健の歴史上の事件や法律をいうことができる。</p> <p>2 回目 看護師のメンタルヘルス（1）共感と感情労働 [到達目標] 共感とはどのようなものか、感情労働とは何かを説明できる</p> <p>3 回目 看護師のメンタルヘルス（2）と燃え尽き症候群 [到達目標] ワーカホリックや燃え尽き症候群について、その説明することができる。</p> <p>4 回目 アディクション（1）摂食障害その他アディクション [到達目標] 摂食障害とは何かや、その他アディクションとよばれるものにどのようなものがあるか言うことができる。</p> <p>5 回目 アディクション（2）アルコール依存症 [到達目標] 耐性、離脱症状とは何かや、アルコール依存の治療について説明することができる。</p> <p>6 回目 精神保健関連法規 [到達目標] 精神保健関連の法律、特に精神保健福祉法の主な項目を言うことができる。</p> <p>7 回目 地域精神保健 [到達目標] 地域で精神障害者を支える社会資源・制度には何かがあるかを言うことができる。</p> <p>8 回目 試験</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義前に、教科書の該当するページを読んでくること。
教科書	「精神看護学Ⅰ」 精神保健学 川野雅資 他 著（ヌーヴェルヒロカワ）
参考書	特に指定しない
成績評価	定期試験および授業への参加態度によって評価する。 (試験70%、出席および受講態度30%)
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 杉山敏宏 (科目責任者) 研究室 : 10号館8階807研究室 メールアドレス : t_sugiyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (精神看護学実習のため病院出張以外)</p> <p>担当教員名 : 戸田一男 研究室 : 10号館7階702研究室 メールアドレス : k_toda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (精神看護学実習のため病院出張以外)</p> <p>担当教員名 : 梶川拓馬 研究室 : 10号館7階713研究室 メールアドレス : t_kajikawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (精神看護学実習のため病院出張以外)</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3-4	2	必修
担当教員			
杉山 敏宏			
配当学部：看護学部	時間数：90時間	授業形態：実習	

授業目標	「精神障害」とは何かを理解し、それを持つ人への援助に必要な基礎的能力を養う。 1. 患者様を生活する人として理解する。 2. 信頼関係を築く。 3. 看護家庭の知識を用いて、個別的な援助を考えることができる。 4. 精神領域における看護者の役割を理解する。
授業計画	詳しくは実習要項を参照してください。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	・講義で学んだことをしっかりと復習しておく。 ・実習中に分からなかったこと、疑問に思ったことは、必ず担当教員に質問し、また文献等で確認して解決すること。
教科書	系統看護学講座「精神看護の基礎」精神看護学①(医学書院) 精神看護学Ⅰ 精神保健学 川野雅資 他著(ヌーヴェルヒロカワ) 精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 川野雅資 他著(ヌーヴェルヒロカワ) 「表情看護のすすめ」平澤久一 監修(メディカ出版) 「精神看護学」学生-患者のストーリーで綴る実習展開 田中美恵子 編著(医歯薬出版)
参考書	特に指定しない。
成績評価	実習記録・カンファレンス参加状況・出席・実習に取り組む姿勢などを総合的にみて、実習終了後に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 杉山敏宏(科目責任者) 研究室 : 10号館8階807研究室 メールアドレス : t_sugiyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 実習病院にて適宜受け付ける。 担当教員名 : 戸田一男 研究室 : 10号館7階702研究室 メールアドレス : k_toda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 実習病院にて適宜受け付ける。 担当教員名 : 梶川拓馬 研究室 : 10号館7階713研究室 メールアドレス : t_kajikawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 実習病院にて適宜受け付ける。
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3-4	2	必修
担当教員			
デッカー 清美			
配当学部：看護学部	時間数：90時間	授業形態：実習	

授業目標	<p>教育概要 女性のライフサイクル全体における、健康及び健康障害に関する看護について考える。また、新しい生命が誕生する場において、妊産褥婦と新生児に対する理解を深め、家族も含めた発達段階や健康問題についてアセスメントできる能力を養い、周産期の看護を展開する。</p> <p>教育目標 1. 女性のライフサイクルの各時期（胎児期、乳幼児期、学童期、思春期・青年期、成人期、更年期、老年期）における健康及び健康障害について理解し、女性の一生を通じての健康及び健康障害に関する看護の必要性和具体的な援助方法について考えることができる。 2. 周産期における看護過程の展開ができる。 2-1. 母子を身体的・心理社会的側面から理解し、家族を含めた全体像をとらえる事ができる。 2-2. 母子や家族の発達課題や、健康問題が生活に及ぼす影響について理解できる。 2-3. 母子への看護援助方法の実際が理解できる。 2-4. 母子およびその家族への看護過程の展開ができる</p>
授業計画	<p>実習期間：1クール 2週間（学生配置と期間・時間等の詳細は後日公表） 実習場所：明治国際医療大学附属病院（婦人科外来） 愛仁会高槻病院 市立福知山市民病院 近江八幡市立総合医療センター 舞鶴医療センター 三菱京都病院 その他</p> <p>実習内容：女性のライフサイクル全体に関する実習と、周産期に焦点を当てた実習を行う。</p> <p>1 女性のライフサイクルに関する実習 1) 婦人科外来にて1事例以上を受け持ち、周産期以外ライフサイクル全体における女性の健康障害に関する看護過程の展開を行う。 2) グループ毎に課題を設定し、女性のライフサイクルの一時期（周産期以外）に焦点を当てた実習を展開する。</p> <p>2 周産期実習 1) 学生数名でグループを編成し、病棟で実習を行う。 2) 原則として1組の母子を受け持ち看護を展開する。 3) 今まで習得した知識・技術を基本に、受け持った母子の生理的な変化や適応過程を理解して、正常からの逸脱時には必要な援助を考え実施する。 4) 行動目標と具体的な計画を立て、実習開始前に教員より助言を得る。 5) 看護ケアを行う際は、行動目標を実習指導者に報告し、相談・助言を得た上で行う。 6) 随時カンファレンスを行うことにより実習体験を共有する。</p> <p>その他、詳細は実習要項に記載する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	実習オリエンテーション時に課題提示する（指定日に提出） 女性のライフサイクルと健康、および周産期の看護（妊娠、分娩、産褥、新生児の各期）について復習しておくこと（知識・技術）
教科書	「母性看護概論」「母性看護援助論Ⅰ・Ⅱ」で使用した教科書
参考書	「母性看護概論」「母性看護援助論Ⅰ・Ⅱ」授業で紹介された文献および資料 「イラストで学ぶ妊娠・分娩・産褥の生理」 メディカ出版 「ウイメンズヘルスナーシング概論」 ヌーベル ヒロカワ出版
成績評価	出席状況 実習への積極的姿勢、実習記録・レポート等を総合的に評価する。 (原則として実習内容・記録類80%、出席状況・実習態度20%とする)
担当教員の基本情報	未定
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択必修
担当教員			
矢野 恵子、矢野 忠			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	母性看護学で学んだ事柄をもとに、助産学の基礎となる事柄について、関連領域の知識も含め学ぶ。
授業計画	<p>1 助産の概念 助産とは何か、助産の定義・概念について学ぶ。 (グループ課題に向けた取り組み開始)</p> <p>2 助産師業務と法律 助産、および助産師業務領域に関連する法律について理解を深める。</p> <p>3 母子保健の歴史と動向 母子保健の歴史と動向について学ぶ。 地域保健活動システム論」における学びと連動させて理解すること。</p> <p>4 助産の歴史 国内外の分娩および助産の歴史について学ぶ。 「母性看護学概論」における学びと連動させて学習すること。</p> <p>5 母子を取り巻く生活環境 母子を取り巻く生活環境について学ぶ。 TV・新聞等で、関連する最新のニュース・情報に常にアンテナを貼っておくこと。</p> <p>6 周産期の栄養 妊娠・出産・産褥・育児期の栄養について学びを深める。 「母性看護援助論」での学びについて十分復習しておくこと。</p> <p>7 周産期と補完代替療法 1 周産期に応用できる補完代替療法について学ぶ。 「東洋医学概論」での学びについて、十分復習しておくこと。</p> <p>8 周産期と補完代替療法 2 周産期に応用できる補完代替療法について学ぶ。 「東洋医学概論」での学びについて、十分復習しておくこと。</p> <p>9 周産期と運動 周産期に活用できる各種運動について学ぶ。 運動のできる服装で参加すること。</p> <p>10 家族計画 家族計画指導に必要な知識と技術について学ぶ。 「母性看護学概論」「母性看護援助論」での学びについて十分復習しておくこと。</p> <p>11 女性のライフサイクルと健康 女性のライフサイクルに沿って、女性の健康問題について理解する。 「母性看護学概論」における学びをもとに、発展させて理解すること。</p> <p>12 周産期と家族 周産期に起こりうる家族の問題について学ぶ。 「家族関係援助論」での学びと関連付けて学習すること。</p> <p>13 子育て支援 現在の日本における子育て支援について学ぶ。 「母性看護援助論」での学びについて十分復習しておくこと。</p> <p>14 グループ課題発表 既存助産学領域に関するテーマについての、グループの取り組みを発表する。</p> <p>15 まとめ (試験等)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	母性看護学関連科目で学んだ内容も十分復習してから講義に臨むこと。また、母性看護学関連科目で使用した教科書・参考書類および配布資料等も適宜活用すること。
教科書	「助産学講座全10巻」我部山キヨ子・竹谷雄二編 (医学書院)のうち、以下の6冊を使用：1. 基礎助産学 [1] 助産学概論 [第4版] 2. 基礎助産学 [2] 母子の基礎科学 [第5版] 3. 基礎助産学 [3] 母子の健康科学 [第4版] 4. 基礎助産学 [4] 母子の心理・社会学 [第4版] 9. 地域母子保健・国際母子保健 [第4版] 10. 助産管理 [第4版]
参考書	「助産師基礎教育テキスト全7巻」山本あい子編 (日本看護協会出版会)より、「第1巻 助産概論」「第2巻 女性の健康とケア」他、講義において随時提示する。
成績評価	筆記試験・レポート、授業および演習参加状況により総合的に評価する。(原則として試験・レポート80%、出席状況及び授業・演習参加態度20%)
担当教員の基本情報	<p>矢野恵子 研究室 : 10号館8階 メールアドレス : k_yano@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 原則として木曜日13:00~13:30</p> <p>矢野 忠 オフィスアワー : 随時 (講義日の講義終了後など)</p>

備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	5	選択必修
担当教員			
矢野 恵子、岡本 留美、神原祐美、他			
配当学部：看護学部	時間数：75時間	授業形態：講義	

授業目標	妊娠・分娩・産褥期、および新生児期を中心として、母子およびその家族を対象として助産実践を展開するために必要な基礎知識を学ぶとともに、助産診断に基づく助産過程を展開できるように必要な技術を学ぶ。
授業計画	<p>1 助産過程と助産診断 助産診断とは何か、助産診断の概念について学ぶ</p> <p>2 妊娠期の助産診断 1 妊娠初期の助産診断について学ぶ</p> <p>3 妊娠期の助産診断 2 妊娠中期の助産診断について学ぶ</p> <p>4 妊娠期の助産診断 3 妊娠末期の助産診断について学ぶ</p> <p>5 妊娠期の助産技術 1 妊娠初期の助産技術について学ぶ</p> <p>6 妊娠期の助産技術 2 妊娠中期の助産技術について学ぶ</p> <p>7 妊娠期の助産技術 3 妊娠末期の助産技術について学ぶ</p> <p>8 分娩期の助産診断 1 分娩第Ⅰ期の助産診断について学ぶ</p> <p>9 分娩期の助産診断 2 分娩第Ⅱ期の助産診断について学ぶ</p> <p>10 分娩期の助産診断 3 分娩Ⅲ・Ⅳ期の助産診断について学ぶ</p> <p>11 分娩期の助産診断 4 分娩期の共通・共同診断について学ぶ</p> <p>12～14 分娩期の助産技術 1 分娩介助技術の基本について学ぶ</p> <p>15 まとめ1（筆記試験等） 妊娠・分娩期の助産診断と助産技術</p> <p>16～22 産褥期・育児期の助産診断・助産技術 産褥期・育児期の生理とアセスメント 産褥期・育児期の支援・看護 母乳育児支援技術 課題学習 小テスト</p> <p>23～29 新生児期・乳児期の助産診断・助産技術1 新生児の生理とアセスメント 新生児期の助産診断 出生直後の新生児の看護 新生児の看護 新生児蘇生法 新生児期～乳児期に関する助産上の課題（課題学習）</p> <p>30～32 分娩介助技術（応用編） フリースタイル分娩とその介助等</p> <p>33・34 分娩介助技術 分娩介助の実技試験</p> <p>35・36 妊娠期の助産技術4 妊娠期の超音波診断（臨床講義等）</p> <p>37・38 ※乳房管理に関する助産診断・助産技術 この分については、助産学実習Ⅰ・Ⅱ終了後に行う</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	必要に応じ、課題学習・補習を行う。 「母性看護援助論Ⅰ・Ⅱ」で学んだ知識も十分に活用して、予習・復習を行うこと。
教科書	「助産学講座全10巻」我部山キヨ子・竹谷雄二編（医学書院）のうち、以下の4冊を使用：5. 助産診断・技術学Ⅰ〔第5版〕 6. 助産診断・技術学Ⅱ〔1〕妊娠期〔第5版〕 7. 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期〔第5版〕 8. 助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児期・乳幼児期〔第5版〕

	「マタニティ診断ガイドブック」日本助産診断・実践研究会編著（医学書院）
参考書	「助産師基礎教育テキスト全7巻」山本あい子編（日本看護協会出版会）より、「第4巻 妊娠期の診断とケア」「第5巻 分娩期の診断とケア」「第6巻 新生児・乳幼児期のケア」、および「新訂マタニティアセスメントガイド」吉沢豊予子・鈴木幸子編（真興交易（株）医書出版部）他、講義において随時提示する。
成績評価	試験・レポート、および授業演習参加状況より総合的に評価する。 （原則として試験・レポート80%、出席状況及び授業・演習参加態度20%）
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 矢野 恵子 研究室 : 10号館8階 メールアドレス : k_yano@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 原則として木曜日13:00~13:30 (但し、実習指導等による変更あり)</p> <p>担当教員名 : 夏山 洋子 研究室 : 10号館8階 メールアドレス : natsu@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 原則として月曜日 11:10~17:00 (但し、実習指導等による変更あり)</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3-4	10	選択必修
担当教員			
矢野 恵子、岡本 留美、神原祐美、他			
配当学部：看護学部	時間数：450時間	授業形態：実習	

授業目標	正常分娩経過における助産診断・助産技術の基礎を身につける。併せて、妊娠・分娩・産褥・育児期の母親と胎児・新生児、およびその家族への、個別性を考慮した継続的な助産過程の展開についても学ぶ。また、助産管理の実際についても学ぶ。
授業計画	<p>原則として正常分娩経過をたどる産婦および新生児を10例程度受け持ち、分娩第Ⅰ期～第Ⅳ期において、適切な助産診断のもとに助産計画を立案し、受け持ちの母子および家族に対して、個別性を考慮した助産および保健指導を行う。あわせて、妊娠～分娩～産褥・育児期の対象に対する継続的な助産過程の展開を行う。また、助産実践と助産管理の関係についても検討する機会を持つ。</p> <p>学生は原則2人1組で実習を行う。必要に応じて、適宜役割分担すること。実習施設時によっては、夜間実習および時間外待機実習も行う。</p> <p>実習予定施設：市立福知山市民病院 京丹後市立弥栄病院 公立南丹病院 みき助産院 他</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	助産技術については、実習開始前、実習開始後ともに、時間外を有効に使うて十分に学内演習を積み重ねておくこと。必要に応じて、課題学習・補修を行う。 実習中の健康管理には、各自十分に配慮すること。 参考文献・参考資料は、自分たちでも積極的に集めて（または作成して）おくこと。
教科書	母性看護学、基礎助産学、助産診断・技術学、助産管理で使用した教科書を活用する。
参考書	実習経過に応じて、適宜提示する。
成績評価	実習内容、実習記録・レポート、ならびに実習態度・出席状況などを総合的に評価する。（原則として実習内容・実習記録・レポート80%、実習態度・出席状況20%）
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：矢野 恵子 研究室：10号館8階 メールアドレス：k_yano@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：原則として火曜日11：00～12：00（後期） 原則として木曜日13：00～13：30（前期） （但し実習指導等による変更あり）</p> <p>担当教員名：夏山 洋子 研究室：10号館7階 メールアドレス：natsu@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：原則として月・金曜日12：30～17：00 （但し実習指導等による変更あり）</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3-4	2	必修
担当教員			
山下 八重子			
配当学部：看護学部	時間数：90時間	授業形態：実習	

授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの成長発達及び発達課題を理解し、日常生活の援助ができる 2) 子どもの健康状態及び発達段階に応じた遊び・学習の援助ができる 3) 子どもとその家族の問題が分かる 4) 子どもとその家族に応じた看護計画が立案できる 5) 子どもとその家族を取り巻く保健医療チームの役割や連携について理解できる 6) 子どもの権利や小児看護師の役割について考察できる
授業計画	<p>実習</p> <p>1週目 受け持ち患児の疾患と治療、成長発達と家族の状況を把握し、関連図を作成し問題点を明らかにする。 バイタルサインを測ることができ、患児の症状の観察ができる。 報告ができる。</p> <p>2週目 看護計画を実践し、自分の行った看護を評価する。 子どもと家族を含めた看護について考えることができる。 カンファレンスを通してメンバーの学びを共有する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの成長発達・小児発達理論についてまとめる 2) 子どもの成長発達への援助についてまとめる 3) 代表的な疾患の病態・治療・検査についてまとめる 4) 小児看護技術を自己学習による演習を実施し確認する 5) 小児看護の実際が分かる参考書等を読んでおく
教科書	<p>ナーシング・グラフィカ 小児の発達と看護 中野綾美編 (MCメディカ)</p> <p>ナーシング・グラフィカ 小児看護技術 中野綾美編 (MCメディカ)</p> <p>ナーシング・グラフィカ 小児の疾患と看護 中村友彦 (MCメディカ)</p> <p>系統看護学講座 小児看護学2 奈良間美穂編 (医学書院)</p>
参考書	<p>系統看護学講座 小児看護学1 奈良間美穂編 (医学書院)</p> <p>写真でわかる小児看護技術 (インターメディカ)</p> <p>その他、小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ・Ⅱ、疾病治療論の教科書</p>
成績評価	実習への姿勢、記録物、理解度を総合的に評価する
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 山下八重子 研究室 : 10号館8階 メールアドレス : y_yamashita@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日 14:00~16:00</p> <p>担当教員名 : 面田康恵 研究室 : 10号館6階 (共同研究室) メールアドレス : y_omoda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 金曜日 15:00~16:00</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3-4	3	必修
担当教員			
上仲 久			
配当学部：看護学部	時間数：135時間	授業形態：実習	

授業目標	介護老人保健施設・介護老人福祉施設等を利用する高齢者との関わりを通じて、要介護状態にある高齢者の理解を深めるとともに、望ましい日常生活への援助を実践する。
授業計画	詳細は、老年看護学実習要項を参照のこと。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	積極的に取り組む姿勢で実習に臨むこと。 現場で学んだ内容を復習して理解を深めること。 事前学習などを指示する。
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」北川公子ほか著 (医学書院) 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態 疾患論」佐々木英忠ほか著 (医学書院)
参考書	適時紹介する。
成績評価	出席状況、実習への積極的姿勢 レポート (看護記録含む) の提出を総合的に評価する。詳細は、老年看護学実習要項を参照のこと。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 上仲 久 研究室 : 10号館8階 メールアドレス : uenaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (メールにて約束をとること)</p> <p>担当教員名 : 宇城 靖子 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : y_ushiro@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (メールにて約束をとること)</p> <p>担当教員名 : 栗山 真由美 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : m_kuriyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (メールにて約束をとること)</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3-4	2	必修
担当教員			
河原照子 松岡みどり			
配当学部：看護学部	時間数：90時間	授業形態：実習	

授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の機能障害・構造障害が理解できる。 2. 対象のリハビリテーションプログラムが理解できる。 3. 対象のADLを評価し、自立を目指した日常生活の援助ができる。 4. 対象及び家族の気持ちを受け止め、尊重した態度で接することができる。 5. 生活の再構築とQOL向上を目指し、対象及び家族と共に考えることができる。 6. リハビリテーション医療における看護の役割が理解できる。 7. リハビリテーションチームの連携の必要性が理解できる。 8. 対象に応じた看護過程の展開ができる。
授業計画	<p>既習の知識、技術を基盤に、リハビリテーションを必要とする対象を総合的に理解し、その人らしい生活の再自立あるいは再構築に向けた援助について学ぶ。</p> <p>対象の疾患の機能障害・構造障害について理解できる。 対象の障害の状態にあわせたリハビリテーションプログラムが理解できる。 障害を負った対象及び家族との信頼関係が構築できる。 退院生活後の再自立あるいは再構築の獲得を目指し、対象及び家族と共に考えることができる。 リハビリテーション医療における看護の役割について理解できる。</p> <p>リハビリテーションチーム連携・協働の必要性について理解できる。対象に応じた看護過程の展開ができる。 学生としての節度を守り、看護者としてふさわしい態度で、積極的に学習課題に取り組むことができる。 (詳細は実習要項参照)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	事前に配布した実習要項参照 事前課題あり
教科書	実習要項参照 (実習オリエンテーションでも提示する)
参考書	リハビリテーション看護学概論, リハビリテーション看護援助論で紹介したものを参考にする.
成績評価	実習への取り組み姿勢, 実習記録等を参考に実習評価表に基づき評価する.
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 河原照子 研究室 : 10号館8階 研究室804 メールアドレス : t_kawara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 特に指定なし 事前にメールで連絡のこと</p> <p>担当教員名 : 松岡みどり 研究室 : 10号館6階 共同研究室 メールアドレス : m_matsuoka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 実習中に指示</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
田中 小百合			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	概要：訪問看護師に必要なマナーや在宅看護活動に必要な知識、基本的な生活行動への支援を学ぶ。 目標：訪問看護師としてのマナーを知る。在宅における感染症対策が理解できる。緊急時・災害時の対応を学ぶ。在宅における生活支援の方法と技術を理解する。
授業計画	1回目 概論の知識確認 概論で学んだ訪問看護と施設内看護の違い、在宅療養の成立条件、介護保険制度、医療保険制度のしくみ、訪問看護ステーションの設置、運営、従業者、管理、対象者、サービスと利用までの流れ、ケアマネージャの役割などについて述べる事ができる 2回目 在宅でのコミュニケーション・面接技術 在宅看護における家庭訪問の技術について理解できる。 3回目 感染症対策とリスクマネジメント 在宅ケアにおける感染症への対応の原則と看護のポイントを理解できる 在宅看護において多くみられるインシデントを理解し、家族への予防指導、看護師の予防対策およびリスクマネジメントについて理解できる。 4～7回目 日常生活の援助技術 在宅における食事援助の技術／排泄援助の技術／清潔援助の技術／移動援助の技術について理解できる。 8回目 まとめ
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書2冊を使用しながら進行するので、教科書を熟読してくること。レジメに書かれている教科書のページ番号を参考にしたり、配布資料も使用しながら復習を行うこと。 在宅看護は統合科目であるので、これまでに習った知識（例えば、病院での感染症対策、基礎看護学での看護技術・病態生理・高齢者とのコミュニケーションの仕方など）を前提にして、授業を進行することが多い。忘れていた知識は各自で再確認しておくこと。
教科書	「在宅看護論」秋山 正子他著（医学書院） 「地域療養を支えるケア」櫻井尚子他編集（メディカ出版）
参考書	随時、提示する
成績評価	試験にて評価する
担当教員の基本情報	研究室 : 10号館 7階 メールアドレス : sayutana@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日1240～1330
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
田中 小百合			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	概要：療養者と家族のニーズを捉える在宅看護の展開，在宅での医療における在宅看護活動に必要な知識，技術・態度について学ぶ。 目標：在宅において医療管理を必要とする人とその家族への看護を理解できる．さまざまな事例から状態に応じた在宅看護を学習する．収集した情報から療養者と家族のニーズを捉え，看護展開ができる．
授業計画	1～5回目 医学的管理が必要な技術 在宅における服薬管理の技術／膀胱留置カテーテル／経管栄養／中心静脈栄養／褥瘡・ストマ管理／人工呼吸器を必要とする患者の看護について理解できる． 6・7回目 在宅酸素療法 在宅酸素療法を必要とする患者の看護、医療機器について理解できる． 8～11回目 対象別の在宅看護 在宅における脳血管疾患後遺症／認知症／精神疾患／糖尿病／難病／ターミナル期にある人について理解できる． 12～14回目 在宅看護過程 在宅看護過程の特徴を学び，在宅看護を展開する一連の過程である情報収集，アセスメント，実践，評価を学ぶ．また，事例をとおして具体的な在宅看護過程の展開方法を理解できる．事例を用いて在宅での看護展開ができる 15回目 まとめ
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書2冊を使用しながら進行する。予習・復習の際は、レジメに書かれている教科書のページ番号を参考にし て行うこと。配布資料も使用しながら復習を行うこと。 在宅看護は統合科目であるので、これまでに習った知識（例えば、解剖生理、基礎看護学の看護技術、看護展 開・老年看護学の認知症の看護についてなど）を前提にして、授業を進行することが多い。忘れていた知識は 各自で再確認しておくこと。
教科書	「在宅看護論」秋山 正子他著（医学書院） 「地域療養を支えるケア」櫻井尚子他編集（メディカ出版）
参考書	随時、提示する
成績評価	試験にて評価する。
担当教員の基本情報	研究室 : 10号館 7階 メールアドレス : sayutana@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日1240～1330
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3-4	2	必修
担当教員			
田中小百合、佐藤裕見子、三浦康代、小石真子、村上久恵			
配当学部：看護学部	時間数：90時間	授業形態：実習	

授業目標	<p>【実習目的】 在宅療養者とその家族の健康上の問題を理解し、生活の場に応じた看護の役割について学ぶ。また、地域看護における訪問看護ステーションの役割を理解する。</p> <p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者とその家族を対象に健康状態や生活状況を理解し、両者に対する援助の実際を学ぶ（看護過程の展開ができる）。 2. 在宅療養者とその家族を「生活者」としてとらえ、価値観や自己決定を尊重した看護の実際を学ぶ。 3. 継続看護における訪問看護ステーションの役割を理解する。 4. 対象者の健康問題の解決のために必要な社会資源の活用方法と連携・調整を理解する。
授業計画	<p>1日目 学内オリエンテーション</p> <p>2日目 施設での実習 訪問看護</p> <p>3日目 学内実習 記録整理 援助技術の実施準備等</p> <p>4・5日目 施設での実習 訪問看護</p> <p>6日目 学内実習 記録整理 中間カンファレンス</p> <p>7・8日目 施設での実習 訪問看護 最終カンファレンス</p> <p>9日目 施設での実習 重症心身障害児（者）施設見学・体験</p> <p>10日目 学内実習 実習報告会 個人面談 記録提出</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	準備学習内容は、3年次夏に別途配布する
教科書	特に指定しない
参考書	授業での教科書、授業で配布したプリント、その他、大学側が準備した図書の利用も可である。図書館も積極的に利用すること
成績評価	出席状況、実習態度、提出した実習記録（日誌・実習のまとめ）の内容、実習目標の到達状況、カンファレンス等の参加状況等で総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>田中研究室：10号館7階 メールアドレス : sayutana@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 学内日</p> <p>佐藤研究室：10号館8階 メールアドレス : y_sato@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 学内日</p> <p>三浦研究室：10号館7階 メールアドレス : miura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 学内日</p> <p>小石研究室：10号館7階 メールアドレス : m_koishi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 学内日</p> <p>村上研究室：10号館7階 メールアドレス : h_murakami@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 学内日</p>
備考	詳細は、実習要項を参照すること。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
佐藤 裕見子			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	公衆衛生看護の対象（個人・家族・集団・組織）の健康生活力量を向上させる活動方法及び活動展開方法の基本的考えを理解し、地域アセスメント、活動方針と目標設定の実際を学習する。
授業計画	<p>第1回 地域診断（概念・プロセス） ①地域アセスメント、地域診断、計画、実践、評価の一連の地域保健活動過程は、根本的に個々の看護過程と同じであることを理解する。 ②健康課題の優先順位を決定するための視点を考える。</p> <p>第2回 地域診断（理論） 地域診断の理論として、「プリシード・プロシードモデル」「コミュニティー・アズ・パートモデル」について理解する。</p> <p>第3回 地域診断（情報収集の具体的方法） ①地域診断における地域の情報収集の具体的方法を理解する。 ②地域の情報についてアセスメントができる。</p> <p>第4回 地域看護活動の計画・実施・評価 ①計画策定は多くの人と一緒にやり、策定プロセスを大切にしていることについて考えることができる。 ②計画策定は評価計画についても備えるようにして、目標設定を明確にする必要があることを理解する。 ③計画に基づいた評価を行うことは、地域看護活動の発展に欠かせないことを理解する。</p> <p>第5～7回 地域診断（演習） 各市町の概況・健康指標・生活状況・社会資源・ネットワーク・生活環境について、情報収集とアセスメントを行い、関連図を作成し、地域の健康課題を抽出し提出する。（グループワーク）</p> <p>第8回 まとめ 筆記試験</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	必要に応じ、授業内でインフォメーションする。
教科書	標準保健師講座1 「公衆衛生看護学概論」 標 美奈子 著者代表（医学書院） 標準保健師講座2 「地域看護技術」 中村裕美子 編（医学書院） 「国民衛生の動向2015/2016」（財団法人 厚生統計協会編集・発行）
参考書	「衛生学」 近藤雄二 編（化学同人）
成績評価	出席状況、授業への参加態度、レポート、毎回の豆テスト、筆記試験等により総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 三浦 康代 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : miura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 金曜日午前
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択必修
担当教員			
佐藤 裕見子			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	地域看護の対象（個人・家族・集団・地域）の健康生活力量を向上させる活動方法及び活動展開方法の基本的技術を理解する。 1) 地域看護活動の目標を達成するために必要な計画立案、実施、評価の一連の過程とその実際について学ぶ。 2) 地域の健康問題について、地域住民、既存組織、関係機関、他職種との連携や調整を図り、組織的に解決する方法を学ぶ。		
授業計画	第1～2回	保健指導の基本と地域の健康問題の構造 ①保健師が行う保健指導の目的・対象・特徴を理解する。 ②個人の健康問題の所在を、生活や環境状況も含めて考える視点を身につける。	
	第3～4回	保健指導の技術と展開 カウンセリング・ケースワーク・グループワーク・ICTを用いた保健指導の方法を理解する。	
	第5～6回	健康相談（目的・対象・プロセス・技術・企画・実施・評価） ①地域保健活動のコア、またツールとして、健康相談の技術を学ぶ。 ②健康相談は相談者の健康問題解決、生活改善、不安緩和を目指す援助活動であることを理解する。	
	第7～8回	家庭訪問（目的・対象・技術・プロセス・演習・記録）について（講義と演習）（村上） ①地域保健活動のコア、ツールとして、対象者の生活の場に出向く家庭訪問の支援技術を学ぶ。 ②家庭訪問等の公衆衛生看護活動が地域の中でどう位置づけられ、互いに関わり展開されているかを学ぶ。 ③家庭訪問等の支援技術における地域診断・計画策定・実践・モニタリング・評価のプロセスを学ぶ。 ④乳児の身体計測ができる。	
	第9～10回	健康診査（目的・対象・技術・プロセス） ①健康診査は、その評価を次年度の地域保健活動に反映させる必要があることを理解する。 ②ライフサイクル別健康診査の種類・目的を理解する。 ③健康診査における事後フォローアップには集団指導と個別指導があり、生活習慣の改善や健康管理の動機づけとして活用することが重要である。受けっぱなし健診に終わらせてはいけないことを理解する。	
	第11～12回	学校保健活動（養護教諭の業務内容・学校保健の健康課題・地域保健との連携） ①学校保健の概念（定義・目的・場と対象）をとらえる。 ②養護教諭の基本的な業務内容を理解する。 ③学校保健のおもな課題を考え、地域保健・産業保健との連携にもつなげる。	
	第13～14回	事例検討（グループワーク） 各事例についてジェノグラムとエコマップで表現することができ、保健師としての支援の方法を検討し、発表することができる。	
	第15回	まとめ 筆記試験	
授業時間外の学習（準備学習等）について	必要に応じ、授業内でインフォメーションする。		
教科書	標準保健師講座2 「地域看護技術」中村裕美子 編（医学書院） 標準保健師講座3 「対象別公衆衛生看護活動」松田正巳 著者代表（医学書院） 「国民衛生の動向2015/2016」（財団法人 厚生統計協会編集・発行）		
参考書	「衛生学」近藤雄二 編（化学同人）		
成績評価	出席状況、授業への参加態度、レポート、毎回の豆テスト、筆記試験等により総合的に評価する。		
担当教員の基本情報	担当教員名 : 三浦 康代 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : miura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 金曜日午前		
備考			

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択必修
担当教員			
田中 富美子			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	ライフサイクルの発達段階別や健康障害別の地域看護活動を理解し、個人および家族やグループそして集団に対する支援の方法を考える。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス、母子保健福祉活動について（1） 子育て支援および虐待予防を理解する。 復習：虐待関連の新聞記事を読む。</p> <p>2回目 母子保健福祉活動について（2） 乳幼児健診やその他の事業内容を理解する。</p> <p>3回目 母子保健福祉活動について（3） 施策と地域の支援体制づくりを理解する。 すくすくやぎっこの活動紹介</p> <p>4回目 成人・高齢者保健福祉活動について 成人・高齢者の特徴を理解し、こころの健康づくりを考えることができる。 「国民衛生の動向」を見て、健康状態と受療状況を確認する。</p> <p>5回目 成人保健福祉活動について 特定健診とその保健指導を理解する。 復習：「食事バランスガイド」にそって、自分の食事摂取を書き出す。</p> <p>6回目 高齢者保健福祉活動について 高齢者の保健福祉に関する施策や事業を理解する。</p> <p>7回目 高齢者保健福祉活動について 介護予防や包括ケアに関する施策や事業を理解する。</p> <p>8回目 障害者（児）保健福祉活動について 障害者（児）に対する施策や事業を理解する。</p> <p>9回目 精神保健福祉活動について 地域で生活する精神障害者への支援を理解する。</p> <p>10回目 難病保健福祉活動について 地域で生活する難病患者への支援を理解する。</p> <p>11回目 感染症保健福祉活動について（1） 感染症予防と保健福祉活動を理解する。</p> <p>12回目 感染症保健福祉活動について（1） HIV、エイズや結核対策等を理解する。</p> <p>13回目 グループ支援と組織化について 地域組織活動の展開のために理論を学び、実際を理解する。</p> <p>14回目 まとめ マンガン中毒の事例から保健師活動を考える。</p> <p>15回目 試験</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	配布資料は、必ず読んでおくこと。
教科書	「最新公衆衛生看護学 各論1」：宮崎美砂子 他、（日本看護協会出版会） 「標準保健師講座 地域看護技術」：中村裕美子 他、（医学書院） 「標準保健師講座 対象別公衆衛生看護活動」：中谷芳美 他、（医学書院）
参考書	「国民衛生の動向」、（厚生労働統計協会）
成績評価	出席状況・授業への参加態度10%、レポート30%、筆記試験60%により総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名：田中 富美子 研究室：10号館7階 メールアドレス：f_m_tanaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日13：00～15：00
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
田中 富美子			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	健康教育の基本的な考え方を理解し、その実践方法について学び、住民の健康づくりについて考えることができる。 ・健康のレベルに応じた健康教育と方法を理解する。 ・保健行動の変容に関する理論を学ぶ。 ・健康教育の具体的な展開方法を学ぶ。
授業計画	1回目 ガイダンス、健康教育の理念について 健康教育の定義・理念、保健指導の考え方を理解する。 2回目 保健医療と健康教育 保健医療の5段階、健康日本21とヘルスプロモーションを理解する。 3回目 健康教育と保健行動について（1） 保健行動とその変容を理解する。 4回目 健康教育と保健行動について（2） 保健行動変容のための理論を活用できる。 5回目 健康教育の方法と媒体 健康教育の方法を選択し、媒体を作成する。 準備：ポスターを作成して、発表できるようにしておく。 6回目 健康教育の実際について 健康教育のための企画書・指導案・評価を理解する。 7回目 健康教育の実施と評価 グループで健康教育のデモンストレーションを行い、評価する。 8回目 試験
授業時間外の学習 (準備学習等)について	必要に応じ、授業内でインフォメーションする。
教科書	「最新保健学講座別巻1健康教育論」：宮坂忠夫、川田智恵子他、（メヂカルフレンド社）
参考書	「効果をあげる健康教育、成果のあがる健康づくり」：日野原重明 他、（ライフ・サイエンス・センター）
成績評価	出席状況および授業態度30%（グループ学習の参加状況を含む）、レポート20%、筆記試験50%により総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 田中 富美子 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : fm_tanaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日午後（13:00～15:00）
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
佐藤 裕見子			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	事業所における保健師の役割機能と活動内容を理解し、対象者の価値観、意思を尊重し、ライフサイクルに合わせた看護を習得する。また、職場環境要因へのアプローチや集団へのアプローチについても学ぶ。
授業計画	<p>第1回 労働衛生の3管理 公衆衛生の視点から、健康管理・作業環境管理・作業管理をとらえる。</p> <p>第2回 産業保健の動向 ①産業保健の理念と目的を理解する。 ②わが国の産業保健の歴史から、これからの産業看護職の役割を理解する。 ③産業構造と職業構造の変遷について理解し、今後の事業所における健康マネジメントを考える。</p> <p>第3回 産業保健の制度とシステム 産業保健に関する法的根拠と関係機関・組織を理解し、労働安全衛生マネジメントシステムを考える。</p> <p>第4回 産業保健の展開 産業保健活動の実際を学び、多様化する労働者への支援、多様化するおよび雇用形態に対応した健康管理について考える。</p> <p>第5回 産業保健の場における健康課題・保健指導の実際（工場） 工場の産業保健の実際を通して、労働衛生の現状や産業保健における健康課題を理解し、主に身体的側面へのアプローチを考える。</p> <p>第6回 産業保健の場における健康課題・保健指導の実際（銀行） 銀行の産業保健の実際を通して、労働衛生の現状や産業保健における健康課題を理解し、主に職場におけるメンタルヘルス対策を学ぶ。</p> <p>第7回 快適な職場環境の形成の促進 快適職場づくりの法的根拠を理解し、今後の課題について考える。</p> <p>第8回 まとめ 筆記試験</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	必要に応じ、授業内でインフォメーションする。
教科書	<p>標準保健師講座1 「公衆衛生看護学概論」 標 美奈子 著者代表（医学書院）</p> <p>標準保健師講座2 「地域看護技術」 中村裕美子 編（医学書院）</p> <p>標準保健師講座3 「対象別公衆衛生看護活動」 松田正巳 著者代表（医学書院）</p> <p>「平成28年度労働衛生のしおり」 中央労働災害防止協会編（中央労働災害防止協会）</p>
参考書	<p>「国民衛生の動向2014/2015」（財団法人 厚生統計協会編集・発行）</p> <p>「衛生学」 近藤雄二 編（化学同人）</p>
成績評価	出席状況、授業への参加態度、レポート、毎回の豆テスト、筆記試験等により総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 三浦 康代</p> <p>研究室 : 10号館7階</p> <p>メールアドレス : miura@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 金曜日午前</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択必修
担当教員			
坂井 茂子			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	地域住民の生活に関わる保健・医療・福祉行政・制度の変遷を学ぶことにより、現代社会の課題と今後の展望について理解する。 保健・医療・福祉のケアシステムの計画・実施・評価に関する概要及び生活の場で活かされる行政活動の実際を理解する。 母子保健・老人保健・精神保健などの保健行政の変遷と今後の動向を考え、地域住民の生活に関わる総合ケア活動について理解できる。		
授業計画	1回	保健医療福祉行政がめざすもの 保健医療福祉行政を学ぶ上で根拠や公衆衛生の定義を理解する。	
	2回	公衆衛生の基盤形成と新たな課題と政策の発展 日本の公衆衛生の基盤形成と健康課題の変遷、政策の展開や地域保健法を基盤とした政策の流れをつかむ。	
	3回	国・都道府県・市町村の行政のしくみと役割 国、都道府県、市区町村の行政のしくみと役割を学び、保健行政のを学ぶ。	
	4回	地方公共団体の行政の単位としくみ 市区町村における行政のしくみ及び財政のしくみを学び、日本の財政の課題を理解する。	
	5回	日本における社会保障及び医療供給体制 社会保障制度と医療法による医療供給体制について学ぶ	
	6回	介護保険制度 介護保険制度は高齢者の自立支援を目指す、ケアマネジメント、制度のシステムを学ぶ。	
	7回	社会保障・社会福祉制度 公的年金制度及び労働保険及び年金保険、雇用保険、各福祉制度を理解する。	
	8回	地域保健行政と保健師活動（1） 保健所の機能強化及び都道府県保健所と政令市保健所、市町村保健センター業務と、保健所や関係機関との連携による活動について学ぶ。	
	9回	地域保健行政と保健師活動（2） 保健医療福祉行政における保健師の役割を理解する。	
	10回	健康危機管理 健康危機管理には事前管理と事後管理がある。 集団発生時の対応と終息までの流れを学ぶ。	
	11回	地方公共団体の保健医療福祉計画 地方自治法に基づく総合計画を柱とした、さまざまな分野の計画策定について学ぶ。	
	12回	保健計画策定のプロセス 保健計画策定プロセスを理解し住民参画の意味、計画策定におけるエンパワメントを学ぶ。	
	13回	計画推進と評価 保健計画推進のポイント、評価の方法を理解する。	
	14回	保健事業の立案プロセスを学ぶ 事例を通して、保健事業の立案のプロセス演習により、行政機関における保健師の役割を理解する。	
	15回	まとめ 筆記試験	
授業時間外の学習（準備学習等）について	（1）保健医療福祉行政論は、保健師活動の基本となる学問のため、授業には関心を持ち積極的に参加する （2）社会で起きている健康・医療・福祉問題に関心を持ち、情報収集する		
教科書	保健医療福祉行政論 医学書院		
参考書	「国民衛生の動向」（厚生統計協会）		
成績評価	出席状況、参加態度、レポート、筆記試験等により総合的に評価する。		
担当教員の基本情報	担当教員名：坂井 茂子 研究室：10号館 7F メールアドレス：s_sakai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日午後 担当教員名：村上 久恵 研究室：10号館 7F メールアドレス：h_murakami@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日午後		
備考			

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
仲口 路子、他未定			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	卒業研究に向けて、看護研究とは何かおよび看護研究の基礎について学ぶ		
授業計画	1	看護研究とは 看護研究とは何か、また看護研究のテーマについて学ぶ	
	2	看護研究における文献検討 看護研究における文献検討の必要性、および方法論の概要について学ぶ	
	3	看護研究の展開 看護研究の進め方、および研究を行う場合の倫理的配慮について学ぶ	
	4	統計学の看護研究における活用1 看護研究における統計学の活用について、基礎的事柄を学ぶ	
	5	統計学の看護研究における活用2 看護研究における統計学の活用の実際について学ぶ	
	6	看護研究の実際1 実際の看護研究を例として取り上げ、看護研究の実際について学ぶ	
	7	看護研究の実際2	
	8	まとめ（試験またはレポート）	
授業時間外の学習 （準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が興味ある分野・テーマについての資料を随時集めておくこと。 ・2年次前期必修科目「医療情報学」の復習をしておくこと。 ・同時期に開講される「疫学」と、関連づけて学習をすすめること。 ・教科書および配布資料等により復習し、わからないことがあれば適宜調べること。 ・参考資料については、提示されるもの以外に自分が読んでわかりやすいものを見つけておくことが望ましい。 		
教科書	「看護研究の進め方 論文の書き方 第2版（JINスペシャル）」早川和生 医学書院		
参考書	「看護研究サポートブック」足立はるゑ著（メディカ出版） 「サクサク看護研究 AKI先生の転ばぬ先の杖」秋ゆたか著（中山書店）他 その他授業中に随時紹介する		
成績評価	出席が3/5以上であることをふまえ、筆記試験またはレポート、および授業演習参加状況より総合的に評価する。		
担当教員の基本情報	担当教員名	：仲口 路子	
	研究室	：10号館 7階712	
	メールアドレス	：nakaguchi@meiji-u.ac.jp	
	オフィスアワー	：原則として木曜日1限目（その他随時メールで連絡すること）	
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
未定			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	家族関係の基礎的な理論を理解し、家族のライフサイクルに応じた発達課題や健康問題のアセスメントとその援助について学習する
授業計画	<p>1 家族とは 家族とは何かについて考える</p> <p>2 家族看護とは 「家族とは」を踏まえた上での家族看護およびそのありがたについて学ぶ</p> <p>3 家族を理解するための諸理論1 ライフサイクルにそって家族発達理論について学ぶ</p> <p>4 家族を理解するための諸理論2</p> <p>5 家族看護課程の展開 家族発達理論における家族看護課程の展開について検討する（課題学習含む）</p> <p>6 家族看護の実際1 臨床での家族看護の例をもとに、家族看護のあり方について考える</p> <p>7 家族看護の実際2</p> <p>8 まとめ</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	家族の問題を扱った、ニュースや記事等関連情報の収集に努めること。
教科書	「家族看護学 理論と実践（第4版）」鈴木和子、渡辺裕子 著（日本看護協会出版会）
参考書	「家族看護学」山崎あけみ、原礼子 編（南江堂）、「グループワークで学ぶ 家族看護論 カルガリー式家族看護モデル実践へのファーストステップ」小林奈美 著（医歯薬出版） (その他授業中に随時提示する)
成績評価	筆記試験・レポート、出席日数および授業・演習参加状況を総合的に評価 (原則として試験・レポート80%、出席状況・授業参加態度20%)
担当教員の基本情報	担当教員名 : 矢野 恵子 研究室 : 10号館8階 メールアドレス : k_yano@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 原則として木曜日13:00~13:30 (但し実習指導等による変更あり)
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
小板橋 喜久代			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	補完代替療法から統合医療についての医療体系の変化のなかで、看護学の果たす役割と、新たに必要とされる専門的な知識・技術・態度について考察する。より統合的なケアの在り方を検討する中から、社会のニーズの変化と新たな看護技法の開発の可能性について探索する。
授業計画	<p>1 補完代替療法から統合医療への流れ（現代医学から伝統医療を見直す） 主流医学・補完代替療法・統合医療についての概念を調べる</p> <p>2 看護と補完代替療法について 看護の役割と補完代替療法との関連についての自分の意見を書き出す</p> <p>3 セルフケアを支援する（リラクゼーション法・気功法） 健康を自分でコントロールするということ、その自己責任について、考えをまとめる</p> <p>4 手の技を活用する（タッチ・マッサージ） タッチなどの皮膚への接触刺激が人間に与える影響について考えをまとめる</p> <p>5 植物療法を取り入れる（アロマセラピー） 精油とは、精油を用いることによる癒しの効果について考えをまとめる</p> <p>6 豊かな関係性を広げる（音楽・アニマル・園芸・ナラティブケアetc） 人と人をつなぐ場、健康的で豊かな環境を創り出すために、なにができるか</p> <p>7 臨床におけるコンプリメンタリーセラピー 看護の臨床で使われている主な技術には、どのようなものがあるか、どのように適用されているか、調べてまとめる</p> <p>8 看護介入としての可能性を探求する 自分の望む将来のコンプリメンタリーセラピー</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各自がマスコミなどで目に付いたもののなかから、社会の人々が補完代替療法について期待していること、どのような療法が利用されているか、どんなところに問題があるか、考えをレポートしておく。
教科書	ナースのための補完代替療法ガイドブック（第2版） 池川清子・江川幸二訳 メディカ出版
参考書	看護のための最新医学講座（第33巻）alternative medicine 中山書店 自分を守る患者学 渥美和彦 PHP出版 補完代替医療入門 上野圭一 岩波アクティブライブラリー
成績評価	事前学習への取り組み度 出席と発言・討論への参加度 最終の課題レポート（授業終了時に指示する）
担当教員の基本情報	担当教員名 : 小板橋喜久代 研究室 : メールアドレス : koitabashi@tachibana-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
宇城 靖子			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	1) 看護教育の歴史、法的基盤、看護教育制度等について理解する。 2) 看護専門職者としての看護基礎教育、看護継続教育について理解する。 3) 看護を学ぶ自分と向き合い、キャリア形成について考えることができる。 4) 主体的学習を通し、看護学教育の現状と今日的課題について考え意見を述べる ことができる。
授業計画	1 教育とは、看護者の教育的役割 人間形成における教育の意義が認識できる。 生涯学習・教育と看護者の教育的役割について考えることができる。 2 看護教育とは、看護教育学の概要 看護教育の歴史、看護教育制度が理解できる。 看護専門職としての看護基礎教育・看護継続教育の概要とキャリア形成の概要が理解できる。 3 看護学教育方法論 看護学教育における授業展開を支える理論について学習する。 看護学の授業形態、学習形態について学習がする。 4 看護教育評価論 教育評価の意義と特質について理解できる。 5 看護教育のテーマ別学習① 看護教育に関する自分の興味・関心、学びたいテーマ（シナリオ）について主体的なグループ学 習ができる。 6 看護教育のテーマ別学習② グループワーク・PBL 7 看護教育のテーマ別学習③ グループワーク・PBL 8 看護教育のテーマ別学習④ グループワーク・PBL 発表会
授業時間外の学習 （準備学習等）に ついて	1) 自分の関心あるテーマについて、様々な面から情報収集と自己学習をしながら 学びを広げ深めていくこと。 2) 看護専門職者をめざす自分にとって、看護教育学を選択して良かったと思えるように学習すること。 3) 参考書、文献等は紹介するが、インターネット等を効果的に活用する。
教科書	指定しない
参考書	「看護教育学」第5版、杉森みど里・舟島なをみ（医学書院）
成績評価	出席、提出物、参加姿勢、プレゼンテーション等、総合的に評価する。YYYYYYYYYYYY
担当教員の基本情 報	担当教員名 : 宇城 靖子 研究室 : 10号館（看護学部棟）7階706 メールアドレス : s_ushiro@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 適時対応します
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
上仲 久			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	健康寿命・元気老人づくりに焦点を当て、高齢者にとっての健康生活とは何か、高齢者の健康を支えるための支援の原則や方法について学習する。
授業計画	<p>第1回 健康な高齢者とは</p> <p>[到達目標] 高齢者自身が健康ととらえていることは何かを述べることも出来る。 [授業時間外学習の指示等] 新聞や雑誌などでの実態に注目して調べておく。 ②～⑧各回担当者を決めてゼミ形式で展開する。課題についてのアナウンスがあるため必ず出席してください。</p> <p>第2回 ① 身体的変化と老いの心理</p> <p>[到達目標] 身体的変化に対する高齢者の思いや生き方から精神活動を高める要因を考える [授業時間外学習の指示等] 身体的変化について事前に復習しておくこと。グループ発表に対して、その内容を積極的に深めるよう行動しましょう。</p> <p>第3回 ② 身体的変化と加齢現象との協調</p> <p>[到達目標] 高齢者の健康を支える、食事、運動、環境など生活習慣の改善で健康を維持する具体的方法について考え、健康的な生活習慣を考える [授業時間外学習の指示等] 健康的な生活習慣についてのグループ発表に対して、積極的に意見を出してその内容を深めるようにすること。</p> <p>第4回 ③ 身体的変化と老いの受け入れ</p> <p>[到達目標] 身体的特徴が捉えられる [授業時間外学習の指示等] グループの発表に対して、積極的に意見を出してその内容を深めるようにすること。</p> <p>第5回 ④ 高齢者の自殺</p> <p>[到達目標] 高齢者の自殺の実態と環境要因やそこに至る心理過程を考察することができる [授業時間外学習の指示等] 高齢者の自殺について、文献やインターネットを使って事前に情報を得ておくこと。</p> <p>第6回 ⑤ 高齢者のターミナルケア</p> <p>[到達目標] 病死、老衰死にまつわる高齢者の終末期の思いと家族・重要他者の思いを理解し、その支援について考察することができる。 [授業時間外学習の指示等] ターミナルケアについて文献を差がして読んでおきましょう。積極的に意見を出して自分自身の意見を述べましょう。</p> <p>第7回 ⑥ 高齢者の性と生</p> <p>[到達目標] 高齢者の立場、子供の立場、孫の立場、友人の立場から性と生を考察することができる。 [授業時間外学習の指示等] Geniiの検索サイトでテーマに関する論文を探してみましょう。積極的に意見を出して議論に参加すること。</p> <p>第8回 ⑦ 安心して老いるために</p> <p>[到達目標] 様々な国の例や高齢者自身の考えを通して高齢者のケアシステムを説明することができる。 [授業時間外学習の指示等] グループの発表に対して、積極的に意見を出してその内容を深めるようにすること。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	第一回目の講義には、高齢者の健康の問題に関する新聞や雑誌の切り抜きなどを持って授業に参加すること。 ゼミ形式で展開するため、この単元での学びについて、自分なりの目標を立て各講義に参加すること。 その日のうちに復習し、新しいキーワードや十分理解できなかった言葉の意味を調べ理解して、次の授業に備えること。 グループの発表に向けて、学生間で協力し教員の指導を受けて発表できるようにすること。(他人任せの行動

	は厳禁)
教科書	指定しない
参考書	講義時紹介する
成績評価	授業への参加度(50%)、課題レポートの提出(50%)にて判断する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 上仲 久 研究室 : 10号館7階研究室 メールアドレス : uenaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (メールにて約束をとること) 担当教員名 : 未定 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー : 随時 (メールにて約束をとること)
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
杉山 敏宏			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	医療面接では、実際の診療における問診や看護場面における適切な効果的な面接技法を習得する。医療に携わるものとして、医療人としての倫理問題を念頭に入れながら、現代医学を理解する。
授業計画	<p>1回目 コミュニケーションとは [到達目標] ワークショップを通じて ・アイスブレイキング。 ・良いコミュニケーションがもたらす効果が説明できる。</p> <p>2回目 医療面接について [到達目標] ワークショップを通じて ・医療面接とは何かが理解できる。 ・医療面接の目的が理解できる。</p> <p>3回目 医療面接の基本 [到達目標] ワークショップを通じて ・カルテの記載方法と初診患者に必要な情報が理解でき説明できる。 (主訴、現病歴、既往歴、社会歴、個人歴、現症)</p> <p>4回目 面接技法 [到達目標] ・ロールプレイを通じて面接技法が習得できる。 (質問法、傾聴、共感、態度) ・看護師に必要な臨床能力が理解・説明できる。</p> <p>5回目 医療面接に求められる態度・姿勢 [到達目標] ワークショップを通じて ・医療面接を行う時の態度、姿勢、位置を理解する。 ・問診と医療面接の違いを理解する。</p> <p>6回目 医療面接の実践 [到達目標] ロールプレイを通じて医療面接ができる。 (模擬症例：風邪(咳、微熱)、腰痛(慢性)、頭痛(片頭痛))</p> <p>7回目 まとめ [到達目標] ・各自が学んだことを記述し理解を深める。 ・試験に関する説明。</p> <p>8回目 試験</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	講義内容の理解を深める為、自己学習による課題を適宜課す。
教科書	特に指定しない。授業の時に配布する資料。
参考書	特に指定しない。
成績評価	筆記試験50%・提出課題・出席・受講態度50%とする。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：杉山敏宏(科目責任者) 研究室：10号館8階807研究室 メールアドレス：t_sugiyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時(精神看護学実習のため病院出張以外)</p> <p>担当教員名：戸田一男 研究室：10号館7階702研究室 メールアドレス：k_toda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時(精神看護学実習のため病院出張以外)</p> <p>担当教員名：梶川拓馬 研究室：10号館7階713研究室 メールアドレス：t_kajikawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時(精神看護学実習のため病院出張以外)</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
福田 文彦			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	メンタルヘルスケア論では、「こころ」と「からだ」の健康を考える上で重要なストレスと健康について理解することを目的とする。 1. ストレスの概念を理解し、説明できる。 2. ストレスの心身に与える影響について理解し、説明できる。 3. ストレスコーピングについて理解し、説明できる。 4. ストレスに対する鍼灸師の役割について理解し、説明できる。
授業計画	1 ワークショップ：メンタルヘルスの意義 ワークショップを通じて ・メンタルヘルス(ケア)が説明できる。 2 ワークショップ：わが国の現状と基礎知識 ワークショップを通じて ・わが国における心の病の状況が説明できる。 ・ストレスによる生体反応が説明できる。 3 ワークショップ：ストレスによる健康障害 ワークショップを通じて ・ストレスによる健康障害が説明できる。 ・ストレス疾患の発症経緯が説明できる。 4 ストレス関連疾患 ・ストレス関連疾患について説明できる。 5 ワークショップ：ストレスへの気づき方 ワークショップを通じて ・いつもと違う自分に気づきについて説明できる。 ・ストレスチェックにて説明できる。 6 ワークショップ：ストレス対処行動、軽減方法 ワークショップを通じて ・対処方法、軽減方法について説明できる。 7 ワークショップ：鍼灸師ができるストレス対処方法、軽減方法 ワークショップを通じて ・鍼灸師ができる対処方法、軽減方法について説明できる。 8 まとめ
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書を中心に進行しますが、授業は時間内のグループによるディスカッション(ワークショップ)及び発表、教員による講義の流れで1回の授業を行います。 ・授業の終わりにはその日の授業の感想(理解できたこと、学習したいこと、不明だったこと)を記載していただきますので必ず記載すること。この感想が出席カードの代わりとなり、また不明な点は次の授業で教員が解説します。 ・授業の終わりに次の授業の内容に関するプリントを配布します。○×式の問題です。次の授業までに必ずそのプリントを行い、予習してきてください。 そうすることで授業でのディスカッション、理解が深まります。
教科書	メンタルヘルス・マネジメント 公式テキスト・セルフケアコース (大阪商工会議所)
参考書	ストレスと健康 久住眞理 他 (人間総合科学大学発行、紀伊国屋書店販売) 授業で配布したプリントなど
成績評価	実施講義回数5分の3以上が必要を満たした者について試験を実施する。 評価方法は、試験80%、授業内演習20%で評価する。 授業内評価とは、グループディスカッションへの参加度、発言度、総合討論での発表、発言度にて評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 福田文彦 研究室 : 附属鍼灸センター2F 臨床鍼灸学講座 メールアドレス : f_fukuda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時、メールによる事前予約可推奨
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
江川雅人、鶴 浩幸、福田晋平			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	老化とはどのようなものか、また、高齢者における心身の特徴と主な症状、高齢者を支えるさまざまな制度などについて学ぶ。具体的には、高齢化の実態と高齢者の問題点、老化のメカニズムと老化によって生じる心身の変化や症状、高齢者を支える保健・福祉制度、介護保健制度などについて学び、理解することを到達目標とする。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス、老年学および日本における高齢化の現状と健康寿命 [授業概要] 1) 授業のガイダンス 2) 老年学および日本における高齢化の現状と健康寿命 [到達目標] 1) 老年学の体系を理解する。 2) 「老化」とは何かを理解する。 3) 高齢化の現状と健康寿命について理解する。</p> <p>2回目 高齢症候群とその評価：CGAについて (到達目標) 1) CGA(総合的高齢者技能評価)について理解する。 2) 生活機能評価について理解する。</p> <p>3回目 高齢者の医療制度 (到達目標) 1) 高齢者の主要な医療制度について理解する。</p> <p>4回目 福祉サービスと介護保険・介護予防 (到達目標) 1) 高齢者が利用できる介護サービスについて理解する。 2) 介護保険や介護予防などの概要を理解する。</p> <p>5回目 高齢者リハビリテーション (到達目標) 1) 高齢者リハビリテーションの概要について理解する。 2) 高齢者リハビリテーションの現状について理解する。</p> <p>6回目 高齢者に特徴的な症状と身体機能の変化 (到達目標) 1) 高齢者における感覚器系(視覚・聴覚・嗅覚・味覚・皮膚感覚など)の老化に伴う主要な症状について理解する。 2) ロコモティブシンドローム・サルコペニア・高血圧・骨粗鬆症・不眠などの概要について理解する。</p> <p>7回目 高齢者の歩行状態及び平衡機能の変化 (到達目標) 1) 高齢者の歩行状態の変化について理解する。 2) バランス機能(平衡機能)について理解する。</p> <p>8回目 テスト 1) 筆記試験を行う。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	配布プリントの冒頭、最後に記載してある「講義のポイント」を必ず復習すること、授業中に指摘された重要ポイントについて復習すること。また、配布プリントを熟読し、わからない部分があれば図書館などで参考書などを調べ、それでもわからなければ質問して解決すること。
教科書	・配布プリント
参考書	・老年医学テキスト 改訂3版、(社)日本老年医学会編、メジカルビュー社、2008 ・やさしい 高齢者の健康教室、医薬ジャーナル、2013 ・高齢鍼灸学、医歯薬出版、2013
成績評価	・出席基準(実施授業回数の5分の3以上)を満たした者について筆記試験を行い、筆記試験の得点と出欠状況、受講態度等を総合して評価する。60点以上を合格とする。60点未満の者に対して再試験を行う。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 江川雅人 研究室 : 7号館1F 保健・老年鍼灸学講座、同研究室 メールアドレス : m_egawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日11:10~12:40</p> <p>担当教員名 : 鶴 浩幸 研究室 : 7号館1F 保健・老年鍼灸学講座、同研究室 メールアドレス : h_tsuru@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日17:00~18:00</p> <p>担当教員名 : 福田晋平 研究室 : 7号館1F 保健・老年鍼灸学講座、同研究室 メールアドレス : sp_fukuda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日11:10~12:40</p>

備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択必修
担当教員			
今西 二郎			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>補完・代替医療の一つであり、医療分野で広く取り入れられてきているメディカル・アロマセラピーの基礎を理解する。アロマセラピーの概念、歴史、現状と課題、エッセンシャルオイルの性質、禁忌、作用機序などについて学習し、実践に必要とされるメディカル・アロマセラピーの基礎を身に着ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディカル・アロマセラピーの概念を理解すること ・メディカル・アロマセラピーで使用するエッセンシャルオイルの基本、注意事項、薬理作用などを理解すること ・メディカル・アロマセラピーの実践方法について学習すること ・メディカル・アロマセラピーの役割について考えること。 		
授業計画	1回目	<p>メディカル・アロマセラピー概論 [到達目標] アロマセラピーの定義、歴史、芳香植物の分類と性状を理解する</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 p.1-8を事前に読んでおくこと</p>	
	2回目	<p>エッセンシャルオイル1 [到達目標] アロマセラピーで使用するエッセンシャルオイルの抽出法、薬理成分を理解する</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 p.9-13を事前に読んでおくこと</p>	
	3回目	<p>エッセンシャルオイル2 [到達目標] アロマセラピーで使用するエッセンシャルオイルの薬理成分を理解する</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 p.13-21を事前に読んでおくこと</p>	
	4回目	<p>エッセンシャルオイル3 [到達目標] エッセンシャルオイルの分析、品質管理、相互作用、注意事項を理解する</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 p.22-27 アロマセラピー入門（参考書1）p.52-57を事前に読んでおくこと</p>	
	5回目	<p>エッセンシャルオイル4 [到達目標] エッセンシャルオイル使用上の禁忌、保管、取り扱い方を理解する。各エッセンシャルオイルの特徴、性質を理解する。</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 p.28-31 アロマセラピーのきほん事典（参考書2）p.46-105 アロマセラピー入門（参考書1）p.52-57を事前に読んでおくこと</p>	
	6回目	<p>エッセンシャルオイル5 [到達目標] 各エッセンシャルオイルの特徴、性質を理解する。</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 p.32-35 アロマセラピーのきほん事典（参考書2）p.46-105を事前に読んでおくこと</p>	
	7回目	<p>エッセンシャルオイル6 [到達目標] 各エッセンシャルオイルの特徴、性質を理解する。</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 p.36-39 アロマセラピーのきほん事典（参考書2）p.46-105を事前に読んでおくこと</p>	
	8回目	<p>エッセンシャルオイル7 [到達目標] 各エッセンシャルオイルの特徴、性質を理解する。</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 p.40-43 アロマセラピーのきほん事典（参考書2）p.46-105を事前に読んでおくこと</p>	
	9回目	<p>エッセンシャルオイル7 [到達目標] 各エッセンシャルオイルの特徴、性質を理解する。</p>	

10回目	<p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 p.44-47 アロマセラピーのきほん事典（参考書2）p.46-105を事前に読んでおくこと キャリアオイル1</p> <p>[到達目標] キャリアオイルの性質、種類を理解する</p>
11回目	<p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 p.48-50 アロマセラピーのきほん事典（参考書2）p.113-118を事前に読んでおくこと キャリアオイル2</p> <p>[到達目標] キャリアオイルの性質、種類を理解する</p>
12回目	<p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 p.51-54 アロマセラピーのきほん事典（参考書2）p.113-118を事前に読んでおくこと エッセンシャルオイルの薬理作用</p> <p>[到達目標] エッセンシャルオイルの薬理作用機序を理解する</p>
13回目	<p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 p.55-58 アロマセラピー入門（参考書1）p.57-59を事前に読んでおくこと アロマセラピーの方法1</p> <p>[到達目標] アロマセラピーの実践方法を学習し、実際に行える知識を身に着ける。</p>
14回目	<p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 p.59-65 アロマセラピーのきほん事典（参考書2）p.30-40を事前に読んでおくこと アロマセラピーの方法2</p> <p>[到達目標] アロマセラピーの実践方法を学習し、実際に行える知識を身に着ける。</p>
15回目	<p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 p.66-72 アロマセラピー入門（参考書1）p.28-33 アロマセラピーのきほん事典（参考書2）p.30-40を事前に読んでおくこと まとめ</p> <p>[到達目標] 基本的なアロマセラピーの知識が習得できたことを確認する</p>
授業時間外の学習 （準備学習等）について	あらかじめシラバスに沿って、教科書を読んでおくこと。
教科書	「統合医療評価認証機構メディカル・アロマセラピーテキスト第2版」 今西二郎、岸田聡子 著
参考書	1. 「アロマセラピー入門第2版」今西二郎、荒川唱子編（日本看護協会出版会） 2. 「アロマセラピーのきほん事典」渡邊聡子監修（西東社）
成績評価	レポート80%、授業内演習20%
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○今西二郎 研究室 : 附属統合医療センター メールアドレス : imanishi-micro@nifty.com オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 岸田聡子 研究室 : 附属統合医療センター メールアドレス : s_kishida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
今西 二郎			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>メディカル・アロマセラピーの看護学への応用として、さまざまな疾患の治療・予防や、看護場面における実践例について知ること。 また、簡単な実技を通してオイルの扱いや香りに慣れ親しむことにより、本格的なマッサージ実技を行う前段階の技術を身に着けること。 メディカル・アロマセラピーについての研究法を理解し、代表的なメディカル・アロマセラピーに関する研究事例を取り上げ、評価する能力を身につける。</p>
授業計画	<p>1回目 メディカル・アロマセラピー実践にあたっての注意事項 [到達目標] メディカル・アロマセラピーに関連する法規や注意事項を理解する。</p> <p> [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）各論編p.71-73 アロマセラピー入門（参考書1）p.28-33を事前に読んでくること</p> <p>2回目 メディカル・アロマセラピーの実際1 [到達目標] 状況に応じたブレンドリングを考案し、芳香浴、吸入の実技を通して実際の正しい使用法を身に着けること。また実際の香りを確認すること。</p> <p> [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）実技編p.1、2、6 アロマセラピーのきほん事典（参考書2）p.34-37 アロマセラピー入門（参考書1）p.77-79を事前に読んでくること</p> <p>3回目 メディカル・アロマセラピー各論1 [到達目標] 産婦人科、精神科、消化器、皮膚科領域などで用いられるアロマセラピーについて、その使用法や効果を理解し、症例を学習する。</p> <p> [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）各論編p.10-32、43-59を事前に読んでくること</p> <p>4回目 メディカル・アロマセラピーの実際2 [到達目標] 状況に応じたブレンドリングを考案し、湿布、沐浴の実技を通して実際の正しい使用法を身に着けること。また実際の香りを確認すること。</p> <p> [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）実技編p.3、4 アロマセラピーのきほん事典（参考書2）p.36、39 アロマセラピー入門（参考書1）p.80-82を事前に読んでくること</p> <p>5回目 メディカル・アロマセラピー各論2 [到達目標] 痛みに対して用いられるアロマセラピーについて、その使用法や効果を理解し、症例を学習する。</p> <p> [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）各論編p.33-42を事前に読んでくること</p> <p>6回目 メディカル・アロマセラピーの実際3 [到達目標] 状況に応じたブレンドリングを考案し、ローションや軟膏作成などの実技を通して実際の正しい使用法を身に着けること。また実際の香りを確認すること。</p> <p> [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）実技編p.7、8 アロマセラピーのきほん事典（参考書2）p.192を事前に読んでくること</p> <p>7回目 メディカル・アロマセラピー各論3 [到達目標] 高齢者やがん患者に対して用いられるアロマセラピーについて、その使用法や効果を理解し、症例を学習する。</p> <p> [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）各論編p.60-66を事前に読んでくること</p> <p>8回目 メディカル・アロマセラピーの実際4 [到達目標] 状況に応じたブレンドリングを考案し、ローションや軟膏作成などの実技を通して実際の正しい使用法を身に着けること。また実際の香りを確認すること。</p> <p> [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）実技編p.7、8</p>

9回目	<p>アロマセラピーのきほん事典（参考書2） p. 192を事前に読んでくること メディカル・アロマセラピーの実際5 [到達目標] 状況に応じたブレンドを考案し、セルフマッサージの実技を通して実際の正しい使用法を身に着けること。また実際の香りを確認すること。</p> <p>[備考] アロマセラピーのきほん事典（参考書2） p. 120-128を事前に読んでくること</p>
10回目	<p>メディカル・アロマセラピーの実際6 [到達目標] 状況に応じたブレンドを考案し、セルフマッサージの実技を通して実際の正しい使用法を身に着けること。また実際の香りを確認すること。</p> <p>[備考] アロマセラピーのきほん事典（参考書2） p. 120-128を事前に読んでくること</p>
11回目	<p>メディカル・アロマセラピーの実際 [到達目標] 症例を提示し、それに対するオイルの選択と使用方法について考案、検討する</p> <p>[備考] アロマセラピーのきほん事典（参考書2） p. 120-128を事前に読んでくること</p>
12回目	<p>メディカル・アロマセラピー研究方法 [到達目標] メディカル・アロマセラピーに関する研究の方法論、評価法、研究デザインについて理解する。</p> <p>[備考] アロマセラピーのきほん事典（参考書2） p. 120-128を事前に読んでくること</p>
13回目	<p>メディカル・アロマセラピー研究事例の評価1 [到達目標] メディカル・アロマセラピーに関する研究報告（論文）を読み、適切な評価法を身につける。</p> <p>[備考] アロマセラピーのきほん事典（参考書2） p. 120-128を事前に読んでくること</p>
14回目	<p>メディカル・アロマセラピー研究事例の評価2 [到達目標] メディカル・アロマセラピーに関する研究報告（論文）を読み、適切な評価法を身につける。</p> <p>[備考] アロマセラピーのきほん事典（参考書2） p. 120-128を事前に読んでくること</p>
15回目	<p>まとめ [到達目標] アロマセラピーの実際について、知識の習得の確認</p> <p>[備考] アロマセラピーのきほん事典（参考書2） p. 120-128を事前に読んでくること</p>
授業時間外の学習 （準備学習等）について	あらかじめシラバスに沿って、教科書を読んでおくこと。
教科書	「統合医療評価認証機構メディカル・アロマセラピーテキスト第2版」 今西二郎、岸田聡子 著
参考書	1. 「アロマセラピー入門第2版」今西二郎、荒川唱子編（日本看護協会出版会） 2. 「アロマセラピーのきほん事典」渡邊聡子監修（西東社）
成績評価	レポート80%、授業内演習20%
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○ 今西二郎 研究室 : 附属統合医療センター メールアドレス : imanishi-micro@nifty.com オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 岸田聡子 研究室 : 附属統合医療センター メールアドレス : s_kishida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	1	選択必修
担当教員			
矢野 恵子、他			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	助産業務管理について学ぶ。 助産師の開業権と連動して、助産所における業務管理の実際についても学ぶ。 その他、幅広く助産師業務の実際について学ぶ。
授業計画	<p>1 助産業務管理とは</p> <p>2 助産所における助産業務管理 助産所における助産業務管理について</p> <p>3 施設における助産業務管理の実際 助産実習でまとめたものを施設別にグループ発表し、全体討論でまとめる</p> <p>4 助産所における助産業務管理の実際 グループ課題・発表</p> <p>5 助産師の法的責任と義務 助産業務管理関連の法律における法的疑似無と責任について学ぶ</p> <p>6 助産師業務の実際1 助産師が専門職として行っている幅広い業務の実際について学ぶ</p> <p>7 助産師業務の実際2 幅広い助産師業務のうちの一つを取り上げ、シュミレーションを行う 助産師業務の将来的展望についても考える</p> <p>8 まとめ 助産業務管理について、全体討論を行いまとめる 助産業務管理におけるリスクマネジメントについて考える</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	助産学実習Ⅰ・およびⅡにおいて、実習施設での助産業務管理の実際についてまとめておくこと。 幅広い助産師業務の実際と将来の可能性についても考えておくこと。 参考書・参考資料については、自分たちでも積極的に収集（または作成）しておくこと。
教科書	「助産学講座全10巻」我部山キヨ子・竹谷雄二編（医学書院）のうち、以下の3冊を使用：1. 基礎助産学 [1] 助産学概論 [第4版] 10. 助産管理 [第4版]
参考書	授業経過に応じて、適宜提示する。
成績評価	レポート・プレゼンテーション内容、および授業および演習参加状況により総合的に評価する。 (原則として試験・レポート80%、出席状況及び授業・演習参加態度20%)
担当教員の基本情報	担当教員名 : 矢野 恵子 研究室 : 10号館8階 メールアドレス : k_yano@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 原則として木曜日13:00~13:30 (但し、実習指導等による変更あり)
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
矢野 恵子、岡本 留美、神原祐美、他			
配当学部：看護学部	時間数：45時間	授業形態：実習	

授業目標	助産学実習Ⅰと合わせて10例程度の正常分娩介助を行う。 助産学実習Ⅰにおいて、すでに10例程度の経験ができた場合は、看護統合・総合実習と連動して、補完代替療法を助産実践に取り入れられる可能性を検討する。さらには、チーム医療における助産師の役割、および他職種との連携の方法論についても考える。
授業計画	助産学実習Ⅰと合わせて正常分娩経過をたどる産婦および新生児を10例程度受け持ち、分娩第Ⅰ期～第Ⅳ期において、適切な助産診断のもとに助産計画を立案し、受け持ちの母子および家族に対して、個別性を考慮した助産および保健指導を行う。同じく助産実習Ⅰとあわせて、妊娠～分娩～産褥・育児期の対象に対する継続的な助産過程の展開を行う。また、助産実践と助産管理の関係についても検討する機会を持つ。 学生は原則2人1組で実習を行う。必要に応じて、適宜役割分担すること。実習施設時によっては、夜間実習および時間外待機実習も行う。 実習予定施設：市立福知山市民病院 公立南丹病院
授業時間外の学習（準備学習等）について	助産技術については、実習開始前、実習開始後ともに、時間外を有効に使って十分に学内演習を積み重ねておくこと。必要に応じ、課題学習・補修を行う。 実習中の健康管理には、各自十分に配慮すること。 参考書・参考資料等についても積極的に収集（または作成）しておくこと。
教科書	母性看護学、基礎助産学、助産診断・技術学、助産管理で使用した教科書を活用する。
参考書	実習経過に応じて、適宜提示する。
成績評価	実習内容、実習記録・レポート、ならびに実習態度・出席状況などを総合的に評価する。（原則として実習内容・実習記録・レポート80%、実習態度・出席状況20%）
担当教員の基本情報	担当教員名：矢野 恵子 研究室：10号館8階 メールアドレス：k_yano@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：原則として火曜日11：00～12：00（後期） 原則として木曜日13：00～13：30（前期） （但し実習指導等による変更あり） 担当教員名：夏山 洋子 研究室：10号館7階 メールアドレス：natsu@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：原則として月・金曜日12：30～17：00 （但し実習指導等による変更あり）
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3-4	1	選択必修
担当教員			
佐藤 裕見子			
配当学部：看護学部	時間数：45時間	授業形態：実習	

授業目標	<p>産業保健における保健活動の実際を見学し、従業員の健康を守り、向上させるための産業保健における保健師の役割を学ぶ。また、地域包括支援センターでは、地域で生活する高齢者に対してどのような支援を展開しているのかを学ぶ。【実習目標：産業保健実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 産業保健活動を支える安全衛生管理体制の実際を理解できる。 2. 就労者の健康課題を労働と職場環境などの特性と関連づけて理解できる。 3. 就労者の健康を増進し、働きやすくする快適職場づくりについて理解できる。 4. 産業保健師の専門的役割・他職種との連携について理解する。 <p>【実習目標：介護支援活動実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域包括支援センターにおける業務概要を理解する。 2. 他職種との連携協働について理解する。 3. 保健福祉分野における看護職の活動を理解する。
授業計画	実習要領に記載
授業時間外の学習 (準備学習等)について	別途指示する
教科書	特に指示しない
参考書	授業で使用した教科書、参考書及びプリント
成績評価	実習要項に記載
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 佐藤 裕見子 研究室 : 10号館 8階 メールアドレス : y-sato@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日午後</p> <p>担当教員名 : 三浦康代 研究室 : 10号館 7階、 メールアドレス : miura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 小石真子 研究室 : 10号館 7階 メールアドレス : m_koishi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 村上久恵 研究室 : 10号館 7階 メールアドレス : h_murakami@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	2	選択必修
担当教員			
佐藤 裕見子			
配当学部：看護学部	時間数：90時間	授業形態：実習	

授業目標	<p>【実習目的】 個人・家族・地域全体の潜在的・顕在的な健康課題や問題を把握し、その原因・背景を明らかにしながら地域での保健活動との関係を明らかにする。そして、保健活動を展開する一連の過程を学ぶ。また、保健所と市町の役割や機能そしてその組織体系の違いがわかる。</p> <p>【実習目標】 1. 地域診断に必要な情報を収集し健康と地域の関わりについて理解する。 2. 地域保健医療福祉系における保健所および市町村の役割・機能およびその組織体系を理解する。 3. 健康危機管理に対して、組織的な管理体制やシステムの構築の必要性について理解する。</p>
授業計画	実習要領に記載
授業時間外の学習 (準備学習等)について	別途指示する グループワークが中心なので、メンバーの意見や考えを尊重した上で建設的に話し合い、学びの促進に貢献すること
教科書	特に指示しない
参考書	授業で使用した教科書、参考書及びプリント
成績評価	実習要領に記載
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 佐藤 裕見子 研究室 : 10号館 8階 メールアドレス : y-sato@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日午後</p> <p>担当教員名 : 三浦康代 研究室 : 10号館 7階、 メールアドレス : miura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 小石真子 研究室 : 10号館 7階 メールアドレス : m_koishi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 村上久恵 研究室 : 10号館 7階 h_murakami@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日午後</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	2	選択必修
担当教員			
佐藤 裕見子			
配当学部：看護学部	時間数：90時間	授業形態：実習	

授業目標	<p>保健所や市町村で行われる公衆衛生看護活動の体験を通じて、地域で生活している人々（個人・家族・集団）の健康の保持増進やQOLの向上のための公衆衛生看護活動の実際を学ぶ。保健活動の基礎的な実践能力を身につけ、行政機関で働く保健師の役割について学ぶ。</p> <p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域診断を行い地域の健康課題を明らかにすることができる。 2. 健康課題を解決するために、効果的な保健事業を企画・立案、実施、評価する過程を学ぶ。（PDCAサイクル） 3. 地域診断を通して把握して把握した健康課題を基にした施策化に必要な根拠とプロセスを説明できる。 4. 公衆衛生看護における家庭訪問の目的ならびに方法を学ぶ。 5. 公衆衛生看護における健康教育を実践できる。 6. 公衆衛生看護における健康相談（こどもクリニック・HIV検診・発達相談など）の目的ならびに方法を学ぶ。 7. 公衆衛生看護におけるセルフヘルプグループの育成の目的ならびに方法を理解する。 8. グループでなければ解決できないグループダイナミクスを理解し、地区組織活動への理解を深める。 9. 社会資源の開発や地域ケアシステムをつくる（システム化）ための方法
授業計画	実習要領に記載
授業時間外の学習（準備学習等）について	別途指示する グループワークが中心なので、メンバーの意見や考えを尊重した上で建設的に話し合い、学びの促進に貢献すること。
教科書	特に指示しない
参考書	授業で使用した教科書、参考書及びプリント
成績評価	実習要領に記載
担当教員の基本情報	<p>研究室 : 10号館8階 メールアドレス : y-sato@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日午後</p> <p>担当教員名 : 三浦康代 研究室 : 10号館7階、 メールアドレス : miura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 小石真子 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : m_koishi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 村上久恵 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : h_murakami@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	必修
担当教員			
戸田 一男			
配当学部：看護学部	時間数：45時間	授業形態：実習	

授業目標	<p>実習目的 実習の最終段階として位置づけ、医療チーム内での看護の役割やチームによる看護実践のあり方、および統合医療の要素を看護実践に応用する可能性についても、実習を通して考える機会を持つ。</p> <p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の健康問題が、統合医療的視点からどのように捉え、アセスメントされているのかを理解できる。 2) 統合医療的視点からの介入（療法・ケア）の実際について理解できる。 3) 統合医療的視点からなされた介入（療法・ケア）の評価、およびフィードバックの方法について理解できる。 4) 1)～3)の過程を通して、統合医療の要素を看護に応用できる可能性について考えることができる。 5) 医療チーム内での他職種連携における看護の役割について考えることができる。
授業計画	『臨地実習要項 看護総合・統合実習』を参照して下さい。
授業時間外の学習（準備学習等）について	これまでに学んだ看護関連科目、統合医療関連科目の教科書・資料を活用し学習する。また、必要に応じて課題を提示する。
教科書	『臨地実習要項 看護総合・統合実習』
参考書	適宜紹介します。
成績評価	『臨地実習要項 看護総合・統合実習』を参照して下さい。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 戸田 一男 (科目責任者) 研究室 : 10号館 (看護学部棟) 7階 702 メールアドレス : k_toda@meiji-u.ac.jp</p> <p>担当教員名 : 上仲久 研究室 : 10号館 8階 803 メールアドレス : uenaka@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 随時(事前にメールにてアポイントメントをとること)</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	必修
担当教員			
山下 八重子			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	対象に質の高い看護を提供するために看護管理の重要性を理解し、チームメンバー及び多職種との協働の中で看護をマネジメントできる基礎的知識を修得する。		
授業計画	第1回	何のために看護管理を学ぶのかを理解する [到達目標] 1) 社会の中での看護師の役割を理解する 2) 看護管理学の概要について理解する 3) 組織とは何かを理解する	
	第2回	看護業務とは何かを理解する 1) 日常業務として実践されている記録を理解する 2) 情報管理 3) 問題解決の思考過程を理解する 5) 看護師の法的責任	
	第3回	安心・安全の医療の提供 1) 患者の権利と看護の質の保障、倫理について知る 2) インフォームドコンセント 3) 安全教育と訓練 KYT危険予知訓練 4) 患者参加	
	第4回	医療事故防止対策と医療事故への対応 1) 医療事故と看護師の責任 2) 医療機器管理と機器の選択・導入 3) 医療事故を起こした時の初期対応を知る 4) インシデント報告の仕組みと対応	
	第5回	看護提供方式の特徴（栗山） 1) 看護サービスの特性と患者満足 2) ナーシングシステムの特徴について知る	
	第6回	労働環境マネジメントについて理解する（栗山） 1) 人材育成・労働環境・物品管理・リスク管理 2) 感染管理	
	第7回	看護管理スキルと看護をとりまく諸制度と経営 1) 組織に対するマネジメントと個人に対するマネジメント理論を学ぶ 2) 看護職の教育制度と生涯学習 3) 医療保険制度 入院基本料	
	第8回	まとめと評価 筆記試験 70点 レポート課題：30点	
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や親戚で通院や入院している方がおれば、その病院と一緒に行ってどのような職業の人がどのような動きをしているか観察してみる。 ・自分が病院を受診した時に感じた事を書きだしてみる。 ・実習中に感じた疑問について書きだしてみる。 ・有名病院のホームページをいくつか開いて見てみよう。 ・授業前に教科書はしっかり読んでおく。 ・医療事故に関する報道等を調べておく 		
教科書	系統看護学講座 看護管理 看護の統合と実践1 医学書院		
参考書	ナーシング・グラフィカ 看護管理 看護の統合と実践① MCメディカ		
成績評価	試験60点 レポート40点		
担当教員の基本情報	担当教員名 : 山下八重子 研究室 : 10号館8階 メールアドレス : y_yamashita@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 金曜日15:00~16:00 担当教員: 栗山真由美 研究室: 10号館7階 メールアドレス: m_kuriyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー: 金曜日14:00~16:00		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	必修
担当教員			
山下 八重子 , 佐藤裕見子 , 戸田一男 , 宇城靖子			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	災害及び災害看護に関する基礎的知識を学ぶ。 看護の専門知識を統合して実践につなげる方法を学ぶ。 大規模災害時における看護師の役割を考えることができる。
授業計画	<p>第1回 災害看護の歴史と定義・災害の種類を理解する(山下)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害看護の歴史 ・災害看護の定義 ・災害時要支援者 <p>第2回 災害サイクルと災害時に必要な技術を知る(ゲスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害サイクルにおける看護活動 ・トリアージ・搬送 ・災害医療の考え方 <p>第3回 病院における災害看護のあり方を考える(ゲスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害の種類と被災の特徴 ・災害への備え ・初動体制 ・訓練 <p>第4回 災害現場の実際と医療チームの活動 (戸田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救助活動の実際 ・避難所での感染拡大防止 ・避難所での健康問題とこころのケア <p>第5回 実際の災害時の看護の役割と活動を知る(佐藤)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健師の役割と活動 ・看護職と多職種連携 <p>第6回 災害時の対象別看護を理解する (山下)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊婦 ・小児 ・高齢者 ・慢性疾患患者 ・障害のある人 ・外国人 ・精神障害者 <p>第7回 災害と放射能の人体への影響 (宇城)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放射能についての理解 ・看護師ができる放射能被害を防ぐ教育 <p>第8回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめ と 試験 レポート課題 30点 <ul style="list-style-type: none"> ・避難所で発生した健康問題 ・災害がもたらす心への影響とケア ・筆記試験70点
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> ・震災後の復興に関する番組等を見ておく ・看護学テキスト「災害看護 改定第2版」南江堂を読んでおく
教科書	看護学テキスト 「災害看護 改定第2版」 南江堂
参考書	適宜紹介
成績評価	レポート30点 筆記試験 70点
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 山下八重子 研究室 : 10号館8階 メールアドレス : y_yamashita@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日14:00~16:00 佐藤裕見子 : y_sato@meiji-u.ac.jp 戸田一男 : k_toda@meiji-u.ac.jp 宇城靖子 : s_usiro@meiji-u.ac.jp</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	必修
担当教員			
渡邊勝之・日野こころ・佐藤裕見子・小坂橋喜久代			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>【1～8回】看護場面に適応できる看護介入技法として、ツボ療法、お灸療法などの補完代替療法の実践を学習し、実際に体験する。</p> <p>【9～14回】看護の臨床場面を想定しながら活用の方法を考えてみる。</p> <p>主な内容は、リラクゼーション法・簡単な医療気功・ヒーリングケア・音楽療法・その他を取り上げる。演習を通して学生相互にモデル学習して心地よさと安全性、指導上のポイントについて検討する。</p>
授業計画	<p>渡邊担当1 コンプリメンタリーとは何かの概要を説明できる コンプリメンタリーセラピー方法についての概要とシラバスの説明および演習の全体像を理解する。</p> <p>渡邊担当2 主として看護に応用するCAMについての概要を説明できる。 補完代替医療と統合医療：看護師ができる介入方法について理解する。</p> <p>渡邊担当3 代表的なツボを取穴し、刺激方法の概要を説明できる。 鍼灸医学の経絡・経穴を応用したツボ療法(1)：代表的なツボを理解し取穴できる。</p> <p>渡邊担当4 代表的なツボを取穴し、刺激方法の概要を実施できる。 鍼灸医学の経絡・経穴を応用したツボ療法(2)：ツボに適した刺激を指で行うことができる。</p> <p>渡邊担当5 舌診、腹診、脈診などの診察法を関連づけて概要を説明できる 東洋医学の基本的な診察法を理解する：看護師ができる全身状態の把握方法を関連づけて理解する。</p> <p>渡邊担当6 各々の所見を総合して、全身状態の概要を説明できる 東洋医学の基本的な診察法を実践する：看護ケアに応用できるように理解する。</p> <p>日野担当1 セルフケアとして実践できるように、基本的な事項の概要を説明できる お灸療法の基本を理解する：お灸の成分、施灸方法など、セルフケアとして実践するための基本的知識を理解する。</p> <p>日野担当2 間接灸、隔物灸など安全に行う方法の概要を実施できる お灸療法を実践し、体験する：施灸を体験し、気持ちよさならびに注意点などを理解する。</p> <p>佐藤担当1 統合医療についての臨床ナースの関心とケアの可能性について検討し、説明できる。 臨床で、実際にどのようなケアが適用できるのか、資料を検索して考察し、その可能性を探る 事前学習課題① 臨床ではどのようなニーズがあり、活用されているか、文献検索しレポートする</p> <p>佐藤担当2 いのちに向き合う看護者の姿勢とケアについて検討し、説明できる。 いのちに向き合うという看護師の姿勢について検討し、「タッチ」「ナラティブケア」のロールプレイを行う</p> <p>小坂橋担当1 看護師の資質を高めることの必要性とセルフマネジメントについて検討し、説明できる 自分を養う・看護師の資質を高めるためのセルフケアの大切さとリラクゼーション法の活用について文献検討し、説明できる。事前学習課題②リラクゼーション法について文献検索しレポートする</p> <p>小坂橋担当2 セルフケアとして、リラクゼーション法を体験し、その活用について、説明できる。 看護の場面でストレスへの対処力を高めるために「呼吸法」「筋弛法」を体験し、その生理的反応を確認するとともに、体験を内省し考察できる。</p> <p>小坂橋担当3 看護場面に導入が期待されるコンプリメンタリー方法とその効果について文献検討し、説明できる。 どのような技法が期待され活用されているのか、適用されている領域と成果について文献検討する。 どのような技法が期待され活用されているのか、適用されている領域と成果について文献検討する。事前学習課題③ 自分の関心の高い技法の一つ取り上げて、ケアの活用に関する文献を検索しレポートする。(例として、芳香療法・音楽療法・動物療法・園芸(植物)療法・運動療法(気功法、その他)・ヒーリングセラピーなど、各自の関心領域について取り上げる)</p> <p>小坂橋担当4 これからの統合医療における看護師の役割と課題を検討し、説明できる。 看護場面に活用する指圧マッサージ、ヒーリングタッチの実践について検討する 統合医療サービスのモデルを考えると同時に、臨床においてどのような役割を果たすべきか、そのときの課題・方略を検討し、まとめる まとめ 実習を通して、課題レポートを作成する。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>【1～8回】 1～8回目の課題をレポートする。A4判で5枚程度。テーマは、8回終了時に提示します。教科書および配布プリントを事前に一読して講義を受講して下さい。また、実技を行いますので、実習ができる服装で受講して下さい。</p> <p>【9～14回】 ①9～14回目の事前学習課題①②③をレポートし参加する。A4判1枚ですが枚数制限なし。</p>

	②最終回（14回目）の提出レポートは、「臨床でコンプリメンタリーセラピーが有効に使われるための課題について」A4判のレポートを提出する（枚数制限なし）。レポートの視点は、看護師の役割・質の保証・患者指導・安全性・人権と自己防衛・評価、その他です。いずれの課題も、マスコミ・雑誌・学術誌などの情報を活用してみましょう。
教科書	医療原論 渡邊勝之 編集 医歯薬出版社 「ナースのための補完代替療法ガイドブック（第2版）」 池川清子・江川幸二 訳 メディカ出版 「リラクゼーション法入門-ホリスティックアプローチ-」 小坂橋 荒川編 日本看護協会出版会
参考書	「医療従事者のための補完・代替医療」 今西二郎 金芳堂 「いのちに触れるコミュニケーション」 菅原 努 監修（オフィスエム出版） そのほか、授業開始時に随時紹介する
成績評価	渡邊・日野担当分（1～8）：50点、小坂橋担当分（9～14）：50点、合計100点。 課題レポート（授業終了時に指示する）のオムニバス形式で評価する。 出席日数は、3/5以上を受験資格とし、60点以下の者は、追・再試験を実施する。 両者の評価を総合して、60点以上を可、70点以上を良、80点以上を優とする。 出席および平常評価（出席カード：20%）、レポート評価（80%）とする。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 渡邊勝之 研究室 : 6号館2階 基礎鍼灸学講座 教員室 メールアドレス : k_watanabe@mst.meiji-u. ac. jp オフィスアワー : 随時（統合医療センター出向のため、火・水・金曜日以外） 担当教員名 : 日野こころ 研究室 : 6号館2階 基礎鍼灸学講座 教員室 メールアドレス : hinokokoro@meiji-u. ac. jp オフィスアワー : 随時 担当教員名 : 佐藤裕見子 研究室 : 10号館8階 806号室 メールアドレス : y_sato@meiji-u. ac. jp オフィスアワー : 随時 担当教員名 : 小坂橋喜久代（非常勤講師） 研究室 : 非常勤講師 メールアドレス : koitabashi@tachibana-u. ac. jp オフィスアワー : 演習実施日
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
仲口 路子			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	1) 臨床で用いられる看護技術の意味を問い直し、科学的裏付けを明らかにするためのプロセスを学ぶ 2) これまでに学んだ看護技術を再度「ナースの技」として定位し、考究することができる 3) これからの看護技術とその課題について現代的課題を考察することができる
授業計画	<p>1 導入／オリエンテーション [授業概要] オリエンテーション（授業概要とねらいの説明） 看護技術について [到達目標] 看護技術についての理解を深める 現代的リベラルアーツ（文理にとらわれず広く知識を身につけながら、創造的な発想を訓練する教育システム）という視点からの看護技術への接近/再考を試みる 1) 基礎/領域実習での自らの看護実践を振り返って講義に臨むこと 2) 各自が学内と臨床で（考え方、実施方法等で）「かけ離れている」と感じたことについて発表する</p> <p>2 日常生活援助技術 再考 日常生活を支える技術の変遷と今後の課題，展望，可能性について考察することができる</p> <p>3 生命活動を支える技術 再考 診療にかかわる看護援助技術の現代的位置づけと課題について考察することができる</p> <p>4 安楽 再考 安楽とはなにか、安楽を阻害する要因やより安楽を促進することについて考察することができる 安楽/安寧と社会との関連を考究することができる</p> <p>5 自立/自律 再考 看護技術における自立/自律とはなにかを考察することができる</p> <p>6 ナースの技 再考 [エキスパート/ビギナー，専門看護師/ジェネラリスト] 看護師の役割を看護技術の視点からその深まりについて考察することができる</p> <p>7 まとめ・レポート課題発表</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義内で課題を提示するので、期限を守って必ずレポートを提出すること なお、提出されたレポートはすべて成績評価の対象とする
教科書	適宜提示する
参考書	<p>1) 「看護の力」川嶋みどり著 岩波新書</p> <p>2) 「ナースの心」心にも効く言葉」F. ナイチンゲール著 ハーパー保子訳 サンマーク出版</p> <p>3) 「看護の挑戦 フロントランナーの仕事に学ぶ」北川隆吉監修 桐書院</p> <p>4) 「看護師の臨床の『知』 看護職生涯発達学の視点から」佐藤紀子著 医学書院</p> <p>5) 「その先の看護を変える気づき 学び続けるナースたち」柳田邦男，陣田泰子，佐藤紀子編集 医学書院</p> <p>6) 「チーム医療と看護 専門性と主体性への問い」川嶋みどり著 看護の科学社</p>
成績評価	<p>1) 授業への出席が全体の3/5以上であること</p> <p>2) 出席状況，授業への参加度，レポートの提出と内容をふまえ，総合的に評価する</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 仲口 路子</p> <p>研究室 : 10号館 7階 712研究室</p> <p>メールアドレス : nakaguchi@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 木曜1限 この時間以外はメールで相談すること</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
小倉 之子、杉山 敏宏			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	1) 緩和ケアの歴史の変遷を理解する。 2) 日本における緩和ケアの現状と課題について学ぶ。 3) 緩和ケアチーム医療および看護職の役割について学ぶ。
授業計画	<p>1回 〔授業概要〕 緩和ケアとは 〔到達目標〕 緩和ケアの対象とその特徴、チーム医療の在り方が理解できる。 〔備考〕</p> <p>2回 〔授業概要〕 緩和ケアの理念・歴史とわが国における緩和ケアの現状 〔到達目標〕 緩和ケアの歴史と日本における緩和ケアの現状について理解できる。 〔備考〕</p> <p>3回 〔授業概要〕 緩和ケアの看護展開① 〔到達目標〕 緩和ケアにおける看護職の役割が理解できる。 〔備考〕</p> <p>4回 〔授業概要〕 緩和ケアの看護展開② 〔到達目標〕 緩和ケアにおけるペインコントロールが理解できる。 〔備考〕</p> <p>5回 〔授業概要〕 緩和ケアの看護展開③ 〔到達目標〕 緩和ケアを受ける患者の心理とそのケアについて理解できる。 〔備考〕</p> <p>6回 〔授業概要〕 緩和ケア看護の実際・ホスピス、緩和ケア病棟見学における事前学習 〔到達目標〕 ホスピス、緩和ケア病棟について（役割、機能、種類、特徴など）学習する。</p> <p>7-8回 〔授業概要〕 緩和ケア看護の実際・ホスピス病棟・見学 〔到達目標〕 緩和ケアチームおよびホスピス病棟の見学により緩和ケアの理解を深める。 〔備考〕 ヴォーリズ記念病院「ホスピス病棟」見学</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	1) 事前に教科書を熟読しておくこと。 2) 事前課題はその都度指示します。
教科書	『緩和・ターミナルケア看護論』（ヌーベルヒロカワ）
参考書	適宜紹介します。
成績評価	出席状況、レポートにて総合的に評価します。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 小倉 之子 研究室 : 10号館7階 研究室708 メールアドレス : y_ogura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 適時対応します</p> <p>担当教員名 : 杉山 敏宏 研究室 : 10号館8階 研究室807 メールアドレス : t_sugiyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義中に指示</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
藤田 智恵子			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	クリティカルケア看護に必要な基本的知識を修得し、三次救急の対象となる患者や侵襲の大きい手術を受けた患者など、生命危機状態にある患者に対する具体的な看護について学ぶ。
授業計画	<p>1回 クリティカルケア看護とチーム医療 [到達目標]①クリティカルケアの対象とその特徴について理解できる。②クリティカルケアに必要な看護倫理について理解できる。</p> <p>2回 生命危機状態にある患者・家族への看護 [到達目標]ICUにおける患者の反応と家族の体験について理解できる。 [備考]ICUの治療環境と看護の特徴について復習しておくこと。</p> <p>3回 クリティカルケアに必要な看護技術① [到達目標]観察とアセスメント、過大侵襲を受けた患者の生体反応、体液・循環管理、栄養・代謝管理、体温管理、感染予防策、スキンケア、体位変換・関節可動域訓練について理解できる。 [備考]前時間に指示。</p> <p>4回 クリティカルケアに必要な看護技術② [到達目標]呼吸管理、人工呼吸管理、鎮静・疼痛・せん妄時の看護技術について理解できる。 [備考]前時間に指示</p> <p>5回 クリティカルな患者の主要病態の特徴とケア① [到達目標]多臓器障害および重症感染症の看護について理解できる（多発外傷、熱傷）。 [備考]多発外傷、熱傷の原因、症状、診断、治療についてレポートしておくこと。</p> <p>6回 クリティカルな患者の主要病態の特徴とケア② [到達目標]過大侵襲を受けた患者の生体反応に対する看護について理解できる（冠状動脈バイパス術）。 [備考]循環器の解剖・生理、急性心筋梗塞の原因、症状、診断、治療についてレポートしておくこと。</p> <p>7回 クリティカルケアの場にかす補完代替療法 [到達目標]補完代替療法を取り入れたクリティカルケア看護を考えることができる（マッサージ、音楽療法など）。 [備考]臨床で活用されている補完代替療法について調べておくこと。</p> <p>8回 まとめ [到達目標]クリティカルケア看護についてグループ内で討議し、学びを共有することができる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義中に指示する。
教科書	1) クリティカルケア看護学 道又元裕他 医学書院 2) 救急看護学 山勢博彰他 医学書院
参考書	講義中に紹介する。
成績評価	出席状況10%、グループワークへの参加状況10%、レポート80%にて総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 藤田智恵子 研究室 : 10号館8階 研究室802 メールアドレス : c-fujita@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火15:00-16:00
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
杉山 敏宏			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	これまでの講義や実習を通して学び、考え、体験してきた自らの経験をふまえて看護における癒しとは何かを探究する。看護に生かす代替療法を体験し、その種類と方法が理解できる。
授業計画	<p>1回目 癒しとは [到達目標] 癒しについて考え意見交換し、感じたことをまとめる。</p> <p>2回目 いきがい [到達目標] いきがいについて意見交換し、どのような状況でも意味のある人生だと考えることができるひとつの方法を学ぶ。</p> <p>3回目 コラージュ [到達目標] 作品作りを通して自分の性格や考えの方向性を考える。</p> <p>4回目 精神障害者をテーマとした映画を鑑賞する。 [到達目標] 精神障害をテーマとした映画を批評的に鑑賞する。</p> <p>5回目 映画鑑賞後に各自の意見交換を行う。 [到達目標] 映画から得られた精神障害のとらえ方についてディスカッションし、自分の考えを述べる。</p> <p>6回目 代替療法とは [到達目標] 事前に調べたものを発表しどのような場面で活かされているかについて学ぶ。</p> <p>7回目 リラクゼーションとは [到達目標] 癒しに関するパンフレット作りを通して身体的・精神的効果について学ぶ。</p> <p>8回目 まとめ 学んだことを振り返り、看護と癒しの関係について考え、レポートにまとめる。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	実習経験を振り返り、特に患者様との人間関係において「癒し」を感じた場面について簡単にまとめておく。どのような内容のものでも良いので、「癒し」に関して書かれた書物を一冊は読んでおく。
教科書	なし 資料を配布する。
参考書	特に指定しない。
成績評価	論述形式の筆記試験および授業への参加状況によって総合的に評価する。 (筆記試験(論述形式)70%・出席状況及び講義に臨む姿勢30%)
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 杉山敏宏 (科目責任者) 研究室 : 10号館8階807研究室 メールアドレス : t_sugiyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (精神看護学実習のため病院出張以外)</p> <p>担当教員名 : 戸田一男 研究室 : 10号館7階702研究室 メールアドレス : k_toda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (精神看護学実習のため病院出張以外)</p> <p>担当教員名 : 梶川拓馬 研究室 : 10号館7階713研究室 メールアドレス : t_kajikawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (精神看護学実習のため病院出張以外)</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
山下 八重子			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	様々な状態の子どもの危険を多面的に予測し事故防止への援助を考える。 1) 小児の発達と事故について理解する。 2) 事故防止について考え事故防止のための基本を学ぶ。 3) 発達障害のある子どもの事故を考える。 4) 入院中の子どもの事故の発生の実際を学ぶ。 5) 入院中のこどもの危険を考慮しながら看護を考えることができる。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 1) 小児の発達について再度確認する。 2) 小児の死因について統計より知る。</p> <p>第2回 小児の事故の特徴 1) 小児各期の事故の特徴を知る。 2) 小児の発達と事故の関係を考える。</p> <p>第3回 子どもの発達と事故 GWのメンバー決定 1) 小児の事故はなぜ起こるのかを考える。 2) 文献を読み調べる。</p> <p>第4回 事例から学ぶ 1) 家庭での事故・施設での事故 2) 事故の種類別の事例の特徴 3) 虐待</p> <p>第5回 入院患児の事故事例に学ぶ 1) 病院での事故 患者誤認・誤薬事故・転倒転落・誤飲・窒息 2) 死亡事故でない事例</p> <p>第6回 看護師の管理と観察が重要な事故 1) 検査時の事故 2) 火傷・チューブトラブル（点滴ルート・気管内チューブ・各種廃液チューブ）</p> <p>第7回 発達課題を含めた事故防止対策 GW発表 小児各期毎のGWの発表</p> <p>第8回 レポート提出 レポート課題： 講義とGWをもとに各自が「子どもの入院中に起こる事故の防止と小児の発達について」自分の意見を1600字以上3200字以内にまとめてレポートする。 提出期限は講義終了後1週間</p> <p>評価 出席とレポート 出席は、5回以上に出席でレポート提出の権利を得る。期限内にレポートを提出する事で基礎点60点とし、レポートの内容により点数の加点をする。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>1) 子どもの発達段階に応じた遊びについて調べる。 2) 実際どのような事故が報告されているか検索する。 3) 初めて聞く用語、意味不明な用語について調べる。 4) 興味を持った事項についてさらに詳細を調べる。</p>
教科書	適宜紹介する
参考書	母子保健事業のための事故防止マニュアル(田中哲郎：国立保健医療科学院) http://www.niph.go.jp/soshiki/shogai/jikoboshi/public/pdf/manual-all.pdf 看護のコツと落とし穴 中山書店
成績評価	試験と授業参加度で評価 レポート 60% 授業参加度（出席点とGW参加度）40%
担当教員の基本情報	担当教員名 : 山下八重子 研究室 : 10号館8階 メールアドレス : y_yamashita@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日 15:00~16:00
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
小石 真子			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	個々のネットワーク、コーディネート、ケアマネジメントなどに対して、組織的、系統的な支援を行い、全体として地域保健の向上をめざす地域保健システムの発展過程を考える。
授業計画	<p>1回目 家族の支援ネットワークと支援システム（1） ソーシャルサポート理論を活用して、事例を分析する。 宿題：地域包括支援センター、社会福祉協議会、シルバー人材センターを調べておく。</p> <p>2回目 家族の支援ネットワークと支援システム（2） 独居高齢者の事例から地域保健の課題を考える。 宿題：高齢者虐待防止法、成年後見制度と地域福祉権利擁護事業を調べておく。</p> <p>3回目 家族の支援ネットワークと支援システム（3） 虐待のおそれのある事例から地域保健の課題を考える。</p> <p>4回目 地域ケアシステムの構築について（1） 地域ケアシステムの概念、目的、発展過程について理解し、男性独居高齢者の例を検討する。 宿題：すこやか親子21（第2次）、母子保健に関する施策・社会資源を調べておく。</p> <p>5回目 地域ケアシステムの構築について（2） 母子関連の保健対策を検討する。</p> <p>6回目 ネットワーク化と調整活動 地域ケアシステムにおけるネットワークの形成と調整活動について理解し、認知症高齢者の例を検討する。</p> <p>7回目 地域保健活動システムのまとめ コミュニティ・ソーシャルワーカーの事例からネットワークづくりとシステムづくりを考える。</p> <p>8回目 レポート 最終レポート課題の提出</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	必要に応じ、授業内でインフォメーションする。
教科書	毎週、プリントを配布
参考書	「地域保健学.jp」荒賀直子、後閑容子編（インターメディカル） 標準保健師講座2 「地域看護技術」中村裕美子 編（医学書院）
成績評価	出席状況、授業への参加態度、レポート等により総合的に評価する。 最終レポート課題 テーマ1. あなたの住んでいる町で住民が安心して生活するためには、どのような保健医療福祉の仕組みが必要かを述べて記述してください。 レポート用紙2枚（2400字程度）
担当教員の基本情報	担当教員名 : 小石 真子 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : m_koishi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日午後
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
佐藤 裕見子			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	ヘルスプロモーションの概念、変遷、ならびに公衆衛生看護における意義と展開方法について学習する。住民主体のヘルスプロモーション事例から、行政と関係機関、住民との協働による健康な地域づくりを目指すヘルスプロモーションの展開方法を理解する。
授業計画	<p>1回 健康政策とヘルスプロモーション ヘルスプロモーションの概念、変遷、国際的動向、健康日本21（目的・理念など総論を中心に）を学ぶ。</p> <p>2回 ヘルスプロモーションの実際 ライフスタイル（たばこ、身体活動、食生活）の健康影響について、健康日本21の各論を例にとり、目標設定、目標達成度、今後の課題を中心に理解する。</p> <p>3回 健康政策の評価と具体例への応用 科学的な評価の流れ、各種健康指標の意義、具体例への応用（新型インフルエンザなど、いくつかを取り上げる）を理解する。</p> <p>4回 生活習慣病のリスクファクターと対策 循環器疾患のリスクファクター、メタボリックシンドローム、特定健康診査・特定保健指導の問題点などを中心に学ぶ。</p> <p>5回 住民主体のヘルスプロモーションの展開① 健康な地域づくりに向けたヘルスプロモーションの展開方法を事例を通して理解する。</p> <p>6回 住民主体のヘルスプロモーションの展開② 健康な地域づくりに向けたヘルスプロモーションにおける住民、関係機関、行政の協働による展開方法を事例を通して理解する。</p> <p>7回 住民主体のヘルスプロモーションの展開：演習 健康な地域づくりに向けたヘルスプロモーションの展開方法を演習を通して深める。</p> <p>8回 まとめ</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	必要に応じ、インフォメーションする。
教科書	特に指定しない
参考書	特に指定しない
成績評価	出席状況、レポート等により総合的に評価する
担当教員の基本情報	担当教員名 : 佐藤裕見子 研究室 : 10号館8階 メールアドレス : y-sato@meiji-u.ac.jp
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	必修
担当教員			
杉山 敏宏			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	国際保健活動の枠組みならびに開発途上国における健康問題について学び、人々の健康に影響を及ぼす人口的、社会経済的、文化的な要因について理解する。また、国際看護・異文化看護の概念とことなる文化（社会様式・価値観）をもつ人々の看護について理解する。
授業計画	<p>1回目 異文化看護体験 －アメリカの看護学生生活体験事例を通して－ [到達目標] 看護教育体験例による看護学生の視点を通じた異文化看護を理解する。</p> <p>2回目 保健・医療の国際協力Ⅰ：開発途上国における健康課題（1） [到達目標] 国際保健・国際看護の概要について理解する。 国際看護の定義について 異文化看護のアセスメントモデルについて</p> <p>3回目 保健・医療の国際協力Ⅰ：開発途上国における健康課題（2） [到達目標] 世界的視野からの健康問題が概観できる。 MDGsからみる世界の健康問題について 熱帯病・風土病について</p> <p>4回目 保健・医療の国際協力Ⅱ：開発途上国における保健・看護活動の実際－ラオスを中心に－ [到達目標] 開発途上国の保健活動の実際を概観し、国際的規模で行う保健・看護活動に必要なスキルについて考えることができる。 国際保健・看護の実際（1）病院看護の視点から</p> <p>5回目 保健・医療の国際協力Ⅱ：開発途上国における保健・看護活動の実際－ラオスを中心に－ [到達目標] 開発途上国の保健活動の実際を概観し、国際的規模で行う保健・看護活動に必要なスキルについて考えることができる。 国際保健・看護の実際（2）地域看護の視点から</p> <p>6回目 JIKAが行う国際協力とJICAボランティア（看護師）活動について [到達目標] JICAが行う国際協力の意義・理由・内容について、青年海外協力隊事業の概要について。 質疑応答の時間を持つ。</p> <p>7回目 JIKAによる様々な国際協力活動 [到達目標] 青年海外協力隊、国際緊急援助活動に参加した経験をもとに講義する。 質疑応答の時間を持つ。</p> <p>8回目 まとめ 「国際保健・国祭看護」とは何か、自分の考えを述べることができる。（レポート作成）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	特になし
教科書	教科書は指定しない。適宜資料配布する。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・国民衛生の動向 厚生統計協会 ・国民保健医療学会編：国際保健医療学, 杏林書院 ・国民保健医療学会編：国際保健・看護, 弘文堂 ・その他適宜提示
成績評価	レポート（50%）、出席状況・授業参加状況（50%）
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：杉山敏宏（科目責任者） 研究室：10号館8階807研究室 メールアドレス：t_sugiyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（精神看護学実習のため病院出張以外）</p> <p>担当教員名：戸田一男 研究室：10号館7階702研究室 メールアドレス：k_toda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（精神看護学実習のため病院出張以外）</p> <p>担当教員名：梶川拓馬 研究室：10号館7階713研究室 メールアドレス：t_kajikawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（精神看護学実習のため病院出張以外）</p> <p>担当教員名：山本加奈子（川崎医療福祉大学） JICA派遣講師（JOCA近畿支部：公益社団法人青年海外協力協会）</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
今西 二郎			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>医学・医療のこれまでの歴史を踏まえ、現代医療の特徴と問題点を把握することにより、今、なぜ統合医療が注目されているのかを理解する。①統合医療の概念、②統合医療の現状と課題、③統合医療と医療行政、④統合医療と心身医学、⑤統合医療と先端医学、⑥統合医療と高齢者、⑦統合医療と健康食品、⑧統合医療の世界の動向などについて学修し、統合医療のあるべき姿、方向性について考えることを通して統合医療の基礎を理解する。さらに、看護における統合医療の必要性についても理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 補完・代替医療および統合医療の概念について理解すること 2. 近代医学の特徴および長所と短所を理解すること 3. 伝統医学、CAMの特徴および長所と短所を理解すること 4. 統合医療の意義、理念および形態について考えること 5. 統合医療における伝統医療の役割について考えること
授業計画	<p>1回目 統合医療総論 [到達目標] 統合医療の定義、現状、がんと統合医療を理解し、そのあり方を考える。</p> <p>[備考] 統合医療（テキスト）p. 1、p.103-133</p> <p>2回目 補完・代替医療1 [到達目標] 各種補完・代替医療をセミナー形式で発表し、理解を深める。</p> <p>[備考] 医療従事者のための補完代替医療（参考書4）</p> <p>3回目 補完・代替医療2 [到達目標] 各種補完・代替医療をセミナー形式で発表し、理解を深める。</p> <p>[備考] 医療従事者のための補完代替医療（参考書4）</p> <p>4回目 補完・代替医療3 [到達目標] 各種補完・代替医療をセミナー形式で発表し、理解を深める。</p> <p>[備考] 医療従事者のための補完代替医療（参考書4）</p> <p>5回目 メディカル・アロマセラピー1 [到達目標] メディカル・アロマセラピーの定義、エッセンシャルオイル、方法、対象疾患・症状とそのレシピなどを理解する。</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（参考書3）</p> <p>6回目 日本伝統医学としての漢方1 [到達目標] 漢方医学での病態の捉え方を理解し、診断法を知る。</p> <p>[備考] 入門漢方医学（参考書1）</p> <p>7回目 日本伝統医学としての漢方2 [到達目標] 生薬と漢方方剤を理解する。</p> <p>[備考] 入門漢方医学（参考書1）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書、参考書をあらかじめ読んでおくこと
教科書	今西二郎著：統合医療改訂2版、金芳堂、2015.
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入門漢方医学、日本東洋医学会学術教育委員会編集、南江堂、2002. 2. 『統合医療 基礎と臨床』Part1. 基礎編、日本統合医療学会、2007. 3. 今西二郎著：メディカル・アロマセラピー改訂3版、金芳堂、2015. 4. 今西二郎著：医療従事者のための補完代替医療第2版、金芳堂、2009.
成績評価	評価方法と評価割合：レポート80%、授業内演習20%
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○今西二郎</p> <p>研究室 : 附属統合医療センター</p> <p>メールアドレス : imanishi-micro@nifty.com</p>

	オフィスアワー : 随時 担当教員名 : 岸田聡子 研究室 : 附属統合医療センター メールアドレス : s_kishida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
岸田 聡子			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：実習	

授業目標	メディカル・アロマセラピーの看護学への応用として、概論、演習を通して習得した知識を基に、実際に臨床で実践できるマッサージ技術を習得する。		
授業計画	1回目	アロママッサージの実際 1 [到達目標] マッサージを行う前の準備、環境の整え方を、実際に行い習得する [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p. 66-70、実技編アロマセラピーのきほん事典（参考書2） p. 130-137	
	2回目	アロママッサージの実際 2 [到達目標] 下枝後面マッサージを習得する [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p. 66-70、実技編アロマセラピーのきほん事典（参考書2） p. 130-137	
	3回目	アロママッサージの実際 3 [到達目標] 背部マッサージを習得する [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p. 66-70、実技編アロマセラピーのきほん事典（参考書2） p. 130-137	
	4回目	アロママッサージの実際 4 [到達目標] 背部マッサージを習得する [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p. 66-70、実技編アロマセラピーのきほん事典（参考書2） p. 130-137	
	5回目	アロママッサージの実際 5 [到達目標] 下枝後面、背部マッサージの手技の確認、習得 [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p. 66-70、実技編アロマセラピーのきほん事典（参考書2） p. 130-137	
	6回目	アロママッサージの実際 6 [到達目標] 下肢前面マッサージの習得 [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p. 66-70、実技編アロマセラピーのきほん事典（参考書2） p. 130-137	
	7回目	アロママッサージの実際 7 [到達目標] 腹部マッサージの習得 [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p. 66-70、実技編アロマセラピーのきほん事典（参考書2） p. 130-137	
	8回目	アロママッサージの実際 8 [到達目標] 手のマッサージの習得 [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p. 66-70、実技編アロマセラピーのきほん事典（参考書2） p. 130-137	
	9回目	アロママッサージの実際 9 [到達目標] 前胸部マッサージの習得 [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p. 66-70、実技編アロマセラピーのきほん事典（参考書2） p. 130-137	
	10回目	アロママッサージの実際 10	

	<p>[到達目標] 下肢前面、腹部、手、前胸部マッサージの手技確認、習得</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p. 66-70、実技編 アロマセラピーのきほん事典（参考書2） p. 130-137 アロママッサージの実際1 1</p> <p>[到達目標] フェイシャルマッサージの習得</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p. 66-70、実技編 アロマセラピーのきほん事典（参考書2） p. 130-137 アロママッサージの実際1 2</p> <p>[到達目標] 全身マッサージの習得</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p. 66-70、実技編 アロマセラピーのきほん事典（参考書2） p. 130-137 アロママッサージの実際1 2</p> <p>[到達目標] 全身マッサージの習得</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p. 66-70、実技編 アロマセラピーのきほん事典（参考書2） p. 130-137 アロママッサージの実際1 2</p> <p>[到達目標] 全身マッサージの習得</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p. 66-70、実技編 アロマセラピーのきほん事典（参考書2） p. 130-137 実技試験</p> <p>[到達目標] 実技習得の確認</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p. 66-70、実技編 アロマセラピーのきほん事典（参考書2） p. 130-137</p>
授業時間外の学習 （準備学習等）について	練習を行い、実技の習得を目指すこと。
教科書	統合医療評価認証機構メディカル・アロマセラピーテキスト第2版
参考書	1. 今西二郎、荒川唱子編：アロマセラピー入門第2版、日本看護協会出版会、2010.
成績評価	全身マッサージの実技試験により評価する
担当教員の基本情報	担当教員名 : 岸田聡子 研究室 : 附属統合医療センター メールアドレス : s_kishida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	2	選択必修
担当教員			
田中 邦雄			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：講義	

授業目標	日常生活における漢方的知識の理解と応用を図る。 漢方医学の全体概念を把握する。		
授業計画	1回目	近代医学と漢方医学 [到達目標] 西洋医学と東洋医学の違いを把握する。	
	2回目	[備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。 伝統医学の歴史 [到達目標] 日本・中国各々の伝統医学の歴史を把握する。	
	3回目	[備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。 漢方医学と中医学 [到達目標] 日本伝統医学である漢方医学と中国で実践されている中医学の違いを把握・理解する。	
	4回目	[備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。 漢方の疾病概念：三陽三陰 [到達目標] 三陽三陰の「三陽」の概念を把握する。	
	5回目	[備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。 漢方の疾病概念：気・血・水 [到達目標] 気・血・水を使つての病態把握を理解する。	
	6回目	[備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。 疾病概念としての五行説 [到達目標] 五行説を理解する。	
	7回目	[備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。 漢方方剤の解説① [到達目標] 漢方方剤を理解する。	
	8回目	[備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。 漢方方剤の解説② [到達目標] 漢方方剤を理解する。	
	9回目	[備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。 漢方方剤の解説③ [到達目標] 漢方方剤を理解する。	
	10回目	[備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。 漢方方剤の解説④ [到達目標] 漢方方剤を理解する。	
	11回目	[備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。 日本の伝統民間薬 [到達目標] 日本の伝統民間薬	

	<p>12回目</p> <p>[備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。 日本の伝統民間薬 [到達目標] 日本の伝統民間薬を解説する。</p> <p>13回目</p> <p>[備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。 武田薬草園見学 [到達目標] 薬草園で実際の生薬を確認する。</p> <p>14回目</p> <p>[備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。 武田薬草園見学 [到達目標] 薬草園で実際の生薬を確認する。</p> <p>15回目</p> <p>[備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。 まとめ。今後の、日本における西漢医結合 [到達目標] 西洋医学と漢方医学yをいかに投合して適切な医療を実践するかを理解する。</p> <p>[備考] 日本における西漢医結合について考えておくこと。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各自希望のテーマがあれば個別に指導
教科書	「専門医のための漢方医学テキスト」(日本東洋医学会学術教育委員会) ※購入は自由
参考書	「KANPO STUDY NOTEBOOK」(株)ツムラ ※受講生に配布
成績評価	レポートによる総合的な判定とする。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 田中邦雄(教授) 研究室 : 統合医療学(明治国際医療大学附属統合医療センター) メールアドレス : ku_tanaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : メールで予約して、明治国際医療大学附属統合医療センターにて対応。
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
池本 敬博			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	【看護師・保健師が学ぶ運動療法】 医療現場で生かせる運動療法を体験することにより、集団運動指導ができることを目的とします。また、医療人としてのコミュニケーション能力の向上を目指します。		
授業計画	1	医療現場で生かせる運動療法を体験することで、楽しい集団運動指導ができることを目指す。 医療人としてのコミュニケーション能力の向上と、楽しい運動実践と集団運動指導法を体得する。	
	2	健康ウォーキング 屋外健康ウォーキングの実際	
	3	運動療法1 ボール運動1 スローイング系種目 布ボール、軽量ボール、1kg・2kg・3kgボール	
	4	運動療法2 ボール運動2 バッティング系種目 トス・バッティング、スポンジボール他	
	5	運動療法3 ステップ・シートウォーキング、スクエアシート他	
	6	運動療法4 パターゴルフ、ハンマースウィング他	
	7	運動療法5 球技系	
	8	まとめ レクリエーション	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	指定しない		
教科書	指定しない		
参考書	指定しない		
成績評価	成績評価は出席（75%以上）を中心にし、授業態度及び参加度を加味して、評価する。		
担当教員の基本情報	担当教員名	：池本 敬博	
	研究室	：体育館・教員室	
	メールアドレス	：iketurn@meiji-u.ac.jp	
	オフィスアワー	：随時	
備考			

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
渡邊勝之			
配当学部：看護学部	時間数：15時間	授業形態：講義	

授業目標	<p>本授業科目は、セルフケアとしての温灸療法について学習する。 看護師は身体的にも、精神的にもストレスが多く、心身の変調をきたしやすい職種と云われている。そうしたストレスを緩和し、心身良好な状態で日々を過ごせるように支援すること、また職場での円滑な職務遂行とともに様々なアクシデントを防ぐことをサポートすることが大切である。 そのために家庭でできるツボ療法の一環として温灸を用いたセルフケアの理論と実際を学習し、看護師および女性によくみられる症状を取り上げた実践的な温灸療法とセルフケアの方法を修得する。</p>
授業計画	<p>講義1 養生（セルフケア）と健康生成論（サルトジェネシス） 東洋医学における養生（セルフケア）と現代医療における健康生成論（サルトジェネシス）の総論について理解し、要点を説明することができる。</p> <p>講義2 養生（セルフケア）と健康生成論（サルトジェネシス） 東洋医学における養生（セルフケア）と現代医療における健康生成論（サルトジェネシス）の総論について理解し、要点を説明することができる。</p> <p>演習1 養生法（セルフケア）の実際 セルフケアおよび看護師として実践できる、養生法の基本（呼吸法・手当）を理解し、実践することができる。</p> <p>演習2 適した温灸を実践するための診察法 お灸は古来より、健康法の一つとして、民間療法的に実践されてきた。お灸をして良い場所、より効果を出すための取穴方法を理解し、実践することができる。</p> <p>講義3 灸療法の種類と特徴について 灸療法の種類とその特徴の概要を理解し、症状に応じて使い分けることができる。</p> <p>演習3 灸実技の基本 灸療法の実際を学習し、施灸することができる。</p> <p>演習4 症状に対する温灸療法の実際 冷え症・生理痛・便秘・腰痛・肩こり・疲労・肌荒れ・その他の温灸の実際を学習する。</p> <p>まとめ レポート作成 講義および演習で学んだことを、セルフケアおよび看護でどのように生かすことができるかを考える。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	特に必要なし
教科書	渡邊勝之：医療原論、医歯薬出版社。
参考書	矢野忠：女性のための東洋医学入門 - 自分でできるツボ療法、日中出版。
成績評価	<p>評価：平常評価（受講態度、出席カード：50%）とレポート評価（50%）による。 試験：受験資格は出席日数3/5以上とする。 成績：60点以上を可、70点以上を良、80点以上を優とする。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：渡邊勝之 研究室：6号館2階 基礎鍼灸学講座 教員室 メールアドレス：k_watanabe@mst.meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（統合医療センター出向のため、火・水・金曜日以外）</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
川村 茂、泉 晶子、神内 伸晃、大木 琢也			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	本科目はスポーツ現場で用いられるテーピング技術を学ぶ。それにより、他業種の業務内容を理解する。また、テーピングのみならず看護師に必要な包帯などの固定技術を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 テーピングの基本、足関節のテーピング① テーピングの種類と効果、実施上の注意、足内反捻挫(非伸縮)に対するテーピングの施行について理解する。</p> <p>第2回 足関節のテーピング② 足内反捻挫(非伸縮)、足内反捻挫(非伸縮、伸縮)に対するテーピングの施行について理解する。</p> <p>第3回 膝関節のテーピング 内側側副靭帯、前十字靭帯損傷などに対するテーピングの施行について理解する。</p> <p>第4回 肘関節・手関節・指のテーピング 肘側副靭帯損傷、手の捻挫、突き指などに対するテーピングの施行について理解する。</p> <p>第5回 キネシオを使ったテーピング① 鵞足炎・腸脛靭帯炎・下腿・膝などに対するテーピングの施行について理解する。</p> <p>第6回 キネシオを使ったテーピング② 腰・頸・肩などに対するテーピングの施行について理解する。</p> <p>第7回 包帯の基本、前腕の包帯① 伸縮包帯と非伸縮包帯の違い、基本走行、前腕の包帯(被覆)に対する包帯の施行について理解する。</p> <p>第8回 前腕の包帯②、肘の包帯① 前腕の包帯(被覆)、肘の包帯(被覆)に対する包帯の施行について理解する。</p> <p>第9回 肘の包帯② 副子材料の固定に対する包帯の施行について理解する。</p> <p>第10回 手の包帯①、指の包帯① 被覆包帯の施行について理解する。</p> <p>第11回 手の包帯②、指の包帯② 副子材料の固定に対する包帯の施行について理解する。</p> <p>第12回 肩の包帯 三角巾の施行について理解する。</p> <p>第13回 膝の包帯①、足の包帯① 被覆包帯の施行について理解する。</p> <p>第14回 膝の包帯②、足の包帯② 副子材料の固定に対する包帯の施行について理解する。</p> <p>第15回 評価</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	実技技術を学ぶため、日々の自主練習は非常に重要である。授業時間内に学んだ内容の復習は必ず行うこと。
教科書	特に必要なし。
参考書	社団法人全国柔道整復学校協会 監修 包帯固定学 THE TAPING 著：長尾淳彦 ニチバン株式会社
成績評価	試験:80%、その他(出席、授業態度):20%
担当教員の基本情報	単位認定者：川村茂(保健医療学部 臨床柔道整復学講座)e-mail:s_kawamura@meiji-u.ac.jp 神内伸晃(保健医療学部 臨床柔道整復学講座)e-mail:n_jinnai@meiji-u.ac.jp 泉晶子(保健医療学部 臨床柔道整復学講座)e-mail:a_izumi@meiji-u.ac.jp 大木琢也(保健医療学部 基礎柔道整復学講座)e-mail:t_ohgi@meiji-u.ac.jp
備考	オフィスアワーは毎講義終了後1時間とする。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
松元 隆司			
配当学部：看護学部	時間数：30時間	授業形態：演習	

授業目標	<p>(中務担当分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フットケアに関する基礎的知識を得る。 ・フットケアに関する専門知識を統合して実践方法を知る。 ・フットケアにおける看護師の役割を考慮することができる。 <p>(松元担当分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フットケアにおける効用は全身に繋がっているという理解と、改善のための手技を習得する。 		
授業計画	1回目	フットケアとは何かを理解する [授業概要] ・フットケアの意義 ・看護におけるフットケア ・足の構造と足病変	
	2回目	フットケアのためのスキンケアを知る [授業概要] ・皮膚の構造 ・高齢者の皮膚 ・スキンケアの方法	
	3回目	フットケアの実際を理解する [授業概要] ・足のアセスメント ・爪のケア ・胼胝・鶏眼	
	4回目	足病変について知る [授業概要] ・足潰瘍の評価と実際 ・糖尿病性潰瘍の治療とケア ・静脈性潰瘍の治療とケア	
	5回目	虚血肢について理解する [授業概要] ・血流の重要性 ・治療とケア	
	6回目	足の褥瘡について理解する [授業概要] ・足潰瘍と足の褥瘡の違い ・拘縮とポジショニング	
	7回目	フットケアにおけるリスクマネジメントとチーム医療を理解する [授業概要] ・看護における爪切りとは ・院内連携と地域連携	
	8回目	触れることの意義を考える [授業概要] ・身体のとらえ方 ・タッチについて考える ・スキンシップの意味	
	9回目	足の構造を知る [授業概要] ・正常なアライメント ・足の機能 ・アーチは何のためにあるのか	
	10回目	足の構造の異常 [授業概要] ・崩れたアライメント ・崩れるとどんな影響があるのか	
	11回目	皮膚への触れ方を身に付ける [授業概要] ・皮膚の触り方 ・指の使い方 ・力の加え方	
	12回目	足に対してのアプローチ [授業概要] ・足の触り方 ・ポイントと注意点	
	13回目	フットケアから全身を考える (1) [授業概要] ・木を見て森を見ず (病を見て人を見ず) にならないために	

	<p>14回目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足は全身に繋がっているという視点 フットケアから全身を考える (2) <p>[授業概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・膝や股関節への影響 ・肩甲骨や上肢への影響 <p>15回目</p> <p>まとめ</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	臨床に必要な知識として機能解剖があり、習得するために反復して行うことが必要であり小テスト等により理解する。また実技においては期を通して実技を継続して行うことが必要である。(松元担当分)
教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価	筆記試験
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 松元 隆司 研究室 : トレーナールーム メールアドレス : pochimatamoto@yahoo.co.jp オフィスアワー : 授業終了後</p> <p>担当教員名 : 中務 直美 研究室 : 非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後</p>
備考	